元総社蒼海遺跡群（３）

元総社小見Ⅶ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００５．11

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群（３）

元総社小見Ⅶ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

２００５．11

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社小見Ⅶ遺跡　遠景（東から）

元総社小見Ⅶ遺跡　遺構重複状況

W－１号溝全景（南から）

Ｊ－10号住居跡炉体土器埋設状況

Ｈ－33号住居跡瓦出土状況（西から）

Ｊ－１号住居跡出土遺物（Ｊ－１－８）

Ｊ－10号住居跡出土遺物（Ｊ－10－９）

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡で知られるように旧石器時代から開けてきた地域で、いたるところで旧石器時代や縄文時代の遺跡が発見されています。近年、山麓で工業および住宅団地造成、道路建設が行われたことにより、おびただしい数の遺構や遺物が発見されました。

古代において前橋の地は、８００余りの古墳が数えられました。今でも9基もの国史跡指定となる古墳が存在し、東国古墳文化の中心地として栄えました。また、続く律令制の時代に入ると、総社古墳群から連綿と続く山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など「クニ」の中枢施設が次々に造られ政治・宗教・学問の中心として繁栄いたしました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸は、横浜と前橋を結ぶシルクロードとして、文化交流が始まりました。まさに、歴史溢れる豊かなまちです。

本報告書に掲載いたしました元総社小見Ⅶ遺跡は、上野国府関連遺跡群を構成する貴重な遺跡の一つです。調査により、国府が推定される元総社町から群馬町の国分寺一帯まで集落が存在することが判明いたしました。これらは今後、分析が進めば、「国府のマチ」として解釈されるものと期待されます。

発掘調査にあたりましては、ご協力をいただきました元総社地区の皆さま、市区画整理第二課、調査に従事されました皆さまに厚く御礼申し上げます。

なお、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成17年11月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　根岸　雅

例　　言

1　本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴って実施した元総社蒼海遺跡群（3）
元総社小見Ⅶ遺跡（モトソウジャオミナナイセキ）の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地　元総社小見Ⅶ遺跡　群馬県前橋市元総社町1708番地ほか

3　調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長　根岸　雅）の指導のもとに委託者 前橋市区画整理第二課（管理者　高木政夫）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役　須永眞弘）が実施した。
調査担当者　齊木一敏・近藤雅順（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
金子正人・権田友寿・荻野博巳・板垣　宏・神津芳夫・山口和宏（スナガ環境測設株式会社）
調　査　員　猪熊正晴・戸根浩美（スナガ環境測設株式会社）

4　発掘調査期間　平成16年10月１日～平成17年２月25日
整理期間　第１次　平成17年２月26日～平成17年３月11日（遺物整理）
第２次　平成17年７月28日～平成17年11月18日（報告書）

5　調査面積　1,025㎡

6　出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。

7　測量・調査計画…須永、調査助言…金子、調査担当…権田・荻野・板垣・神津・山口、測量調査…猪熊・板垣・戸根、安全管理…金子、重機オペレーター…金子・猪熊、作業事務…柴崎信江が担当した。

8　本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…Ⅰについては鈴木雅浩（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、縄文遺物については金子・板垣、土師住居遺物については荻野・権田、その他は権田が担当した。編集・校正…須永・金子・荻野・権田、実測図の整理ほか…猪熊・権田、遺構・遺物のトレース…板垣・山口、遺物の整理…神津・荻野、遺物実測…戸根・佐々木智恵子、遺物洗浄・注記・接合…須永　豊・柴崎・小暮幸子、写真整理・内業事務…須永・柴崎・戸根が担当した。

9　発掘調査に参加した方々（敬称略）
上村一視　石川サワ子　内山恵美子　都丸藤子　小暮幸子　下田和子
渡辺国治　川岸　清　北爪一郎　阿久沢正邦　岩井十四夫　平野ミツ子
名塚久枝　片桐澄子　狩野竹雄　矢内武八

凡　　例

1　遺跡の略称は、元総社小見Ⅶ遺跡（16A116）である。

2　遺構名の略称　縄文住居跡…J、古墳～奈良・平安住居跡…H、溝跡…W、土坑…D、ピット（柱穴）…P。
実測図中の記号　P…土器、S…石。

3　実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺跡平面図（1/100・1/200）、住居跡（1/60）、カマド（1/30）、炉跡（1/30）、土坑（1/60）、
遺物実測図（1/1・1/2・1/3・1/4・1/5・1/6）を使用した。

4　本文中の（　）は推定、［　］は現存値を表す。

5　挿図に国土地理院発行の２万５千分の１「前橋」を使用した。

6　各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点及び水準点と照合済。
基準点X32，Y118グリッド地点　第Ⅸ系座標値　X43,528.000m、Y－72,072.000m
水準点　BM.…124.00m、124.50m、グリッド４m間隔

7　土層断面の土色名及び土器類の色調名は、『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所　色票監修）による。

8　土層注記中の締まり・粘性の◎○△×は４段階評価を記号化したもので◎極有、○有、△やや有、×なしを表す。

9　須恵器の断面…■、施釉部分…▩、すす付着部分…▩、朱…▨を使用し、
遺構内焼土範囲…⁙を使用した。

10　各遺構の面積は、平面図をもとに座標面積計算より算出した。

11　写真図版の遺構外遺物の表記を外－１、２、３……とした。

目　　次

はじめに

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境

1　遺跡の立地…… 1

2　歴史的環境…… 1

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査方針…… 4

2　調査経過…… 4

Ⅳ　層　　序 …… 5

Ⅴ　検出された遺構と遺物

1　縄文時代の遺構と遺物

(1)　縄文住居跡…… 6

(2)　土　　坑（縄文時代）…… 9

(3)　縄文時代の遺物…… 9

2　古墳時代以降の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡……11

(2)　土　　坑（古墳時代以降）……23

(3)　ピット……24

(4)　溝状遺構……25

(5)　集石遺構……25

3　まとめ……26

挿　図

第１図　遺跡位置図
第２図　周辺遺跡図 …… 3
第３図　基本土層断面図 …… 5
第４図　時期別の竪穴住居跡の主軸方向 ……28
第５図　時期別の竪穴住居跡配置図 ……31
第６図　元総社小見Ⅶ遺跡（縄文時代） ……43
第７図　元総社小見Ⅶ遺跡（古墳時代以降） ……45
第８図　Ｊ－１号住居跡 ……47
第９図　Ｊ－２号住居跡 ……48
第10図　Ｊ－４号住居跡 ……49
第11図　Ｊ－７号住居跡 ……50
第12図　Ｊ－８号住居跡 ……51
第13図　Ｊ－９号住居跡 ……52
第14図　Ｊ－10号住居跡 ……53
第15図　Ｈ－１・２号住居跡 ……54
第16図　Ｈ－３号住居跡 ……55
第17図　Ｈ－４・５号住居跡 ……56
第18図　Ｈ－６号住居跡 ……57
第19図　Ｈ－７・８号住居跡 ……58
第20図　Ｈ－９・42号住居跡 ……59
第21図　Ｈ－10号住居跡 ……60
第22図　Ｈ－11号住居跡 ……61
第23図　Ｈ－11・12号住居跡 ……62
第24図　Ｈ－13号住居跡 ……63
第25図　Ｈ－14号住居跡 ……64
第26図　Ｈ－15・16号住居跡 ……65
第27図　Ｈ－17・18号住居跡 ……66
第28図　Ｈ－18・19・45号住居跡 ……67
第29図　Ｈ－20号住居跡 ……68
第30図　Ｈ－20・21号住居跡 ……69
第31図　Ｈ－21～23号住居跡 ……70
第32図　Ｈ－22・23号住居カマド跡 ……71
第33図　Ｈ－24号住居跡 ……72
第34図　Ｈ－25・26号住居跡 ……73
第35図　Ｈ－27・28号住居跡 ……74
第36図　Ｈ－29・31・32号住居跡 ……75
第37図　Ｈ－31～33・35・40号住居跡 ……76
第38図　Ｈ－33・35・40号住居カマド跡 ……77
第39図　Ｈ－34号住居跡 ……78
第40図　Ｈ－36・37号住居跡 ……79
第41図　Ｈ－38号住居跡 ……80
第42図　Ｈ－38・39号住居跡 ……81
第43図　Ｈ－41・52号住居跡 ……82
第44図　Ｈ－43号住居跡 ……83
第45図　Ｈ－43号住居カマド跡 ……84
第46図　Ｈ－44・46号住居跡 ……85
第47図　Ｈ－47・48号住居跡 ……86
第48図　Ｈ－30・48・49・50号住居跡 ……87
第49図　Ｈ－30・50・51号住居跡 ……88
第50図　Ｈ－53・54号住居跡 ……89
第51図　Ｄ－１～５・７～11号土坑 ……90
第52図　Ｄ－12～16号土坑、集石遺構 ……91
第53図　Ｗ－１・２号溝平面図 ……92
第54図　Ｗ－１～３号溝断面図 ……93
第55図　Ｊ－１号住居跡遺物実測図 ……94
第56図　Ｊ－１号住居跡遺物実測図 ……95
第57図　Ｊ－１・２号住居跡遺物実測図 ……96
第58図　Ｊ－２号住居跡遺物実測図 ……97
第59図　Ｊ－４号住居跡遺物実測図 ……98
第60図　Ｊ－４・７号住居跡遺物実測図 ……99
第61図　Ｊ－８号住居跡遺物実測図……100
第62図　Ｊ－９号住居跡遺物実測図……101
第63図　Ｊ－10号住居跡遺物実測図……102
第64図　Ｊ－10号住居跡遺物実測図……103
第65図　Ｊ－10号住居跡、Ｄ－14・15号土坑
遺物実測図……104
第66図　遺構外縄文遺物実測図……105
第67図　遺構外縄文遺物実測図……106
第68図　Ｈ－１～３・５・６号住居跡遺物実測図…107
第69図　Ｈ－７号住居跡遺物実測図……108
第70図　Ｈ－８号住居跡遺物実測図……109
第71図　Ｈ－８・９号住居跡遺物実測図……110
第72図　Ｈ－10・11・14・16号住居跡遺物実測図 …111
第73図　Ｈ－17～23号住居跡遺物実測図……112

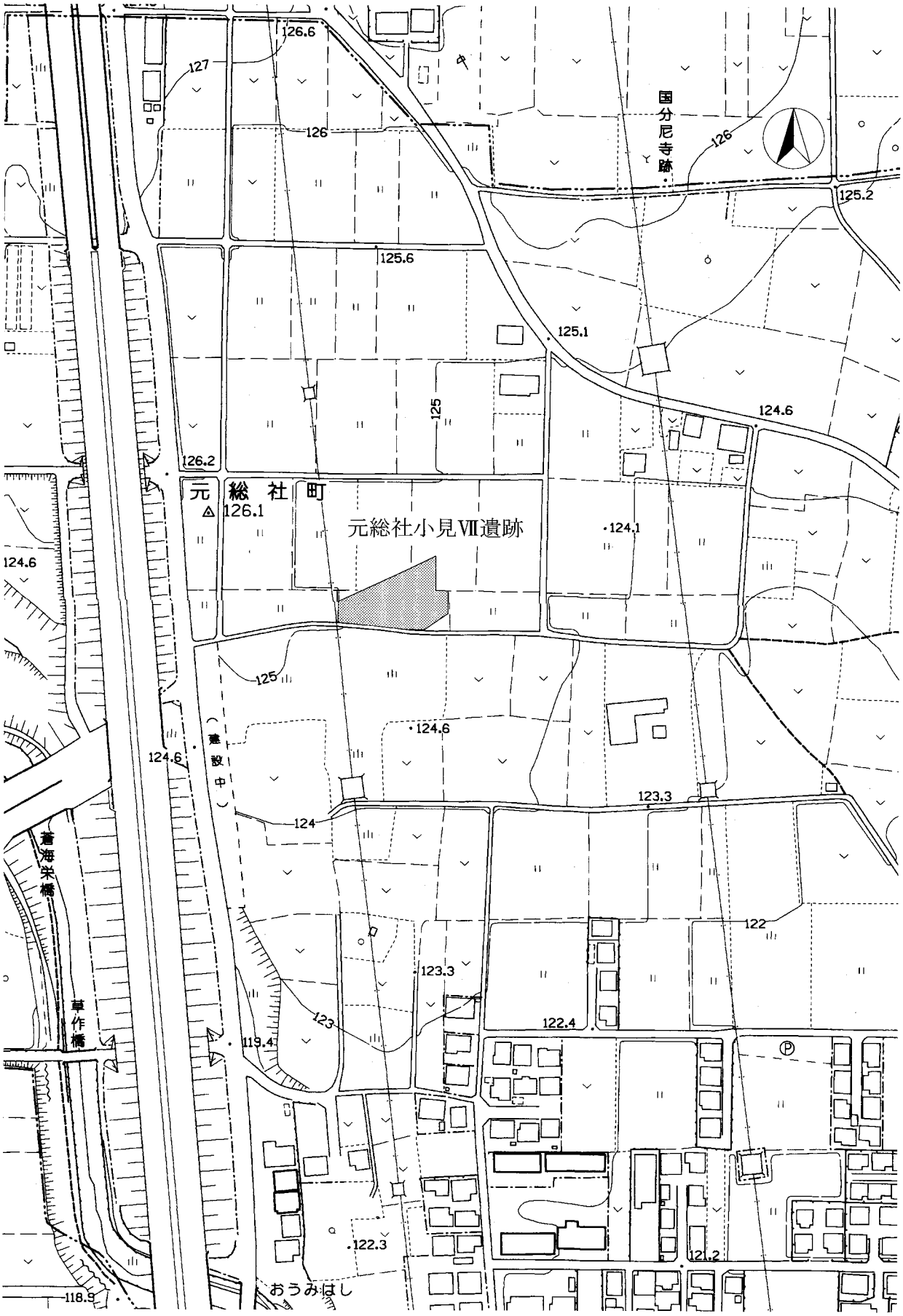
第74図　H－24号住居跡遺物実測図……113
第75図　H－25～29号住居跡遺物実測図……114
第76図　H－33号住居跡遺物実測図……115
第77図　H－33号住居跡遺物実測図……116
第78図　H－34～39号住居跡遺物実測図……117
第79図　H－40～43号住居跡遺物実測図……118
第80図　H－44・46・48号住居跡遺物実測図……119
第81図　H－49～52・54号住居跡遺物実測図……120
第82図　W－1号溝跡・遺構外遺物実測図……121

表

第1表　周辺遺跡概要一覧表 …… 2
第2表　住居跡計測表（縄文時代） …… 8
第3表　土坑計測表（縄文時代） …… 9
第4表　土坑計測表（古墳時代以降） ……23
第5表　ピット計測表 ……24
第6表　住居跡一覧表（古墳時代以降） ……29
第7表　出土遺物観察表（縄文時代） ……32
第8表　出土遺物観察表（古墳時代以降） ……37

写真図版

口絵　元総社小見Ⅶ遺跡遠景、遺構重複状況
W－1号溝、遺物出土状況、出土遺物
図版1　調査区域全景
図版2　調査区域各部分全景、J－1号住居跡
図版3　J－2・4・7・8号住居跡
図版4　J－9・10号住居跡、D－10・11号土坑
図版5　D－12～15号土坑、H－1・2号住居
図版6　H－3～9号住居跡
図版7　H－8・9号住居カマド跡、
H－10～12・44号住居跡
図版8　H－12・44号住居カマド跡、
H－13～16号住居跡
図版9　H－16号住居カマド跡、H－17～21号住居跡
図版10　H－22～26号住居跡
図版11　H－26号住居カマド跡、H－27～31号住居跡
図版12　H－32～35号住居跡
図版13　H－35号住居カマド跡、H－36～39号住居跡
図版14　H－40～43・45・46号住居跡
図版15　H－47～51号住居跡
図版16　H－51号住居カマド跡、H－52～54号住居跡、W－1号溝、集石遺構
図版17　J－1・2号住居跡出土遺物
図版18　J－2・4号住居跡出土遺物
図版19　J－4・7・8号住居跡出土遺物
図版20　J－8・9号住居跡出土遺物
図版21　J－9・10号住居跡出土遺物
図版22　J－10号住居跡、D－14・15号土坑、
縄文時代の遺構外出土遺物
図版23　縄文時代の遺構外出土遺物
図版24　H－1～3・5～7号住居跡出土遺物
図版25　H－7～11・14・16号住居跡出土遺物
図版26　H－16～24号住居跡出土遺物
図版27　H－25～29・33号住居跡出土遺物
図版28　H－33～39号住居跡出土遺物
図版29　H－40～44・46号住居跡出土遺物
図版30　H－48～52・54号住居跡、W－1号溝、
古墳時代以降の遺構外出土遺物


126.6
127
126
国分尼寺跡
125.2
125.6
125.1
125
124.6
126.2
元総社町
126.1
元総社小見Ⅶ遺跡
124.1
124.6
125
124.6
124.6
（建設中）
123.3
124
蒼海栄橋
122
123.3
草作橋
122.4
123
119.4
122.3
121.2
おうみはし
118.9
0
1:2,500
100m

第１図　遺跡位置図

I　調査に至る経緯

本整理調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施された。現地での発掘調査は平成16年度に実施され、その遺構及び遺物の整理のため、平成17年６月１日、前橋市長　高　木　政　夫より、埋蔵文化財整理調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　根　岸　雅（以下「調査団」という。）に対し整理調査実施について依頼した。しかし、既に市内数カ所において調査団直営による発掘及び整理調査が実施されており、調査団直営で実施することは困難と判断した。よって、民間調査会社による整理調査を進める方針を決め、前橋市と調査団の間で平成17年６月20日付けで埋蔵文化財発掘調査に関する覚書を締結した。これに基づき、７月25日付けで、依頼者である前橋市と調査団との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、その後、７月28日付けで民間調査会社であるスナガ環境測設株式会社　代表取締役　須　永　眞　弘との間で委託契約を締結し、整理調査開始に至る。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（３）元総社小見Ⅶ遺跡」（市遺跡コード：16A116）の「小見」は旧地籍の小字名を採用し、名称中のローマ数字「Ⅶ」は当調査団で過去に調査した遺跡と区別するために付したものである。

II　遺跡の位置と歴史的環境

1　遺跡の立地

前橋台地は、現在南流する利根川によって東西に分断されているが、旧利根川は氾濫源と思われる広瀬川低地帯に沿って東流し、台地縁辺をまわっていたと考えられている。したがって広瀬川低地帯から烏川によって切られる部分の前橋市街地から高崎市街地を含む広範囲で平坦な台地である。

元総社小見Ⅶ遺跡は、この前橋台地を開析している数本の河川のうち、南を染谷川、北を牛池川に挟まれた北西から南東に延びる微高地上に立地している。また、群馬県庁から西におよそ３km、関越自動車道の前橋インターチェンジから北へおよそ２km、関越自動車道の側道から東へ70m足らずに位置し、北に赤城山、北西に榛名山、西に浅間山・妙義山を望む田畠の広がる地域であるが、土地区画整理事業などにより土地開発が進む地域である。

2　歴史的環境

この地域では土地区画整理事業に伴い遺跡調査が行われ多くの遺構、遺物が検出されている。また、近隣には多くの遺跡があり、中でも本調査区域に近接する関越自動車道建設工事に伴う『上野国分僧寺・尼寺中間地域』は上野国分寺の僧寺・尼寺跡、上野国府跡、山王廃寺跡に近接する遺跡として早くから注目を浴び、昭和55年から昭和59年にかけて大規模な発掘調査が行われ、縄文時代を始めとし近世までの遺構が数多く検出されている。

縄文時代前期では、清里・長久保遺跡、熊野谷遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、中期後半の配石遺構では長久保大畑遺跡、住居跡は新田入口遺跡、下東西遺跡等で確認されている。

弥生時代では中期の環壕集落跡が発見された清里・庚申塚遺跡、後期集落跡では上野国分僧寺・尼寺中間地域新田入口遺跡の他、柿木遺跡、膏薬遺跡、下東西遺跡、日高遺跡等で報告され、調査例が少ない。

古墳時代では本遺跡周辺は県内有数の古墳密集地域で、八角形をした三津屋古墳、５世紀末頃の遠見山古墳、

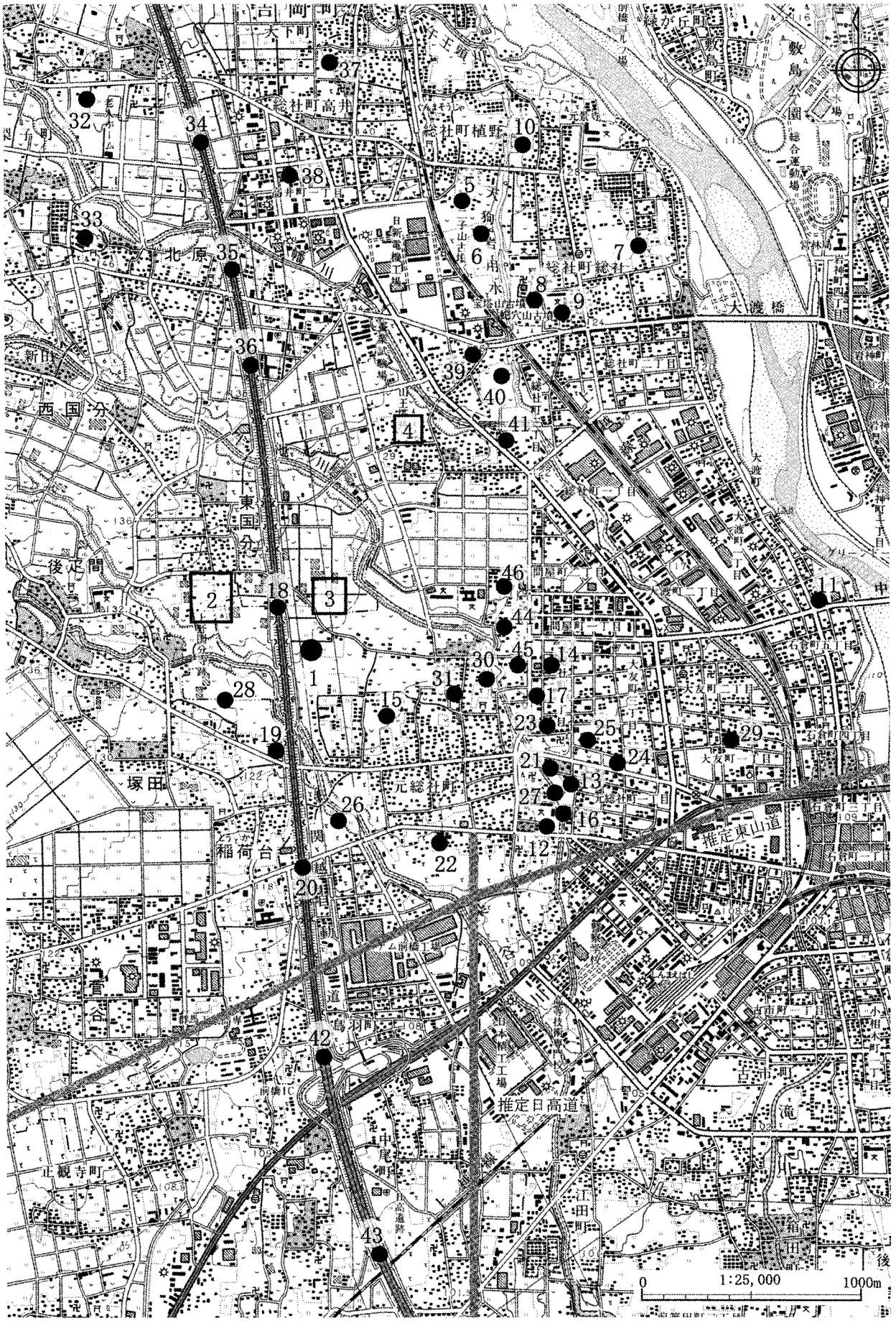
6世紀代には王山古墳、総社二子山古墳、終末期には愛宕山古墳、宝塔山古墳、最終に蛇穴山古墳などの総社古墳群がある。その近くには白鳳期の建築物と考えられる山王廃寺遺跡があり仏教文化と古墳文化の併存がうかがえる。集落跡は4世紀代の住居跡を初現に、6世紀から7世紀代の遺構を多数検出しており、下東西遺跡、元総社明神遺跡Ⅰ～XIII、鳥羽遺跡、草作遺跡、弥勒遺跡・II遺跡、大友屋敷II・III遺跡、屋敷遺跡・II遺跡、閑泉樋南遺跡、上野国分寺参道遺跡、元総社宅地遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡等がある。また、これらの遺跡の周辺には、4世紀に降下した浅間山起因の軽石（As－C）により埋没した水田跡を検出しており元総社神明VIII遺跡、元総社植野北開土遺跡、北原遺跡で確認されている。

奈良・平安時代の本遺跡地域は、いよいよ古代上野の政治的・文化的中心地となり、上毛野国から上野国に移行した時期であり国府が造営された時期でもある。また、天平13年（741年）に、聖武天皇により国分寺建立の詔が発せられ国分僧寺、国分尼寺が建立された。国府を中心とした周辺の遺跡は元総社明神遺跡Ⅰ～XIII、元総社小学校校庭遺跡、閑泉樋遺跡、鳥羽遺跡、草作遺跡、元総社寺田遺跡、寺田遺跡、大友屋敷II・III遺跡、天神遺跡・II遺跡、屋敷遺跡・II遺跡、堰越遺跡、堰越II遺跡、閑泉樋南遺跡、総社閑泉明神北遺跡、弥勒遺跡・II遺跡、元総社宅地遺跡、大友宅地添遺跡、上野国分寺参道遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡等がある。また、本遺跡の南約2.5kmには条里水田研究の発端となった日高遺跡がある。この遺跡で報告されている約4.5mの道路状遺構は、国府正面へ続く日高道と考えられている。

中世では国府跡を利用し蒼海城が築かれ(1429年)、近世には秋元氏による総社城築城や天狗岩用水、五千石堰など貴重な遺跡や旧跡が集中する地域である。元総社小見VII遺跡の所在する前橋市元総社町の町名は、平安時代に総社神社がこの地に祀られたことによるものであるが、江戸時代の初め秋元氏が新たに領内の植野の地に城を築き、元総社の人々を移住させた。その城下町を総社町とし、この地は総社町の元地であることから元総社と呼ばれるようになった。

第1表　周辺遺跡概要一覧表

No.	遺跡名	概要	No.	遺跡名	概要
1	元総社小見VII遺跡	本遺跡　縄文～平安住居跡、他	24	堰越遺跡	奈良・平安住居跡、溝跡
2	上野国分寺跡	奈良	25	堰越II遺跡	平安住居跡
3	上野国分尼寺跡	奈良	26	弥勒遺跡・II遺跡	古墳、平安住居跡
4	山王廃寺跡	古墳	27	元総社寺田遺跡	古墳水田跡、奈良・平安住居跡・溝跡
5	総社二子山古墳	古墳（6世紀末）	28	上野国分寺参道遺跡	古墳、平安住居跡、
6	愛宕山古墳	古墳（7世紀初）	29	大友宅地添遺跡	平安水田跡
7	遠見山古墳	古墳	30	総社閑泉明神北遺跡	古墳水田・畠・溝跡、中世溝跡
8	宝塔山古墳	古墳（7世紀末）	31	元総社宅地遺跡1～23トレ	古墳・平安・近世住居跡、溝跡、他
9	蛇穴山古墳	古墳（8世紀初）	32	薬師前遺跡	縄文ピット、奈良・平安住居・溝跡
10	稲荷山古墳	古墳	33	熊野谷遺跡・II・III遺跡	縄文・平安住居跡、平安溝跡
11	王山古墳	古墳（6世紀中）	34	下東西遺跡	縄文埋甕、弥生～平安住居跡、他
12	元総社小学校校庭遺跡	平安掘立柱建物跡、他	35	北原遺跡	縄文土坑、古墳水田、奈良・平安住居
13	元総社明神遺跡　Ⅰ～XIII	古墳水田跡、古墳～中世住居跡、他	36	国分境遺跡・II・III遺跡	古墳～奈良・平安住居跡、他
14	閑泉樋遺跡	奈良・平安溝跡	37	総社植野北開土遺跡	古墳水田跡、他
15	草作遺跡	古墳～平安住居跡、中世井戸跡	38	柿木遺跡・II遺跡	奈良・平安住居・溝跡
16	寺田遺跡	平安溝跡	39	村東遺跡	古墳・奈良・平安住居・溝跡、中世堀跡
17	閑泉樋南遺跡	古墳住居跡、奈良・平安溝跡	40	大屋敷遺跡Ⅰ～V	縄文～奈良・平安住居跡、中世溝跡他
18	上野国分僧寺・尼寺中間地域	縄文～平安住居跡、中世溝・道路	41	昌楽寺廻向遺跡・II遺跡	奈良・平安住居跡
19	塚田村東遺跡	平安住居跡	42	中尾遺跡	奈良・平安住居跡
20	鳥羽遺跡	古墳～平安住居跡、鍛冶、掘立柱跡	43	日高遺跡	弥生住居・水田跡、平安水田跡、他
21	大友屋敷II・III遺跡	古墳～平安住居跡、平安溝跡、他	44	総社甲稲荷塚大道西遺跡	平安住居・溝跡、他
22	天神遺跡・II遺跡	奈良・平安住居跡	45	総社閑泉明神北II遺跡	古墳～平安住居跡、溝跡
23	屋敷遺跡・II遺跡	古墳～平安住居跡、中世堀跡、他	46	総社甲稲荷塚大道西II遺跡	古墳～平安住居跡、溝跡



第2図　周辺遺跡図

III　調査の方針と経過

1　調査方針

調査実施に際しては、市調査団が調査した元総社小見VI遺跡で設定したグリッドから、西から東へX０～X45と北から南へY０～Y150を基本として（グリッド原点X０、Y０は、第IX系座標値X＝44,000、Y＝－72,200）調査区域にグリッドを設定した。元総社小見Ⅶ遺跡は北西杭X32、Y118（X43,528、Y－72,072）を原点としてX32～44とY118～126まで４m毎にグリッドを設定した。グリッドは北西杭の名称を使用した。また、水準は公共水準点に基づき調査区域内に３ヶ所（B.M.1　H＝124.000m、B.M.2　H＝124.500m、B.M.3　H＝124.000m）測設した。

図面作成は原則として、１/10、１/20、１/40、１/100等の縮尺を使用し、平板・遣り方による細部測量で作図を行った。また、遺物は遺構グリッド単位で層位毎に収納し、遺物分布平面図及び遺物台帳に記載し付番処理して取り上げた。また、遺構・遺物等の写真撮影（白黒・リバーサルフィルム）も行った。

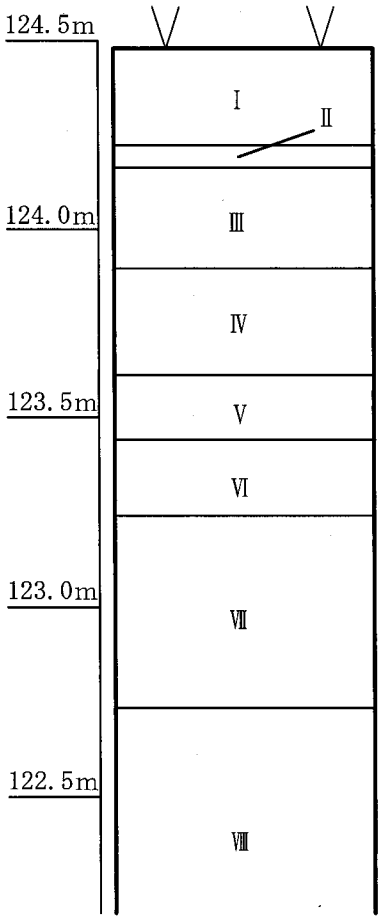
2　調査経過

調査は、市教育委員会のもとに組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導、監督のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。平成16年９月22日、調査範囲の確認を市役所区画整理第二課及び調査団業務監督員と行い、平成16年10月１日より現地調査事務所設営、機械及び資材を搬入した。また、調査区域と南側農道との境界には安全対策用防護ネットを設置した。

表土掘削は調査団業務監督員の立会い指導を得て西端から重機掘削（0.45バックホウ、６ｔキャリーダンプ）を開始するとともにジョレン掛精査により遺構確認を行った。調査区域の中央を東西に走る水路を残し、南北に走る地境コンクリートブロックを撤去し行った。また遺構確認の際、石灰による線引きの他に目印として釘を刺しておき雨等により石灰が消えても位置が確認できるようにした。平成16年10月14日、移植ゴテによる住居跡の覆土除去作業を開始し、一輪車、ベルトコンベアー、及び２ｔキャリーダンプ等により覆土運搬を行った。10月18日にグリッド杭、水準点測設を行い遺構図面作製作業を進めた。平成17年１月11日、遺構数が極端に多く検出したため、調査団と現地調査期間の延長を協議した。平成17年２月28日、調査団業務監督員の調査終了検査を受け埋め戻し作業を開始し、調査前の耕作土が最上層になるよう残土を入れ絞め固めた。埋め戻し作業終了後、地境コンクリートブロック復旧とトラクターによる耕耘で終了した。

Ⅳ 層　　序

層序は、元総社小見Ⅶ遺跡東端に入れた深掘り土層断面をもとに模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。



第３図　基本土層断面図

元総社小見Ⅶ遺跡　土層注記

Ⅰ．現耕作土層

Ⅱ．暗褐色土層　10YR 3/4　粘性×、締まり◎、白色軽石粒 φ 1～5㎜を７％、砂岩質ブロック φ 2～5㎜を２％、赤褐色の酸化跡あり

Ⅲ．黒褐色土層　10YR 2/3　粘性△、締まり○、白色軽石粒 φ 1～5㎜を10％、砂岩質ブロック φ 2～5㎜を２％含む

Ⅳ．鈍い黄褐色土層　10YR 4/3　粘性△、締まり△、白色軽石粒 φ 1～3㎜を３％、砂岩質ブロック φ 2～10㎜を２％含む

Ⅴ．褐色土層　10YR 4/4　粘性×、締まり△、砂岩質ブロック φ 2～20㎜を２％含む

Ⅵ．黄褐色土層　10YR 5/6　粘性×、締まり△、砂岩質ブロック φ 2～20㎜を２％含む

Ⅶ．ⅥとⅧ及びシルトがラミナ状に堆積　粘性×、締まり○、砂岩質ブロック φ 2～100㎜を非常に多く含む

Ⅷ．灰黄褐色土層　10YR 6/2　粘性×、締まり◎、砂質層

V　検出された遺構と遺物

1　縄文時代の遺構と遺物

(1)　縄文住居跡

Ｊ－１号住居跡〔第８図、図版２〕

位置　Ｘ33・34、Ｙ122・123グリッド　**重複**　南側でＤ－16号土坑を切る。　**形状**　楕円形を呈す。　**規模**　長軸4.33m、短軸3.92m、確認面から床面までの壁高27～47cm。　**面積**　13.02㎡　**床面**　住居中央に向ってわずかに傾斜し、すり鉢状で床面標高は123.76～123.88mを測る。　**柱穴**　７基検出しその他ピットを２基検出した。Ｐ１は長径35cm、短径26cm、深さ37cmの楕円形。Ｐ２は長径26cm、短径21cm、深さ19cmの楕円形。Ｐ３は長径38cm、短径37cm、深さ43cmの円形。Ｐ４は長径40cm、短径38cm、深さ39cmの円形。Ｐ５は長径45cm、短径39cm、深さ64cmの楕円形。Ｐ６は長径40cm、短径38cm、深さ45cmの円形。Ｐ７は長径31cm、短径25cm、深さ16cmの楕円形。Ｐ８は長径74cm、短径27cm、深さ48cmの不整形。Ｐ９は長径61cm、短径40cm、深さ30cmの不整形。　**炉跡**　住居中央からやや南寄りに位置し、床に甕を埋め込んでその周囲を70×55cmの長方形に石で囲っている。焼土、炭化物は検出しなかった。　**時期**　出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。　**遺物**　壁付近に石器や土器片を多く出土し、炉と思われる埋め甕の1.1m真南にも埋め甕を出土した。その他深鉢の破片や窪み石、石皿、多孔石などの石器も出土している。掲載した遺物は、炉体土器１点、埋甕１点、深鉢１点、浅鉢８点、有孔鍔付土器１点、石皿１点、多孔石１点など計14点。

Ｊ－２号住居跡〔第９図、図版３〕

位置　Ｘ32・33、Ｙ123・124グリッド　**重複**　Ｈ－１号住居跡に西側を切られ、北側は調査区域外に入るため、規模は現存値を挙げる。　**形状**　楕円形を呈すと思われる。　**規模**　長軸6.43m、短軸［4.45］m、確認面から床面までの壁高35～43cm。　**面積**　［24.39］㎡　**床面**　平坦で、床面標高は123.78～123.84mを測る。　**柱穴**　11基検出した。Ｐ１は長径34cm、短径30cm、深さ17cmの楕円形。Ｐ２は長径54cm、短径49cm、深さ63cmの円形。Ｐ３は長径68cm、短径28cm、深さ21cmの不整形。Ｐ４は長径38cm、短径37cm、深さ31cmの円形。Ｐ５は長径36cm、短径30cm、深さ11cmの楕円形。Ｐ６は長径44cm、短径42cm、深さ26cmの円形。Ｐ７は長径62cm、短径52cm、深さ62cmの不整形。Ｐ８は長径46cm、短径38cm、深さ18cmの楕円形。Ｐ９は長径65cm、短径62cm、深さ64cmの円形。Ｐ10は長径30cm、短径29cm、深さ26cmの円形。Ｐ11は長径42cm、短径37cm、深さ29cmの楕円形。　**土坑**　Ｄ－１は長径90cm、短径85cm、深さ10cmの円形。　**炉跡**　中央から東寄りに位置し、八角形に床面から26cmほど掘り込みその中央に埋め甕を設置し囲炉裏の様に施行している。焼土粒をわずかに検出した。赤城村の溝呂木大御堂遺跡では、縄文時代中期末葉から後期初頭の敷石住居跡に、六角形をはっきり確認できる石囲炉とその中央に埋め甕も出土していることが報告されている。　**時期**　出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。　**遺物**　上層から床面にかけて深鉢土器片や石鏃、石斧、窪み石が出土したが、完形資料となり得る個体は少ない。掲載した遺物は、炉体土器１点、深鉢６点、浅鉢１点、土製円盤２点、石鏃１点、打製石斧１点、窪み石１点など計13点。

Ｊ－３号住居跡は、欠番。

Ｊ－４号住居跡〔第10図、図版３〕

位置　Ｘ37・38・39、Ｙ123・124グリッド　**重複**　南側をＤ－14号土坑に切られている。　**形状**　不整形を呈す。

規模　長軸6.40m、短軸5.80m、確認面から床面までの壁高44～60cm。　**面積**　29.33㎡　**床面**　中央がやや低いすり鉢状で堅緻。床面標高は123.11～123.22mを測る。　**柱穴**　8基検出した。P1は長径56cm、短径29cm、深さ41cmの不整形。P2は長径26cm、短径25cm、深さ15cmの円形。P3は長径35cm、短径28cm、深さ25cmの楕円形。P4は長径39cm、短径36cm、深さ50cmの円形。P5は長径27cm、短径24cm、深さ25cmの円形。P6は長径36cm、短径32cm、深さ38cmの楕円形。P7は長径30cm、短径22cm、深さ29cmの楕円形。P8は長径30cm、短径28cm、深さ45cmの円形。　**炉跡**　住居中央に位置し、掘り込みを持たない。焼土範囲は長径50cm、短径10cmの不整形を呈する。　**時期**　出土遺物から、縄文時代前期後葉と考えられる。　**遺物**　焼土範囲から80cm西に埋め甕を検出し甕の中や周囲からは、焼土、炭化物は検出されなかった。その他深鉢土器片や石鏃、磨石、などが出土した。完形個体は少ないが特徴ある土器片が多い。掲載した遺物は、埋甕1点、深鉢24点、石鏃1点、磨石1点、棒状石器1点など計28点。

J－5・6号住居跡は、欠番。

J－7号住居跡〔第11図、図版3〕

位置　X43・44、Y118・119グリッド　**重複**　西側半分をH－34、49号住居跡に切られ、北及び東側は調査区域外のため規模は現存値を挙げる。　**形状**　不明。　**規模**　長軸･短軸不明、確認面から床面までの壁高8～20cm。　**面積**　[9.01]㎡　**床面**　平坦で、床面標高は123.64～123.70mを測る。　**柱穴**　5基検出。P1（P－42）は長径47cm、短径46cm、深さ37cmの円形。P2（P－22）は長径49cm、短径46cm、深さ35cmの円形。P3（P－19）は長径34cm、短径33cm、深さ35cmの円形。P4（P－18）は長径30cm、短径27cm、深さ38cmの円形。P5（P－15）は長径53cm、短径43cm、深さ47cmの楕円形。　**炉跡**　中央からやや南寄りに位置すると思われ、J－1と同じ様相を呈し埋め甕の周囲を80×55cmの長方形に石で囲んでいる。　**時期**　出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。　**遺物**　上層から床面にかけて深鉢片や窪み石など少量出土し、完形資料となり得る個体は少ない。掲載した遺物は、深鉢7点、窪み石1点など計8点。

J－8号住居跡〔第12図、図版3〕

位置　X37・38・39、Y121・122グリッド　**重複**　H－20・21・36・37・47号住居跡に切られているため、形状や規模は現存値を挙げる。　**形状**　隅丸方形を呈す。　**規模**　長軸［6.97］m、短軸［6.47］m、確認面から床面までの壁高45～64cm。　**面積**　［33.19］㎡　**床面**　平坦で、床面標高は123.37～123.49mを測る。　**柱穴**　11基検出した。P1は長径43cm、短径40cm、深さ24cmの円形。P2は長径36cm、短径34cm、深さ33cmの円形。P3は長径45cm、短径41cm、深さ47cmの円形。P4は長径37cm、短径35cm、深さ33cmの円形。P5は長径39cm、短径34cm、深さ20cmの楕円形。P6は長径27cm、短径26cm、深さ24cmの円形。P7は長径29cm、短径28cm、深さ23cmの円形。P8は長径24cm、短径23cm、深さ16cmの円形。P9は長径30cm、短径27cm、深さ23cmの円形。P10は長径57cm、短径43cm、深さ43cmの楕円形。P11は長径35cm、短径30cm、深さ12cmの円形でP9～P11は土師器片が出土しておりJ－8住居跡に伴う柱穴ではないと思われる。　**炉跡**　中央から東寄りに位置し、掘り込みを持たない。焼土範囲は長径87cm、短径76cmの不整形を呈する。　**時期**　出土遺物から、縄文時代前期後葉と考えられる。　**遺物**　焼土範囲から3.50m西に埋め甕を検出し甕の中や周囲からは、焼土・炭化物を検出しなかった。その他、深鉢・浅鉢の破片や石鏃、石皿、窪み石が出土した。完形個体は少ないが特徴ある土器片が多い。掲載した遺物は、埋甕1点、深鉢17点、石皿1点、多孔石1点など計20点。

Ｊ－９号住居跡〔第13図、図版４〕

位置　Ｘ42・43、Ｙ121・122グリッド　**重複**　Ｈ－19・29・31・32号住居跡に切られ、東及び南側でわずかに調査区域外に入る。形状や規模は推定値を挙げる。　**形状**　不整形を呈す。　**規模**　長軸（6.00）ｍ、短軸（5.56）ｍ、確認面から床面までの壁高78～85cm。　**面積**　［28.50］㎡　**床面**　中央がやや低いすり鉢状で堅緻。床面標高は122.88～123.07ｍを測る。　**柱穴**　７基検出。Ｐ１は長径35cm、短径28cm、深さ50cmの不整形。Ｐ２は長径43cm、短径37cm、深さ32cmの不整形。Ｐ３は長径40cm、短径29cm、深さ33cmの楕円形。Ｐ４は長径50cm、短径32cm、深さ43cmの楕円形。Ｐ５は長径34cm、短径21cm、深さ38cmの楕円形。Ｐ６は長径35cm、短径34cm、深さ38cmの不整形。Ｐ７は長径31cm、短径26cm、深さ28cmの不整形。　**炉跡**　Ｄ－１が中央から西寄りに位置し長径106cm、短径62cm、深さ４～11cmで不整形に窪み、わずかに焼けた部分を検出した。他に焼土、炭化物、石や埋め甕など検出していないため炉跡と思われる。　**時期**　出土遺物から、縄文時代前期後葉と考えられる。　**遺物**　上層から床面にかけて深鉢土器片や石鏃が出土したが、完形資料となり得る個体は少ない。掲載した遺物は、深鉢14点。

Ｊ－10号住居跡〔第14図、図版４〕

位置　Ｘ39・40・41、Ｙ125・126グリッド　**重複**　Ｈ－７・８・９・42・46号住居跡、Ｗ－３号溝、Ｄ－11号土坑に切られ、南側でカクラン及び調査区域外に入っているため形状や規模は推定値を挙げる。　**形状**　楕円形を呈す。　**規模**　長軸（6.83）ｍ、短軸5.46ｍ、確認面から床面までの壁高45～60cm。　**面積**　（30.62）㎡　**床面**　中央がやや低いすり鉢状で、床面標高は123.39～123.54ｍを測る。　**柱穴**　12基検出し、土坑を１基検出した。Ｐ１は長径60cm、短径58cm、深さ33cmの円形。Ｐ２は長径57cm、短径22cm、深さ32cmの不整形。Ｐ３は長径50cm、短径37cm、深さ57cmの楕円形。Ｐ４は長径35cm、短径33cm、深さ56cmの円形。Ｐ５は長径65cm、短径57cm、深さ42cmの楕円形。Ｐ６は長径73cm、短径52cm、深さ56cmの楕円形。Ｐ７は長径54cm、短径51cm、深さ69cmの円形。Ｐ８は長径36cm、短径36cm、深さ46cmの円形。Ｐ９は長径19cm、短径18cm、深さ58cmの円形。Ｐ10は長径56cm、短径53cm、深さ25cmの円形。Ｐ11は長径56cm、短径38cm、深さ23cmの楕円形。Ｐ12は長径38cm、短径33cm、深さ25cmの楕円形で土師器片を出土しＪ－10に伴う柱穴ではないと思われる。Ｄ－１は長径181cm、短径108cm、深さ38cmの隅丸長方形。　**炉跡**　中央から南西寄りに位置し、上端径［25.0］cm、胴部径18.0cmの底抜きの埋め甕の中に口径24.0cm、胴部径12.1cmの底抜きの甕を設置している。周囲に石はなく炭化物を微量検出している。　**時期**　出土遺物から、縄文時代前期後葉と考えられる。　**遺物**　炉跡から北へ1.40ｍに胴部径14.8cm、底径10.6cmの底部がある埋め甕を検出した。その他深鉢土器片や石鏃、石錘、窪み石、磨石、が出土した。完形個体は少ないが特徴ある土器片が多い。掲載した遺物は、炉体土器１点、埋甕１点、深鉢13点、浅鉢１点、磨石１点、多孔石１点、石鏃２点、石錘２点など計22点。

第２表　住居跡計測表（縄文時代）

住居番号	平面形	規模（m）	面積(㎡)	周溝・周礫	炉の形式・位置	遺　物
Ｊ－１	楕円形	3.92×4.33	13.02	周礫全周	土器埋設石組み・中央やや南	埋設土器(加曽利ＥⅢ)
Ｊ－２	楕円形	[4.45]×6.43	[24.39]	なし	土器埋設・中央やや東か	深鉢　(加曽利ＥⅢ)
Ｊ－４	不整形	5.80×6.40	29.33	なし	地床炉・中央	埋設土器　(諸磯ｃ)
Ｊ－７	不　明	不明	[9.01]	なし	土器埋設石組み	埋設土器(加曽利ＥⅢ)
Ｊ－８	隅丸方形	[6.47×6.97]	[33.19]	なし	地床炉・中央やや東	埋設土器　(諸磯ｃ)
Ｊ－９	不整形	(5.56×6.00)	[28.50]	なし	地床炉・中央やや西	深鉢　(諸磯ｃ)
Ｊ－10	楕円形	5.46×(6.83)	(30.62)	なし	土器埋設・中央南西	埋設土器　(諸磯ｃ)

＊Ｊ－３・５・６は欠番　　（　）推定値、［　］現存値

(2) 土　　坑（縄文時代）〔第51・52図、図版４・５〕

土坑は調査区域全体で16基検出したが、縄文時代の土坑は７基であった。平面形状は、円形、楕円形、不整形を呈し、断面形状は台形状のものであった。また、土坑検出位置などから規則性は確認できなかった。出土した土器や石器などの遺物は、縄文時代前期後葉と中期後葉の土器片及び石器片であった。なお、各土坑の計測値は第３表にまとめた。

第３表　土坑計測表（縄文時代）

土坑番号	遺構位置（グリッド）	形　状		規　模（cm）			遺　物		備　　考
		平　面	断　面	長径	短径	深さ	土器片	石器片	
D－10	X40，Y124	楕円形	台形	240	135	100	3　（加曽利E）		W－3，H－12・44と重複
D－11	X41，Y125・126	不整形	台形	200	154	43	4（加曽利EIII）	1	J－10と重複
D－12	X36・37，Y124	楕円形	台形	195	152	72	25　（諸磯c）		H－3と重複
D－13	X37，Y125	不整形	台形	146	126	76	10（加曽利EIII）		H－4～6と重複
D－14	X37・38，Y124・125	楕円形	台形	155	124	58	25　（曽利系）		J－4，H－4・5と重複
D－15	X32・33，Y124・125	円　形	台形	90	73	21	11（加曽利EIII）		
D－16	X34，Y123	不整形	台形	134	105	53	20　（加曽利E）		J－1と重複

(3) 縄文時代の遺物

当遺跡では縄文時代の遺構として７軒の竪穴住居跡と７基の土坑が検出されているが、後代の遺構の掘り込みによって破壊されているものが半分を占める。遺物は、遺構外のものを含め多量に出土しており、大半が前期後半の諸磯式土器と中期後半の加曽利E式土器であった。土器類を文様と施文法を中心にしてIV群に分類した。

第Ⅰ群土器　諸磯式土器を一括。

１類　地文に縄文を有し、各種の沈線文（格子目文・平行沈線文等）を施すものを一括。
J－4－1，J－9－1，J－10－1・2・3，遺構外1・2

２類　波状口縁・平行沈線に２～４単位の耳朶状の貼付文、胴部は横位・斜位の平行沈線と矢羽根状沈線の繰り返すものを一括。　J－4－2・3・5，J－8－1，J－10－4・5，遺構外3・4

３類　横位・斜位・縦位の平行沈線施文後、ボタン文を貼付するものを一括。
J－4－4・6，J－8－2，J－9－2・3，J－10－6・7・8・10・11・12，遺構外5・6

４類　口縁部は２段に屈曲するもの、「く」字状に屈曲するもの、直線的に開くものがある。口唇に矢羽根状沈線を施し、その上に粘土瘤で棒状・板状・ボタン状に貼付けを施す。更にボタン文の中央に刺突を加えたものがある。集合沈線が主体。
J－4－7・8・9・10・11・12・13・14・15，J－8－3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17，J－9－4・5

５類　口縁部把手を一括。複数面に平行沈線を施文したもの。
J－4－16・17，J－9－7，J－10－13・14，遺構外14・15・16・17・18・19・20・21・22

６類　多条の平行沈線施文後に、半截竹管の連続刺突による結節浮線文を施すものを一括。
J－4－18・19・20・21，J－9－7，J－10－15，遺構外23・24・25・26・27・28

７類　口縁部に凹凸文を施すものを一括。　J－4－22・23・24，J－9－9・10，J－10－16，遺構外29・30・31・32・33

8類　貝殻状痕文（浮島系）、櫛歯状刺突文（興津系）と単純に半截竹管による刺突文のみの土器を一括。
Ｊ－8－18，Ｊ－9－11，遺構外34

9類　浅鉢形土器を一括。　Ｊ－10－9

第II群土器　中期中葉の土器を一括。

1類　勝坂式土器。　遺構外35・36

第III群土器　加曽利Ｅ式期の土器を一括。

1類　加曽利ＥII式　口縁部は渦巻文を中心とする楕円状の区画文で構成され、区画内には縦位の沈線を施文する。胴部は、縄文施文後に沈線を施文する。

a種　深鉢形土器を一括。　Ｊ－7－2・5，遺構外43

b種　鉢形土器を一括。　Ｊ－2－2・4

2類　加曽利ＥIII式　口縁部渦巻文は隆帯表現から沈線表現へと変化し、しだいに簡略化・消失の方向をたどる。胴部無文懸垂帯は幅狭から幅広へと変化する。

a種　器形は、キャリパー形で胴部が若干張る深鉢形を呈する。文様は渦巻文と楕円状区画文を構成し、胴部の懸垂沈線文間に縄文を充填する。口縁部は平縁のものもあるが、渦巻文上に突起を持つものが多い。口縁部文様帯は4単位が一般的。　Ｊ－1－6・7・8・9，Ｊ－2－3，遺構外41

b種　明瞭な口縁部文様帯を持たず、胴上半部に波状の区画文を連続して描く土器を一括。器形は、口縁部が内湾し胴部中程が括れる深鉢形を呈する。文様は、胴上半部に波状の区画文を連続して描き、それに入り組ませて　字状の区画文を口縁部から垂下させるもの、区画文が括れ部で分かれるもの、　字状の区画文を口縁部から垂下させるもの等がある。　Ｊ－1－1・3・4

c種　a・b種の口縁部片を一括。　Ｊ－4－25，Ｊ－7－4・6・7，Ｊ－9－12・13，遺構外39・45・46・47・49

d種　a・b種の胴部片を一括。　Ｊ－1－2，Ｊ－7－1・3，Ｊ－9－14

e種　a・b種の底部片を一括。　Ｊ－2－5・6・7

f種　鉢形・浅鉢形土器を一括。　Ｄ－15－1，遺構外40

3類　加曽利ＥIV式。　沈線で文様を区画する深鉢形土器を一括。　遺構外38

4類　異形・異系土器を一括。

a種　異形土器を一括。　Ｊ－1－5

b種　連弧文系土器を一括。　Ｊ－2－1

c種　曽利系土器を一括。　Ｄ－14－1，遺構外42

d種　大木系土器を一括。　遺構外44

第IV群土器　後期の土器を一括。

1類　Ｊ－1－12

2　古墳時代以降の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡〔第15図、図版5〕

位置　X32、Y123・124グリッド　**重複**　東側でJ－2号住居跡を切り中央にカクランあり西側で調査区域外に入る。形状や規模は現存値を挙げる。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸［2.75］m、短軸［2.65］m、確認面から床面までの壁高10～22cm。　**面積**　［7.00］㎡　**主軸方向**　N－95°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は124.12mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁の中央から南寄りに位置する。主軸方向　N－94°－Eで、全長68cm、最大幅58cm、焚口部幅50cm。掘り込みが浅く残りが良くない状態であった。　**時期**　覆土や出土遺物から、9世紀末から10世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕の小片を少量と須恵器の坏・埦・甕、及び羽釜や瓦、灰釉陶器片、鉄製品など出土量は少なかった。掲載した遺物は、須恵器の埦2点、羽釜1点、刀子1点の合計4点。

H－2号住居跡〔第15図、図版5〕

位置　X36、Y123・124グリッド　**重複**　西側でW－1号溝に切られる。形状や規模は現存値を挙げる。　**形状**　長方形を呈すと思われる。　**規模**　長軸3.31m、短軸［1.45］m、確認面から床面までの壁高28～35cm。　**面積**　[44.44]㎡　**主軸方向**　N－76°－E　**床面**　平坦で床面標高は123.70mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁のほぼ中央に位置する。主軸方向　N－77°－Eで、全長90cm、最大幅102cm、焚口部幅30cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、6世紀後半から7世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕片など出土量は少なかった。掲載した遺物は、土師器の坏2点。

H－3号住居跡〔第16図、図版6〕

位置　X36・37、Y123・124グリッド　**重複**　J－4、H－20号住居跡とD－12号土坑を切る。　**形状**　正方形を呈す。　**規模**　長軸3.96m、短軸3.86m、確認面から床面までの壁高51～54cm。　**面積**　15.33㎡　**主軸方向**　N－89°－E　**床面**　平坦で堅緻。硬化面が2層あり、床面標高1層目は123.60m、2層目は123.55mを測る。壁周溝は全周する。　**柱穴**　3基検出した。P1は長径42cm、短径41cm、深さ25cmの円形。P2は長径58cm、短径40cm、深さ37cmの不整形。P3は長径34cm、短径30cm、深さ54cmの不整形。　**貯蔵穴**（P5）　南東隅に検出。長径79cm、短径58cm、深さ24cmの不整形。　**カマド**　東壁の中央から南寄りに位置する。主軸方向　N－98°－Eで、全長134cm、最大幅110cm、焚口部幅35cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、9世紀前半から9世紀中頃と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕、須恵器の坏・埦・甕・皿、瓦、鉄製品など破片が多く出土した。掲載した遺物は、土師器の坏1点、須恵器の坏2点、高台付皿1点、など4点。

H－4号住居跡〔第17図、図版6〕

位置　X37・38、Y124・125グリッド　**重複**　南西側でD－13号、北側でD－14号土坑を切り、東側をH－5号住居跡に切られている。形状や規模は推定値を挙げる。　**形状**　長方形を呈すと思われる。　**規模**　長軸(3.35)m、短軸2.75m、確認面から床面までの壁高14～18cm。　**面積**　(8.68)㎡　**主軸方向**　N－82°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.60mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　不明。　**カマド**　不明。　**時期**　重複住居の前後関係や出土遺物から、9世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器片を少量出土し、完形資料となり得る個体はなく、掲載できる遺物はなかった。

Ｈ－５号住居跡〔第17図、図版６〕

位置　Ｘ37・38、Ｙ124・125グリッド　**重複**　Ｈ－４・６、Ｊ－４号住居跡とＤ－13・14号土坑を切っている。**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸3.70m、短軸2.70m、確認面から床面までの壁高21～27cm。　**面積**　9.58㎡　**主軸方向**　Ｎ－81°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.65mを測る。　**柱穴**　３基検出した。Ｐ１は長径42cm、短径36cm、深さ32cmの楕円形。Ｐ２は長径36cm、短径29cm、深さ27cmの楕円形。Ｐ３は長径40cm、短径40cm、深さ32cmの円形。Ｐ４は不明。　**貯蔵穴**（Ｐ５）　長径54cm、短径46cm、深さ25cmの楕円形。　**カマド**　東壁の南寄りに位置し東側をカクランされている。主軸方向　Ｎ－88°－Ｅで、全長76cm、最大幅90cm、焚口部幅40cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀中頃から９世紀後半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕の小片を少量と、須恵器の坏・埦・甕、瓦、灰釉陶器などの破片を多く出土した。掲載した遺物は、須恵器の埦２点・甕１点など３点。

Ｈ－６号住居跡〔第18図、図版６〕

位置　Ｘ37・38、Ｙ125・126グリッド　**重複**　北側でＨ－５号住居跡に切られ、Ｄ－13号土坑を切っている。また南西側で調査区域外にはいる。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸4.46m、短軸3.32m、確認面から床面までの壁高49～55cm。　**面積**　[14.10]㎡　**主軸方向**　Ｎ－82°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.42mを測る。　**柱穴**　４基検出した。Ｐ１は長径37cm、短径36cm、深さ24cmの円形。Ｐ２は長径35cm、短径34cm、深さ27cmの円形。Ｐ３は長径24cm、短径23cm、深さ25cmの円形。Ｐ４は長径30cm、短径27cm、深さ40cmの楕円形。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向　Ｎ－73°－Ｅで、全長87cm、最大幅130cm、焚口部幅57cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、８世紀後半頃と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕・長胴甕、須恵器の甕・蓋などの破片やこも石が出土した。掲載した遺物は、土師器の小型甕１点。

Ｈ－７号住居跡〔第19図、図版６〕

位置　Ｘ40･41、Ｙ124･125グリッド　**重複**　床下でＨ－42を切り、北東側でＨ－10、西側でＷ－３、南側でＨ－８に切られているため形状や規模は現存値を挙げる。　**形状**　長方形を呈すと思われる。　**規模**　長軸［3.72］m、短軸［2.75］m、確認面から床面までの壁高24～29cm。　**面積**　［11.67］㎡　**主軸方向**　Ｎ－91°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.60mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向　Ｎ－97°－Ｅで、全長77cm、最大幅108cm、焚口部幅47cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀後半から10世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕、須恵器の埦・甕、瓦などの破片、紡錘車や鉄製品が出土している。掲載した遺物は、須恵器の埦２点、瓦５点、紡錘車１点など８点。

Ｈ－８号住居跡〔第19図、図版６・７〕

位置　Ｘ40・41、Ｙ125・126グリッド　**重複**　北側でＨ－７を、南側でＨ－９を、床下でＨ－42を切り、西側でＷ－３に切られているため形状や規模は現存値を挙げる。　**形状**　正方形を呈すと思われる。　**規模**　長軸3.28m、短軸3.22m、確認面から床面までの壁高17～20cm。　**面積**　[9.67]㎡　**主軸方向**　Ｎ－85°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.70mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向　Ｎ－95°－Ｅで、全長65cm、最大幅80cm、焚口部幅38cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、10世紀前半から10世紀中頃と考えられる。　**遺物**　土師器の甕片を少量、須恵器の坏・埦・甕、羽釜、瓦や鉄製品が多く出土している。掲載した遺物は、須恵器の坏１点、埦２点、甕１点、羽釜２点、瓦４点、釘２点など12点。

Ｈ－９号住居跡〔第20図、図版６・７〕

位置　Ｘ40、Ｙ126グリッド　**重複**　北側でＨ－８に、南側でカクランに、西側でＷ－３に切られ調査区域外に入るため形状や規模は計測出来ない。　**形状**　不明。　**規模**　不明。確認面から床面までの壁高18～19cm。　**面積**　[1.70] ㎡　**主軸方向**　不明。　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.78mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　不明。　**カマド**　東壁に位置し、カマドの南側はカクランにより壊されている。主軸方向　Ｎ－87°－Ｅで、全長63cmと推定され、最大幅と焚口部幅は不明。　**時期**　重複する住居の新旧関係や出土遺物から、９世紀後半から10世紀前半と考えられる。　**遺物**　須恵器の埦・甕・皿、羽釜、瓦などの破片が少量出土している。掲載した遺物は、須恵器の皿１点、羽釜１点など合計２点。

Ｈ－10号住居跡〔第21図、図版７〕

位置　Ｘ40・41、Ｙ124・125グリッド　**重複**　Ｈ－７・11・52を切っている。　**形状**　正方形を呈す。　**規模**　長軸3.30m、短軸3.25m、確認面から床面までの壁高21～24cm。　**面積**　10.83㎡　**主軸方向**　Ｎ－92°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.70mを測る。　**柱穴**　３基検出した。Ｐ１は長径33cm、短径32cm、深さ34cmの円形。Ｐ２は長径41cm、短径34cm、深さ32cmの楕円形。Ｐ３は長径49cm、短径42cm、深さ38cmの楕円形。　**貯蔵穴**（Ｐ５）　長径50cm、短径46cm、深さ22cmの楕円形。　**カマド**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向　Ｎ－114°－Ｅで、全長63cm、最大幅60cm、焚口部幅39cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、11世紀前半から11世紀中頃と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕の小片、須恵器の坏・埦・甕、瓦などの破片や鉄製品が出土している。掲載した遺物は、須恵器の坏１点、埦１点、鎹１点など合計３点。

Ｈ－11号住居跡〔第22・23図、図版７〕

位置　Ｘ41・42、Ｙ124・125グリッド　**重複**　北側と西側でＨ－７・10に壁を切られている。　**形状**　正方形を呈す。　**規模**　長軸4.84m、短軸4.72m、確認面から床面までの壁高68～75cm。　**面積**　22.78㎡　**主軸方向**　Ｎ－58°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.23mを測る。　**柱穴**　４基検出した。Ｐ１は長径37cm、短径34cm、深さ59cmの不整形。Ｐ２は長径33cm、短径28cm、深さ47cmの楕円形。Ｐ３は長径48cm、短径31cm、深さ56cmの不整形。Ｐ４は長径42cm、短径36cm、深さ53cmの不整形。　**貯蔵穴**（Ｐ５）　長径72cm、短径72cm、深さ44cmの隅丸正方形。　**カマド**　東壁のほぼ中央に位置する。主軸方向　Ｎ－61°－Ｅで、全長132cm、最大幅110cm、焚口部幅33cm。左右の袖石が残存し、崩れていたが天井石を検出した。　**時期**　覆土や出土遺物から、７世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕、こも石、覆土上層から須恵器の坏・埦・甕、瓦などの破片、鉄滓が出土し、完形資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、土師器の坏１点、長胴甕１点の合計２点。

Ｈ－12号住居跡〔第23図、図版７・８〕

位置　Ｘ39・40、Ｙ123・124グリッド　**重複**　Ｈ－44、Ｗ－３に壁と床を切られている。形状や規模は推定値を挙げる。　**形状**　長方形を呈し、カクランされている部分が多い。　**規模**　長軸（3.72）m、短軸（3.33）m、確認面から床面までの壁高23～27cm。　**面積**　(11.94) ㎡　**主軸方向**　（Ｎ－88°－Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.68mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　不明。　**カマド**　東壁の南寄りに位置すると思われ、一部カクランされている。主軸方向　Ｎ－84°－Ｅで、全長・最大幅不明、焚口部幅29cm。　**時期**　時期を決定づける遺物は出土していないが、重複する住居の新旧関係や主軸方向、規模から９世紀前半頃かと考えられる。　**遺物**　土師器の破片と瓦片を数点出土し、完形資料となり得る個体はなかった。

Ｈ－13号住居跡〔第24図、図版８〕

位置　Ｘ42・43、Ｙ125・126グリッド　**重複**　Ｈ－14を切っている。　**形状**　正方形を呈す。　**規模**　長軸3.80ｍ、短軸3.67ｍ、確認面から床面までの壁高30～35cm。　**面積**　13.07㎡　**主軸方向**　Ｎ－57°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.64ｍを測る。　**柱穴**　４基検出した。Ｐ１は長径30cm、短径29cm、深さ60cmの円形。Ｐ２は長径54cm、短径48cm、深さ60cmの楕円形。Ｐ３は長径30cm、短径26cm、深さ52cmの楕円形。Ｐ４は長径52cm、短径45cm、深さ45cmの楕円形。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向　Ｎ－62°－Ｅで、全長92cm、最大幅98cm、焚口部幅26cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、７世紀頃と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の埦・甕、瓦などの破片を出土したが、完形資料となり得る個体はなかった。

Ｈ－14号住居跡〔第25図、図版８〕

位置　Ｘ42・43、Ｙ125・126グリッド　**重複**　Ｈ－13の直下に位置する。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸3.41ｍ、短軸3.05ｍ、確認面から床面までの壁高48～50cm。　**面積**　9.77㎡　**主軸方向**　Ｎ－60°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.44ｍを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁のやや南寄りに位置する。主軸方向　Ｎ－73°－Ｅで、全長105cm、最大幅115cm、焚口部幅32cm。左右に袖石が残存する。　**時期**　覆土や出土遺物から、６世紀後半頃と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の坏・甕などの破片を少量出土している。掲載した遺物は、土師器の坏２点。

Ｈ－15号住居跡〔第26図、図版８〕

位置　Ｘ43、Ｙ126グリッド　大部分は調査区域外に入り北壁と西壁の一部分を検出した。形状は不明、　**規模**　現存値の長軸［1.85］ｍ、短軸［0.57］ｍ。　**面積**　［0.52］㎡、確認面から床面までの壁高38～41cm。床面標高は123.50ｍを測る。　**主軸方向**　（Ｎ－86°－Ｅ）　**時期**　不明である。　**遺物**　瓦片を２点出土した。

Ｈ－16号住居跡〔第26図、図版８・９〕

位置　Ｘ41・42、Ｙ125・126グリッド　**重複**　南側がカクラン及び調査区域外に入る。形状や規模は現存値を挙げる。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸[3.25]ｍ、短軸3.15ｍ、確認面から床面までの壁高22～32cm。　**面積**　［7.48］㎡　**主軸方向**　（Ｎ－99°－Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.62ｍを測る。　**柱穴**　２基検出した。Ｐ１は長径30cm、短径28cm、深さ33cmの円形。Ｐ２は長径51cm、短径45cm、深さ40cmの楕円形。他は不明。貯蔵穴は不明。　**カマド**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向　Ｎ－95°－Ｅで、全長73cm、最大幅90cm、焚口部幅45cm。南側の袖先端に凝灰岩の袖石が残存する。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀末から10世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕・台付き甕、土錘などの破片と須恵器の埦・甕・蓋、羽釜、瓦、灰釉陶器や鉄滓を出土している。掲載した遺物は、須恵器の埦２点、羽釜２点、瓦１点など５点。

Ｈ－17号住居跡〔第27図、図版９〕

位置　Ｘ43・44、Ｙ124・125グリッド　**重複**　南側と東側が調査区域外に入る。形状や規模は現存値を挙げる。　**形状**　不明。　**規模**　長軸4.15ｍ、短軸[2.45]ｍ、確認面から床面までの壁高52～62cm。　**面積**　［8.98］㎡　**主軸方向**　（Ｎ－76°－Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.28ｍを測る。壁周溝は現存する部分で全周する。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、７世紀前半から７世紀中頃と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の埦の小片数点やこも石を出土している。掲載した遺物は、土師器の坏１点、鉢１点、小型甕１点など３点。

H－18号住居跡〔第27・28図、図版９〕

位置　X43・44、Y123グリッド　**重複**　北側をH－19・45に切られ、カクランも多い。　**形状**　長方形を呈す。**規模**　長軸3.16m、短軸2.98m、確認面から床面までの壁高36～41cm。　**面積**　8.46m²　**主軸方向**　N－55°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.45mを測る。　**柱穴**　２基検出し、その他ピットを１基検出した。Ｐ１は長径32cm、短径26cm、深さ19cmの不整形。Ｐ２は長径37cm、短径27cm、深さ33cmの楕円形。Ｐ３は長径39cm、短径25cm、深さ26cmの楕円形。他は不明。　**貯蔵穴**　不明。　**カマド**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向　N－60°－Eで、全長54cm、最大幅96cm、焚口部幅20cm。構築材として使用した粘土を多く検出した。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀中頃と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕、須恵器の埦・甕などの破片を少量出土している。掲載した遺物は、土師器の小型甕１点。

H－19号住居跡〔第28図、図版９〕

位置　X43・44、Y122・123グリッド　**重複**　南側でH－18を、北側でH－31を切り南側でH－45に切られる。東側のカマドから北壁の一部及び西壁の一部が調査区域外に入る。形状や規模は推定値を挙げる。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸（4.12）m、短軸（3.73）m、確認面から床面までの壁高34～45cm。　**面積**　（14.70）m²　**主軸方向**　（N－104°－E）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.40mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　不明。　**カマド**　東壁の南寄りに位置する。　**時期**　覆土や出土遺物から、10世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕、須恵器の坏・埦・甕、瓦片など出土している。掲載した遺物は、須恵器の埦１点、紡錘車１点。

H－20号住居跡〔第29・30図、図版９〕

位置　X36～38、Y122・123グリッド　**重複**　南東側でH－21・22・23に、南西側でH－３に切られ、北東側でＪ－８を切り中央を既存水路が走行する。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸7.70m、短軸6.02m、確認面から床面までの壁高56～60cm。　**面積**　44.82m²　**主軸方向**　N－74°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.40mを測る。壁周溝は全周する。　**柱穴**　４基検出し、その他ピットを１基検出した。Ｐ１は長径[48]cm、短径[13]cm、深さ47cmの円形か。Ｐ２は長径54cm、短径49cm、深さ64cmの楕円形。Ｐ３は長径［54］cm、短径［19］cm、深さ14cmの楕円形。Ｐ４は長径84cm、短径74cm、深さ34cmの不整形。Ｐ６は長径53cm、短径52cm、深さ60cmの隅丸正方形。貯蔵穴か。　**貯蔵穴**（Ｐ５）　長径84cm、短径75cm、深さ66cmの隅丸長方形。カマド側から南側にかけて穴の淵に土手状の高まりを検出した。　**カマド**　北壁の中央に位置する。主軸方向　N－８°－Wで、全長110cm、最大幅123cm、焚口部幅45cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、６世紀後半から７世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕片を多く、覆土上層から須恵器の坏・埦・甕、瓦片などの破片を少量とこも石を出土しているが、資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、土師器の坏２点。

H－21号住居跡〔第30・31図、図版９〕

位置　X37・38、Y122・123グリッド　**重複**　南東側でH－23に切られ、北側でＪ－８、西側でH－22を切り、H－20の東側を切る。中央を既存水路が走行する。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸4.55m、短軸2.96m、確認面から床面までの壁高48～50cm。　**面積**　（12.85）m²　**主軸方向**　N－78°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.45mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　不明。　**カマド**　不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀後半から10世紀前半と考えられる。　遺物　土師器の坏・甕と須恵器の坏・埦・甕、羽釜、瓦、灰釉陶器や鉄製品など出土している。掲載した遺物は、須恵器の坏１点、鎧の小札（こざね）と思われるもの１点。

Ｈ－22号住居跡〔第31・32図、図版10〕

位置　Ｘ37・38、Ｙ122・123グリッド　**重複**　南東側でＨ－21に切られ、Ｈ－20を切り北側を既存水路が走行する。形状や規模は現存値を挙げる。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸4.06m、短軸［3.22］m、確認面から床面までの壁高56～60cm。　**面積**　［7.40］㎡　**主軸方向**　Ｎ－78°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.40mを測る。壁周溝は現存部分で全周する。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　不明。　**カマド**　西壁の南寄りに位置すると思われる。主軸方向　Ｎ－105°－Ｗで、全長64cm、最大幅76cm、焚口部幅27cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀中頃から９世紀後半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕・台付き甕、須恵器の坏・椀・甕などの破片やこも石を出土しているが、資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、土師器の小型甕１点。

Ｈ－23号住居跡〔第31・32図、図版10〕

位置　Ｘ38・39、Ｙ123グリッド　**重複**　西側でＨ－20・21を切り北側を既存水路が走行する。形状や規模は現存値を挙げる。　**形状**　長方形を呈すと思われる。　**規模**　長軸3.28m、短軸［2.00］m、確認面から床面までの壁高36～39cm。　**面積**　［6.00］㎡　**主軸方向**　Ｎ－94°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.50mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**（Ｐ５）　長径78cm、短径48cm、深さ27cmの隅丸長方形。　**カマド**　東壁の南寄りに位置すると思われる。主軸方向　Ｎ－92°－Ｅで、全長78cm、最大幅108cm、焚口部幅32cm。左右袖先端に凝灰岩質の石を検出した。　**時期**　覆土や出土遺物から、10世紀前半から10世紀中頃と考えられる。　**遺物**　土師器の甕片を少量と須恵器の椀・甕、羽釜、瓦などの破片や鉄製品を出土し、資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、須恵器の椀３点、羽釜１点の合計４点。

Ｈ－24号住居跡〔第33図、図版10〕

位置　Ｘ40・41、Ｙ120・121グリッド　**重複**　Ｈ－25・30・50を切り、Ｄ－３に切られる。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸3.82m、短軸3.43m、確認面から床面までの壁高37～48cm。　**面積**　11.94㎡　**主軸方向**　Ｎ－102°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.34mを測る。北壁のほぼ中央に床面から10cmの台形状の高まりを検出した。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向　Ｎ－102°－Ｅで、全長67cm、最大幅102cm、焚口部幅33cm。南側の袖先端に石を検出し、燃焼部の左右壁に瓦を検出した。　**時期**　覆土や出土遺物から、10世紀前半から10世紀中頃と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕、須恵器の椀・甕、羽釜、瓦などの破片や鉄製品を出土し、掲載した遺物は、須恵器の椀２点、羽釜１点、瓦２点の合計５点。

Ｈ－25号住居跡〔第34図、図版10〕

位置　Ｘ39・40、Ｙ121・122グリッド　**重複**　Ｈ－26・27・50を切り、Ｈ－24とＷ－３に切られる。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸3.66m、短軸2.82m、確認面から床面までの壁高17～20cm。　**面積**　9.59㎡　**主軸方向**　Ｎ－88°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.54mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁のほぼ中央に位置する。主軸方向　Ｎ－86°－Ｅで、全長46cm、最大幅65cm、焚口部幅36cm。残存状況は悪かった。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀後半から10世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕の小片と須恵器の坏・椀・甕、瓦、灰釉陶器などの破片や砥石を出土するが、資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、土師器の甕１点、もとは砥石であったが装飾品として使用したと思われるもの１点の合計２点。

Ｈ－26号住居跡〔第34図、図版10・11〕

位置　Ｘ40・41、Ｙ121・122グリッド　**重複**　Ｈ－25・27・54、Ｗ－３に切られ、Ｈ－38を切る。形状や規模は現存値を挙げる。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸3.13m、短軸［2.78］m、確認面から床面までの壁高26～30

cm。 **面積** [7.15]㎡ **主軸方向** N－77°－E **床面** 平坦で、床面標高は123.30mを測る。 **柱穴** 2基検出し、その他ピットを2基検出した。P1は長径29cm、短径28cm、深さ18cmの円形。P2・P3は不明。P4は長径84cm、短径74cm、深さ34cmの不整形。P6は長径53cm、短径52cm、深さ60cmの隅丸正方形。P7は長径29cm、短径28cm、深さ18cmの円形。 **貯蔵穴** 不明。 **カマド** 東壁のほぼ中央に位置する。主軸方向 N－82°－Eで、全長45cm、最大幅56cm、焚口部幅35cm。 **時期** 覆土や出土遺物から、8世紀後半から9世紀前半と考えられる。 **遺物** 土師器の坏・甕、須恵器の埦・甕、瓦などの破片を出土している。掲載した遺物は、土師器の小型甕1点、須恵器の坏1点の合計2点。

H－27号住居跡〔第35図、図版11〕

位置 X39・40、Y121・122グリッド **重複** H－25、W－3に切られ、H－26を切る。 **形状** 長方形を呈す。 **規模** 長軸3.05m、短軸2.45m、確認面から床面までの壁高25～28cm。 **面積** 7.35㎡ **主軸方向** N－98°－E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は123.48mを測る。 **柱穴・貯蔵穴** 検出しなかった。 **カマド** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向 N－96°－Eで、全長30cm、最大幅49cm、焚口部幅29cm。残存状況は悪かった。 **時期** 覆土や出土遺物から、9世紀中頃から9世紀後半と考えられる。 **遺物** 土師器の坏・甕、須恵器の坏、瓦や鉄製品などの破片を少量出土しており、資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、土師器の坏1点。

H－28号住居跡〔第35図、図版11〕

位置 X41・42、Y121・122グリッド **重複** H－54に切られ、H－53を切る。 **形状** 長方形を呈す。 **規模** 長軸2.97m、短軸2.78m、確認面から床面までの壁高14～17cm。 **面積** (7.71)㎡ **主軸方向** N－88°－E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は123.70mを測る。 **柱穴・貯蔵穴** 検出しなかった。 **カマド** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向 N－88°－Eで、全長49cm、最大幅50cm、焚口部幅17cm。 **時期** 覆土や出土遺物から、9世紀中頃から9世紀後半と考えられる。 **遺物** 土師器の坏・甕、須恵器の坏・埦・甕・蓋、瓦などの破片を出土しているが、資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、須恵器の埦2点。

H－29号住居跡〔第36図、図版11〕

位置 X42・43、Y121・122グリッド **重複** J－9。南側を既存水路が走行する。形状や規模は現存値を挙げる。 **形状** 長方形を呈すと思われる。 **規模** 長軸3.88m、短軸[2.94]m、確認面から床面までの壁高33～37cm。 **面積** [10.52]㎡ **主軸方向** N－95°－E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は123.52mを測る。 **柱穴・貯蔵穴** 検出しなかった。 **カマド** 不明。 **時期** 覆土や出土遺物から、9世紀末から10世紀前半と考えられる。 **遺物** 土師器の坏・甕、須恵器の坏・埦・甕、羽釜、瓦、土錘、鉄製品、覆土上層で住居に伴わない古銭などを出土している。掲載した遺物は、土師器の坏1点、須恵器の坏1点、羽釜1点、瓦1点、土錘1点、古銭1点の計6点。

H－30号住居跡〔第48・49図、図版11〕

位置 X41、Y121グリッド **重複** H－24・50に切られる。規模は現存値を挙げる。 **形状** 不明。 **規模** 長軸[3.40]m、短軸[0.90]m、確認面から床面までの壁高10～12cm。 **面積** [2.89]㎡ **主軸方向** N－104°－E 床面 堅緻で、床面標高は123.70mを測る。重複部分が多く、カマドと一部の壁・床面のみ確認できた。 **柱穴・貯蔵穴** 不明。 **カマド** 東壁のほぼ中央に位置する。主軸方向 N－97°－Eで、全長60cm、最大幅85cm、焚口部幅35cm。 **時期** 出土遺物が少なく、住居の残りも良くないため不明。 **遺物** 土師器の坏・甕と須恵器の埦の小片を数点出土している。資料となり得る個体はなかった。

H－31号住居跡〔第36・37図、図版11〕

位置　X43、Y121・122グリッド　**重複**　南側でH－19に、北側ではH－32に切られ東側で調査区域外に入る。形状や規模は現存値を挙げる。　**形状**　長方形と思われる。　**規模**　長軸3.06m、短軸［2.03］m、確認面から床面までの壁高55～63cm。　**面積**　［4.83］㎡　**主軸方向**　N－80°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.26mを測る。　**柱穴**　検出されなかったがその他ピットを1基検出した。P1は長径50cm、短径45cm、深さ20cmの楕円形。　**貯蔵穴**　不明。　**カマド**　調査区域外のため不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、9世紀代と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の埦の小片を数点出土している。資料となり得る個体はなかった。

H－32号住居跡〔第36・37図、図版12〕

位置　X43、Y120・121グリッド　**重複**　南側でH－31を切り東側では調査区域外に入る。形状や規模は検出値を挙げる。　**形状**　長方形を呈すと思われる。　**規模**　長軸4.27m、短軸［2.70］m、確認面から床面までの壁高50～52cm。　**面積**　［8.17］㎡　**主軸方向**　N－21°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.34mを測る。壁周溝は南西隅の一部分を除き全周する。　**柱穴**　2基検出した。P1は長径40cm、短径40cm、深さ20cmの円形。P2は長径50cm、短径49cm、深さ61cmの円形。　**貯蔵穴・カマド**　調査区域外のため不明。　**時期**　土層断面からH－31より新しいと思われるが確定できるものがないため不明。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の坏・埦・甕、瓦の小片と鉄製品を数点出土している。資料となり得る個体はなかった。

H－33号住居跡〔第37・38図、図版12〕

位置　X41・42、Y119・120グリッド　**重複**　H－35・40・43を切る。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸3.68m、短軸3.30m、確認面から床面までの壁高47～50cm。　**面積**　11.17㎡　**主軸方向**　N－92°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.34mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁のやや南寄りに位置する。主軸方向　N－94°－Eで、全長71cm、最大幅115cm、焚口部幅32cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、10世紀前半から10世紀中頃と考えられる。　**遺物**　住居跡の南東隅に瓦が5点凸部を上にして並んで出土した。その内の1枚には□の中に方の文字が刻印されていた。その他土師器の坏・甕と須恵器の坏・埦・甕、羽釜、瓦、灰釉陶器や鉄製品を多く出土しているが、資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、須恵器の坏2点、埦1点、瓦5点など計8点。

H－34号住居跡〔第39図、図版12〕

位置　X42・43、Y119・120グリッド　**重複**　J－7、H－35・43を切る。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸4.08m、短軸3.07m、確認面から床面までの壁高52～67cm。　**面積**　11.94㎡　**主軸方向**　N－97°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.25mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁のやや南寄りに位置する。主軸方向　N－101°－Eで、全長130cm、最大幅101cm、焚口部幅35cm。カマド構築の際に壁材として瓦を使用している。　**時期**　覆土や出土遺物から、10世紀中頃と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の坏・埦・甕、皿、灰釉陶器、瓦、鉄製品、砥石を出土し、資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、須恵器の埦1点、砥石1点、釘1点の合計3点。

H－35号住居跡〔第37・38図、図版12・13〕

位置　X42、Y120・121グリッド　**重複**　H－43を切り、H－33・34・40に切られカマドと壁・床面の一部分のみ確認できたため規模は現存値を挙げる。　**形状**　不明。　**規模**　長軸［4.26］m、短軸［1.62］m、確認面から床面までの壁高53～57cm。　**面積**　［6.10］㎡　**主軸方向**　N－95°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.30

mを測る。 **柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。 **カマド** 東壁のほぼ中央に位置する。主軸方向 N－93°－Eで、全長60cm、最大幅76cm、焚口部幅30cm。 **時期** 覆土や出土遺物から、9世紀中頃から9世紀後半と考えられる。 **遺物** 土師器の坏・甕と須恵器の坏・埦・甕、羽釜、瓦、鉄製品などの破片を多量に出土しているが、資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、須恵器の坏1点。

H－36号住居跡〔第40図、図版13〕

位置 X38・39、Y120・121グリッド **重複** J－8、H－37を切る。 **形状** 長方形を呈す。 **規模** 長軸3.76m、短軸(3.15)m、確認面から床面までの壁高32～40cm。 **面積** (11.90)㎡ **主軸方向** N－102°－E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は123.52mを測る。 **柱穴** 3基検出した。P1は長径29cm、短径24cm、深さ34cmの楕円形。P2は長径49cm、短径35cm、深さ26cmの楕円形。P3は長径34cm、短径34cm、深さ15cmの円形。 **貯蔵穴(P5)** 長径43cm、短径38cm、深さ17cmの楕円形。 **カマド** 東壁に2ヶ所検出した。南側のカマドは東壁の南寄りに位置する。主軸方向 N－104°－Eで、全長42cm、最大幅75cm、焚口部幅24cm。北側のカマドは東壁のほぼ中央に位置する。主軸方向 N－115°－Eで、全長82cm、最大幅85cm、焚口部幅25cmで左右両袖に凝灰岩を床面に埋めて袖部分を構築した形跡がある。また、北側カマドは南側カマドより残りが良く、最初に南側カマドを使用し、北側カマドに作り替えられたと考えられる。 **時期** 覆土や出土遺物から、10世紀前半頃と考えられる。 遺物 土師器の坏・甕と須恵器の坏・埦・甕、瓦、灰釉陶器、砥石や鉄製品を出土している。掲載した遺物は、須恵器の埦1点、砥石1点の合計2点。

H－37号住居跡〔第40図、図版13〕

位置 X39、Y120グリッド **重複** 南側でH－36に切られ、H－48を切り北側で調査区域外に入るため規模は現存値を挙げる。 **形状** 不明。 **規模** 長軸4.23m、短軸[1.80]m、確認面から床面までの壁高29～32cm。 **面積** [5.19]㎡ **主軸方向** N－82°－E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は123.54mを測る。 **柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。 **カマド** 東壁のやや南寄りに位置すると思われる。主軸方向 N－66°－Eで、全長74cm、最大幅66cm、焚口部幅20cm。 **時期** 覆土や出土遺物から、9世紀後半頃と考えられる。 **遺物** 土師器の坏・甕、須恵器の坏・埦、瓦などの破片を出土しているが、資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、土師器の甕1点。

H－38号住居跡〔第41図、図版13〕

位置 X39～41、Y122・123グリッド **重複** H－26・39・41・51・52・54、W－3に切られ、北側を既存水路が走行する。 **形状** 長方形を呈す。 **規模** 長軸5.72m、短軸(5.44)m、確認面から床面までの壁高60～67cm。 **面積** [22.78]㎡ **主軸方向** N－70°－E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は123.25mを測る。壁周溝は西側で一部確認できなかったがほぼ全周する。 **柱穴** 4基検出し、その他ピットを2基検出した。P1は長径50cm、短径45cm、深さ45cmの楕円形。P2は長径50cm、短径45cm、深さ66cmの楕円形。P3は長径47cm、短径47cm、深さ73cmの円形。P4は長径45cm、短径(45)cm、深さ42cmの円形。P6は長径33cm、短径29cm、深さ36cmの楕円形。P7は長径42cm、短径40cm、深さ49cmの円形。 **貯蔵穴(P5)** 長径71cm、短径64cm、深さ60cmの楕円形。 **カマド** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向 N－83°－Eで、全長102cm、最大幅90cm、焚口部幅57cm。南側袖部分に石を検出した。 **時期** 覆土や出土遺物から、6世紀後半頃と考えられる。 **遺物** 土師器の坏・甕の破片を多く、須恵器の埦・甕、瓦の小片を少量と鉄製品、こも石を出土している。掲載した遺物は、土師器の坏1点、小型壺1点など合計2点。

Ｈ－39号住居跡〔第42図、図版13〕

位置　Ｘ41、Ｙ123グリッド　**重複**　Ｈ－38・53を切り、Ｈ－41に切られる。北側を既存水路が走行しカマドから北側部分が確認できないため、規模は現存値を挙げる。　**形状**　不明。　**規模**　長軸2.63m、短軸［1.63］m、確認面から床面までの壁高39～40cm。　**面積**　［4.11］㎡　**主軸方向**　Ｎ－89°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.50mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**（Ｐ５）　長径53cm、短径44cm、深さ16cmの楕円形。住居跡南東側の壁には白色粘土による補強が成されている。　**カマド**　東壁のほぼ中央に位置すると思われる。主軸方向　Ｎ－98°－Ｅで、全長104cm、最大幅55cm、焚口部幅41cm。カマドの構築材として煙道部の先端に底部のない甕が出土した。　**時期**　覆土や出土遺物から、10世紀前半から10世紀中頃と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕、須恵器の坏・埦・甕、羽釜、瓦や鉄製品などを出土している。掲載した遺物は、須恵器の埦１点・壺１点、羽釜１点など合計３点。

Ｈ－40号住居跡〔第37・38図、図版14〕

位置　Ｘ41・42、Ｙ120・121グリッド　**重複**　Ｈ－35・43を切り、北側をＨ－33に切られている。形状や規模は推定値を挙げる。　**形状**　長方形を呈すと思われる。　**規模**　長軸（3.36）m、短軸（3.18）m、確認面から床面までの壁高47～49cm。　**面積**　（10.79）㎡　**主軸方向**　Ｎ－95°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.36mを測る。　**柱穴**　１基検出した。Ｐ１は長径45cm、短径43cm、深さ24cmの円形。Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は不明。　**貯蔵穴**（Ｐ５）　長径50cm、短径40cm、深さ17cmの楕円形。　**カマド**　東壁の南寄りに位置する。Ｈ－35を調査する際に北側部分を壊してしまった。主軸方向　Ｎ－95°－Ｅで、全長70cm、最大幅と焚口部幅は不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世後半から10世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕・小型甕と須恵器の埦・甕、羽釜、瓦、灰釉陶器や鉄製品の破片を出土している。資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、須恵器の埦１点、瓦１点。

Ｈ－41号住居跡〔第43図、図版14〕

位置　Ｘ40・41、Ｙ123・124グリッド　**重複**　Ｈ－38・39・51・52を切る。　**形状**　正方形を呈す。　**規模**　長軸3.08m、短軸3.00m、確認面から床面までの壁高30～37cm。　**面積**　［9.11］㎡　**主軸方向**　Ｎ－93°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.53mを測る。　**柱穴**　４基検出した。Ｐ１は長径40cm、短径39cm、深さ40cmの円形。Ｐ２は長径45cm、短径44cm、深さ43cmの円形。Ｐ３は長径39cm、短径32cm、深さ50cmの楕円形。Ｐ４は長径36cm、短径33cm、深さ44cmの楕円形。　**貯蔵穴**　検出しなかった。　**カマド**　カクランによりカマドは確認できなかった。　**時期**　覆土や出土遺物から、11世紀代と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の坏・埦・甕・羽釜、瓦の小片を出土している。資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、須恵器の埦１点。

Ｈ－42号住居跡〔第20図、図版14〕

位置　Ｘ40、Ｙ125グリッド　**重複**　Ｈ－７・８、Ｗ－３に切られ、カマド以外は計測不能であった。形状・規模・面積は不明。柱穴・貯蔵穴は不明。　**カマド**　東壁に位置すると思われる。主軸方向　Ｎ－83°－Ｅで、全長65cm、最大幅100cm、焚口部幅32cm。　**時期**　出土遺物から、９世紀中頃から９世紀後半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕、須恵器の埦・甕、瓦の破片を少量出土している。資料となり得る個体は少なかった。掲載した遺物は、須恵器の埦２点。

Ｈ－43号住居跡〔第44・45図、図版14〕

位置　Ｘ41・42、Ｙ120・121グリッド　**重複**　Ｈ－33・34・35・40に切られる。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**

長軸5.75m、短軸4.52m、確認面から床面までの壁高73～75cm。 **面積** 24.69㎡ **主軸方向** N－87°－E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は122.96mを測る。壁周溝は巡っているが東側で確認できなかった。 **柱穴** 4基検出し、その他ピットを2基検出した。P1は長径34cm、短径32cm、深さ44cmの円形。P2は長径36cm、短径25cm、深さ48cmの楕円形。P3は長径27cm、短径26cm、深さ38cmの円形。P4は長径55cm、短径48cm、深さ47cmの不整形。P6南東隅、長径50cm、短径31cm、深さ25cmの不整形。P7は長径43cm、短径24cm、深さ31cmの楕円形。 **貯蔵穴** 検出しなかった。 **土坑** 1基検出した。D－1は長径237cm、短径57cm、深さ17cmの不整形。 **カマド** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向 N－94°－Eで、全長86cm、最大幅80cm、焚口部幅49cm。左右両袖に石を検出した。 **時期** 覆土や出土遺物から、9世紀前半から9世紀中頃と考えられる。 **遺物** 土師器の坏・甕と須恵器の坏・埦・甕、皿、蓋、羽釜、瓦、灰釉陶器や紡錘車、鉄製品などを多く出土している。掲載した遺物は、土師器の坏2点、甕1点、須恵器の坏2点、瓦1点、紡錘車1点、刀子1点など合計8点。

H－44号住居跡〔第46図、図版8〕

位置 X39・40、Y123・124グリッド **重複** H－12を切り、W－3に切られる。形状や規模は推定値を挙げる。 **形状** 長方形を呈すると思われる。 **規模** 長軸4.12m、短軸(3.17)m、確認面から床面までの壁高36～43cm。 **面積** (11.73)㎡ **主軸方向** N－99°－E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は123.50mを測る。 **柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。 **カマド** 東壁のほぼ中央に位置する。主軸方向 N－95°－EでW－3により西側部分を切られているため、全長、最大幅、焚口部幅は計測不能。 **時期** 覆土や出土遺物から、9世紀中頃から9世紀後半と考えられる。 **遺物** 土師器の坏・甕の小片と須恵器の埦・甕、皿、瓦の破片を出土している。掲載した遺物は、土師器の甕1点、須恵器の埦2点など合計3点。

H－45号住居跡〔第28図、図版14〕

位置 X43・44、Y122・123グリッド **重複** H－18・19を切り、北側を既存水路が走行し一部の壁・床面を確認できた。規模は現存値を挙げる。 **形状** 不明。 **規模** 長軸［2.10］m、短軸［0.68］m、確認面から床面までの壁高30～34cm。 **面積** ［1.15］㎡ **主軸方向** N－105°－E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は123.52mを測る。 **柱穴・貯蔵穴** 不明。 **カマド** 不明。 **時期** 覆土や重複住居の関係から、10世紀前半以降と考えられる。 **遺物** 資料となり得る個体はなかった。

H－46号住居跡〔第46図、図版14〕

位置 X39・40、Y124・125グリッド **重複** W－3に切られ、西壁を大きくカクランされているため、形状や規模は推定値を挙げる。 **形状** 長方形を呈すと思われる。 **規模** 長軸4.00m、短軸（3.53）m、確認面から床面までの壁高30～34cm。 **面積** (12.75)㎡ **主軸方向** N－81°－E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は123.55mを測る。 **柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。 **カマド** 東壁のやや南寄りに位置するが、W－3によりカマド西側の一部分を切られているため、規模は現存値を挙げる。主軸方向 N－81°－Eで、全長［60］cm、最大幅［72］cm、焚口部幅［25］cm。 **時期** 覆土や出土遺物から、8世紀後半から9世紀前半と考えられる。 **遺物** 土師器の坏・甕の破片を多く、須恵器の埦・甕、瓦片を少量と椀型鉄滓を出土している。掲載した遺物は、土師器の小型甕1点、須恵器の坏1点、蓋1点、紡錘車1点など計4点。

H－47号住居跡〔第47図、図版15〕

位置 X36・37、Y121グリッド **重複** 東側でJ－8を切る。北側が調査区域外に入るため、規模は現存値を挙げる。 **形状** 不明。 **規模** 長軸3.53m、短軸［1.43］m、確認面から床面までの壁高49～54cm。 **面積** ［3.

93] ㎡　**主軸方向**　N－74°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.44mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　西壁の南寄りに位置する。主軸方向　N－124°－Wで、全長96cm、最大幅95cm、焚口部幅25cm。**時期**　覆土や出土遺物から、7世紀頃と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の坏の小片を少量出土している。資料となり得る個体はなかった。

H－48号住居跡〔第47図、図版15〕

位置　X39、Y120グリッド　**重複**　H－37に切られ、北側が調査区域外に入りカマドと壁、床面の一部のみ確認できたため、規模は現存値を挙げる。　**形状**　不明。　**規模**　長軸［3.12］m、短軸［1.63］m、確認面から床面までの壁高46～50cm。　**面積**　［2.98］㎡　**主軸方向**　N－92°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.44mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**（P5）　長径60cm、短径43cm、深さ26cmの楕円形。　**カマド**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向　N－87°－Eで、全長51cm、最大幅は不明、焚口部幅34cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、9世紀中頃から9世紀後半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の椀・甕、瓦などを出土している。掲載した遺物は、須恵器の椀2点、瓦1点など合計3点。

H－49号住居跡〔第48図、図版15〕

位置　X42・43、Y119グリッド　**重複**　北東側でJ－7を切り、北側が調査区域外に入り壁と床面の一部だけの確認のため、規模は現存値を挙げる。　**形状**　不明。　**規模**　長軸2.28m、短軸［0.33］m、確認面から床面までの壁高35～40cm。　**面積**　［0.81］㎡　**主軸方向**　（N－64°－E）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.38mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　不明。　**カマド**　不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、9世紀中頃以降と考えられる。　**遺物**　須恵器の皿を出土している。掲載した遺物は、須恵器の皿1点。

H－50号住居跡〔第48・49図、図版15〕

位置　X40・41、Y120・121グリッド　**重複**　H－24・25・30、D－3に切られる。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸4.17m、短軸3.05m、確認面から床面までの壁高68～70cm。　**面積**　12.12㎡　**主軸方向**　N－99°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.10mを測る。壁周溝は巡っているが北側の一部分と南西隅と南東隅で確認できなかった。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁のやや南寄りに位置する。主軸方向　N－103°－Eで、全長50cm、最大幅82cm、焚口部幅54cm。カマド中央よりやや北側に凝灰岩の支脚石があり、両袖部分に凝灰岩の袖石を検出した。　**時期**　覆土や出土遺物から、9世紀中頃かと考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の坏・椀・甕、皿、砥石などの破片を出土している。掲載した遺物は、須恵器の椀1点、皿1点など合計2点。

H－51号住居跡〔第49図、図版15〕

位置　X39・40、Y123グリッド　**重複**　H－38を切り、H－41、W－3に切られ北側を既存水路が走行しているが一部の壁、床面、カマドを確認できた。規模は現存値を挙げる。　**形状**　不明。　**規模**　長軸2.93m、短軸［1.15］m、確認面から床面までの壁高50～58cm。　**面積**　［3.53］㎡　**主軸方向**　N－98°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.46mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**（P5）　長径63cm、短径不明、深さ24cm。W－3に切られている。　**カマド**　東壁のやや南寄りに位置すると思われる。主軸方向　N－95°－Eで、全長42cm、最大幅不明、焚口部幅34cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、9世紀後半から10世紀前半と考えられる。　**遺物**　須恵器の坏・椀・甕、皿、羽釜、瓦、灰釉陶器片を少量出土している。掲載した遺物は、須恵器の坏1点、椀1点、皿1点など計3点。

H－52号住居跡〔第43図、図版16〕

位置　X40・41、Y123・124グリッド　**重複**　H－38を切り、H－10・41とカクランに切られる。　**形状**　長方形を呈す。　**規模**　長軸3.88m、短軸3.14m、確認面から床面までの壁高21～27cm。　**面積**　(11.70)㎡　**主軸方向**　N－94°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.66mを測る。壁周溝は現存部分で全周する。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向　N－95°－Eで、全長33cm、最大幅55cm、焚口部幅29cm。　**時期**　覆土や出土遺物から、10世紀後半から11世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の埦・甕、瓦片や鉄製品を出土している。掲載した遺物は、須恵器の埦２点、刀子１点など３点。

H－53号住居跡〔第50図、図版16〕

位置　X41・42、Y122・123グリッド　**重複**　H－28・39・54に切られ中央を既存水路が走行しているが一部の壁、床面を確認できた。規模は現存値を挙げる。　**形状**　長方形を呈すと思われる。　**規模**　長軸3.12m、短軸［2.02］m、確認面から床面までの壁高11～14cm。　**面積**　［6.52］㎡　**主軸方向**　N－92°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.55mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　既存水路が走行しているため不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀前半から９世紀中頃と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の埦・甕、瓦片や鉄製品を少量出土している。資料となり得る個体はなかった。

H－54号住居跡〔第50図、図版16〕

位置　X41、Y122グリッド　**重複**　H－25・26・28・53を切り、南側を既存水路が走行しているが一部の壁、床面を確認できた。規模は現存値を挙げる。　**形状**　不明。　**規模**　長軸2.67m、短軸［2.00］m、確認面から床面までの壁高32～40cm。　**面積**　［4.45］㎡　**主軸方向**　N－99°－E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.45mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**カマド**　既存水路が走行しているため不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀後半から10世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器の坏・甕と須恵器の埦・甕や鉄製品を少量出土している。掲載した遺物は、須恵器の埦１点、釘１点、刀子１点など合計３点。

(2)　土　　坑（古墳時代以降）

土坑は16基検出し、その中で古墳時代以降の土坑は８基検出した。平面形状は円形、楕円形であった。規模は53×77cm～165×85cm、深さ10cm～68cmを測る。時期は特定できるものがなかった。また、規則性などは確認できなかった。縄文時代の土器片などが出土している土坑も検出したが、覆土の質が縄文土坑とは明らかに違い、柔らかく、白色軽石粒やローム粒が含まれていて、後世に穴を掘った時、縄文土器片などが埋まってしまったと思われる。なお、各土坑の計測値は第４表土坑計測表にまとめた。

第４表　土坑計測表（古墳時代以降）

土坑番号	遺構位置	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	形　状	備　　考
D－1	X34，Y124	77	53	39	楕円形	★
D－2	X34，Y125	94	93	46	円形	★
D－3	X40，Y120	122	116	68	円形	●■　H－24・50を切る
D－4	X40・41，Y119・120	(165)	85	25	楕円形	一部調査区域外
D－5	X40，Y120	(80)	80	18	(円形)	一部調査区域外
D－6	－	－	－	－	－	欠番
D－7	X43，Y119	80	79	25	円形	★●■　J－7を切る
D－8	X42，Y122・123	105	80	10	楕円形	P－30を切る
D－9	X43，Y124	106	90	19	楕円形	●■

（　）は推定値、★は縄文土器片、●は土師器片出土を示し、■は須恵器片出土を示す

(3) ピット

調査区全体でピットは42基検出し、南西側のX32～34、Y124～125グリッドと東側中央のX41～43、Y123～124グリッドでピット群をなしている状況がみられた。平面形状は円形、楕円形や不整形で上端が20×20cm～81×62cm、深さ10cm～65cmを測る。断面形状では上端が大きなものはピット底部にいくにしたがい、先細りの様相を呈している。時期の特定できるものは少なく、掘立柱建物跡を組めるものはなかった。なお、各柱穴の計測値は第5表ピット計測表にまとめて報告する。

第5表　ピット計測表

ピット番号	遺構位置	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	形　状	備　　考
P－1	X32, Y125	46	32	27	楕円形	
P－2	X32, Y125	42	30	38	楕円形	
P－3	X32, Y125	52	38	47	楕円形	
P－4	X32, Y125	30	24	19	楕円形	
P－5	X32, Y125	30	29	30	円形	
P－6	X32, Y124	54	45	65	楕円形	
P－7	X32, Y125	51	41	47	楕円形	
P－8	X32, Y125	42	38	40	楕円形	
P－9	X32, Y125	58	40	48	楕円形	
P－10	X33, Y124・125	50	35	49	楕円形	
P－11	X33, Y125	68	53	57	楕円形	
P－12	X32, Y125	72	(58)	36	楕円形	一部調査区域外
P－13	X33, Y125	81	62	56	楕円形	
P－14	X34, Y125	45	43	62	円形	
P－15	X43, Y119	53	43	47	楕円形	J－7－P5
P－16	X43・44, Y118・119	46	39	46	楕円形	一部調査区域外
P－17	X43, Y119	52	46	30	楕円形	J－7を切る
P－18	X43, Y119	30	27	38	円形	J－7－P4
P－19	X43, Y119	34	33	35	円形	J－7－P3
P－20	X43, Y119	63	40	14	不整形	
P－21	X43, Y119	50	44	27	楕円形	J－7を切る
P－22	X43, Y119	49	46	35	円形	J－7－P2
P－23	X43, Y119	48	47	33	円形	J－7を切る
P－24	X41, Y124	48	45	18	円形	
P－25	X41, Y123	39	38	18	円形	
P－26	X41, Y124	53	(50)	43	円形	
P－27	X42, Y123	55	44	13	楕円形	
P－28	X42, Y123	47	28	22	楕円形	
P－29	X42, Y123	31	28	16	円形	
P－30	X42, Y122・123	42	(40)	30	円形	
P－31	X42, Y123	34	34	16	円形	
P－32	X42, Y123	38	33	23	楕円形	
P－33	X42, Y123	20	20	26	円形	
P－34	X43, Y123	34	34	28	円形	H－18を切る
P－35	X42, Y124	42	38	10	楕円形	P－36を切る
P－36	X42, Y124	46	39	43	楕円形	P－35に切られる
P－37	X42, Y124	46	44	12	円形	
P－38	X42, Y124・125	45	44	34	円形	
P－39	X43, Y124	43	37	19	楕円形	
P－40	X43, Y124	28	23	22	楕円形	P－41を切る
P－41	X43, Y124	43	26	23	楕円形	P－40に切られる
P－42	X43, Y119	47	46	37	円形	J－7－P1

(4) 溝状遺構〔第7・53・54図、図版30〕

W－1号溝

溝跡W－1はX35・36，Y122～X34・35・36，Y126グリッド内に位置する。南北に走行し、7世紀前半のものと思われるH－2号住居跡を切っている。本遺跡より南側の道路を隔てた元総社小見II遺跡でも検出されている。断面形状を見ると鍋底形で確認された全長は15.52m、上幅4.50～6.25m、下幅3.20～4.80m、確認面からの深さ0.75～0.82mを測る。北側底部の標高は123.53m、南側底部の標高は123.43mで北から南へ0.64%の勾配があり、南東隅で16cmほどの落ち込みが見られたが調査区域外に入り元総社小見II遺跡へ至っている。また、底部には上幅20～65cm、深さ2～8cmの溝が途切れている部分を4条検出した。内側2本の溝の間隔はほぼ90cmで一定しているが、外側2本の間隔は180～270cmで北側で狭くなっている。土層断面を見ると現耕作土層上端から40cmほどの下層にAS－B軽石層が見られる。その軽石層から26cm下層に厚さ4cm、幅38cmの層と、36cm下層に厚さ4cm、幅63cmの堅く締まった土層が2層見られ、住居跡の堅い床面に似た様相を呈している。それから下の土層は流水により運ばれ堆積したと推測できるシルトや砂・礫が堆積している。また、底部には堅い部分が全面ではないが検出した。この面は縄文住居（J－4）の調査中にも検出しており、この土層の特徴かと思われる。遺物は流れ込みと思われる縄文時代前期と中期の土器片から土師・須恵器片や布目瓦片などを出土している。

W－2号溝

X33，Y123～X33，Y125グリッド内に位置する。南北に走行しJ－2号住居跡を切っている。本遺跡より南側の道路を隔てた元総社小見II遺跡でも検出されている。断面形状を見ると鍋底形で、確認された全長は10.86m、上幅0.70～0.95m、下幅0.36～0.48m、確認面からの深さ0.17～0.28mを測る。北側底部の標高は123.98m、南側底部の標高は123.94mで底部の凸凹はあるが相対的に北から南へ0.37%の勾配がある。遺物は流れ込みと思われる縄文時代前期と中期の土器片から土師・須恵器片や布目瓦片などを出土している。時期は中世以降と思われる。

W－3号溝

X39・40，Y120～X39・40，Y126グリッド内に位置する。南北に走行しJ－10、H－7・8・9・12・25・27・38・42・44・46・51号住居跡を切っている。断面形状を見ると椀形で、確認された全長は24.40m、上幅1.15～1.60m、下幅0.40～0.75m、確認面からの深さ0.49～0.56mを測る。北側底部の標高は123.30m、南側底部の標高は123.50mで底部が凸凹しているため勾配は確認できなかった。遺物は流れ込みと思われる縄文時代の土器片から土師・須恵器片や布目瓦片などを出土している。時期は特定できないが新しい溝跡と思われる。

(5) 集石遺構〔第52図、図版16〕

X41，Y120グリッド内に位置する。直径1.80mの円内にφ10～150mmの自然石を84個検出した。時期は特定できる遺物の出土がないため不明である。

3 ま と め

本遺跡では、縄文時代前期から中期、古墳時代から奈良・平安時代にわたる遺構が検出され、多くの遺物が出土している。また、本遺跡の北側200mには国分尼寺、北西側500mには国分僧寺が隣接し、国府推定域には諸説あるが北西外側にあたる。

ここでは、元総社蒼海遺跡群で用いられている時期区分に従い、律令制の繁栄、衰退の時期を考えⅠ期を律令期以前（～7世紀前半）、II期を律令期（7世紀後半～10世紀初頭）、III期を律令期以後（10世紀前半～）に分類し集落を中心に考えてみることにする。

Ⅰ期（～7世紀前半）

今回の調査では、縄文時代住居跡7軒を検出した。縄文時代前期後葉の住居跡はJ－4・8・9・10の4軒、縄文時代中期後葉の住居跡はJ－1・2・7の3軒であった。

本遺跡で検出された前期後葉の住居跡の規模で確認できるものでは、径の最大6.47mから最小5.46mで大型の住居であった。形状は楕円形や隅丸長方形と思われるような不整形で、床面は住居中央が壁際よりやや低くすり鉢状を呈している。炉跡は4軒中3軒（J－4・8・9）が地床炉で1軒（J－10）が土器埋設の形式であった。さらに、炉跡の近くに埋設土器を検出した住居跡は4軒中3軒（J－4・8・10）で1軒（J－9）は検出しなかった。また、この4軒の住居跡の内J－4・8・10の離隔距離は3～4mとかなり接近し、環状に並んでいるように窺え集落的要素を持っている。

中期後葉の住居跡の規模は確認できるものでは、J－1のみで3.92×4.33mであった。前期後葉の住居跡と比較すれば小型で形状も円形で整っている。J－2は調査区域外に入ってしまうため全容は確認できなかったが、大型の住居跡と思われる。J－7は柱穴や炉跡から推定するとJ－1と同等の規模と形状になるかと思われる。炉跡はJ－1・7が石組みの中に土器埋設の形式で、J－2は石組みはないが床面より26cm掘り下げた中に土器を埋設しており、囲炉裏の様に施工している。

縄文時代住居と遺物について

J－1　遺物は上層から床面にかけて多くの土器片が出土し、中でも炉体土器（J－1－1，J－1－7）や埋甕（J－1－2）は時期が特定できる資料である。その他にも深鉢（J－1－3・8・13）や有孔鍔付土器片（J－1－5）が下層から床面にかけて出土している。

J－2　遺物は豊富な出土量が見られる。炉体土器（J－2－1）は連弧文系の土器で、底部を欠いて使用している。それ以外では深鉢片（J－2－3）や鉢形土器片（J－2－2・4）が床面付近から出土しており、隣接のJ－1より古い住居跡と考えられる。また覆土中ではあるが土製円盤（J－2－8・9）も2点出土している。

J－4　遺物は、諸磯c式土器を多く出土している。埋甕（J－4－1）は、底部付近で時期決定の資料にはしにくい。

J－7　遺物の出土量は少ない。炉体土器（J－7－1）は深鉢の胴部を使用している。他には小さな土器片を散見しただけであった。

J－8　埋甕（J－8－1）は、口縁から胴部にかけて矢羽根状沈線と平行沈線の繰り返しが見られる。その他の遺物も口縁部に矢羽根状の沈線を施し、棒状またはボタン文を多く施している。（諸磯c式）

J－9　前期の遺物は、諸磯c式期のものが比較的多く出土している。中期は、加曽利EIII式期の遺物が覆土中に混入したと考えられる。

J－10　外側の埋甕（J－10－1）は第Ⅰ群1類段階の遺物、内側の埋甕（J－10－8）は第1群3類段階の遺物、そしてJ－10－6・7・8は口縁部に雑な平行沈線を施し、4単位の耳朶状の貼付文を施文する。

J－8よりやや新しい。H－13･14号住居付近にも諸磯期の遺物が多量に出土しているので、遺構のあった可能性が考えられる。

地形的には染谷川と牛池川に挟まれた微高地を呈し、小見VI・VIIとも染谷川左岸に位置することから、縄文前期から中期にかけての小規模な集落の可能性が考えられる。

本遺跡の古墳時代の住居跡については、H－2・11・13・14・17・20・38・47の8軒を検出し、住居跡の軒数では全体の14.8%で他のI・II期に比べると割合が一番低い。いずれも6世紀後半から7世紀前半の古墳時代後期のものであった。この時期の住居跡の規模は、他のII・III期に比べ大型の住居が建築され、H－11・20・38住居跡が大型で確認面からの掘り込みも深く、壁際には周溝が巡っている。特にH－20住居跡は6.02×7.70mの規模で、確認面からの掘り込みは56～60cmを測る。北側にカマドがあり、袖が住居内に長く入り込み白色粘土と土を混ぜたもので構築されていた。また、長方形の貯蔵穴が設けられ雨水等が流れ込まないよう、その周囲に土手状の高まりを作っている。屋根を支えるための柱穴は大きく、深く掘られている。その他の住居跡の規模については住居の一辺が3.05m～4.15m、掘り込みは30～54cmを測る。この時期の住居の形状は正方形や正方形に近いものが多く整美な形状を示している。カマドが構築されている方向は東、西、北とバラエティーにとんでいて構築材には白色粘土や両袖先端部からは凝灰岩質の袖石を検出した。主軸方向はN－58°－E～N－76°－Eの範囲で画一化されており、有力者を中心に集落を形成していたと考えられる。

II期（7世紀後半～10世紀初頭）

7世紀中頃から8世紀中頃の住居跡は確認されなかった。8世紀後半頃の奈良時代末期の住居跡はH－6･26･46の3軒、平安時代に入った9世紀代ではH－3～5・7・9・12・18・21・22・25・27・28・31・35・37・40・42～44・48～51・53・54の25軒検出した。奈良時代の住居跡の形状は、確認できたものでは正方形や長方形で、規模は3.32×4.46m（H－6）、3.35×4.00m（H－46）であった。平安時代の規模は最小2.45×3.05m（H－27）、最大5.75×4.52m（H－43）であった。古墳時代と比較して徐々に小型化し、確認面からの掘り込みも浅くなる傾向が窺える。カマドは西カマドの住居跡が1軒（H－22）あるのみで、東側に設けることが定着した。また、構築材として9世紀中頃以降からカマドの内壁に瓦を使用している住居跡を検出している。

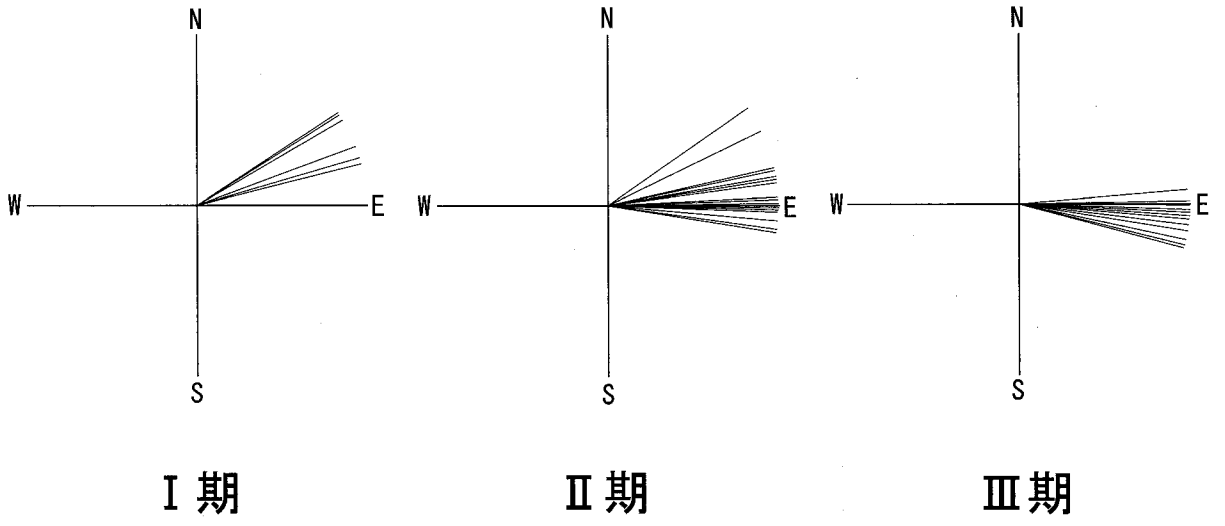
この時期の住居跡の軒数は全体の52.0%で他のI・III期に比べて一番建築回数が多い。建築軒数と述べずあえて建築回数としたのは、9世紀代の住居跡については全住居を一斉に建設したのではなく9世紀前半で5軒、9世紀中頃で10軒、9世紀後半頃で8軒を建築した。律令制の繁栄時期で、おそらく土地利用の規制から居住地域の範囲が定められ、同じ場所に建て替えが繰り返された結果、同時期の住居跡が重複して検出されたと考えられる。主軸方向はN－77°－E～N－99°－Eの範囲を中心に画一化され、国司の強い権力の下に充実した律令制が窺える。

III期（10世紀前半～）

10世紀前半の住居跡はH－1・8・16・19・23・24・29・33・36・39・45の11軒、10世紀中頃はH－34が1軒、10世紀後半はH－52の1軒、11世紀代でH－10・41の2軒検出している。住居跡の形状は、確認できたものでは正方形や長方形で、規模は最小で3.00×3.08m（H－41）、最大で3.07×4.08m（H－34）であった。II期からの小型化の流れで住居の一辺が3m台のものばかりで、一辺が4mを越えるものはH－34のみであった。カマドは東カマドのみで、構築材としてカマドの内壁に瓦を使用している住居跡を検出した。主軸方向はN－85°－E～N－104°－Eの範囲で画一化がいっそう進んでいる。 この時期の住居跡の軒数は全体の27.7%であるが、時期を細分化してみると9世紀中頃～10世紀前半の住居数が多く本遺跡の最盛期を迎えている。10世紀前半頃は律令制がまだ生きていて住居軒数も多いが、10世紀中頃以降の住居数は激減している。このころの歴史的出来事では、10世紀に入ると国司暗殺や兵乱により律令制が崩れはじめ10世紀中頃には平将門による国府占領で律令制が衰退した。大乱による律令制の崩壊で居住地域の規制がなくなり、兵乱のない場所に移り住んだと考えられる。

溝跡についての考察

本遺跡より検出したW－１号溝について考察してみたい。本遺跡周辺の遺跡ではFA降下後に開削されAs－B降下後埋没したとされる大溝が寺田遺跡で検出されている。平安時代中頃まで使用しており本遺構とほぼ同時期と言える。規模は概ね似ているが深さが1.42mと報告され本遺構より0.60m深い。また、南北方向に走行していることから第IX系座標値よりＹ軸の座標はＹ－70,850の値であった。本遺構も南北に走行していることからＹ軸の座標値はＹ－72,060で、寺田遺跡から西へ1,210mの位置であった。また、本遺跡の北西に位置する上野国分僧寺の東辺築垣推定位置において、南東隅の座標値がＸ43,741、Ｙ－72,360であった。前述と同様に本遺跡とＹ軸の関係を計算すると、上野国分僧寺の南東隅推定位置から東へ300mであった。国分僧寺から東へ３町の位置は国分尼寺の西端側に相当する。確認はされていないがこの西端部には道路が走っていた可能性があり、その道路が本遺跡で検出されたW－１号溝なのか。しかし、条里地割り１町を109mとすると、３町分は327mで27mのずれが生じている。本遺跡は牛池川と染谷川に挟まれた場所に位置し、度々河川の氾濫があったことから治水の意味が大きいと思われ道路としては考えにくい。さらに溝の底は人の歩いた形跡がなく、７世紀前半以降に開削され本来溝として使用され、自然土砂堆積の間には数次にわたる洪水を経て２度ほど道路としての役割を果し、As－B軽石の降下により完全に埋没した溝であることが土層断面と検出状況から推測できる。ただし、溝底部に検出された４条の溝は、どのような理由で掘られたのか、掘ったのか今後の調査に期待したい。



第４図　時期別の竪穴住居跡の主軸方向

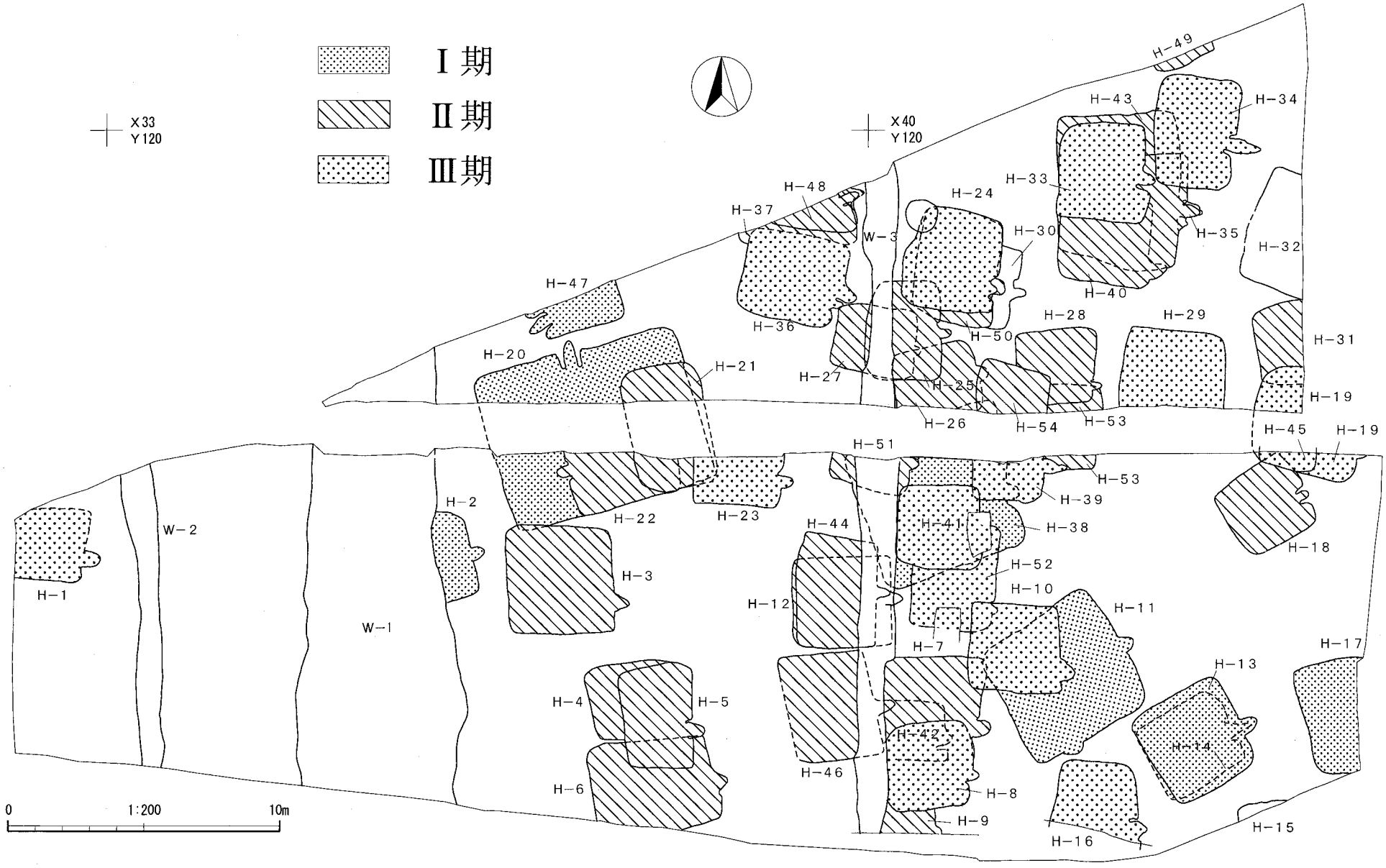
第6表　住居跡一覧表（古墳時代以降）

住居番号	位置	規模 (m)	床面標高 (m)	面積 (㎡)	主軸方向	カマド 位置・方向	重複	出土遺物			時期
								土師器	須恵器	その他	
1	X32 Y123・124	[2.75：W-E] [2.65：N-S]	124.12	[7.00]	N-95°-E	東壁南寄 N-94°-E	J-2	小片少量	◎◇☆△ 灰釉陶器	刀子	9C末～ 10C前
2	X36 Y123・124	3.31：N-S [1.45：W-E]	123.70	[44.44]	N-76°-E	東壁中央 N-77°-E	W-1	○◇	—	—	6C後～ 7C前
3	X36・37 Y123・124	3.96：N-S 3.86：W-E	123.55 123.60	15.33	N-89°-E	東壁南寄 N-98°-E	J-4,H-20 D-12	○◇	○◎◇△ 皿	鉄製品	9C前～ 9C中
4	X37・38 Y124・125	(3.35：W-E) 2.75：N-S	123.60	(8.68)	N-82°-E	不明	H-5 D-13・14	小片少量	—	—	9C前か
5	X37・38 Y124・125	3.70：N-S 2.70：W-E	123.65	9.58	N-81°-E	東壁南寄 N-88°-E	H-4・6 D-13・14	○◇	○◎◇△ 灰釉陶器	—	9C中～ 9C後
6	X37・38 Y125・126	4.46：W-E 3.32：N-S	123.42	[14.10]	N-82°-E	東壁南寄 N-73°-E	H-5 D-13	○◇	○◇蓋	こも石	8C後か
7	X40・41 Y124・125	[3.72：W-E] [2.75：N-S]	123.60	[11.67]	N-91°-E	東壁南寄 N-97°-E	H-8・10・ 42,W-3	○◇	◎◇△	釘 紡錘車	9C後～ 10C前
8	X40・41 Y125・126	3.28：W-E 3.22：N-S	123.70	[9.67]	N-85°-E	東壁南寄 N-95°-E	H-7・9・ 42,W-3	○◇少量	○◎◇☆ △	釘、刀子	10C前～ 10C中
9	X40 Y126	不明	123.78	[1.70]	不明	東壁 (N-87°-E)	H-8 W-3	—	◎◇☆△ 皿	—	9C後～ 10C前
10	X40・41 Y124・125	3.30：W-E 3.25：N-S	123.70	10.83	N-92°-E	東壁南寄 N-114°-E	H-7・11・ 52	○◇	○◎◇△	釘、鎹	11C前～ 11C中
11	X41・42 Y124・125	4.84：W-E 4.72：N-S	123.23	22.78	N-58°-E	東壁中央 N-61°-E	H-7・10	○◇	○◎◇△	鉄滓 こも石	7C前
12	X39・40 Y123・124	(3.72：W-E) (3.33：N-S)	123.68	(11.94)	N-88°-E	東壁南寄 N-84°-E	H-44 W-3	◇ 小片数点	△	—	9C前か
13	X42・43 Y125・126	3.80：N-S 3.67：W-E	123.64	13.07	N-57°-E	東壁南寄 N-62°-E	H-14	○◇	◎◇△	—	7C代
14	X42・43 Y125・126	3.41：W-E 3.05：N-S	123.44	9.77	N-60°-E	東壁南寄 N-73°-E	H-13	○◇	○◇	—	6C後
15	X43 Y126	[1.85：W-E] [0.57：N-S]	123.50	[0.52]	(N-86°-E)	不明	調査区域 外に入る	—	△片少量	—	不明
16	X41・42 Y125・126	[3.25：N-S] 3.15：W-E	123.62	[7.48]	(N-99°-E)	東壁南寄 N-95°-E	調査区域 外に入る	○◇ 土錘	◎◇☆△ 灰釉陶器	鉄滓	9C末～ 10C前
17	X43・44 Y124・125	4.15：N-S [2.45：W-E]	123.28	[8.98]	(N-76°-E)	不明	調査区域 外に入る	○◇	◎ 小片少量	こも石	7C前～ 7C中
18	X43・44 Y123	3.16：W-E 2.98：N-S	123.45	8.46	N-55°-E	東壁南寄 N-60°-E	H-19・45	○◇	◎◇		9C中
19	X43・44 Y122・123	(4.12：W-E) (3.73：N-S)	123.40	(14.70)	(N-104°-E)	東壁南寄 不明	H-18・31・ 45	○◇	○◎◇△	—	10C前
20	X36～38 Y122・123	7.70：W-E 6.02：N-S	123.40	44.82	N-74°-E	北壁中央 N-8°-W	H-3・21～ 23,J-8	○◇	○◎◇△	こも石	6C後～ 7C前
21	X37・38 Y122・123	4.55：N-S 2.96：W-E	123.45	(12.85)	N-78°-E	不明	H-20・22・ 23,J-8	○◇	○◎◇☆ △灰釉	小札	9C後～ 10C前
22	X37・38 Y122・123	4.06：W-E [3.22：N-S]	123.40	[7.40]	N-78°-E	西壁南寄 N-105°-W	H-20・21	○◇	○◎◇		9C中～ 9C後
23	X38・39 Y123	3.28：W-E [2.00：N-S]	123.50	[6.00]	N-94°-E	東壁南寄 N-92°-E	H-20・21	◇	◎◇☆△	釘	10C前～ 10C中
24	X40・41 Y120・121	3.82：N-S 3.43：W-E	123.34	11.94	N-102°-E	東壁南寄 N-102°-E	H-25・30・ 50,D-3	○◇	◎◇☆△	釘	10C前～ 10C中
25	X39・40 Y121・122	3.66：N-S 2.82：W-E	123.54	9.59	N-88°-E	東壁中央 N-86°-E	H-24・26・ 27,W-3	○◇ 小片	○◎◇△ 灰釉陶器	砥石	9C後～ 10C前
26	X40・41 Y121・122	3.13：W-E [2.78：N-S]	123.30	[7.15]	N-77°-E	東壁中央 N-82°-E	H-25・27・ 38・54	○◇	◎◇△	—	8C後～ 9C前
27	X39・40 Y121・122	3.05：W-E 2.45：N-S	123.48	7.35	N-98°-E	東壁南寄 N-96°-E	H-25・26 W-3	○◇ 小量	○△ 小量	鉄製品	9C中～ 9C後

（ ）は推定値、[ ] は現存値、○…坏、◎…埦、◇…甕、☆…羽釜、△…瓦を示す。

住居番号	位置	規模 (m)	床面標高 (m)	面積 (㎡)	主軸方向	カマド 位置・方向	重複	出土遺物			時期
								土師器	須恵器	その他	
28	X41・42 Y121・122	2.97：W-E 2.78：N-S	123.70	(7.71)	N-88°-E	東壁南寄 N-88°-E	H-53・54	○◇	○◎◇△ 蓋	—	9C中～ 9C後
29	X42・43 Y121・122	3.88：W-E [2.94：N-S]	123.52	[10.52]	N-95°-E	不明	J-9	○◇ 土錘	○◎◇☆ △	釘、古銭	9C末～ 10C前
30	X41 Y121	[3.40：N-S] [0.90：W-E]	123.70	[2.89]	N-104°-E	東壁中央 N-97°-E	H-24・50	○◇ 小片少量	◎ 小片少量	—	不明
31	X43 Y121・122	3.06：N-S [2.03：W-E]	123.26	[4.83]	N-80°-E	不明	H-19・32 調査区外	○◇ 小片少量	◎ 小片少量	—	9C代か
32	X43 Y120・121	4.27：N-S [2.70：W-E]	123.34	[8.17]	N-21°-E	不明	H-31 調査区外	○◇ 小片少量	○◎◇△ 小片少量	鉄製品	不明
33	X41・42 Y119・120	3.68：N-S 3.30：W-E	123.34	11.17	N-92°-E	東壁南寄 N-94°-E	H-35・40・ 43	○◇	○◎◇☆ △、灰釉	釘	10C前～ 10C中
34	X42・43 Y119・120	4.08：N-S 3.07：W-E	123.25	11.94	N-97°-E	東壁南寄 N-101°-E	H-35・43 J-7	○◇	○◎◇△ 皿、灰釉	釘、刀子 砥石	10C中
35	X42 Y120・121	[4.26：N-S] [1.62：W-E]	123.30	[6.10]	N-95°-E	東壁中央 N-93°-E	H-33・34・ 40・43	○◇	○◎◇☆ △	鉄製品	9C中～ 9C後
36	X38・39 Y120・121	3.76：W-E (3.15：N-S)	123.52	(11.90)	N-102°-E	東壁南寄 N-104°-E 東壁中央 N-115°-E	H-37 J-8	○◇	○◎◇△ 灰釉陶器	砥石、釘	10C前
37	X39 Y120	4.23：W-E [1.80：N-S]	123.54	[5.19]	N-82°-E	東壁 N-66°-E	H-36・48 調査区外	○◇	○◎△	—	9C後
38	X39～41 Y122・123	5.72：W-E (5.44：N-S)	123.25	[22.78]	N-70°-E	東壁南寄 N-83°-E	H-39・41・51 ・54・W-3	○◇	◎◇△	こも石 鉄製品	6C後
39	X41 Y123	2.63：W-E [1.63：N-S]	123.50	[4.11]	N-89°-E	東壁中央 N-98°-E	H-38・41・ 53	○◇	○◎◇☆ △	鉄製品	10C前～ 10C中
40	X41・42 Y120・121	(3.36：W-E) (3.18：N-S)	123.36	(10.79)	N-95°-E	東壁南寄 N-95°-E	H-33・35・ 43	○◇	◎◇☆△ 灰釉陶器	鉄製品	9C後～ 10C前
41	X40・41 Y123・124	3.08：W-E 3.00：N-S	123.53	[9.11]	N-93°-E	東壁南寄 カクラン	H-38・39・ 51・52	○◇	○◎◇☆ △	—	11C代
42	X40 Y125	不明	不明	不明	不明	東壁 N-83°-E	H-7・8 W-3	○◇少量	◎◇△ 少量	—	9C中～ 9C後
43	X41・42 Y120・121	5.75：N-S 4.52：W-E	122.96	24.69	N-87°-E	東壁南寄 N-94°-E	H-33・34・ 35・40	○◇	○◎◇☆ △、蓋、皿	釘、刀子 紡錘車	9C前～ 9C中
44	X39・40 Y123・124	4.12：N-S (3.17：W-E)	123.50	(11.73)	N-99°-E	東壁中央 N-95°-E	H-12 W-3	○◇	◎◇△皿	—	9C中～ 9C後
45	X43・44 Y122・123	[2.10：W-E] [0.68：N-S]	123.52	[1.15]	N-105°-E	不明	H-18・19	小片少量	小片少量	—	10C前 以降
46	X39・40 Y124・125	4.00：N-S (3.53：W-E)	123.55	(12.75)	N-81°-E	東壁南寄 N-81°-E	W-3 カクラン	○◇	○◎◇△ 蓋	紡錘車 鉄滓	8C後～ 9C前
47	X36・37 Y121	3.53：W-E [1.43：N-S]	123.44	[3.93]	N-74°-E	西壁南寄 N-124°-W	J-8 調査区外	○◇ 小片少量	○ 小片少量	—	7C代
48	X39 Y120	[3.12：W-E] [1.63：N-S]	123.44	[2.98]	N-92°-E	東壁南寄 N-87°-E	H-37 調査区外	○◇	◎◇△	—	9C中～ 9C後
49	X42・43 Y119	2.28：W-E [0.33：N-S]	123.38	[0.81]	(N-64°-E)	不明 調査区外	J-7	—	皿	—	9C中 以降
50	X40・41 Y120・121	4.17：N-S 3.05：W-E	123.10	12.12	N-99°-E	東壁南寄 N-103°-E	H-24・25・ 30, D-3	○◇	○◎◇皿	砥石	9C中頃
51	X39・40 Y123	2.93：W-E [1.15：N-S]	123.46	[3.53]	N-98°-E	東壁南寄 N-95°-E	H-38・41 W-3	◇少量	○◎◇△ 皿，灰釉	—	9C後～ 10C前
52	X40・41 Y123・124	3.88：N-S 3.14：W-E	123.66	(11.70)	N-94°-E	東壁南寄 N-95°-E	H-10・38・ 41	○◇	◎◇△	釘、刀子	10C後～ 11C前
53	X41・42 Y122・123	3.12：N-S [2.02：W-E]	123.55	[6.52]	N-92°-E	不明	H-28・39・ 54	○◇	◎◇△	鉄製品	9C前～ 9C中
54	X41 Y122	2.67：W-E [2.00：N-S]	123.45	[4.45]	N-99°-E	不明	H-25・26・ 28・53	○◇ 小片少量	◎◇少量	刀子	9C後～ 10C前

( ) は推定値、[ ] は現存値、○…坏、◎…埦、◇…甕、☆…羽釜、△…瓦を示す。



第5図　時期別の竪穴住居跡配置図

第７表　出土遺物観察表（縄文時代）

法量は①口径②底径③胴部最大径④器高を表し、単位はcmである。また（　）は推定値、［　］は現存値を表す。

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、文様構成、文様施文	備　考
J－1－1 炉跡	J－1炉No.7	深鉢	①(19.5) ④[19.2]	①中粒(白色鉱物・雲母含む) ②良好 ③橙5YR6/6 ④底部欠損	口縁部は内湾し胴部中程が括れる器形で、口唇上に小突起痕を有し、口唇下に一条の沈線をめぐらす。文様帯は、胴部上半を波状の沈線、下半を∩字状沈線の区画懸垂文で構成して、入り組み状に連結している。一部∩字状の代わりに蕨手状。文様の単位は７単位。波状区画文内と胴部下半の無文帯には蕨手状の沈線を施す。縄文 RL を口唇下は横方向に、以下を縦方向に施す。	底部を欠き、炉体土器として使用。
J－1－2 埋甕	J－1No.108	深鉢	②7.0 ④[28.0]	①中粒②良好 ③橙5YR6/6 ④口縁部欠損	形状は胴部下半でやや膨らみをもつ。胴部は無文懸垂帯を垂下させ、縄文帯や無文帯に蕨手状沈線等を相対するように施す。縄文は、上半では LRL、下半では RLR を施し羽状を構成する。	口縁部を欠き、埋甕として使用。
J－1－3 床付近 床直	J－1No.1・14・36・37・72 D-16一括	深鉢	①(26.4) ④[26.2]	①中粒(白色鉱物・雲母含む)②良好③橙5YR6/6④底部欠損	口縁部が内湾し胴部中程が括れる器形を呈す。平口縁。口縁部から沈線による∩字状の区画文を垂下させ、その間に蕨手状の沈線を施す。縄文は LR。	
J－1－4 覆土 床付近	J－1No.52・65・一括, D-16一括	深鉢	①(22.4) ④[12.3]	①中粒②良好 ③橙7.5YR6/6 ④口縁～胴部片	口縁部は平口縁で直立ぎみに立ち上がる。文様は、沈線による楕円状の区画文を口縁部に施し、区画文下の胴部には∩字状の沈線を施す。区画文間を磨り消すところもある。地文に縄文 RL。	
J－1－5 床付近 床直	J－1No.7・一括, J－2一括	有孔鍔付土器	①(25.0) ④[5.5]	①粗粒②良好 ③明褐7.5YR5/6 ④口縁～胴部片	口唇下に２～３条の刺突文を施文後、3.5cm間隔で穿孔を施す(全体では24個が想定される)。胴部には平行沈線で渦巻文を施し、沈線内に１～２条の刺突文を配す。	遺構間接合。
J－1－6 床付近 床直	J－1No.2・5・20・21・28	深鉢	①(48.6) ④[19.5]	①中粒 ②良好 ③明赤褐5YR5/8 ④口縁～胴部上位片	口縁は舌状突起を４個付け、内側には渦巻文を配す。口縁部の文様は、突起下の渦巻文と楕円状区画文を隆帯で構成し、頸部には隆帯と沈線を一条めぐらせ文様帯を区画する。胴部は∩字状区画の懸垂文と沈線文を垂下させる。縄文は LR。	補修孔あり。
J－1－7 炉跡	J－1炉No.4・5・10・11・12	深鉢	①(49.8) ④[13.8]	①中粒(白色鉱物・雲母含む) ②良好 ③明黄褐10YR7/6 ④口縁～胴部上位片	口縁は舌状突起を４個付け、内側には渦巻文を配す。文様は、突起下の渦巻文と楕円状区画文を入り組み状に連結して構成し、頸部は隆帯と沈線を一条めぐらせ文様帯を区画する。胴部は、角張った∩字状区画の縄文懸垂文を垂下させ、無文帯には蕨手状沈線を垂下させる。縄文 LR を充填。	底部を欠き、炉体土器として使用。 補修孔あり。
J－1－8 床付近 床直	J－1No.15・30・32・33・48・49・50・66・67・68・70・71・74・76	深鉢	①39.0 ②8.0 ④56.1	①中粒 ②良好 ③明褐7.5YR5/6 ④口縁一部欠損	キャリパー形を呈し、胴部下半にやや膨らみをもつ。平口縁。口縁部は低い隆帯による楕円状区画文と渦巻文を６単位配して構成され、胴部は３本１組の沈線を渦巻文下から垂下させる。地文は、口縁部から胴部上半は縄文 LR を施し、胴部下半は櫛歯状工具による条線文を施す。	
J－1－9 床付近 床直	J－1No.18・19・29・73	深鉢	①(49.3) ④[42.7]	①中粒(雲母含む) ②良好 ③橙7.5YR6/8 ④口縁～底部片	口縁は舌状突起を４個付けるものであろう。突起の内側には渦巻文を配す。口縁部は隆帯による渦巻文と楕円状区画文で構成し、若干の無文部をおいて沈線を一条めぐらせ文様帯を区画している。胴部は、上半の波状文と字状区画文を入り組み状に連結する。波状文内にはＳ字状沈線を付し、∩字状区画と無文部には蕨手状沈線を垂下させる。縄文充填。	
J－1－10 覆土	J－1No.34	深鉢	④[2.0]	①中粒②良好③浅黄橙10YR8/4④突起部	ラッパ状に開き先端中央部はくぼむ。	
J－1－11 覆土	J－1一括	深鉢	④[3.8]	①中粒②良好③浅黄橙7.5YR8/4④突起部	先端中央部がくぼむ。	
J－1－12 覆土	J－1一括	浅鉢か	④[3.3]	①細粒②良好③にぶい黄褐10YR5/3④破片	器面は丁寧に研磨され、沈線を弧状に施す。	赤彩土器。
J－1－13 覆土	J－1一括	石皿	長さ［8.8］cm　幅［9.9］cm　厚さ3.4cm　重さ240ｇ		石材：安山岩　１/２残	特殊な用途に使用か。
J－1－14 覆土	J－1No.90	多孔石	長さ［24.7］cm　幅19.5cm　厚さ13.0cm　重さ5,100ｇ		石材：安山岩　１/２残	
J－2－1 炉跡	J－2炉No.1	深鉢	④[20.6] 頸部径18.5cm	①中粒 ②良好 ③橙5YR6/6 ④3/4底部欠損	口縁部は直線的に開き、頸部で屈曲して、胴部は球形状を呈する。頸部は３条の平行沈線により区画され、口縁部は無文。胴部上位は３本１組の沈線を連弧文状に７単位めぐらせ、余り部分は弧状沈線を途中で止める。連弧文最下部には円文状沈線を配し、３本１組の沈線を垂下させる。地文には櫛歯状工具による条線文を施し、撚糸文も一部に配す。	底部を欠き、炉体土器として使用。
J－2－2 床付近	J－2No.35	鉢	①(40.4) ④[15.7]	①中粒②良好 ③黄灰2.5YR4/1 ④口縁～胴部上位片	口縁部は「く」字状に外反する。文様は、口縁部は無文で、胴部は隆帯による渦巻文と楕円状区画文で構成される。区画内には縦位の短い平行沈線を２段に充填する。	
J－2－3 覆土 床付近	J－2No.10・75・一括	深鉢	①(33.8) ④[22.7]	①中粒②良好 ③明黄褐10YR7/6 ④口縁～胴部片	平口縁。口縁部は、隆帯による楕円状区画文と渦巻文を連結して交互入り組み状に構成される。頸部には隆帯をめぐらせ文様帯を明確に区画している。胴部は幅の狭い無文懸垂文を垂下させる。縄文を施文。	
J－2－4 覆土 床付近	J－2No.32・34・36・一括	浅鉢	④[24.2]	①中粒②良好③にぶい黄橙10YR7/4 ④口縁～胴部下位片	口縁部は、隆帯による渦巻文と楕円状区画文で構成され、区画内には縦位の短い平行沈線を２段に充填する。胴部上位から中位には縄文 RL が施文されるが下位は無文。	
J－2－5 覆土	J－2一括	深鉢	②2.7	①中粒(白色粒含む) ②良好③黄橙10YR8/6④底部片	底部は若干突出する。	
J－2－6 覆土	J－2 No.11・82	深鉢	②(7.2)	①粗粒②良好 ③橙7.5YR7/6 ④胴～底部片	無文懸垂帯を垂下する。区画内に縄文。	
J－2－7 覆土	J－2 No.30・一括	深鉢	②7.1	①中粒②良好③橙2.5YR7/6④底部片	底部から斜方向に立ち上がる。	
J－2－8 覆土	J－2一括	土製円盤	径5.5cm 厚1.3cm	①中粒②良好 ③橙5YR6/6④完形	地文に条線を施した後、沈線を施文。	

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、文様構成、文様施文	備　考
J－2－9 覆土	J－2一括	土製円盤	径4.1cm 厚1.5cm	①中粒②良好③にぶい橙5YR6/3④完形	地文に縄文を施した後、沈線を縦位に2条施文。	
J－2－10 覆土	J－2一括 W－2一括	深鉢	②14.8 ④[3.2]	①細粒(黒色鉱物含む)②良好③にぶい赤褐2.5YR5/4④底部片	底面は大型で偏平。底部直上に円形状の透かしを6単位設け、内面は良く磨かれている。	
J－2－11 覆土	J－2 No.58	石鏃	凹基無茎鏃　長さ1.8cm　幅1.6cm　厚さ0.4cm　重さ0.84g　石材：黒曜石　完形			
J－2－12 覆土	J－2 No.92	打製石斧	短冊形　長さ13.7cm　幅5.2cm　厚さ2.3cm　重さ180g　石材：安山岩　完形			自然面あり。
J－2－13 床付近	J－2 No.91	凹石	長さ12.2cm　幅8.5cm　厚さ5.1cm　重さ700g　石材：安山岩　完形			両面に使用痕。
J－4－1 覆土	J－4一括	深鉢	④[8.8]	①中粒 ②良好 ③褐7.5YR4/6 ④口縁～胴部片	口縁～頸部に左上～右下に向かって半截竹管による斜方向の平行沈線、次に右上～左下方向に同様の沈線を引き、小さな格子目を作る。格子目の間に縦2条、頸部にも2条の平行沈線を引く。頸～胴上半部は地文に縄文施文後、半截竹管で区画する。胴上位にも横方向の沈線あり。	
J－4－2 覆土	J－4一括	深鉢	④[5.9]	①細粒②良好 ③橙7.5YR6/6 ④口縁部片	口唇部凹凸文、その下に平行沈線文、三角形の無文部、その下は平行沈線。内側に折り込んだ所に耳朶状の張付け。その先端部に竹管により刻み目を付ける。その下に三角形の無文帯を作る。	
J－4－3 床直	J－4 No.15	深鉢	④[11.5]	①細粒②極良 ③明赤褐2.5YR5/8 ④胴部片	胴下半部から口縁部方向に向かって矢羽根状に交互に半截竹管によって施文。	
J－4－4 覆土	J－4一括	深鉢	④[6.1]	①中粒②良好③暗褐10YR3/3④胴部片	縦位・斜位の平行沈線施文後、直径5～7㎜のボタン文に竹管による刺突。	
J－4－5 埋甕	J－4 No.41	深鉢	④[19.1]	①粗粒②不良③にぶい黄橙10YR7/4 ④胴部中位～底部	底部から胴部中位にむかって直線的に開く。輪積痕を残す。外面の所々に篦撫でが見られ、縦方向に不規則な沈線あり。内面は荒い撫で。内面下部炭化物付着。	口縁部を欠き、埋甕として使用。
J－4－6 覆土	J－4一括	深鉢	④[7.9]	①細粒②良好③明赤褐5YR5/6④胴部片	縦位の沈線で区画し、その間に斜位沈線を充填し、棒状とボタン文(直径1～1.2cm)施文。	
J－4－7 炉跡	J－4 No.21	深鉢	④[5.0]	①粗粒②良好 ③にぶい赤褐5YR5/4④口縁部片	平行沈線施文後、棒状(幅12㎜)、板状(幅17㎜)、ボタン文(直径13㎜)等を貼付。	
J－4－8 覆土	J－4 No.35	深鉢	④[6.5]	①粗粒②良好 ③黄橙10YR8/6 ④口縁部片	横方向に半截竹管による平行沈線施文後、口唇部に直径13㎜のボタン文を貼付け、口唇上面の2個に竹管を刺突した後、耳朶状の粘土を貼り付ける。	
J－4－9 覆土	J－4 No.7・一括	深鉢	④[4.3]	①中粒②良好 ③褐10YR4/4 ④口縁部片	波状口縁。口縁から5.5cm内に半截竹管により横位の平行沈線、その下位には斜位の沈線施文後、口唇部に凹凸文施文。次に棒状貼付け、更にボタン文の施文。ボタン文には円形刺突を施文。	
J－4－11 炉跡	J－4 No.18	深鉢	④[6.2]	①中粒②良好 ③にぶい赤褐5YR5/4④頸～胴部片	口縁に近い部分は斜位の平行沈線、張り出し部分からは横位沈線施文後、棒状及びボタン文(直径12㎜)を貼付け。内側は雑な撫で。	
J－4－13 覆土	J－4 No.26	深鉢	④[6.5]	①中粒②良好③明黄褐10YR7/6④胴部片	半截竹管による横位平行沈線の上に楕円状の貼付け。内面撫で。	
J－4－14 覆土	J－4一括	深鉢	④[7.0]	①中粒②良好③灰黄褐10YR4/2④胴部片	縦位沈線で区画、その間に斜位沈線を充填後やや短めの棒状貼り付け文(幅1.2～1.6cm)を施文。胴中位の括れ部。	
J－4－15 覆土	J－4一括	深鉢	④[2.7]	①細粒②極良③褐灰10YR4/1④口縁部片	口縁～頸部にかけて矢羽根状平行沈線施文。	
J－4－18 覆土	J－4一括	深鉢	④[6.7]	①中粒②良好 ③にぶい赤褐5YR4/3④胴部片	口縁部に横位に3条の浮線文を施文。3条目の浮線から渦巻状を呈する浮線が始まっている。	
J－4－19 床直	J－4 No.22	深鉢	④[3.6]	①中粒②良好 ③にぶい黄褐10YR5/3 ④胴～底部片	胴部下位から底部まで施文されている。まず縦位の半截竹管による3本の浮線文、その両端に僅かな無文帯があり、その左外側は弧状に4本、無文帯にボタン文(直径5㎜)、その外側に2本の浮線文、三日月状の無文帯があり、また弧状の浮線文が3本続く。右側は8本の弧状沈線を施文。	内面炭化物付着。
J－4－21 覆土	J－4一括	深鉢	④[9.0]	①中粒②良好③にぶい赤褐5YR5/4④胴部片	地文に平行沈線施文。その上に渦巻状の浮線文を施文したが剝がれて部分的にしか残っていない。下部は輪積痕を良く残す。	内面炭化物付着。
J－4－22 覆土	J－4 No.8・一括	深鉢	④[10.5]	①中粒②良好③黒褐7.5YR3/2④胴部片	地文は平行沈線。浮線の上に半截竹管で山形に施文。	
J－4－25 覆土	J－4 No.3	深鉢	④[6.0]	①中粒②良好③明黄褐10YR7/6④口縁部片	隆帯と幅広沈線で楕円状区画を構成し、円形刺突文を充填する。	
J－4－26 床直	J－4 No.24	棒状石器	長さ［9.9］cm　幅3.8cm　厚さ［1.9］cm　重さ［105］g　石材：結晶片岩　一部残			先が丸く細い。
J－4－27 床直	J－4 No.34	磨石	長さ9.9cm　幅9.6cm　厚さ5.2cm　重さ725g　石材：安山岩　完形　使用面が黒ずんでいる。			わずかに敲打痕あり。
J－4－28 覆土	J－4 No.2	石鏃	凹基無茎鏃　長さ2.6cm　幅1.6cm　厚さ0.3cm　重さ1.27g　石材：チャート　基部の一部欠損			
J－7－1 炉跡	J－7炉No.1	深鉢	④[10.0] 胴部径 16.4cm	①中粒②良好 ③橙2.5YR6/8 ④胴部片	胴部はやや膨らみをもつ。磨消し懸垂帯と縄文帯を交互に7単位垂下させる。縄文施文。	口縁・底部を欠き、炉体土器として使用。
J－7－2 床付近	J－7 No.1	深鉢	④[4.9]	①中粒②不良③橙2.5YR7/8④破片	楕円状区画内に縦位の短沈線を施す。地文に縄文。	
J－7－3 床付近	J－7 No.2	深鉢	④[6.0]	①中粒②良好③橙2.5YR7/6④破片	2条の沈線を垂下し無文帯を配す。縄文施文。	

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、文様構成、文様施文	備　考
J－7－4 床付近	J－7 No.4	深鉢	④[5.2]	①中粒②良好③橙 2.5YR6/6④口縁部片	口縁部は内湾し、隆帯をめぐらし区画する。縄文を充填。	
J－7－5 覆土	J－7一括	深鉢	④[4.0]	①中粒②良好③橙5 YR7/6④口縁部片	隆帯による渦巻文と楕円状区画文で構成され、区画内には縦位の短沈線を充填する。	
J－7－6 覆土	J－7一括	深鉢	④[4.5]	①中粒②良好③灰褐 5YR4/2④破片	隆帯による渦巻文と楕円状区画文で構成され、区画内に縄文を施す。	
J－7－7 覆土	J－7一括	深鉢	④[3.8]	①中粒②良好 ③にぶい橙5YR7/4 ④口縁部片	口縁部は内湾し、沈線で区画する。区画内に縄文。	
J－7－8 炉跡	J－7炉No.2	凹石か	長さ13.5cm　幅7.5cm　厚さ7.1cm　重さ500g　石材：安山岩　破片か			部分的に焼けている。
J－8－1 覆土	J－8一括	深鉢	④[7.0]	①中粒②良好 ③にぶい赤褐5YR 5/4④口縁部片	口縁部は雑な横位沈線。その下に縦位の沈線(幅4㎜)。	
J－8－2 覆土	J－8 No.1	深鉢	④[6.5]	①中粒②良好 ③明赤褐5YR5/6 ④底部片	胴部下半より底部がやや膨らむ。斜位の沈線施文後、縦位の沈線を施しボタン文(直径8～12㎜)を施文。	
J－8－3 覆土	J－8一括	深鉢	④[4.0]	①中粒②良好 ③にぶい黄褐10YR 6/3④口縁部片	内傾する口唇部から口縁部に矢羽根状の沈線、その下に横位沈線施文後、二重の耳朶状の貼付けした間に3個ずつ3列のボタン文(直径7～9㎜)を貼付け。	
J－8－4 埋甕	J－8 No.7	深鉢	④[13.0]	①細粒②良好 ③橙7.5YR7/6 ④胴部のみ	口唇部は不明。胴上半部から口縁にかけて3段の矢羽根沈線施文。胴部の括れには、横方向の平行沈線(幅3㎜)が3～4回に分けて施文。胴部括れの下位に矢羽根状の沈線を施文。内面に煤付着。	口縁部と底部を欠き、埋甕として使用。
J－8－5 覆土	J－8 No.2・一括	深鉢	④[8.0]	①細粒 ②良好 ③灰黄褐10YR5/2 ④口縁部片	口縁部は半截竹管(幅4㎜)により約5㎝の間に17本の沈線、胴部は斜位の沈線(幅3～3.5㎜)施文。口唇部には矢羽根状の施文後、大小の耳朶状の貼付け。その間に2個ずつのボタン文。そのボタン文には半截竹管で刺突が施されている。内面は丁寧な撫で。	
J－8－6 覆土	J－8一括	深鉢	④[4.9]	①中粒②良好 ③黒7.5YR2/1 ④口縁部片	口唇部は矢羽根状沈線、口縁外面は横位沈線。口唇部にボタン文(直径10㎜)、中央に刺突。肩部に10個のボタン文(直径3～5㎜)。その下に2個の棒状貼付文。内面は丁寧な撫で。	
J－8－7 床付近	J－8 No.3	深鉢	④[5.0]	①中粒②良好 ③にぶい赤褐5YR 5/4④底部片	縦位・斜位沈線が底部まで施文されている。1/3位の位置に目玉状ボタン文(直径10～12㎜)の中央に竹管の刺突を2個ずつ貼付け、他に直径7㎜のボタン文1個が貼付けられている。	内面炭化物付着。
J－8－8 覆土	J－8一括	深鉢	④[3.0]	①細粒②良好 ③浅黄橙7.5YR8/4 ④口縁部片	口縁部に矢羽根状の沈線施文後、細い棒状貼付(長さ4.6～6㎜)。その間にボタン文(直径7㎜)を2個施文。	
J－8－9 覆土	J－8一括	深鉢	④[3.0]	①細粒②良好 ③橙5YR6/6 ④口縁部片	口縁部に矢羽根状沈線施文後、耳朶状貼付(長さ50㎜、幅10㎜、高さ13㎜)、ボタン文(直径7㎜)2個を貼付け。	
J－8－10 覆土	J－8一括	深鉢	④[3.5]	①細粒②良好 ③灰黄褐10YR6/2 ④口縁部片	口縁部外面は矢羽根状沈線文。屈曲した口唇部は棒状貼付(長さ27㎜、幅8㎜)。両端にボタン文(直径8㎜)が付く。	
J－8－11 覆土	J－8一括	深鉢	④[3.7]	①中粒②良好③にぶい赤褐2.5YR4/4 ④口縁部片	口縁部は矢羽根状沈線、頸部は横位沈線。50×15㎜の棒状貼付文。口唇部に3条の結節浮線文、その下に棒状貼付文(25×8㎜)。その間にボタン文(直径8㎜)を2個ずつ貼付。	
J－8－12 覆土	J－8一括	深鉢	④[8.7]	①粗粒②良好 ③にぶい黄褐10YR 4/3④破片	胴部に雑な平行沈線(幅5.5～7㎜)施文後、棒状貼付け文(長さ7.5㎜以上、幅6～9㎜)。内面は雑な撫で。	
J－8－13 覆土	J－8一括	深鉢	④[4.4]	①粗粒②良好 ③橙5YR6/6 ④口縁部片	幅5㎜の沈線施文後板状粘土(幅30㎜)で口唇部を巻き込む。外面橙色塗彩。	
J－8－14 覆土	J－8一括	深鉢	④[2.5]	①中粒②良好③にぶい赤褐2.5YR4/3 ④口縁部片	口唇部は矢羽根状沈線、その下に横位沈線を施文。板状(長さ42㎜、幅13㎜、高さ3㎜)と耳朶状(長さ66㎜、幅15㎜、高さ15㎜)を貼付け。	
J－8－15 覆土	J－8一括	深鉢	④[2.3]	①中粒②良好 ③赤褐2.5YR4/8 ④口縁部片	口唇部に矢羽根状沈線、その下位には横位沈線を施文。屈曲する口唇に板状粘土(長さ40㎜、幅12㎜、高さ2～4㎜)を0～2㎜の間隔で4枚貼付け。	
J－8－16 覆土	J－8一括	深鉢	④[4.0]	①中粒②良好 ③黒褐10YR3/1 ④口縁部片	「く」字状に屈曲する口縁部は斜位沈線施文後、長さ42㎜、幅13㎜の棒状貼付けの剝がれ痕あり。	
J－8－17 覆土	J－8一括	深鉢	④[6.0]	①細粒②良好 ③にぶい黄橙10YR 6/4④口縁部片	口縁部は外反しながら直線的に立つ。口唇部に竹管による凹凸文、縦位沈線で区画し、棒状貼付けを2本(長さ55㎜、幅7㎜、高さ10㎜)。区画内に矢羽根状沈線を施す。	
J－8－18 覆土	J－8一括	深鉢	④[3.5]	①細粒②良好 ③浅黄橙10YR8/4 ④口縁部片	波状口縁の突起部。口縁の稜線にそって貝殻腹縁による波状貝殻文を施文後、竹管の背で「人」字状に沈線を2本施文。	
J－8－19 覆土	J－8 No.5	石皿	長さ[13.2]cm　幅[14.9]cm　厚さ[4.5]cm　重さ[840]g　石材：安山岩　1/2残			
J－8－20 焼土内	J－8 No.4	多孔石	長さ14.5cm　幅11.0cm　厚さ7.5cm　重さ1,080g　石材：安山岩　一部欠損			
J－9－1 覆土	J－9一括	深鉢	④[3.5]	①中粒②良好③にぶい 黄橙10YR6/4④破片	横位の平行沈線、その下方に左から右下方向に斜位沈線施文後右上から左下方向に斜位沈線(幅4㎜)。	
J－9－2 覆土	J－9一括	深鉢	④[4.3]	①中粒②良好 ③にぶい褐7.5YR 5/3④口縁部片	口縁部は横位沈線、胴部は斜位沈線。口唇から12㎜に2列、直径7㎜のボタン文を10個が2列に並ぶ。ボタン文の中央に刺突、同じ位置の内側にも10個の突出が見られる。	

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、文様構成、文様施文	備　考
J-9-3 覆土	J-9一括	深鉢	④[8.0]	①中粒②良好③赤褐5YR4/8④口縁部片	口～胴部にかけて横位の沈線と口縁部に厚みをもったボタン文(直径10㎜)2個を縦に並べる。	
J-9-4 覆土	J-9No.26	深鉢	④[5.5]	①中粒②良好③橙5YR6/8④口縁部片	口唇部内側は斜位沈線、外面横位沈線を施文後、耳朶状・棒状貼付後、ボタン文(直径12～14㎜)を施文。	
J-9-5 床付近	J-9 No.25・一括	深鉢	④[4.4]	①細粒②良好 ③にぶい褐7.5YR5/3 ④口縁部片	内傾する口唇部には矢羽根状の施文。口縁部は横位沈線。口唇部はやや大きめの貼付け文の間に小さな3個の貼付けがされ、その貼付文の間に2個ずつのボタン文(口唇部と口縁外面各1個)が施文。内面丁寧な撫で。	炭化物付着。
J-9-6 覆土	J-9No.2・3・4・5・6・8・22	深鉢	④[16.8]	①中粒②良好③橙7.5YR6/8④胴部片	篦状工具による撫でを縦方向に施す。	
J-9-7 覆土	J-9一括	深鉢	④[4.6]	①粗粒②良好 ③にぶい褐7.5YR5/4④把手	矢羽根状の施文面が2面あり、この面には直径4～7㎜のボタン文を施文。他の1面には雑な平行沈線文、その反対面は無文で雑な撫で。	
J-9-8 覆土	J-9一括	深鉢	④[8.5]	①中粒②良好③にぶい橙7.5YR6/4 ④胴部片	縦位沈線で区画され、弧状沈線を充填して直径3～4㎜の小ボタン文を貼付後結節浮線文を施文。	
J-9-9 覆土	J-9 No.12・一括	深鉢	④[7.8]	①細粒②良好 ③にぶい橙5YR6/3 ④口縁～胴部片	口唇に凹凸文を施文後口縁部は横位沈線を施文。頸～胴部は斜位沈線。肩部に直径12㎜のボタン文、中央に刺突あり。内面は雑な撫で。	
J-9-10 覆土	J-9No.24	鉢	④[5.1]	①細粒②良好 ③明黄褐10YR7/6 ④口縁部片	地文に縄文を施文後、口唇部に凹凸文施文。内面撫で。	
J-9-11 覆土	J-9一括	深鉢	④[4.5]	①細粒②良好③黒褐7.5YR3/1④胴部片	平行沈線内に6本の櫛状工具により施文、この刺突文は僅か弧状を呈す。	
J-9-12 覆土	J-9No.1・17・一括	深鉢	④[10.7]	①中粒②良好 ③にぶい褐7.5YR5/4④口縁部片	口縁部は波状を呈する。文様は沈線による波状文を施し、その下部に字状区画を入り組み状に配するものであろう。地文に縄文。	
J-9-13 覆土	J-9No.9	深鉢	④[8.8]	①中粒(白色粒含む) ②良好③橙7.5YR6/6④口縁部片	微隆帯と太い沈線で表現され、渦巻文が区画文化し、楕円状区画文と一体化する。区画内には縄文を充填。	J-9-14と同一個体。口縁部。
J-9-14 床直	J-9No.28	深鉢	④[18.5]	①中粒(白色粒含む) ②良好③橙7.5YR6/6④胴部片	無文懸垂帯を垂下し、区画間には縄文を施すが、下位は磨り消される。	J-9-13と同一個体。胴部。
J-10-1 埋甕	J-10 No.35・一括	深鉢	④[17.0]	①中粒②不良 ③褐灰10YR4/1 ④胴部片	胴下半部に膨らみをもつ。縄文施文。	埋甕外側。
J-10-2 床直	J-10No.29	深鉢	④[14.0]	①粗粒②良好 ③暗赤褐5YR3/4 ④1/4口縁～胴部	地文に縄文施文。口唇に半截竹管による平行沈線10本、次に6本の沈線、胴部括れ部に8～10本の沈線が見られる。	
J-10-3 床直	J-10 No.11・12・24	深鉢	②(25.6) ④[12.2]	①中粒②良好 ③暗赤褐5YR3/4 ④胴部下位～底部	地文に縄文施文。胴下半部に16本の沈線を施文し、その下を1～1.5cmあけ、底部方向に向かって半截竹管による20本程度の横位沈線を施文。底部は内外面とも良く撫でられている。	
J-10-4 覆土 床付近	J-10No.14, H-42一括	深鉢	④[8.6]	①細粒②良好 ③にぶい赤褐5YR4/4④1/4胴部	口縁部付近は平行沈線、胴括れ部には矢羽根状沈線、その下側に横位の沈線施文。地文に縄文施文。	
J-10-5 埋甕	J-10 No.37	深鉢	②10.6 ④[12.5]	①細粒②良好 ③暗赤10YR3/4 ④胴～底部	地文に縄文施文。胴下半部から底部方向に幅3～3.5㎜の半截竹管による平行沈線を施文。平底。	口縁部を欠き、埋甕として使用。
J-10-6 床付近	J-10 No.19・25	深鉢	①(15.0) ④[14.2]	①中粒②極良 ③にぶい黄褐10YR5/3④1/2口縁～胴部	口縁部は棒状粘土の貼付け後、幅5㎜の半截竹管で雑な平行沈線を施文。胴部は縦位・斜位沈線で4単位に区画し、その中に弧状沈線を施文、胴中位に横位の沈線で上下に区分する。地文に縄文。	
J-10-7 床付近	J-10 No.17・18	深鉢	①(19.4) ④[10.8]	①細粒②良好③にぶい赤褐2.5YR4/4 ④口縁～胴部片	外面全体に縄文施文後、口唇部は幅6㎜の半截竹管による横位の平行沈線を施文。棒状粘土の貼付け痕あり。胴部は縦位と斜位の沈線を施す。その区画内に木葉状の弧線を施文。10-2の小型。	
J-10-8 埋甕	J-10No.36	深鉢	①(24.0) ④[16.0]	①僅か粗粒②良好 ③にぶい赤褐2.5YR4/4④底部欠損	口縁部は幅4㎜の半截竹管による横位の平行沈線を施し、胴部の縦位の沈線の上に耳朶状粘土の貼付あり(4単位と考えられる)。胴部は縦位の沈線で4分割し、その中に木葉状の弧線を施し、胴中位の木葉状沈線の先端部に横位の沈線を施す。	底部を欠き、埋甕として使用。内側。
J-10-9 床付近 床直	J-10No.1・3・6・8・9	有孔浅鉢	①19.0 ④10.0 最大径 34.2cm	①細粒 ②極良 ③黄褐10YR5/6 ④ほぼ完形	内外面とも良く磨かれている。口唇直下に直径8㎜の孔が9ヵ所穿たれている(10ヵ所が想定できる)。鍔状に張り出した胴部の下側に2段6ヵ所の突起あり(8ヵ所が想定できる)。	突起部付近に朱の塗布あり。
J-10-10 覆土 床付近	J-10No.26, H-42一括	深鉢 (小型)	④[8.0]	①細粒②極良 ③黒10YR1.7/1 ④1/8胴部下位	胴中位に縦位と斜位の平行沈線で区画し、その区画内に弧状沈線を施文。地文に縄文施文。	
J-10-11 床付近	J-10 No.7・15	深鉢 (小型)	②7.2 ④[5.2]	①僅か粗粒②良好 ③暗褐10YR3/3 ④底部	小型の深鉢の底部付近で、僅か縄文が見られる。	
J-10-12 覆土 床直	J-10No.10・20・一括	深鉢 (小型)	④[7.5]	①中粒②良好③にぶい赤褐5YR4/3 ④1/4胴部下位	底部付近縦位の平行沈線で区画し、弧状沈線を充填。下部に横位の平行沈線幅2.5～3㎜を複数施文。	
J-10-13 覆土	J-10一括	深鉢	④[2.4]	①細粒②良好③にぶい褐7.5YR5/4④把手	3面に沈線施文(幅3.5㎜)。	
J-10-14 覆土	J-10一括	深鉢	④[4.3]	①中粒②良好③橙7.5YR6/6④把手	両面は半截竹管による平行沈線の間に縄文施文。背の部分は矢羽根状の沈線。	

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、文様構成、文様施文	備　考
J-10-15 覆土	J-10一括	深鉢	④[7.5]	①細粒②良好 ③にぶい橙5YR7/4 ④胴部片	6～10㎜おきに幅2㎜の半截竹管による平行沈線施文後、幅2㎜の細紐を2列と3列に貼付け、3～4㎜ごとに半截竹管で施文。	
J-10-16 覆土	J-10一括	深鉢	①(18.6) ④[5.5]	①細粒②良好 ③灰黄褐10YR4/2 ④1/6口縁～頸部	地文に縄文施文。口唇部は篦で切り取り、山形に残す。頸部から胴括れ部に幅2.5㎜の平行沈線。括れ部に直径3～3.5㎜の円形刺突文が2列あり。	
J-10-17 P10	J-10P10 No.1	磨石	長さ［12.1］cm　幅8.9cm　厚さ4.8cm　重さ［845］g　石材：安山岩　一部欠損			3面の使用痕明瞭。
J-10-18 床直	J-10No.39	多孔石か	長さ15.4cm　幅12.6cm　厚さ11.0cm　重さ1570g　石材：安山岩　破片か			
J-10-19 覆土	J-10一括	石鏃	凹基無茎鏃　長さ2.3cm　幅1.8cm　厚さ0.5cm　重さ1.08g　石材：黒曜石　完形			
J-10-20 床直	J-10No.31	石鏃	凹基無茎鏃　長さ1.8cm　幅［1.5］cm　厚さ0.3cm　重さ0.42g　石材：黒曜石　ほぼ完形			
J-10-21 覆土	J-10一括	石錐	長さ3.5cm　幅2.2cm　厚さ0.8cm　重さ2.46g　石材：黒曜石　完形			
J-10-22 床直	J-10No.32	石錐	長さ2.8cm　幅1.9cm　厚さ0.3cm　重さ1.13g　石材：黒曜石　完形			
D-14-1 覆土	D-14一括	深鉢	④[6.8]	①中粒②良好 ③にぶい橙5YR7/4 ④破片	無文懸垂帯を垂下させ、間に矢羽根状の沈線を配する。	
D-15-1 覆土	D-15No.1	浅鉢	④[12.5]	①中粒(白色粒含む) ②良好③橙7.5YR 6/6④口縁～胴部片	口縁は微隆帯による渦巻文と楕円状区画文で構成され、区画内には縄文を充填する。胴部には条線文を施す。	
遺構外35	W-1一括	深鉢	④[6.9]	①中粒②良好 ③橙2.5YR6/8 ④口縁部片	口唇上につく舌状の突起。縦長楕円状隆帯を配し、帯上と突起のふちにキャタピラ文を施す。内側はふちに沿って隆線を配し、その両側には半截竹管による刺突文・平行沈線文を施す。	W-1-3と同一個体。
遺構外 36	W-1一括	深鉢	④[4.3]	①中粒②良好 ③橙2.5YR6/8 ④破片	「く」字状に屈曲する隆帯の両側に半截竹管による刺突文・平行沈線文を施す。	W-1-2と同一個体。
遺構外 37	W-1一括	深鉢	④[3.4]	①中粒②良好 ③浅黄橙7.5YR8/3 ④口縁部片	平口縁。文様は、篦状工具による凹凸文を施文。	
遺構外 38	W-2一括	深鉢	④[5.5]	①中粒②良好 ③にぶい黄褐10YR 5/3④口縁片	2条の沈線を垂下した後、口唇下に横位沈線を2条めぐらし沈線間に円形刺突文を充填。地文に縄文。	
遺構外 39	X37，Y124 グリッド一括	深鉢	④[5.5]	①中粒②良好 ③橙5YR7/6 ④口縁部片	1条の横位沈線で上下に分け、上位に波状沈線、下位に縄文を施す。	
遺構外 40	X39，Y124 グリッド一括	浅鉢か	④[5.5]	①中粒②良好 ③橙7.5YR7/6 ④口縁部片	口縁は内湾して内側に段を有する。文様は、口唇下に2条の沈線をめぐらし、沈線間に交互刺突文を施す。下位に縄文。	
遺構外 41	X38，Y124 グリッド一括	深鉢	④[12.5]	①中粒②良好③にぶい黄橙10YR6/4 ④口縁～胴部片	口縁部は微隆帯と太い沈線で表現され、渦巻文を施す。胴部は無文懸垂帯を垂下し、その間に縄文を充填して蕨手状沈線を施す。	
遺構外 42	X37，Y123 グリッド一括	深鉢	④[4.8]	①中粒(雲母含む) ②良好 ③淡橙5YR8/4 ④口縁部片	口唇下に1条の沈線をめぐらし、沈線を矢羽根状に施す。	
遺構外 43	X39，Y124 グリッド一括	深鉢	④[7.5]	①中粒②不良 ③橙7.5YR7/6 ④破片	沈線による平行の懸垂帯を施す。地文に縄文。	
遺構外 44	X38，Y123 グリッド一括	深鉢	④[6.8]	①粗粒(白色鉱物含む)②不良③黄橙7.5 YR8/8④破片	2本の隆帯により渦巻文を施し、空白部に棒状工具による沈線を放射状に充填する。	
遺構外 45	X38，Y124 グリッド一括	深鉢	④[5.7]	①中粒②良好 ③橙7.5YR6/6 ④口縁部片	隆帯と沈線により渦巻文と楕円状の区画文を構成するものであろう。	
遺構外 46	X32，Y124 グリッド一括	深鉢	④[8.2]	①中粒(白色粒含む) ②良好③浅黄橙10 YR8/4④口縁部片	口縁部に隆帯を2条めぐらし両側に沈線によるなぞりを施す。隆帯上には円形刺突文を施文。隆帯下位には沈線が見えるが文様不明。	
遺構外 47	X36・37， Y124・125 グリッド一括	深鉢	④[6.8]	①中粒(白色粒含む) ②良好③にぶい橙 7.5YR7/4 ④口縁部片	口縁部にしっかりした隆帯で楕円状区画を配し、隆帯の両側には半截竹管による沈線を施す。区画内には縄文を充填。	
遺構外 48	X34，Y125 グリッド一括	浅鉢	④[11.0]	①中粒(白色粒含む) ②良好③橙5YR6/8 ④把手	橋状把手。幅広の把手中央部には蕨手状沈線を施し、把手の内側の器面には渦巻文沈線のなごりを残している。把手下には蕨手状と縦位の沈線を配し、左側には楕円状区画文の一部が見える。	
遺構外 49	X38，Y123 グリッド一括	深鉢	④[10.0]	①中粒②良好 ③赤10R5/6 ④口縁～胴部片	口縁部は渦巻文と楕円状区画文を入り組み状に連結し、胴部は無文懸垂帯を垂下する。区画内に縄文を充填。	
遺構外 50	X38，Y124 グリッド一括	深鉢	②[5.0]	①細粒②良好 ③にぶい赤褐2.5 YR4/4④底部片	底面に葉脈痕あり。	

第8表　出土遺物観察表（古墳時代以降）

法量は①口径②底径③胴部最大径④器高を表し、単位はcmである。また（　）は推定値、［　］は現存値を表す。

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　考
H-1-1 床直	H-1 No.17	須恵器 高台付埦	①12.3②6.1 ④4.9	①中粒②良好（還元）③灰白 10YR7/1④2/3残口縁～底部	体部は丸味をもち、口縁部で外反する。ロクロ成・整形。底部切り離しは不明。高台貼付。	口縁・底部内外面煤付着。
H-1-2 床直	H-1 No.18	須恵器 高台付埦	①12.1 ④［4.3］	①細粒②良好（還元）③にぶい黄橙10YR6/4④高台欠損	体部は丸味をもち、口縁部で短く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付痕あり。	内面口縁～底部煤付着。
H-1-3 床直	H-1 No.24・一括	須恵器 羽釜	①（22.0） ④（16.5）	①中粒②良好（還元） ③灰白10Y8/1 ④1/3残口縁～胴部中位	口縁部は短く直立し、口唇部は平坦。鍔は断面三角形で、水平に突出する。胴部は緩やかに内傾。ロクロ整形。胴部は撫で。	
H-1-4 床付近	H-1 No.22	鉄製品 刀子	長さ［21.7］cm 幅1.4cm 厚さ0.5cm 重さ54.84g　完形		刀身部は幅が狭く断面逆台形状で、柄は細く先が尖る。	
H-2-1 覆土	H-2 No.8	土師器 坏	①（12.0） ④4.2	①細粒②良好（酸化） ③明赤褐2.5YR5/6 ④3/4残口縁～底部	口縁部は内傾する。口縁と体部の境に稜を有する。体部は浅く、底部は偏平ぎみ。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。内面：撫で。	
H-2-2 覆土	H-2 No.14	土師器 坏	②（13.2） ④4.3	①細粒 ②良好（酸化） ③灰黄褐10YR6/2 ④1/2残口縁～底部	口縁部は直立ぎみ。口縁と体部の境に稜を有する。体部は浅く、底部は偏平ぎみ。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。内面：口縁部横撫で。体～底部篦撫で。	
H-3-1 覆土	H-3 No.12	須恵器 坏	①13.4②7.5 ④3.0	①細粒②良好（還元） ③灰白10YR8/1④完形	口縁部は短く外反する。体部は内湾ぎみに立ち上がる。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。	体部外面煤付着。
H-3-2 覆土	H-3 No.1	須恵器 坏	①（13.0）②6.0 ④（4.6）	①細粒②良好（還元）③褐灰 10YR5/1④1/2残口縁～底部	体部下位で直線的に外傾し、中位で内湾ぎみに口縁に至る。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。	
H-3-3 覆土	H-3 No.3	須恵器 高台付皿	①13.0②7.1 ④3.0	①細粒②良好（還元） ③灰白2.5Y7/1 ④ほぼ完形	口縁部は短く外反する。浅い体部は内湾して口縁に至る。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-3-4 覆土	H-3 No.48	土師器 坏	①12.5 ②8.0 ④3.2	①細粒②良好（酸化） ③明赤褐2.5YR5/6 ④完形	体部中位で外傾して口縁部に至る。底部は平底。外面：口縁部横撫で。体～底部撫で・指押え痕。内面：撫で。	外面底部に墨書「墓」。
H-5-1 床直	H-5 No.21	須恵器 高台付埦	①13.6②7.0 ④5.0	①細粒②良好（還元） ③灰白10YR8/1 ④2/3残口縁～底部	体部は直線的に立ち上がり、口縁部で短く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-5-2 カマド 覆土	H-5カNo.3, No.25・26	須恵器 高台付埦	①（13.4） ②（7.0） ④4.6	①細粒②良好（酸化） ③にぶい橙7.5YR6/4 ④1/2残口縁～底部	体部は内湾ぎみに立ち上がり、口縁部で外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	内面煤付着。
H-5-3 カマド 覆土	H-5カNo.2, No.8	須恵器 甕	①（18.6） ④［7.5］	①中粒②良好（酸化） ③にぶい橙2.5YR6/4 ④口縁～胴部片	胴部上位は張りをもち、頸部で「く」字状に屈曲し口縁部に至る。口唇部は断面三角形を呈する。外面：口縁部横撫で。内面：撫で	
H-6-1 床直	H-6 No.3	土師器 小型甕	①（14.0） ④（11.9）	①細粒②良好（酸化） ③にぶい橙5YR5/4 ④1/4残口縁～胴部	胴部は丸味をもち、口縁部は「く」字状を呈する。外面：口縁部横撫で。胴部篦削り。内面：胴部篦撫で。	
H-7-1 床付近	H-7 No.18	須恵器 高台付埦	①（15.1） ④（4.2）	①細粒②良好（還元） ③灰白10YR7/1 ④1/2残口縁～底部	体部は直線的に外傾し、口縁部で僅かに外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付痕あり。	
H-7-2 床直	H-7 No.19	須恵器 高台付埦	①（16.2） ④（4.5）	①細粒②良好（還元） ③灰黄褐10YR6/2 ④1/2残口縁～体部	体部は内湾して、口縁部で外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切りか。高台貼付痕あり。	
H-7-3 覆土	H-7 No.2	瓦 丸瓦	長さ［9.7］cm 幅［8.4］cm 厚さ1.3～1.8cm	①細粒②良好（酸化） ③にぶい橙7.5YR6/4 ④一部残	凸面：撫で成形。 凹面：布目圧痕。	凸面「田」の押印。
H-7-4 床直	H-7 No.23	瓦 軒丸瓦	長さ［7.9］cm 幅［15.2］cm 厚さ1.6～2.6cm	①中粒②良好（還元） ③黄灰2.5Y5/1 ④破片	単弁5葉蓮華文。外区は素文。外縁の幅がくずれ、雑な作り。	
H-7-5 カマド	H-7カNo.15	瓦 平瓦	長さ［21.3］cm 幅［10.7］cm 厚さ2.1～2.3cm	①中・粗粒 ②良好（還元） ③灰N5④破片	凸面：撫で成形。 凹面：布目圧痕。	カマド構築材として使用。凸面「未」篦描き。
H-7-6 覆土	H-7 No.22	瓦 丸瓦	長さ［16.9］cm 幅［14.8］cm 厚さ1.5～2.3cm	①中・粗粒 ②良好（還元） ③灰N5④破片	半截作りか。 凸面：撫で成形。凹面：布目圧痕。 側部：面取り2回。	凸面篦描き。「筆」か。
H-7-7 カマド	H-7カNo.14	瓦 平瓦	長さ［19.8］cm 幅［22.1］cm 厚さ1.1～2.0cm	①粗粒 ②良好（還元） ③灰N4④破片	一枚作りか。 凸面：撫で成形。格子状叩き。 凹面：布目圧痕。横撫で。	カマド構築材として使用。
H-7-8 床直	H-7 No.1	石製 紡錘車	大径5.1cm 小径3.6cm 厚さ1.5cm 穿孔0.9～1.0cm 重さ63.60g　石材：蛇紋岩　ほぼ完形		偏平な台形状を呈し、薄い作り。側面に線状痕あり。全体に丁寧な作り。	
H-8-1 床直	H-8 No.48	須恵器 高台付埦	①（14.0）②5.8 ④6.0	①細粒②良好（還元）③黒10YR2/1④1/2残口縁～底部	体部は内湾して、口縁部で短く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-8-2 カマド	H-8カNo.5	須恵器 坏	①10.6②4.6 ④3.2	①細粒②良好（酸化）③にぶい橙7.5YR6/4④完形	体部は内湾して、口縁部で外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。	
H-8-3 床直	H-8 No.36	須恵器 高台付埦	①14.0②5.8 ④5.6	①中粒②良好（酸化）③黒褐 10YR3/1④ほぼ完形	体部は直線的に外傾し、口縁部で外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。低い高台貼付。	
H-8-4 床直	H-8 No.10	須恵器 甕	①（19.6） ④（12.5）	①細粒 ②良好（還元）③灰N4 ④1/3残口縁～胴部	胴部は緩やかな丸味をもつ。頸部は外傾し、口縁部は外反する。口唇部は厚めで、やや内傾する。ロクロ整形。	
H-8-5 カマド	H-8カNo.7	須恵器 羽釜	①（18.0） ④（11.5）	①細粒②やや不良（還元） ③灰白10YR8/2 ④1/3残口縁～胴部上位	口縁部は短く直立ぎみで、口唇部は平坦。鍔は、断面三角形で水平に突出する。胴部は僅かに丸味をもつ。ロクロ整形。	

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　考
H-8-6 床直	H-8 No.13・14	須恵器 羽釜	①(20.0) ④(9.7)	①中粒②良好(酸化) ③にぶい褐7.5YR5/3 ④1/3残口縁～胴部上位片	口縁部は内傾して、口唇部は平坦。鍔は、断面三角形で水平に突出する。胴部は上位から丸味をもつ。ロクロ整形。	
H-8-7 カマド	H-8カNo.8	瓦 軒丸瓦	長さ［21.6］cm 幅［16.5］cm 厚さ[1.7～2.3]cm	①中・粗粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③にぶい橙 7.5YR7/4④破片	丸瓦部半截作りか。 凸面：撫で。瓦当部撫で。 凹面：布目圧痕密。瓦当部接合痕。	
H-8-8 床付近	H-8 No.18	瓦 平瓦	長さ［20.3］cm 幅［19.8］cm 厚さ[1.8～2.1]cm	①細粒(白色粒含む) ②良好(還元) ③灰N5④破片	一枚作り。 凸面：篦撫で。正格子叩き。 凹面：布目後に縦位篦撫で。 側部：面取り2回。端部：面取り1回。	
H-8-9 床直 床付近	H-8 No.5・29・31	瓦 丸瓦	長さ35.7cm 幅［17.0］cm 厚さ0.9～1.5cm	①細粒(白色微粒含む) ②良好(酸化)③褐灰7.5 YR6/1④一部欠損	半截作り。 凸面：縦位篦撫で。凹面：布目圧痕。 側部：面取り2回。端部：面取り1回。	
H-8-10 覆土 カマド	H-8 No.15, カNo.9	瓦 平瓦	長さ［39.0］cm 幅［19.8］cm 厚さ1.4～1.9cm	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③灰黄褐10 YR6/2④一部欠損	一枚作り。 凸面：縄叩き痕。撫で。凹面：布目。縦位擦消し。 側部：面取り2回。端部：面取り1回。	
H-8-11 床付近	H-8 No.49	鉄製品 釘	長さ10.3cm 幅0.8cm 厚さ0.7cm 重さ32.96g ほぼ完形		頭部が僅かに曲がる角釘。	
H-8-12 床付近	H-8 No.23	鉄製品 釘	長さ13.5cm 幅1.0cm 厚さ0.7cm 釘頭径1.3cm 重さ42.74g 完形		角釘。	
H-9-1 床付近	H-9 No.1	須恵器 高台付皿	①11.0 ②(7.2) ④3.8	①中粒(白色粒含む) ②良好(還元)③褐灰10YR 4/1④高台部1/2欠損	体部は直線的に外傾する。ロクロ成・整形。底部切り離しは不明。高台貼付。	
H-9-2 カマド	H-9カNo.1	須恵器 羽釜	①(22.0) ④[8.7]	①中粒②良好(酸化)③褐灰 10YR5/1④口縁～胴部上位片	口縁部は内傾する。鍔は、断面三角形で水平に突出する。ロクロ整形。	
H-10-1 貯蔵穴 カマド	H-10No.12, カ一括	須恵器 高台付埦	①(13.4) ④4.5	①細粒(黒色粒含む)②良好 (酸化)③にぶい黄橙10YR 7/2④高台部欠損	体部は外傾して、口縁部で外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付痕あり。	内外面煤付着。
H-10-2 カマド	H-10カNo.4	須恵器 坏	①(10.8) ②6.4 ④3.6	①中粒②良好(酸化) ③灰白10YR8/1 ④1/2残口縁～底部	体部は内湾して口縁部に至る。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。雑な作り。	外面煤付着。
H-10-3 カマド	H-10カNo.2	鉄製品 鎹	長さ[11.0+2.6]cm 幅[0.7]cm 厚さ0.4cm 重さ23.41g 先端L字と基部残		断面基調は方形。先端がL字に曲がる。	
H-11-1 覆土	H-11No.10	土師器 坏	①(11.8) ④3.9	①細粒②良好(酸化) ③にぶい橙10YR7/2 ④口縁～胴部片	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は直立する。底部は浅い丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。内面：体～底部撫で。	黒色土器か。
H-11-2 覆土 カマド	H-11一括, カ一括	土師器 長胴甕	①(18.6) ②(5.6) ③16.8④35.0	①中・粗粒②良好(酸化) ③にぶい赤褐5YR5/4 ④1/2残口縁～底部	口縁部は外反する。胴部は細長く、底部に向かいすぼむ。底部は小さい平底。外面：口縁部横撫で。胴部縦篦削り。内面：口縁部横撫で。胴部撫で。	
H-14-1 床直	H-14 No.3・7	土師器 坏	①12.6 ④4.2	①中粒②良好(酸化) ③橙5 YR6/8 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は浅い丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-14-2 床直	H-14No.1	土師器 坏	①12.4 ④4.1	①中粒②良好(酸化) ③橙5 YR6/8 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は短く内傾する。底部は浅い丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-16-1 床直	H-16No.9	灰釉陶器 高台付埦	①(13.0) ②(7.0) ④4.2	①水簸②良好(還元) ③灰白10YR7/1 ④1/4残口縁～底部	体部は緩やかに内湾して口縁部に至る。ロクロ成・整形。削りだし三日月高台。	内外面施釉。
H-16-2 床直	H-16No.8	灰釉陶器 高台付埦	①(16.0) ②(8.8)④4.7	①水簸②良好(還元) ③灰白10YR7/1 ④1/4残口縁～底部	体部は緩やかに内湾して,口縁部は短く外反する。ロクロ成・整形。高台貼付。	内外面施釉。
H-16-3 床直	H-16No.6	須恵器 羽釜	①(21.1) ④(14.0)	①中粒②良好(還元) ③にぶい橙7.5YR6/4 ④1/4残口縁～胴部上位	口縁部は内傾し、口唇部で外反する。鍔は、断面三角形で突出する。胴部は僅かに内傾する。ロクロ整形。胴部は撫で。	
H-16-4 カマド 床付近	H-16カNo.1 ・2・10,No.36 ・一括	須恵器 羽釜	①21.2 ④[18.8]	①中・粗粒②良好(酸化) ③灰白10YR8/2 ④口縁～胴部中位片	口縁部は内傾する。鍔は、断面三角形で短く水平に突出する。胴部は内湾して下位に向かってすぼむ。ロクロ整形。	
H-16-5 カマド 床付近	H-16カ No.11, No.5	瓦 軒丸瓦	長さ［6.3］cm 幅［11.1］cm 厚さ[1.3～2.3]cm	①中粒②良好(還元) ③灰白10YR7/1 ④瓦当面2/5残	単弁5葉蓮華文か。	
H-17-1 床直	H-17No.13	土師器 坏	①(12.0) ④4.1	①細粒②良好(酸化) ③橙5 YR6/8 ④1/2残口縁～底部	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は浅い丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。内面：体～底部撫で。	
H-17-2 床直	H-17 No.1・4	土師器 小型甕	①14.2②8.0 ③14.6 ④14.0	①細粒②良好(酸化) ③にぶい黄橙10YR7/4 ④ほぼ完形	口縁部は直立する。胴部は下位に向かいすぼみ、高台がつく。外面：口縁部横撫で。胴部縦方向の篦削り。下位撫で。内面：口縁部横撫で。胴部篦撫で。	
H-17-3 床直	H-17 No.10・11	土師器 鉢か	①18.6 ②9.0 ④10.5	①中・粗粒 ②やや不良(酸化) ③にぶい橙7.5YR6/4 ④3/4残口縁～底部	体部は内湾して口縁部で緩く内傾する。底部は突出し、器肉は厚い。外面：口縁部撫で。体部斜方向の篦削り。底部撫で。内面：撫で。全体に器面の荒れ。	口縁部内面煤付着。
H-18-1 埋土	H-18一括	土師器 小型甕	①(13.8) ④[4.8]	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④口縁部1/3残	口縁部は、緩い「く」字状を呈する。外面：口縁部横撫で。頸部に指頭圧痕。内面：口縁部横撫で。	
H-19-1 覆土	H-19No.1	須恵器 高台付埦	②6.6 ④[3.0]	①細粒②良好(還元)③にぶい橙7.5YR7/4④底部片	体部は内湾する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　考
H-19-2 床付近	H-19No.5	石製 紡錘車	大径4.5cm 小径3.5cm 厚さ1.5cm 穿孔1.0cm 重さ48.20g 石材：蛇紋岩 ほぼ完形		偏平な台形状を呈し、薄い作り。全体に線状痕あり。側面と大径面は文様状。	
H-20-1 床直	H-20No.1	土師器 坏	①14.0 ④5.0	①細粒②良好(酸化) ③橙 5 YR7/6 ④1/2残口縁～底部	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-20-2 床付近	H-20 No.6・7	土師器 坏	①14.0 ④4.5	①細粒②良好(酸化) ③橙 5 YR6/6 ④1/2残口縁～底部	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-21-1 床直	H-21No.39	須恵器 坏	①(11.8) ②5.5 ④[3.4]	①中粒②良好(還元) ③黄灰2.5YR6/1 ④2/3残口縁～底部	体部は内湾して、口縁部で短く外反する。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。	
H-21-2 覆土	H-21一括	鉄製品 小札	長さ6.4cm 幅1.6cm 厚さ0.15cm 孔径0.2cm 重さ3.33g 完形		中央がすぼむ楕円形で、両側に小さな孔があく。	
H-22-1 カマド 覆土	H－22カ No.1・5,一括	土師器 小型甕	①12.5 ③14.0 ④[11.0]	①中粒(黒色粒含む)②良好(酸化)③にぶい黄橙10YR6/3④3/4残口縁～胴部	口縁部は、緩く外傾する。胴部は、上位に最大径をもつ。外面：口縁部横撫で。胴部中位から縦方向箆削り。内面：口縁部横撫で。	内外面煤付着。
H-23-1 貯蔵穴	H-23No.26, 貯一括	須恵器 高台付埦	①14.0 ②5.8 ④5.2	①中・粗粒②良好(還元) ③にぶい黄橙10YR7/3 ④ほぼ完形	体部は緩やかに外傾し、口縁部で短く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-23-2 床直	H-23No.29	須恵器 高台付埦	①14.6 ②6.6 ④7.1	①中・粗粒②良好(還元) ③黄灰2.5Y6/1 ④1/2残口縁～底部	体部は直立ぎみに外傾し、口縁部で外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-23-3 床直	H-23No.10	須恵器 高台付埦	①(14.5) ②6.1 ④5.0	①中粒②良好(還元) ③にぶい黄橙10YR7/3 ④1/2残口縁～底部	体部は内湾し、口縁部で短く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-23-4 貯蔵穴 カマド	H-23No.25, カ一括	須恵器 羽釜	①(18.0) ④[8.5]	①中粒②良好(還元) ③黄褐10YR6/3 ④口縁～胴部片	口縁部は短く内傾する。口唇部は平坦。鍔は断面三角形で突出する。ロクロ整形。	口縁部外面煤付着。
H-24-1 カマド	H-24カNo.5	須恵器 高台付埦	②(6.0) ④[3.6]	①中粒②良好(還元)③灰白2.5Y7/1④3/4残体～底部	体部は外傾する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-24-2 床直	H-24No.12・ 一括	須恵器 高台付埦	②(17.0) ④[7.8]	①細粒②良好(酸化) ③にぶい黄橙10YR7/2 ④1/3残口縁～底部	土師質。体部は直線的に外傾し、口縁部でさらに外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。足高高台貼付。	内外面煤付着。
H-24-3 床直 カマド	H-24No.9・ 11・一括，カ 一括	須恵器 羽釜	①(20.0) ④[19.0]	①中・粗粒 ②良好(還元) ③灰白10YR7/1 ④口縁～胴部片	口縁部は内傾する。鍔は、断面三角形で水平に突出する。胴部は上位から下位に向かってすぼむ。ロクロ整形。胴部は中位から下位に向かい縦方向の箆削り。	
H-24-4 カマド	H-24カNo.16	瓦 丸瓦	長さ［22.8］cm 幅［11.7］cm 厚さ2.1～2.2cm	①中粒(白色粒含む) ②良好(酸化) ③褐灰10YR5/1④破片	凸面：縦位箆撫で。凹面：布目圧痕密。 側部：面取り２回。端部：面取り１回。	カマド構築材として使用。凸面「井」箆描き。
H-24-5 カマド 覆土	H-24カNo.9 ・一括，一括	瓦 平瓦	長さ［20.5］cm 幅［19.8］cm 厚さ[1.8～2.0]cm	①中粒(黒色粒含む) ②良好(還元) ③褐灰10YR6/1④破片	一枚作り。 凸面：T字状の縄叩き。凹面：布目圧痕密。 側部：面取り３回。端部：面取り２回。	
H-25-1 床直	H-25No.7・ 10	土師器 甕	②(20.0) ④[8.0]	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④口縁～胴部片	口縁部は、「コ」字状を呈する。外面：口縁部横撫で。胴部上位は横方向箆削り。内面：口縁～胴部撫で。	
H-25-2 床付近	H-25No.1	砥石か	長さ4.9cm 幅1.8～3.1cm 厚さ2.0～2.8cm 重さ55.43g 石材：安山岩 一部欠損		６面に加工痕があり、５面使用か。上部に水平・垂直方向の孔が３ヵ所あり。穿孔径0.9～1.1cm。	
H-26-1 床直	H-26No.1	須恵器 坏	①10.4②7.5 ④4.1	①中粒(黒色粒含む)②良好(還元)③黄灰2.5Y6/1④完形	体部は直線的に外傾し、口縁に至る。口縁の一部変形。ロクロ成・整形。底部回転箆切り。	外面施釉。
H-26-2 床直	H-26No.2	土師器 小型甕	②5.2 ③11.5 ④[9.3]	①細粒②良好(酸化) ③にぶい赤褐5YR5/4 ④口縁の一部欠損	口縁部は、「く」字状に外反する。胴部は、中位に最大径をもち、球形状を呈する。外面：口縁部横撫で。胴部上位撫で。中位から斜方向箆削り。内面：口縁部横撫で。胴部撫で。	内外面煤付着。
H-27-1 覆土	H-27一括	土師器 坏	①(11.4) ②(6.8) ④3.6	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④1/3残口縁～底部	体部は直線的に外傾し口縁部に至る。平底。外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。撫で。内面：口縁部横撫で。体部撫で。	
H-28-1 覆土	H-28一括	須恵器 高台付埦	①(15.0) ②7.5 ④5.5	①中・粗粒②良好(還元) ③黄灰2.5Y6/1 ④1/4残口縁～底部	体部は内湾ぎみに外傾し、口縁部で短く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-28-2 覆土	H-28一括	須恵器 高台付埦	①(14.0) ②(6.5) ④5.0	①細粒(黒色粒含む) ②極良(還元)③灰白N7 ④口縁～底部片	体部は内湾して口縁部に至る。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-29-1 床直	H-29No.9	須恵器 坏	①12.6 ②6.2 ④3.8	①細粒②良好(還元) ③にぶい黄橙10YR7/2 ④ほぼ完形	体部は直線的に外傾し口縁部に至る。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。	内外面煤付着。
H-29-2 覆土	H-29一括	土師器 坏	①11.6 ②7.5 ④3.5	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④3/4残口縁～底部	体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。底部は平底。外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。撫で。内面：撫で。	底部内外面「十」の墨書。
H-29-3 床直	H-29No.11	須恵器 羽釜	①(19.2) ④[8.7]	①中粒②良好(還元) ③灰白10YR7/1 ④1/3残口縁～胴部上位	口縁部は内傾し、口唇部は平坦。鍔は、断面三角形で水平に突出する。胴部上位は緩やかに内湾する。ロクロ整形。	
H-29-4 床付近	H-29No.7	瓦 丸瓦	長さ［12.4］cm 幅［15.0］cm 厚さ2.3～2.5cm	①中粒(白色粒含む) ②良好(還元) ③灰N5④破片	半截作りか。器内が厚く重い。 凸面：箆撫で。凹面：布目圧痕。 側部：面取り３回。端部：面取り２回。	凸面「日」箆描き。

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　考
H-29-5 覆土	H-29No.2	土製品 土錘	長さ4.6cm 幅2.1cm 孔径0.4～0.5cm 重さ17.49g 両端一部欠損		中央が厚く、中心に孔がある。	
H-29-6 覆土	H-29No.1	古銭 宋銭	径2.5cm 厚さ0.15cm 重さ3.78g 方孔0.6cm		「元豊通宝」元豊元年(1078)初鋳。	住居跡に伴わない遺物。
H-33-1 覆土	H-33 No.9・一括	須恵器 坏	①12.6②5.2 ④4.0	①細粒②良好(還元)③灰白N7④3/4残口縁～底部	体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。底部は小さい。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。	
H-33-2 覆土	H-33No.10	須恵器 高台付埦	①(16.8) ②(9.0) ④5.9	①細粒②良好(還元) ③灰白10YR8/1 ④1/3残口縁～底部	体部は内湾し、口縁部で短く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-33-3 床直	H-33No.11	須恵器 坏	①12.6 ②6.8 ④3.2	①細粒②良好(還元) ③灰白10YR8/1 ④3/4残口縁～底部	体部は外傾して、口縁部に至る。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。	
H-33-4 床直	H-33No.1	瓦 丸瓦	長さ42.1cm 幅22.2cm 厚さ1.8～2.9cm	①中・粗粒(白色粒含む) ②良好(還元) ③灰N4④完形	半截作りか。 凸面：篦撫で痕あり。凹面：布目後縦篦撫で。 側部：側部面取3回。端部面取り2回。	
H-33-5 床直	H-33No.2	瓦 丸瓦	長さ38.7cm 幅19.0cm 厚さ1.7～2.5cm	①中粒②良好(還元) ③褐灰7.5YR4/1 ④完形	半截作りか。 凸面：撫で。凹面：布目圧痕密。 側部：面取3回。端部面取り1回。	凸面「神」篦描き。
H-33-6 床直	H-33No.3	瓦 丸瓦	長さ39.8cm 幅18.3cm 厚さ1.6～2.1cm	①中粒②良好(還元) ③灰白2.5Y7/1 ④ほぼ完形	半截作りか。 凸面：縄叩き後撫で。凹面：布目圧痕密。 側部：面取り2回。	
H-33-7 床直	H-33No.5	瓦 丸瓦	長さ40.2cm 幅16.4cm 厚さ2.0～2.3cm	①中・粗粒②良好(酸化) ③明褐灰7.5YR7/2 ④完形	半截作りか。 凸面：縄叩き後横位の篦撫で。凹面：布目圧痕密。 側部：面取り2回。端部面取り1回。	
H-33-8 床直	H-33No.4	瓦 丸瓦	長さ44.0cm 幅23.3cm 厚さ1.4～2.4cm	①中・粗粒 ②良好(還元) ③灰N6④完形	半截作りか。 凸面：撫で。凹面：布目圧痕。 側部：面取り2回。	凹面「方」刻印。(二重の方形内)
H-34-1 床直	H-34No.17	須恵器 高台付埦	①(14.0) ④[4.3]	①細粒(黒色粒含む) ②良好(酸化)③褐灰10YR5/1④1/2残口縁～底部。高台欠損。	体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付痕あり。	口縁部内外面煤付着。
H-34-2 床直	H-34No.24	砥石	長さ［8.6］cm 幅7.2cm 厚さ4.5cm 重さ400g 石材：砥沢石 1/2残		4面使用し、研磨痕著しく弓張り状を呈する。	
H-34-3 床直	H-34No.26	鉄製品 釘	長さ9.5cm 幅1.0cm 厚さ0.6cm 重さ33.25g 頭部先端欠損		角釘。	
H-35-1 床付近	H-35No.11	須恵器 坏	①(12.6)②6.7 ④3.1	①中粒②良好(還元)③灰N4④1/4残口縁～底部	体部は内湾して、口縁部で外反する。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。上げ底ぎみ。	
H-36-1 床付近	H-36No.32	須恵器 高台付埦	④[3.3]	①中・粗粒②良好(還元) ③灰白10YR8/1 ④体～底部片。高台欠損。	体部は内湾して立ち上がる。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付痕あり。	
H-36-2 覆土	H-36No.58	砥石	長さ[9.3] cm 幅5.6cm 厚さ5.9cm 重さ345g 石材：砥沢石 1/2残		4面使用し、研磨痕著しく弓張り状を呈する。側面に研ぎ傷あり。	
H-37-1 カマド	H-37カ No.1・7,No.13	土師器 甕	①(19.6) ③(21.0) ④[16.6]	①中粒 ②良好(酸化) ③橙5 YR7/6 ④1/3残口～胴部上位	口縁部は「コ」字状を呈し、胴部は上位から緩やかに下位へ向かってすぼむ。外面：口縁部横撫で。胴部上位横方向篦削り。中から下位縦方向篦削り。内面：口縁部横撫で。胴部撫で。	
H-38-1 PI	H-38P1 No.2	土師器 坏	①13.0 ④5.1	①細粒②良好(酸化) ③橙5 YR6/8 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。内面：口縁部横撫で。体～底部篦撫で。	
H-38-2 床直 覆土	H-38No.5・ 一括	土師器 小型壺	①(9.2) ④[10.1]	①中粒②良好(酸化) ③橙2.5YR6/8 ④1/3残口縁～胴部	頸部は直立し、口縁部で緩く外反する。胴部は球形状。外面：口縁部横撫で。胴部は横・斜方向篦削り。内面：口縁部横撫で。胴部撫で。	
H-39-1 貯蔵穴 覆土	H-39貯No.1, 一括	須恵器 高台付埦	①(15.0) ②(7.8) ④6.5	①中・粗粒②良好(酸化) ③灰白N7 ④1/2残口縁～底部	体部は外傾し、口縁部で緩く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-39-2 床直 カマド	H-39No.8, カNo.2・3	須恵器 短頸壺か	④[8.0]	①中粒②良好(還元) ③灰N6 ④頸部～底部片	口縁部は直立する。胴部は球形状で、2条の沈線状の調整痕あり。ロクロ整形。	内外面自然釉。
H-39-3 カマド	H-39カNo.6	須恵器 羽釜	①(17.0) ④[13.5]	①中粒②良好(還元) ③灰白10YR7/1 ④口縁～胴部片	口縁部は内傾する。鍔は、断面台形状で口縁部に対してやや斜に付く。ロクロ整形。胴部下半に縦方向の篦削り。	
H-40-1 覆土	H-40 No.19・27	須恵器 高台付埦	④[4.6]	①細粒②良好(酸化) ③褐灰10YR4/1 ④体～底部片	体部は内湾する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付痕あり。	
H-40-2 床直	H-40No.4・ 7・一括	瓦 軒平瓦	長さ［12.5］cm 幅(21.3)cm 厚さ5.5～6.1cm	①中粒(白色粒含む) ②良好(酸化) ③灰N4④瓦当面残	瓦当面文様：内区均整唐草文 外区素文。 凸面：篦撫で。 凹面：布目後篦撫で。	
H-41-1 覆土	H-41No.2	須恵器 高台付埦	④[2.3]	①細粒②良好(酸化)③浅黄橙10YR8/4④底部片	体部は外傾する。ロクロ成・整形。底部高台削り出し。	
H-42-1 床直	H-42 No.1・3・4	須恵器 高台付埦	①(16.4) ②8.0 ④6.2	①細粒(黒色粒含む) ②良好(酸化)③灰白10YR7/1④2/3残口縁～底部	体部は外傾し、口縁部で外反する。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-42-2 床直	H-42No.2	須恵器 高台付埦	①(15.8) ④[5.1]	①細粒②良好(還元) ③褐灰10YR4/1 ④1/2残口縁～高台部	体部は内湾して口縁部に至る。ロクロ成・整形。底部回転切り離し後撫で。高台貼付。	

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　考
H-43-1 覆土	H-43一括	土師器 坏	①11.8 ②8.4 ④3.3	①中粒②良好(酸化) ③橙2.5YR6/6 ④完形	浅い体部は内湾し、口縁部で短く外反する。底部は平底。外面：口縁部横撫で。体部撫で・指押え。底部篦削り。内面：撫で。	口縁部内外面煤付着。
H-43-2 床付近	H-43No.72	須恵器 坏	①13.0 ②8.0 ④3.5	①細粒②良好(還元) ③灰白10YR7/1 ④口縁部一部欠損	体部から口縁部にかけて内湾ぎみに立ち上がる。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。	
H-43-3 覆土	H-43 No.5・一括	須恵器 坏	①12.8 ②7.3 ④3.3	①細粒(黒色粒含む) ②良好(還元)③灰白10YR 7/1④ほぼ完形	浅い体部は内湾ぎみに立ち上がり、口縁部で外反する。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。	
H-43-4 D-1	H-43No.21	土師器 坏	①12.0 ②7.4 ④3.8	①細粒(黒色粒含む)②良好(酸化)③明赤褐2.5YR5/6 ④3/4残口縁～底部	浅い体部は外傾して口縁部に至る。底部は平底。外面：口縁部横撫で。体部指押え。底部篦削り。内面：撫で。	底部外面「十」の墨書。
H-43-5 床付近	H-43No.36	土師器 甕	①(28.0) ④[11.8]	①中粒②良好(酸化) ③橙5 YR6/6 ④口縁～胴部片	口縁部はやや「コ」字状。胴部は緩やかに内湾する。外面：口縁部横撫で。胴部斜方向篦削り。内面：口縁部横撫で。胴部撫で。	
H-43-6 床直	H-43No.50	瓦 軒平瓦	長さ［13.6］cm 幅［13.0］cm 厚さ2.2～6.0cm	①細粒(白色粒含む) ②良好(還元) ③褐灰7.5YR6/1④破片	内区右偏行唐草文　外区珠文。 凸面：篦撫で。 凹面：布目後撫で。	
H-43-7 P4	H-43P4 No.1	石製 紡錘車	大径4.6cm 小径2.2cm 厚さ2.0cm 穿孔0.8cm 重さ42.53g　石材：流紋岩か　完形		台形状を呈し、厚い作り。器面整形は丁寧。	
H-43-8 覆土	H-43一括	鉄製品 刀子	長さ［18.7］cm 幅2.6cm 厚さ0.4cm 重さ35.95g　完形		刀身は幅広で薄刃作り。	
H-44-1 覆土	H-44No.11	須恵器 高台付埦	②7.0 ④[2.7]	①細粒(黒色粒含む) ②良好(還元) ③灰白10YR7/1④底部片	体部は外傾する。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	底部外面墨書「丈」か
H-44-2 覆土	H-44No.6 H-46No.13	須恵器 高台付埦	①(17.4) ②(9.7) ④7.6	①細粒②良好(還元) ③灰白10YR7/1 ④1/4残口縁～底部	体部は内湾して立ち上がり、口縁部で緩く外反する。ロクロ成・整形。底部回転削り出し高台。体部に2条の沈線がめぐる。	
H-44-3 床直	H-44 No.8・9	土師器 甕	①(22.0) ④[8.8]	①細粒②良好(酸化) ③橙2.5YR6/8 ④口縁～胴部片	口縁部は、「コ」字状を呈する。胴部は、上位から内湾ぎみになる。外面：口縁部横撫で。胴部篦削り。内面：口縁部横撫で。胴部撫で。	
H-46-1 床直	H-46No.7	須恵器 坏	①13.8②9.0 ④2.4	①細粒②良好(還元) ③灰N6④1/2残口縁～底部	浅い体部は外傾し口縁部に至る。底部は平底で中央がややくぼむ。ロクロ成・整形。底部回転篦削り。	
H-46-2 床直	H-46No.12	土師器 小型甕	①13.4 ②5.2 ④14.0	①中粒(黒色粒含む) ②良好(酸化) ③赤10R 5/6 ④3/4残口縁～底部	口縁部は直立ぎみに外反する。口唇部はやや折り返し状で、厚くなる。胴部は上位に張りをもつ球形状。外面：口縁部横撫で。胴部上位斜方向篦削り。中～下位縦方向篦削り。内面：口縁部横撫で。胴部撫で。	
H-46-3 床直	H-46No.1	須恵器 蓋	①19.6 摘み径(5.2)cm ④4.0	①細粒②良好(還元) ③灰白10YR7/1 ④1/2残	摘みはリング状を呈す。天井部から緩やかに湾曲し、口縁部に至る。口縁部は折り返しをもたない。摘みは削り出し。天井部回転篦削り。	
H-46-4 床直	H-46No.9	石製 紡錘車	大径7.6cm 小径4.7cm 厚さ4.3cm 穿孔1.8cm 重さ100g　石材：角閃石安山岩　ほぼ完形		断面台形状を呈し、中央に孔を配す。	
H-48-1 貯蔵穴	H-48貯No.1	須恵器 高台付埦	①(14.8) ②7.6 ④5.9	①中・粗粒②良好(還元) ③黄灰2.5Y6/1 ④1/2残口縁～底部	体部は直線的に外傾し、口縁部で短く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-48-2 貯蔵穴	H-48貯No.2	須恵器 高台付埦	①14.7 ④[5.4]	①中粒②良好(酸化) ③黒10YR2/1④3/4残口縁～体部。高台欠損	体部は内湾して口縁部で短く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切りか。高台貼付痕あり。	
H-48-3 カマド	H－48カ No.5・6	瓦 丸瓦	長さ［27.3］cm 幅［14.2］cm 厚さ[1.7～1.9]cm	①中・粗粒 ②良好(還元) ③灰N5④1/2残	凸面：素文。撫で。 凹面：布目圧痕。 側部：面取り3回。端部面取り2回。	カマド構築材として使用。
H-49-1 床直	H-49No.1	須恵器 高台付皿	①(13.8)②7.0 ④2.7	①中粒②良好(還元)③灰N5④1/2残口縁～底部	体部は直線的に外傾し、口縁部で水平に外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	底部外面墨書。判読不可。
H-50-1 床付近	H-50No.6	須恵器 高台付埦	②7.0 ④4.0	①中・粗粒②良好(還元) ③灰白10YR7/1 ④1/3残口縁～体部	体部は内湾する。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-50-2 覆土 カマド	H-50一括, カ一括	須恵器 高台付皿	①(13.4) ②(7.0) ④3.0	①細粒②良好(還元) ③灰白10YR7/1 ④1/3残口縁～底部	体部は大きく外傾し口縁部に至る。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-51-1 貯蔵穴	H-51No.3, 貯一括	須恵器 高台付埦	①13.2 ②6.2 ④4.9	①細粒②良好(酸化) ③にぶい橙7.5YR6/4 ④3/4残口縁～底部	体部は内湾して口縁部で緩く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-51-2 貯蔵穴 覆土	H-51貯 No.1・4,一括	須恵器 坏	①13.2 ②5.2 ④3.7	①細粒②良好(還元) ③灰白2.5Y7/1 ④口縁～体部一部欠損	体部は内湾して口縁部で外反する。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。	
H-51-3 貯蔵穴	H-51No.2	須恵器 高台付皿	①13.8 ②6.2 ④2.8	①細粒②良好(還元) ③灰白2.5Y7/1 ④1/2残口縁～体部	体部は内湾ぎみに開き口縁部で外反する。右回転ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。内外面煤付着。	底部内面線刻あり。判読不可。
H-52-1 床直	H-52No.5・ 6・7	須恵器 高台付埦	①12.5 ②6.6 ④5.0	①細粒(白色・黒色粒含む) ②良好(酸化)③にぶい褐7.5 YR6/3④2/3残口縁～底部	土師質。体部は内湾し、口縁部は短く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-52-2 覆土	H-52No.3	須恵器 高台付埦	①(12.4) ④[4.2]	①細粒(黒色粒含む)②良好(酸化)③にぶい橙7.5YR7/4 ④1/3残口縁～体部。台部欠損	体部は内湾し、口縁部は短く外反する。ロクロ成・整形。底部回転糸切り。高台貼付痕あり。	

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　考
H-52-3 床直	H-52No.4	鉄製品 刀子	長さ[12.4]cm 幅1.4cm 厚さ0.3cm 重さ25.91ｇ　4／5残茎部欠損		刀身部分。	
H-54-1 覆土	H-54No.3	須恵器 高台付埦	①(13.0) ④[4.0]	①細粒②良好(酸化) ③灰白10YR7/1 ④口縁～体部片	体部は内湾ぎみに口縁部に至る。ロクロ成・整形。	
H-54-2 覆土	H-54No.2	鉄製品 釘	長さ[6.5]cm 幅0.7cm 厚さ0.7cm 重さ9.24ｇ 頭部欠損		角釘。	
H-54-3 覆土	H-54No.1	鉄製品 刀子	長さ[8.5]cm 幅2.0cm 厚さ0.3cm 重さ19.06ｇ 刀身の一部残		刀身は薄く断面逆台形状。	
W-1-1 覆土	W-1一括	須恵器 円面硯	①(20.6) ④[4.3]	①細粒②良好(還元) ③灰白N 7 ④硯面一部残	内提がなく、周辺にU字状の溝がめぐる。台脚部上端に粘土を貼付けた圏足と思われる粘土痕が2ヵ所残存。	
遺構外 -1	X42，126 グリッド一括	須恵器 埦か	④[2.9]	①中粒②良好(酸化) ③にぶい黄橙10YR7/3 ④底部片	器肉が厚い。ロクロ成・整形。	外面「田」の刻書。
遺構外 -2	X42，121 グリッド一括	土師器 甕	①(21.0) ④[8.5]	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④1/4残口縁～胴部上位	口縁部は「コ」字状を呈し、胴部上位やや張りをもつ。外面：口縁部横撫で。頸部指押え痕。胴部上位横方向箆削り。内面：口縁部横撫で。胴部撫で。	
遺構外 -3	X40，123 グリッド一括	須恵器 羽釜	④[14.0]	①中・粗粒②良好(酸化) ③黄灰2.5YR6/1 ④頸～胴部片	頸～胴部は緩やかに内湾する。鍔は、断面三角形で小さく水平に突出する。外面：頸～胴部に平行叩き目痕。内面：全体に指押え痕あり。	

出土位置は、床直(床面より5cm以内の層位から出土)、床付近(床面から5.5～10.0cmまでに出土)、覆土(床面から10.5cm以上から出土)の3段階に分けた。カマド内の出土については「カマド」、貯蔵穴内は「貯蔵穴」、ピット内はそのピット番号、土坑内はその土坑番号を記載した。

台帳番号は調査時の付番で、遺物の注記番号と一致する。

胎土は、細粒(0.9㎜以下)、中粒(1.0～1.9㎜)、粗粒(2.0㎜以上)とし、特徴的な鉱物が入る場合には鉱物名等を記載した。

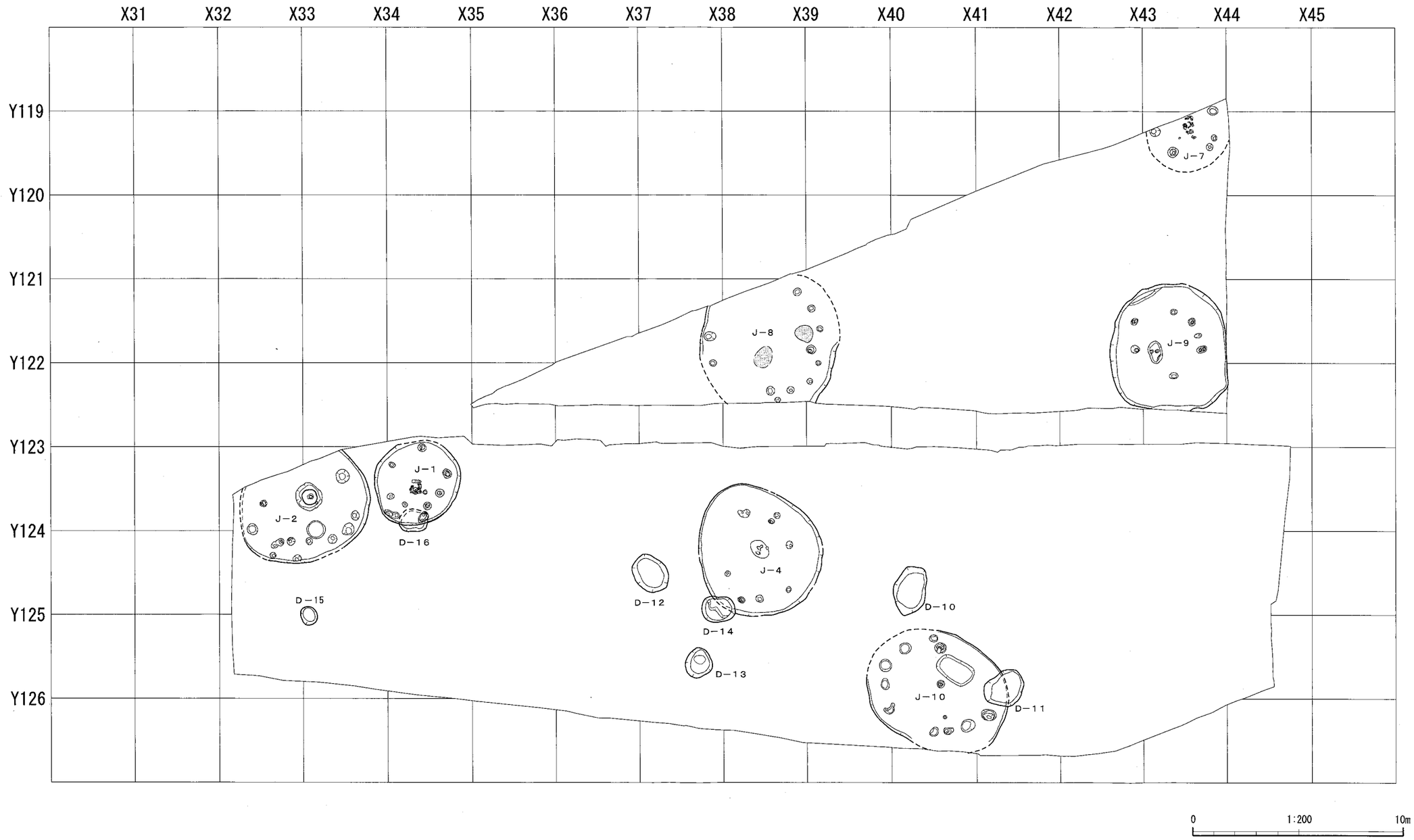
焼成は、極良、良好、不良の3段階とした。

色調は土器外面で観察し、色名は『新版標準土色帳』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所　色票監修　2000)によった。

参考文献

群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1985『荒砥前原遺跡・赤石城址』
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1986『糸井宮前遺跡II』
群馬県教育委員会　1987『史跡上野国分僧寺跡発掘調査概要8』
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1986『上野国分僧寺・尼寺中間地域(1)』
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1987『上野国分僧寺・尼寺中間地域(2)』
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988『上野国分僧寺・尼寺中間地域(3)』
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990『上野国分僧寺・尼寺中間地域(4)』
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1991『上野国分僧寺・尼寺中間地域(5)』
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990『国分境遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986『寺田遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1990『元総社明神遺跡Ⅷ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000『元総社小見遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001『元総社小見内III遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002『元総社小見II遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005『元総社小見内IX遺跡・総社閑泉明神北V遺跡』
縄文セミナーの会　1999『前期後半の再検討』
縄文セミナーの会　2003『前期後半の再検討』

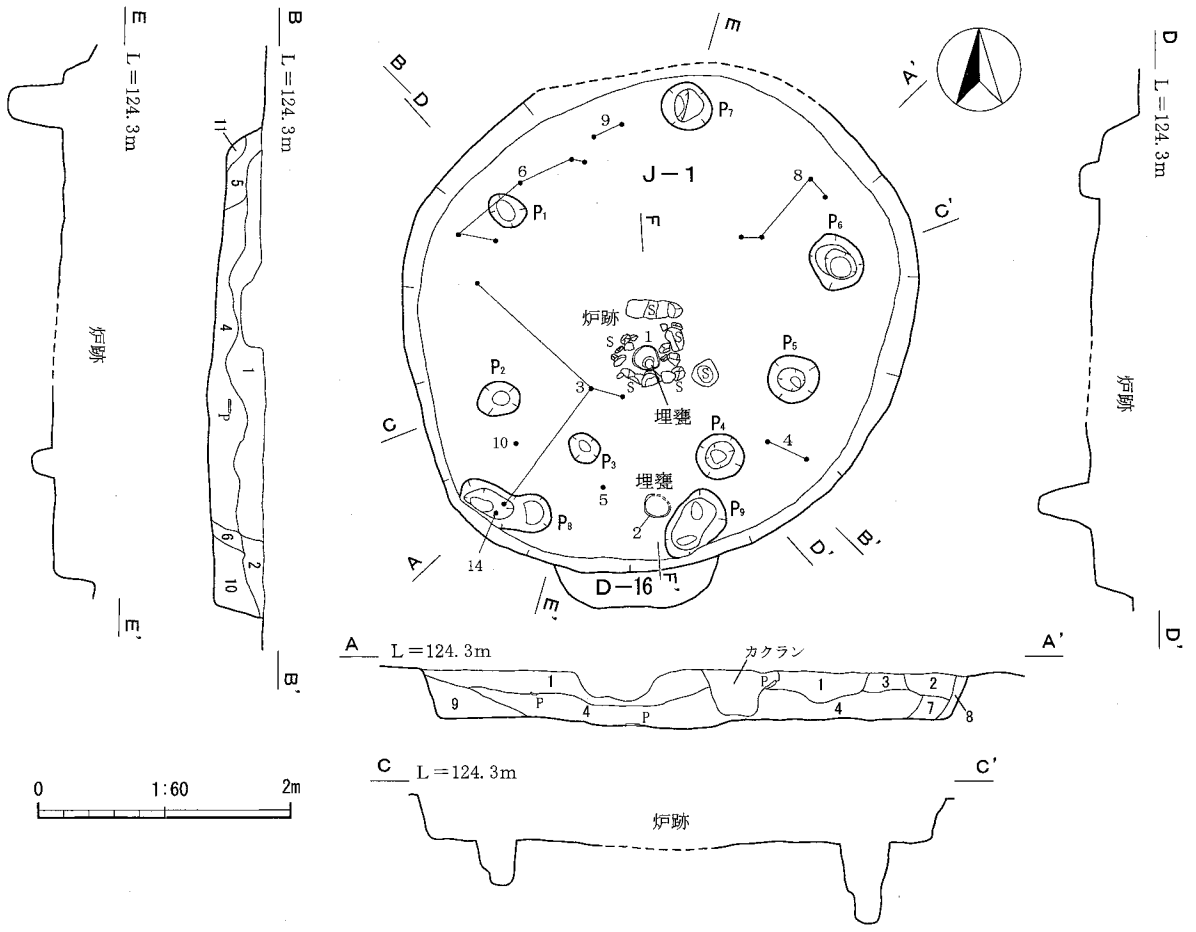
元総社小見Ⅶ遺跡（縄文時代）



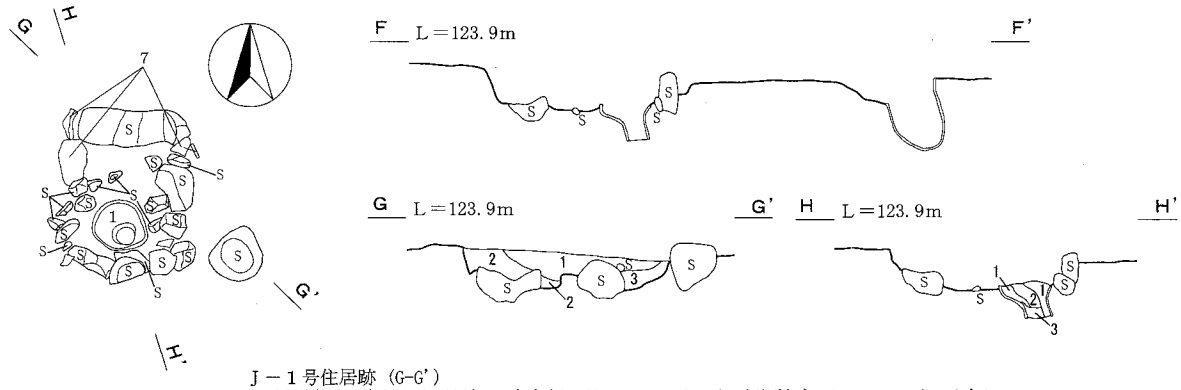
第 6 図　元総社小見Ⅶ遺跡（縄文時代）

元総社小見Ⅶ遺跡（古墳時代以降）

第７図　元総社小見Ⅶ遺跡（古墳時代以降）



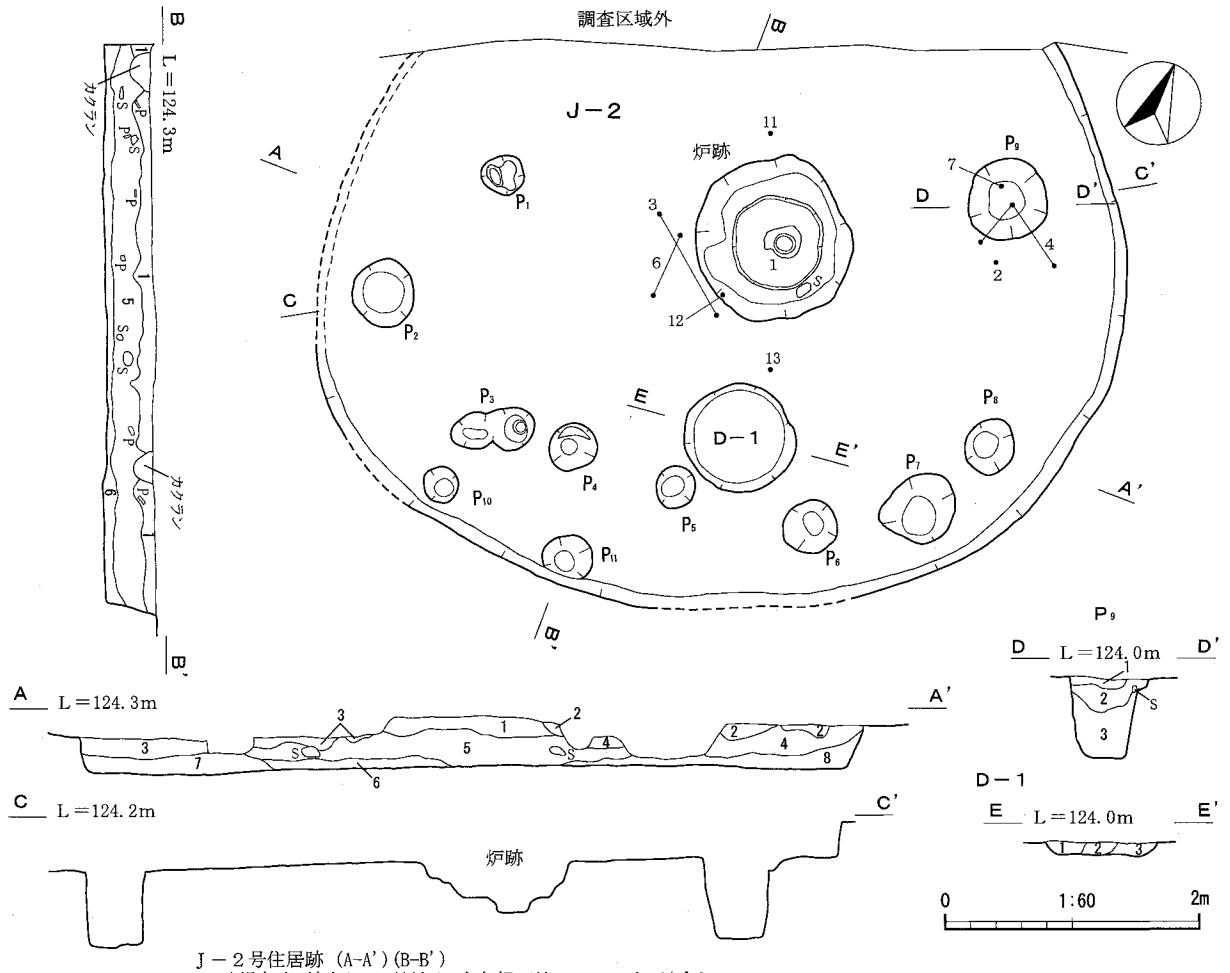
J－1号住居跡（A-A'）（B-B'）
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5mmを2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15mmを1%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3mmを3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3mmを少量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3mmを3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15mmを1%含む。
4 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3mmを3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10mmを1%含む。
5 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2mmを2%含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2mmを1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10mmを3%含む。
7 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～2mmを2%含む。
8 褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1mmを2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10mmを1%含む。
9 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2mmを3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15mmを1%含む。
10 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3mmを2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5mmを1%含む。
11 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2mmを1%含む。



J－1号住居跡（G-G'）
1 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2mmを2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5mmを1%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15mmを2%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性× 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5mmを2%含む。砂質土。

J－1号住居跡（H-H'）
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5mmを2%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5mmを1%含む。
3 褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5mmを1%含む。

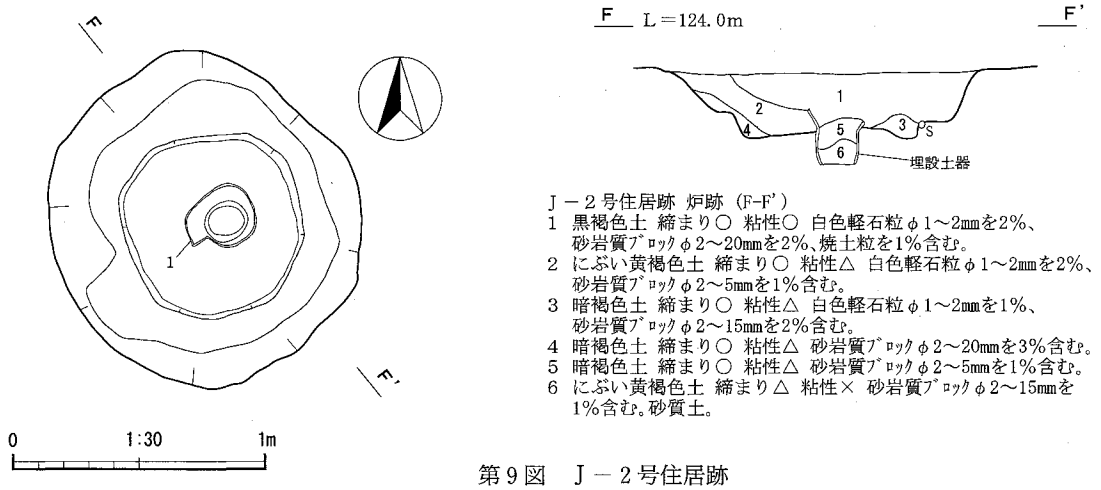
第8図 J－1号住居跡



Ｊ－２号住居跡（A-A'）(B-B')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%含む。
2 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を微量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。
5 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%含む。
6 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%含む。
7 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
8 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。

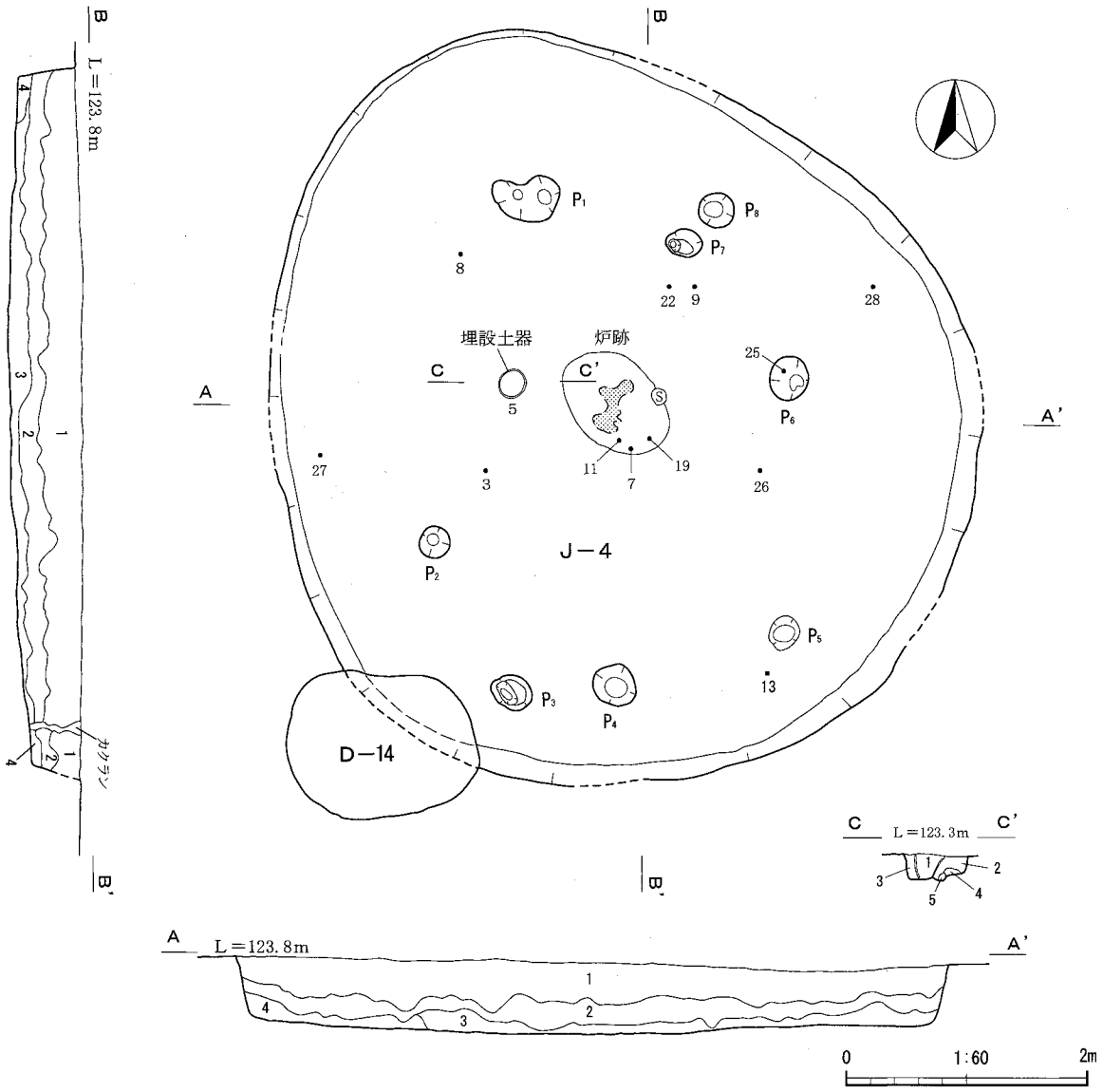
Ｊ－２号住居跡 P9 (D-D')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を5%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。

Ｊ－２号住居跡 Ｄ－１ (E-E')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を5%含む。
2 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。



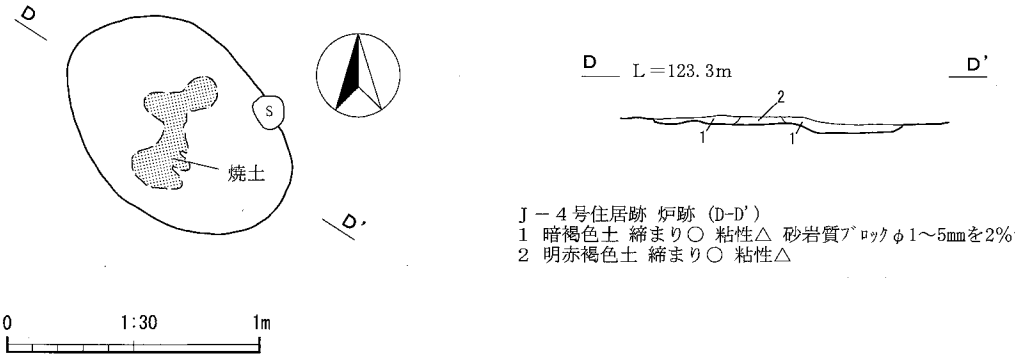
Ｊ－２号住居跡 炉跡 (F-F')
1 黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、
砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%、焼土粒を1%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、
砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、
砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%含む。
5 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
6 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性× 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を
1%含む。砂質土。

第９図　Ｊ－２号住居跡



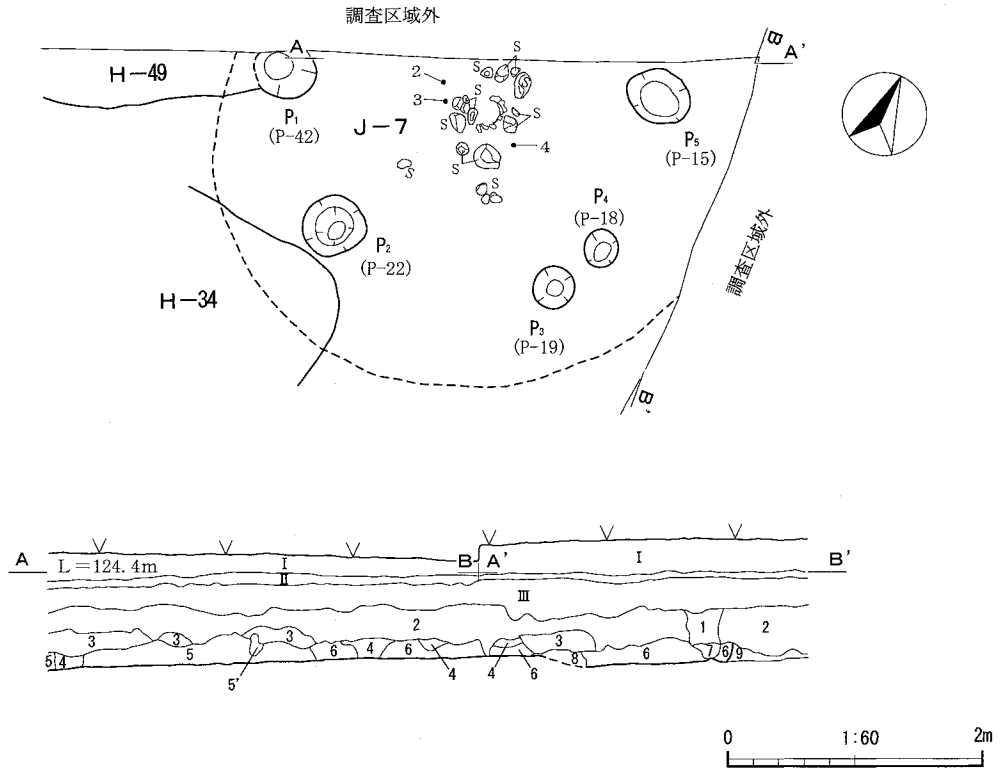
J－4号住居跡 (A-A')(B-B')
1 黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～10㎜を3%、炭化物を微量含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～20㎜を3%、炭化物を微量含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～10㎜を2%、炭化物を微量含む。
4 3に黄褐色土を多く、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～30㎜を3%含む。

J－4号住居跡 埋甕 (C-C')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を3%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を7%含む。
4 黄褐色土 締まり○ 粘性△
5 2に4を多く含む。

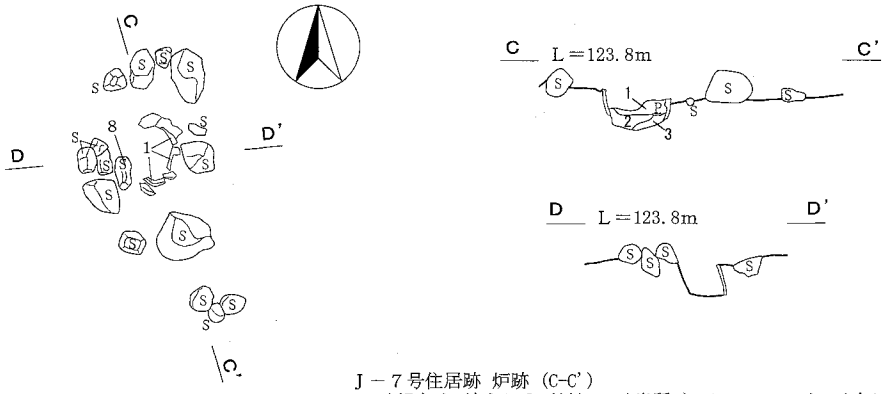


J－4号住居跡 炉跡 (D-D')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～5㎜を2%含む。
2 明赤褐色土 締まり○ 粘性△

第10図 J－4号住居跡

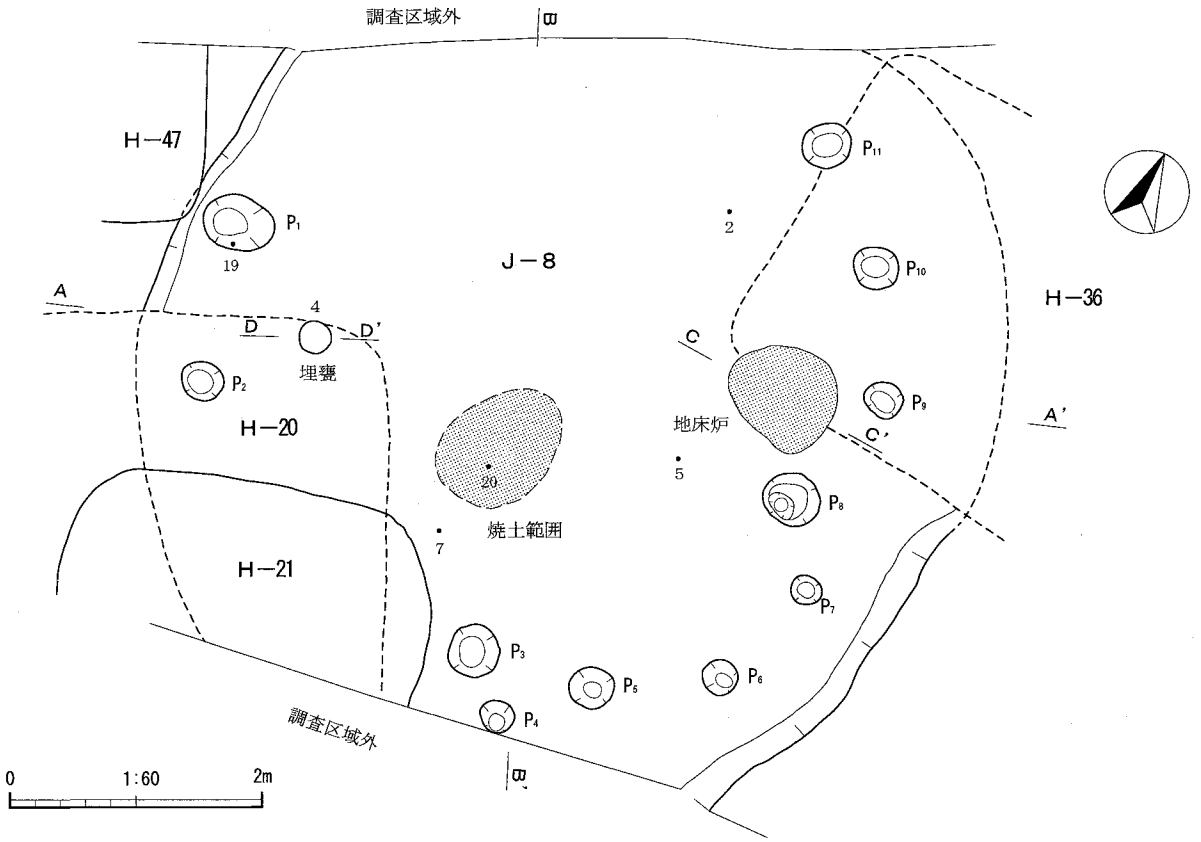


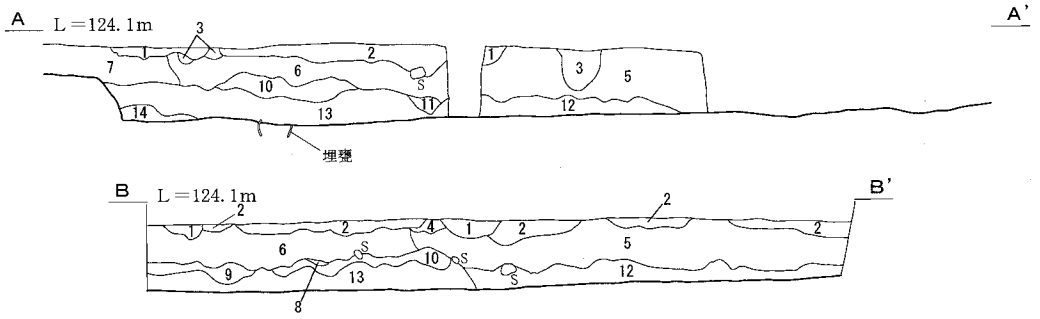
J－7号住居跡 (A-A')(B-B')
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を2%含む。
2 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
5 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。
5'にぶい黄褐色土 締まり× 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。(ﾓｸﾞﾗ穴)
6 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%含む。
7 暗褐色土 締まり× 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。
8 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を2%含む。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%含む。



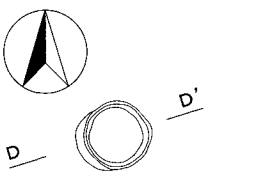
J－7号住居跡 炉跡 (C-C')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。
3 2にﾛｰﾑを多く含む。

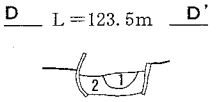
第11図 J－7号住居跡





J−8号住居跡 (A-A')(B-B')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1〜5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2〜5㎜を1%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1〜3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2〜5㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり× 粘性△ 白色軽石粒φ1〜3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2〜3㎜を1%含む。
4 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1〜5㎜を5%含む。
5 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1〜2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2〜30㎜を2%、炭化物を微量含む。
6 黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1〜5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2〜20㎜を3%含む。
7 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1〜5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2〜10㎜を1%含む。
8 黒褐色土 締まり△ 粘性× 砂を多く含む。砂質土。
9 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2〜20㎜を2%、6を10%含む。
10 6に焼土塊を1%含む。
11 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2〜10㎜を3%含む。
12 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2〜5㎜を2%、炭化物・焼土粒を少量含む。
13 褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2〜10㎜を3%含む。
14 褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2〜20㎜を5%含む。



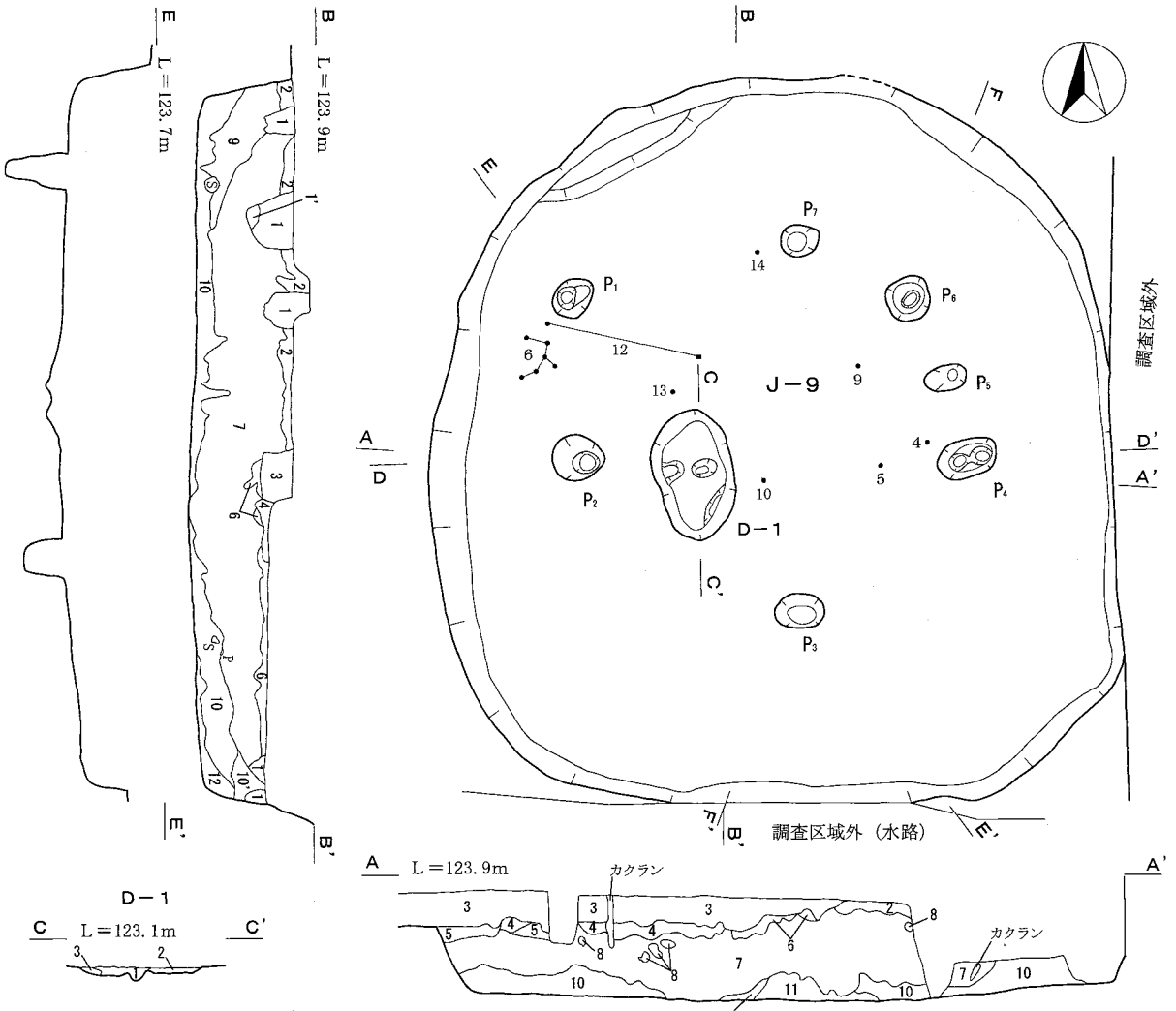


J−8号住居跡 炉跡 (C-C')
1 明赤褐色土 締まり○ 粘性×

J−8号住居跡 埋甕 (D-D')
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1〜3㎜を1%、炭化物を微量含む。
2 明黄褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1〜5㎜を2%含む。

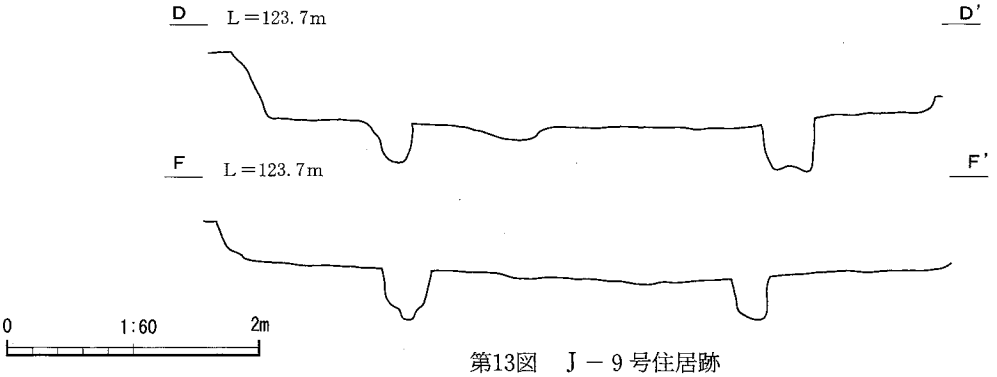
0 1:30 1m

第12図 J−8号住居跡

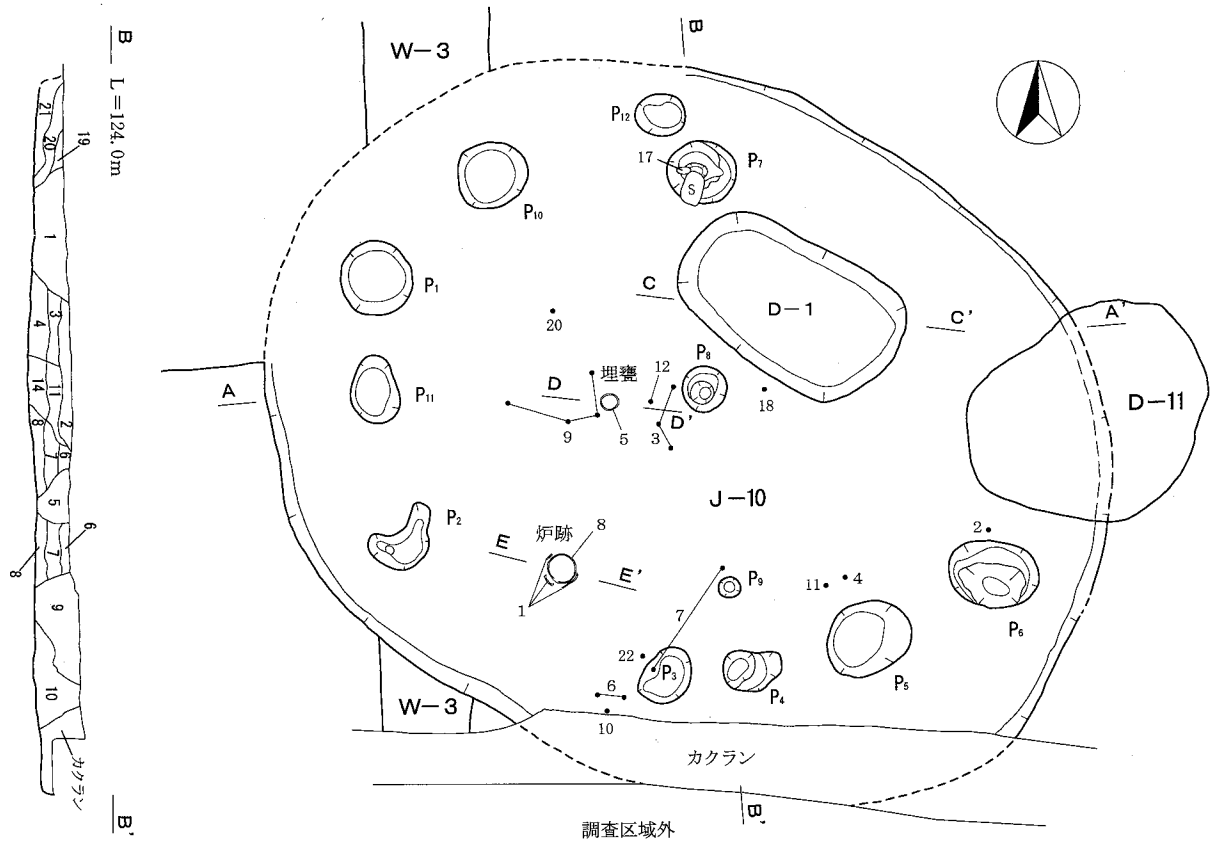


J－9号住居跡（A-A'）(B-B')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。砂質土。
1'黒褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を15%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、黒褐色土を10%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%、黒色土を2%含む。
5 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、黒色土を20%含む。
6 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%、暗褐色土を1%含む。
7 黒色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を7%含む。
8 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を2%含む。
9 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～30㎜を2%含む。
10 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を5%、7を10%含む。
10'9に赤褐色の酸化跡あり。
11 9に砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～100㎜を多く含む。
12 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～50㎜を多く含む。

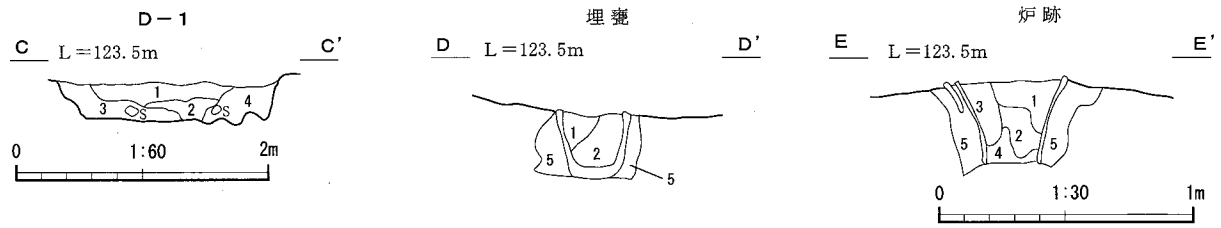
J－9号住居跡 D－1 (C-C')
1 黒色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～5㎜を3%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～3㎜を1%含む。
3 灰黄褐色土 締まり◎ 粘性× 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸ。



第13図 J－9号住居跡



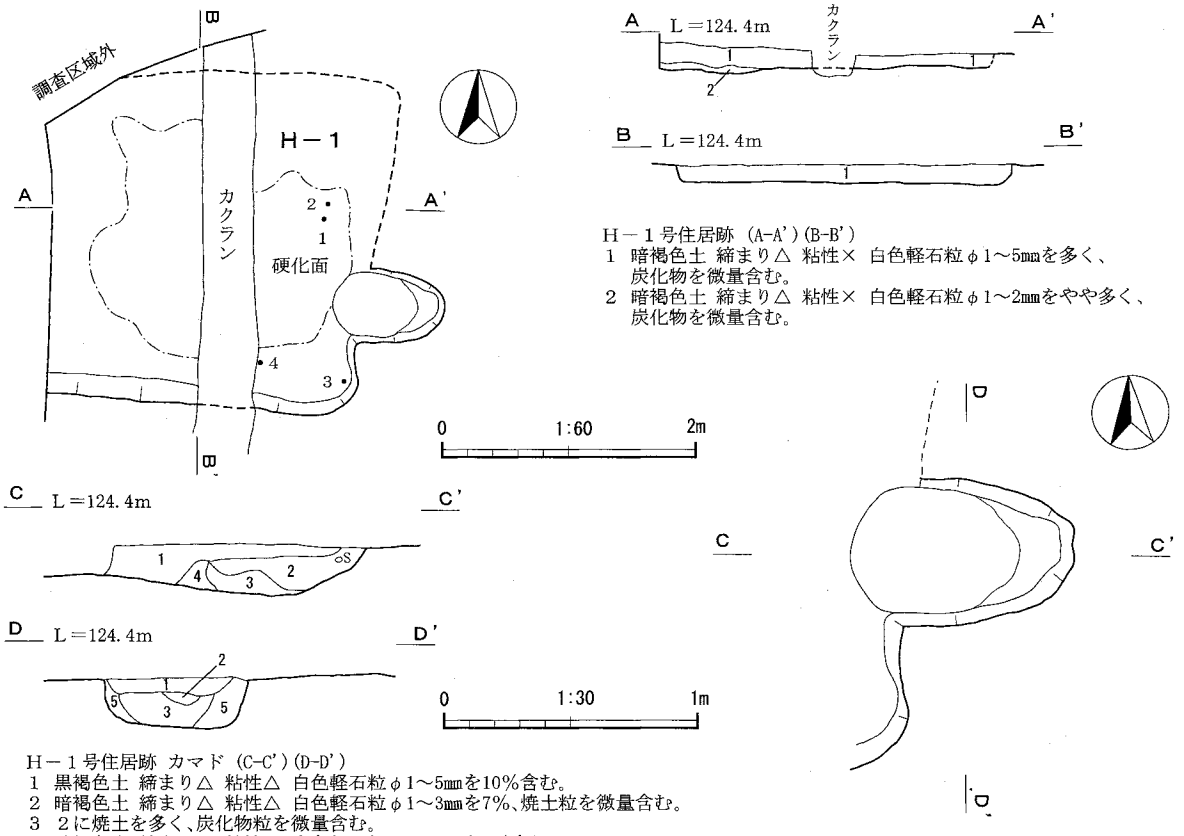
J－10号住居跡 (A-A')(B-B')
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%、焼土粒・炭化物を微量含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼土粒を1%含む。
3 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
6 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
7 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。
8 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%含む。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
10 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
11 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～5㎜を2%含む。
12 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%含む。
13 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～5㎜を2%含む。
14 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%、炭化物を少量含む。
15 14に砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を10%含む。
16 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
17 16にﾛｰﾑ含む。
18 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
19 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、粘土塊を多く含む。
20 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%含む。
21 褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。



J－10号住居跡 D-1 (C-C')
1 黒色土 締まり△ 粘性△ ﾛｰﾑ粒を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ ﾛｰﾑ粒を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%、1を5%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。

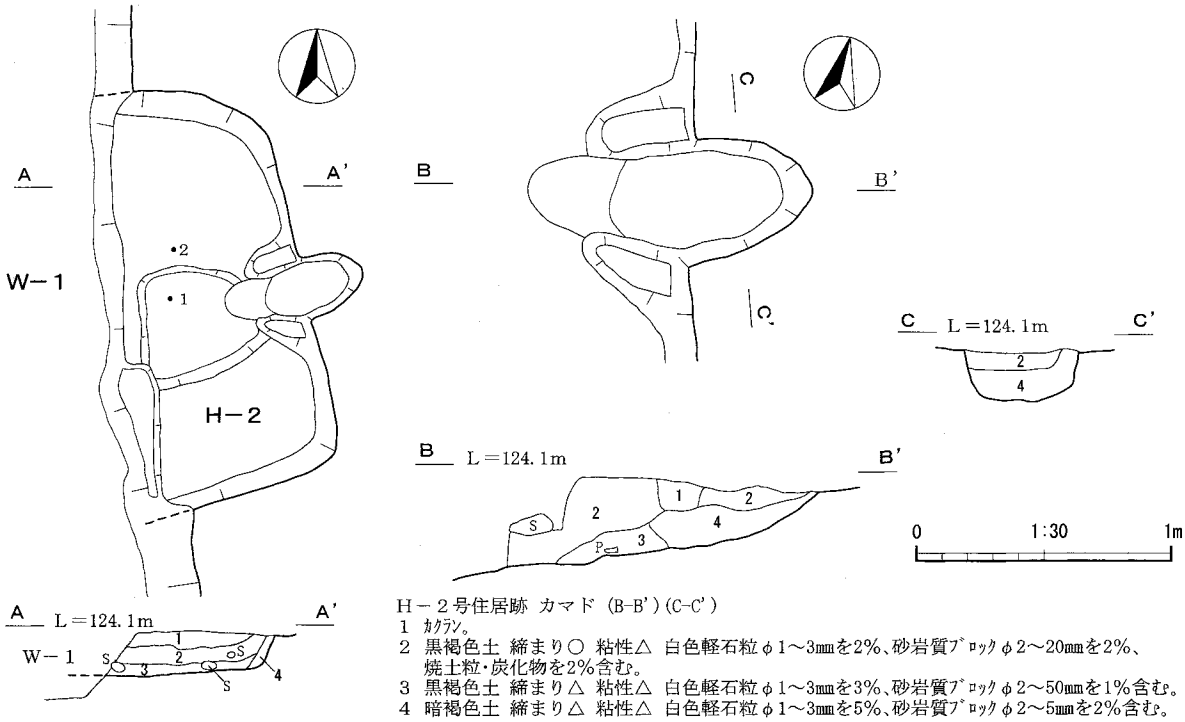
J－10号住居跡 埋甕・炉跡 (D-D')(E-E')
1 黒褐色土 締まり○ 粘性△ ﾛｰﾑ粒を微量含む。
2 1にﾛｰﾑ粒を2%含む。
3 黒褐色土 締まり× 粘性△ ﾛｰﾑを10%、炭化物を微量含む。
4 ﾛｰﾑ塊。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。

第14図 J－10号住居跡



H－１号住居跡（A-A'）(B-B')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を多く、炭化物を微量含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～2㎜をやや多く、炭化物を微量含む。

H－１号住居跡 カマド（C-C'）(D-D')
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を7%、焼土粒を微量含む。
3 2に焼土を多く、炭化物粒を微量含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、炭化物粒を微量含む。

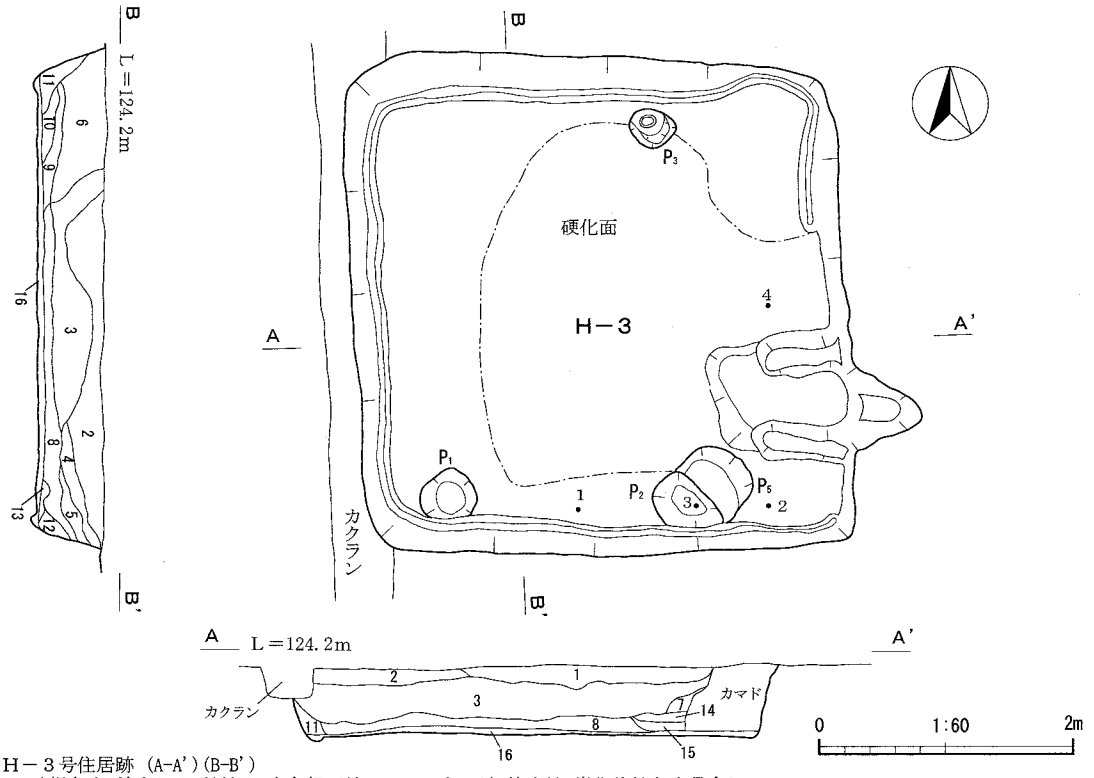


H－２号住居跡 カマド（B-B'）(C-C')
1 ｶｸﾗﾝ。
2 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%、焼土粒・炭化物を2%含む。
3 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～50㎜を1%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。

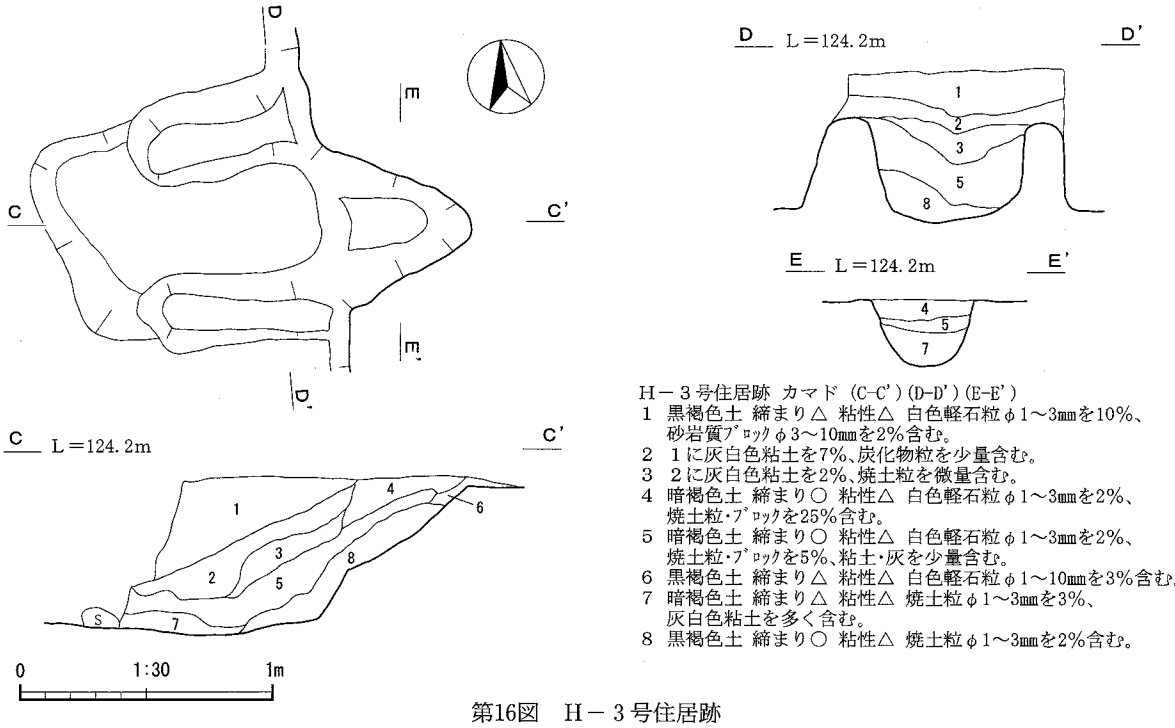
H－２号住居跡（A-A'）
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、焼土粒・粘土を少量含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ5～20㎜を2%、黒色土を10%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、黒色土を3%、自然石φ100㎜を含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ5～20㎜を3%含む。

0 1:60 2m

第15図 H－１・２号住居跡

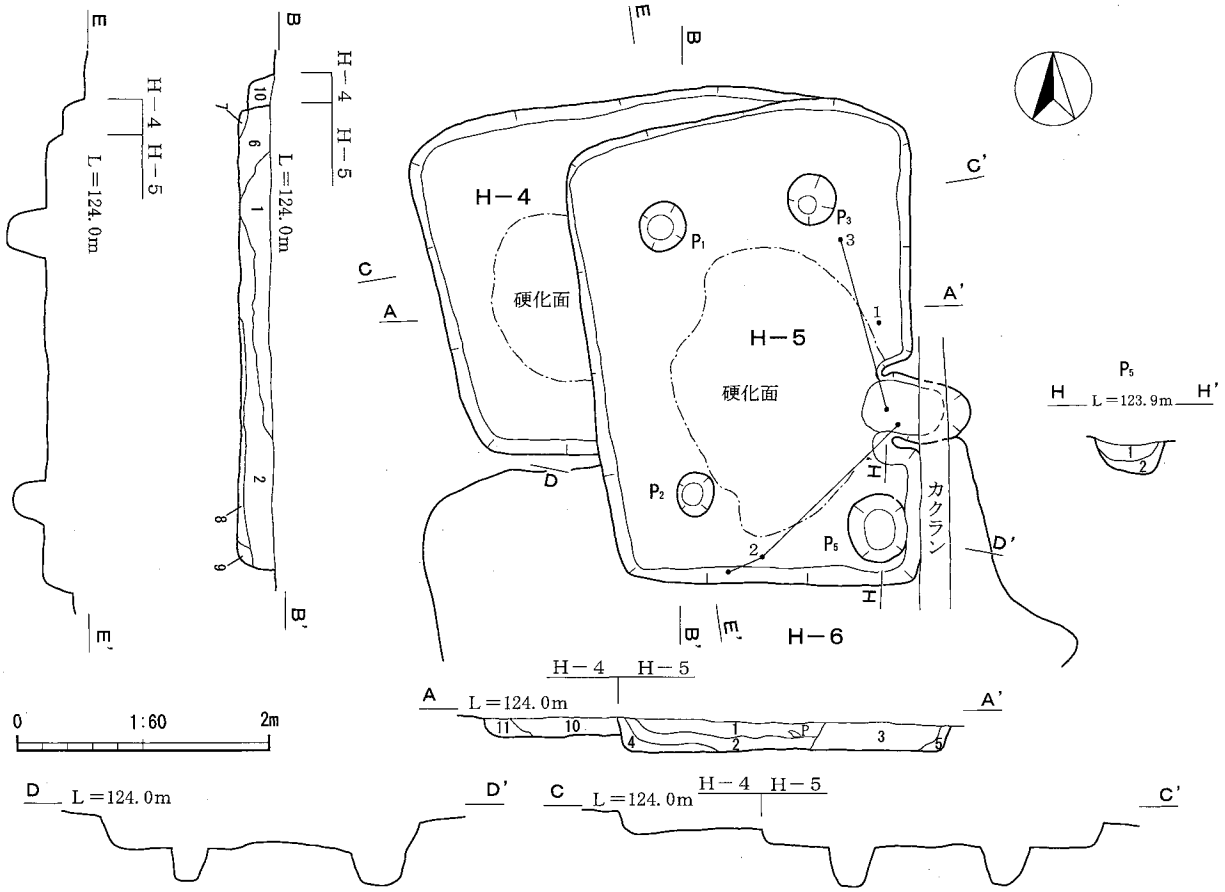


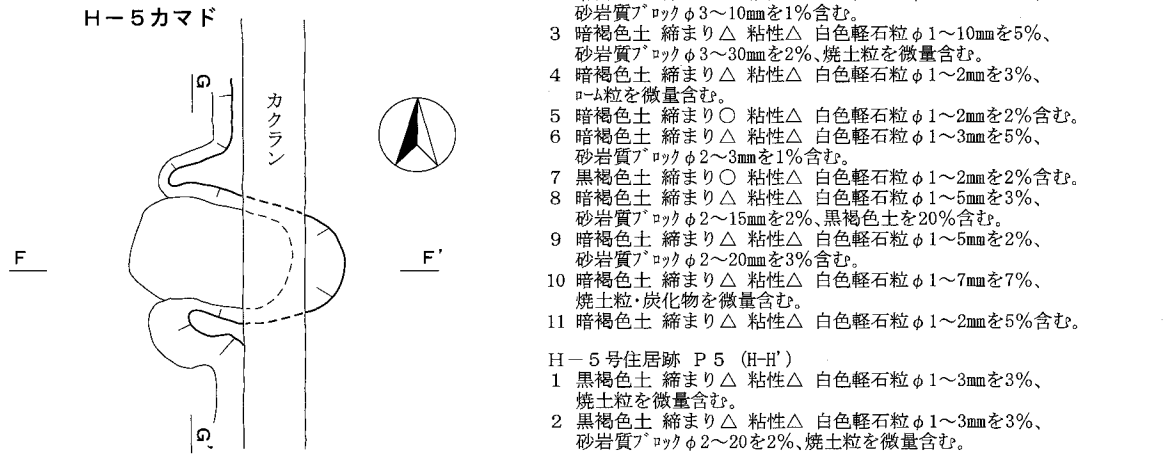
H－３号住居跡 (A-A')(B-B')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、焼土粒・炭化物粒を少量含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～10㎜を7%、焼土粒・炭化物粒を少量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、焼土粒を微量含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%、焼土粒を微量含む。
7 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を5%、焼土粒・炭化物を少量含む。
8 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜・焼土粒・炭化物粒を少量含む。
9 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
10 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼土粒を微量含む。
11 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%含む。
12 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、焼土粒を1%含む。
13 12に黒褐色土を15%含む。
14 7に焼土粒・炭化物・灰・粘土・砂岩質ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
15 8に焼土粒・炭化物を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ5～20㎜を1%含む。
16 暗褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、焼土粒を微量含む。



H－３号住居跡 カマド (C-C')(D-D')(E-E')
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～10㎜を2%含む。
2 1に灰白色粘土を7%、炭化物粒を少量含む。
3 2に灰白色粘土を2%、焼土粒を微量含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒・ﾌﾞﾛｯｸを25%含む。
5 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒・ﾌﾞﾛｯｸを5%、粘土・灰を少量含む。
6 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～10㎜を3%含む。
7 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 焼土粒φ1～3㎜を3%、灰白色粘土を多く含む。
8 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 焼土粒φ1～3㎜を2%含む。

第16図 H－３号住居跡



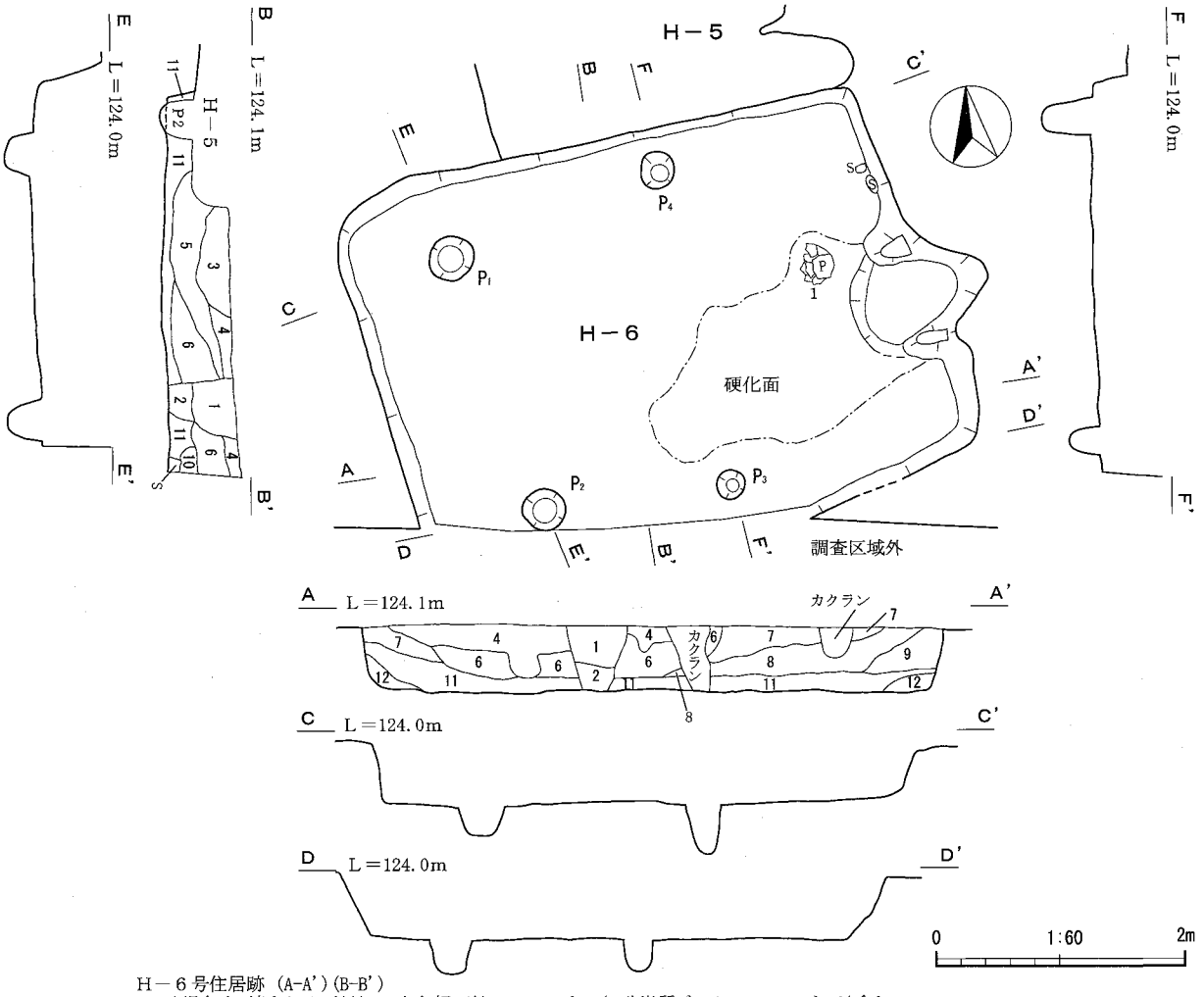


H－４・５号住居跡 (A-A')(B-B')
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、
砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～10㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～10㎜を5%、
砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～30㎜を2%、焼土粒を微量含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、
ﾛｰﾑ粒を微量含む。
5 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、
砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。
7 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%含む。
8 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、
砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%、黒褐色土を20%含む。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、
砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%含む。
10 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～7㎜を7%、
焼土粒・炭化物を微量含む。
11 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を5%含む。

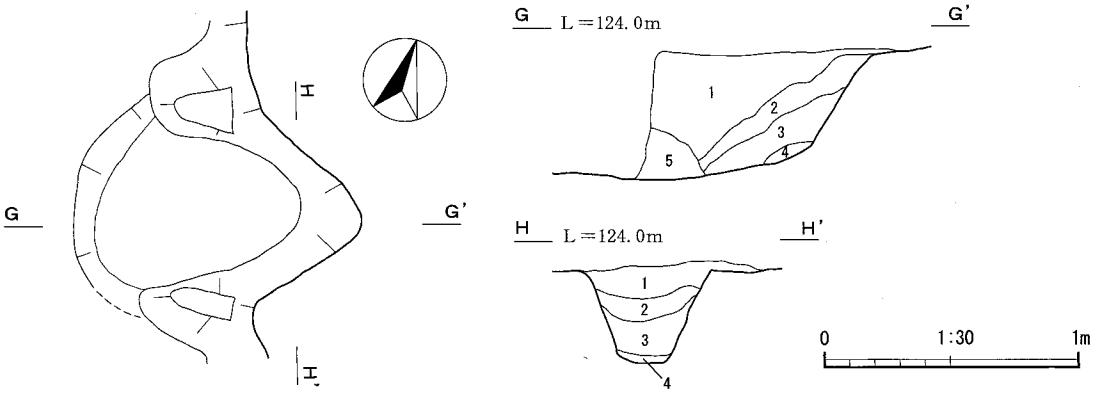
H－５号住居跡 Ｐ５ (H-H')
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、
焼土粒を微量含む。
2 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、
砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20を2%、焼土粒を微量含む。

H－５号住居跡 カマド (F-F')(G-G')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%含む。
2 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%、
焼土粒を微量含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、炭化物粒を微量含む。
4 3に粘土塊を1%含む。

第17図 Ｈ－４・５号住居跡

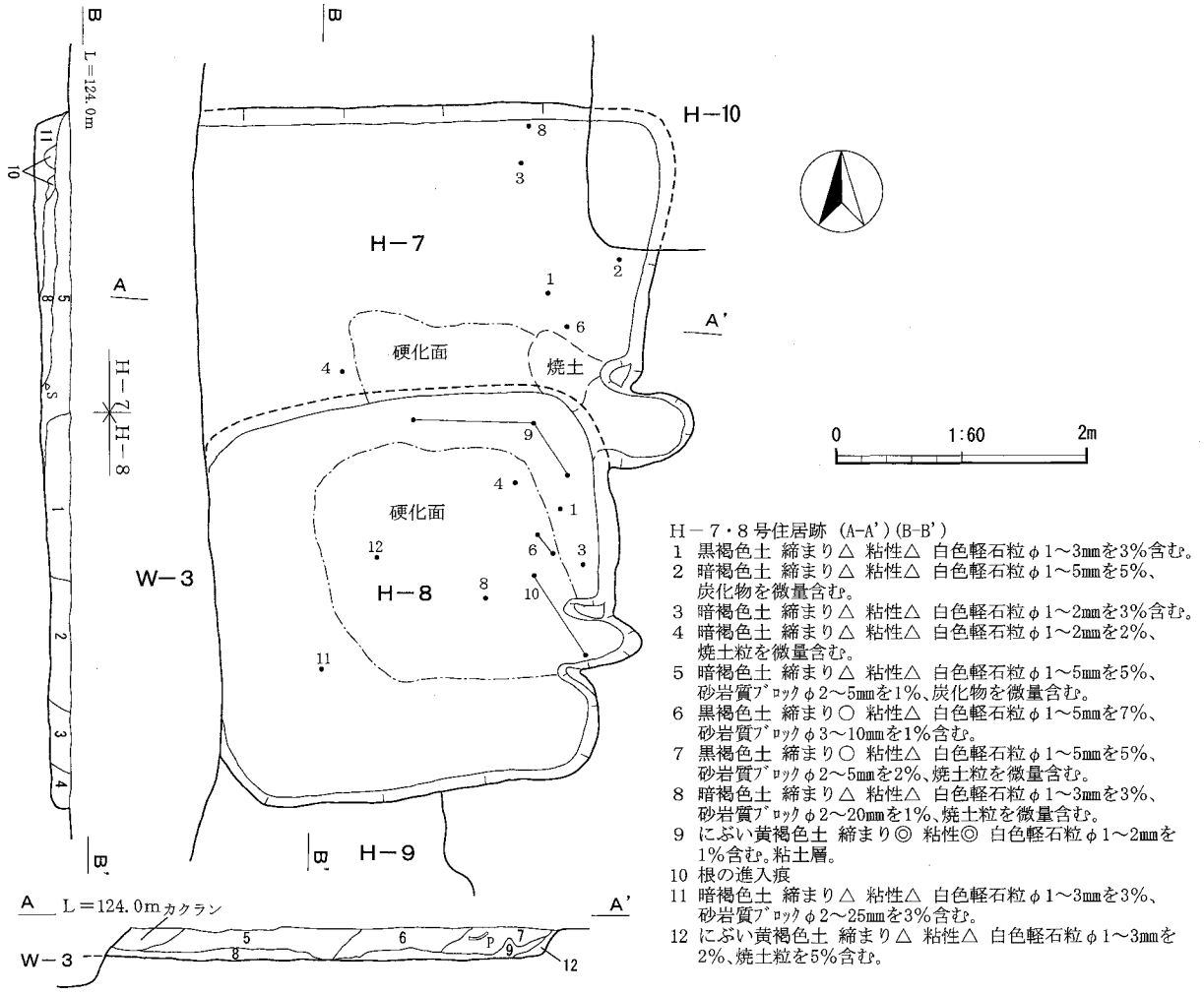


H－6号住居跡（A-A'）(B-B')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～15㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～15㎜を3%含む。
3 灰黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%含む。
4 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%含む。
6 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、ﾛｰﾑを2%含む。
5 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を10%含む。
7 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。
8 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%含む。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を1%、ﾛｰﾑを少量含む。
10 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、ﾛｰﾑを少量含む。
11 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%含む。
12 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を3%、ﾛｰﾑを少量含む。

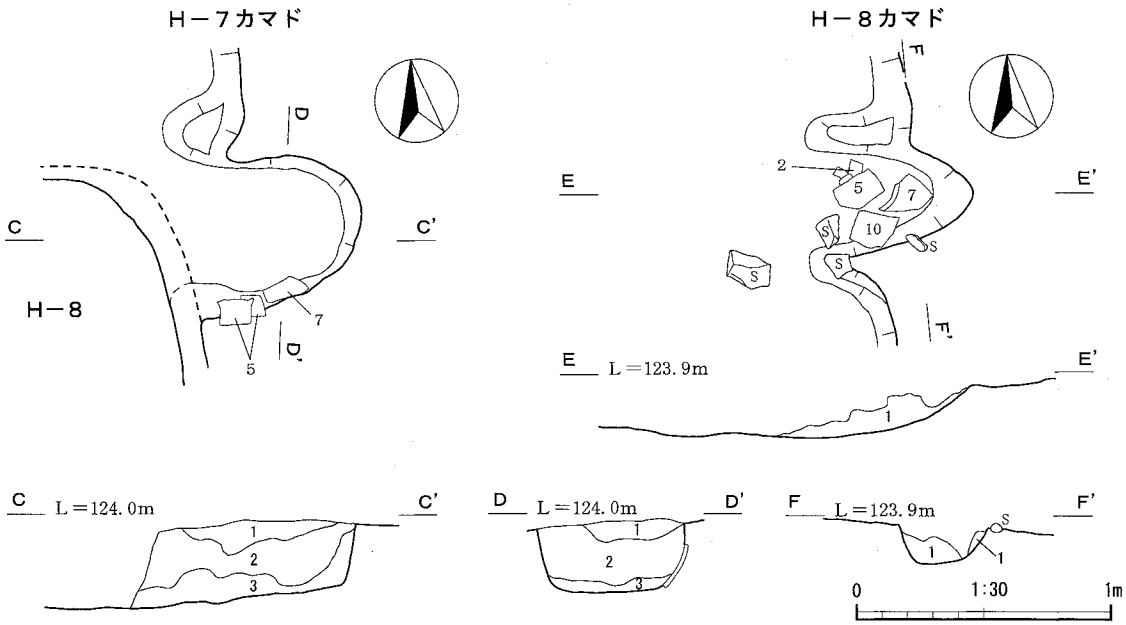


H－6号住居跡 カマド（G-G'）(H-H')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%、焼土粒を少量含む。
3 2に焼土粒・ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
4 2に砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%、灰白色の灰を多く含む。
5 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。

第18図 H－6号住居跡



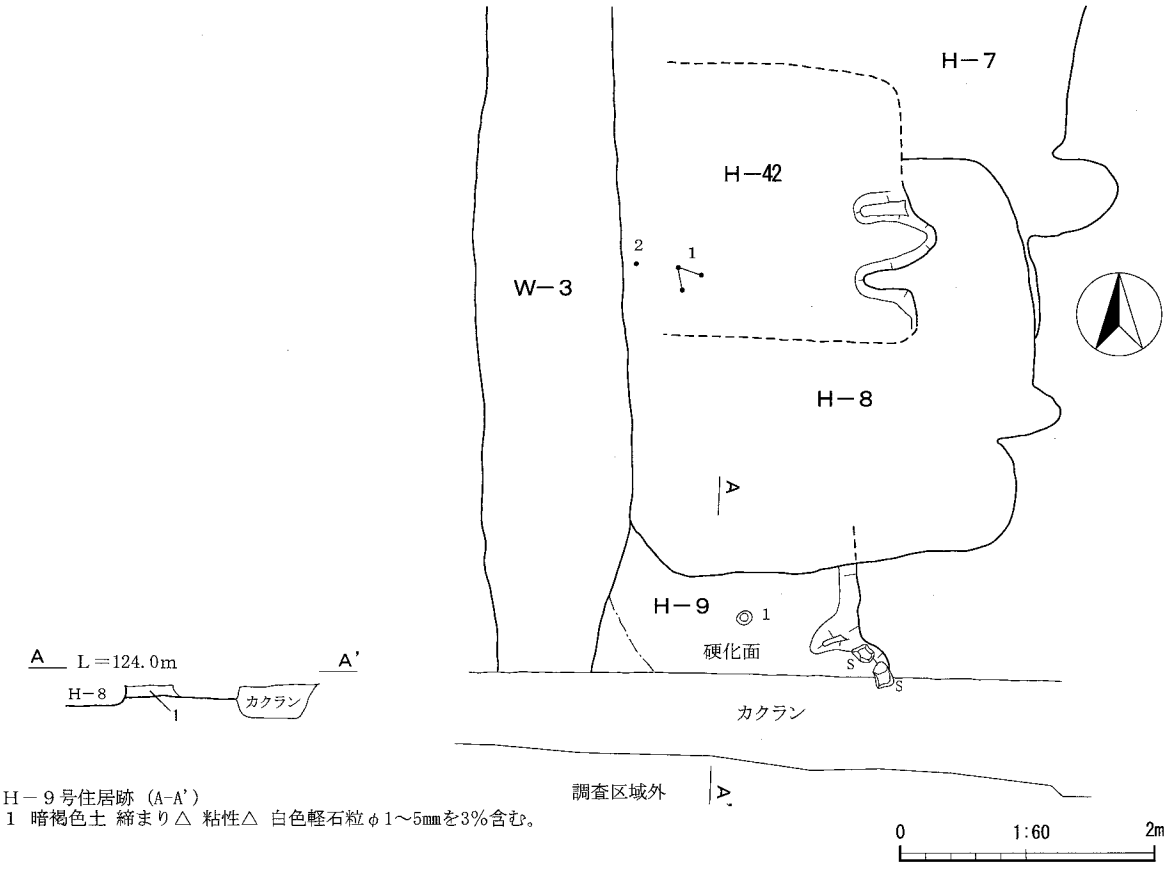
H－７・８号住居跡 (A-A')(B-B')
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、炭化物を微量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、焼土粒を微量含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%、炭化物を微量含む。
6 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～10㎜を1%含む。
7 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%、焼土粒を微量含む。
8 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%、焼土粒を微量含む。
9 にぶい黄褐色土 締まり◎ 粘性◎ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%含む。粘土層。
10 根の進入痕
11 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～25㎜を3%含む。
12 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒を5%含む。



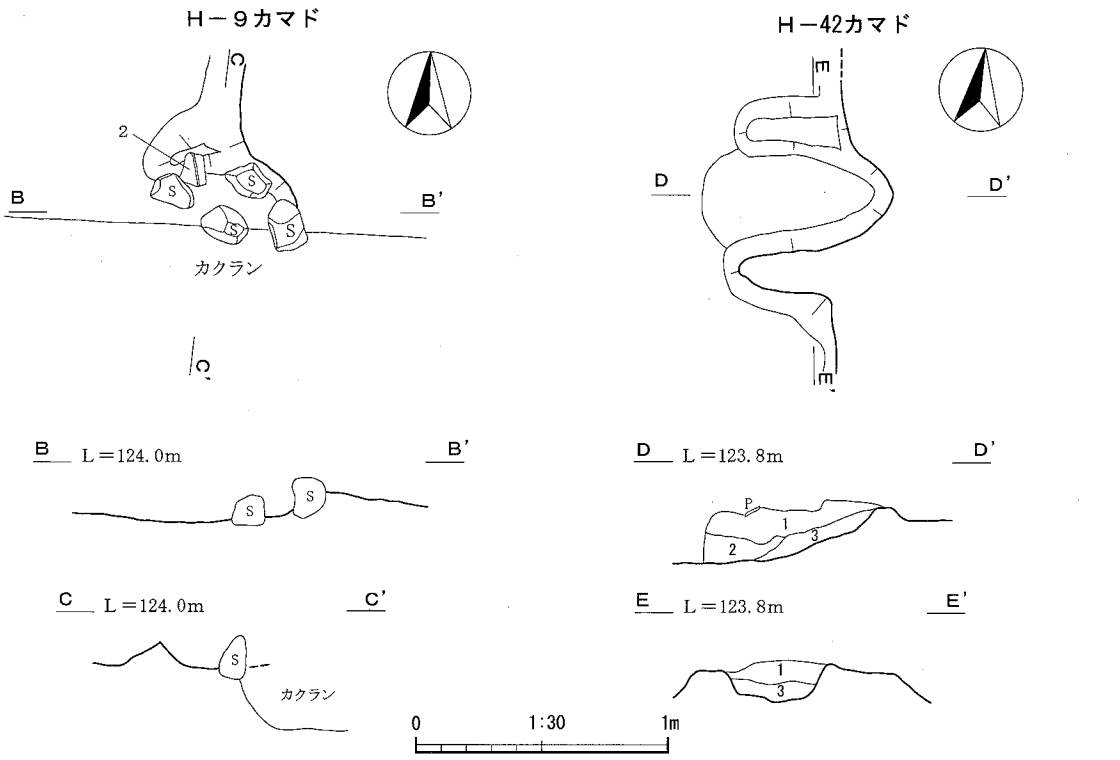
H－７号住居跡 カマド (C-C')(D-D')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、焼土粒・炭化物粒を1%、灰白色粘土を少量含む。
2 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、焼土粒・炭化物粒を2%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土粒・炭化物粒を1%、灰を多く含む。

H－８号住居跡 カマド (E-E')(F-F')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土・灰を多く含む。

第19図　H－７・８号住居跡

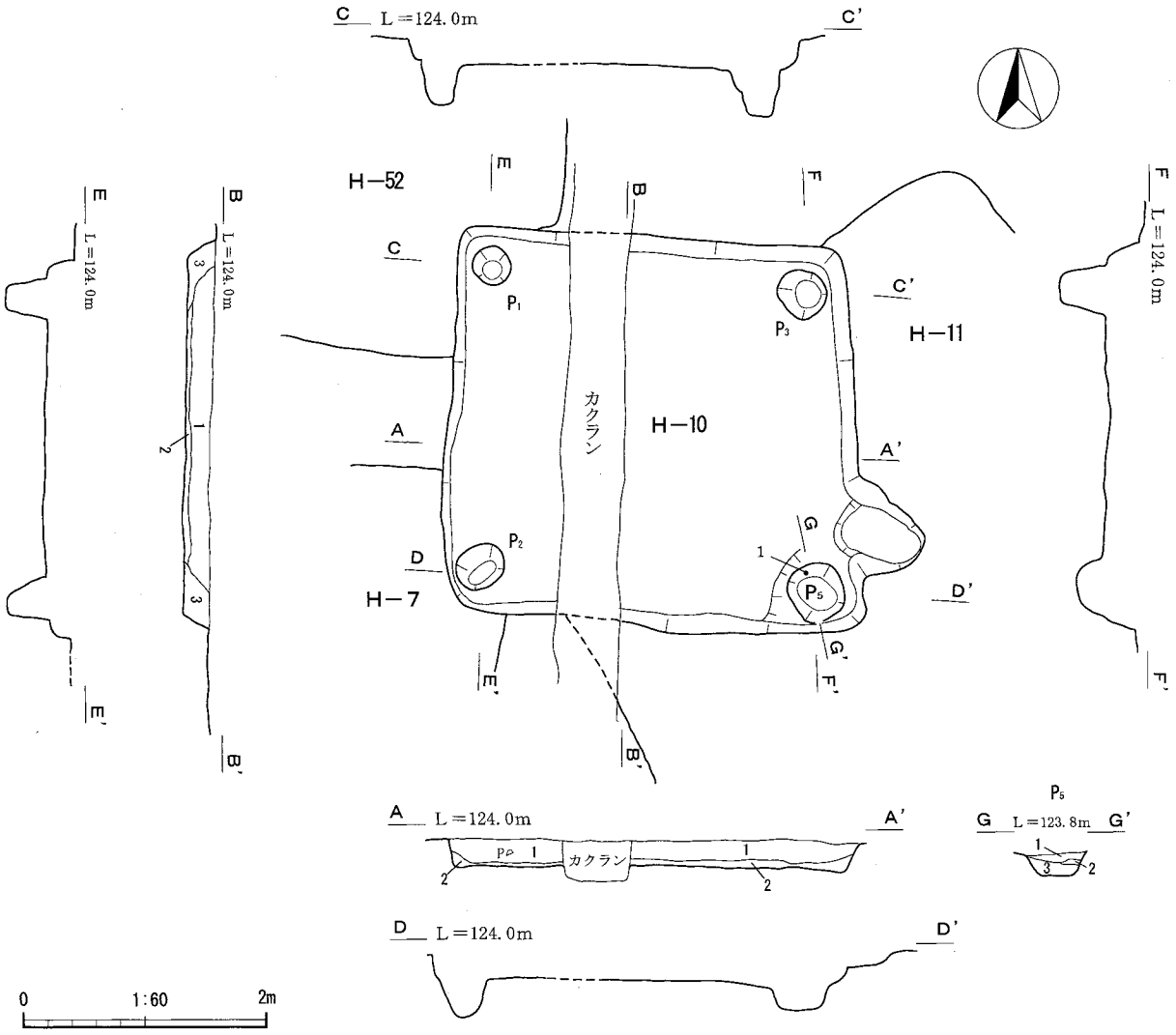


H－９号住居跡（A-A'）
1　暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%含む。



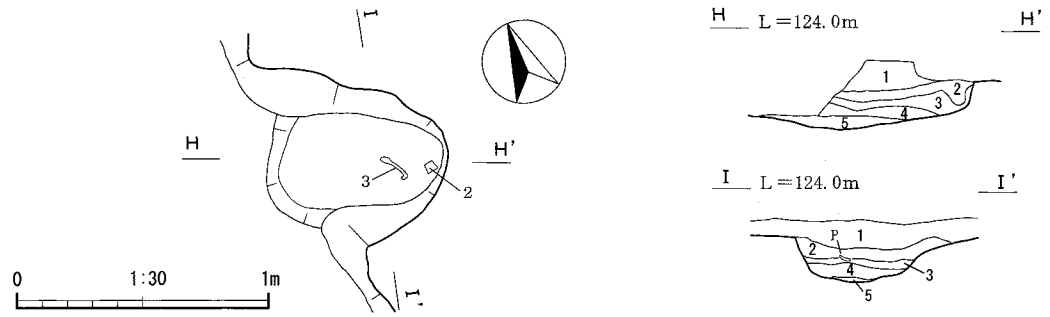
H－42号住居跡 カマド（D-D'）(E-E'）
1　暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を5%、焼土粒・粘土粒を多く含む。
2　黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、焼土粒を微量、炭化物を少量含む。
3　黒色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、灰を少量含む。

第20図　H－９・42号住居跡



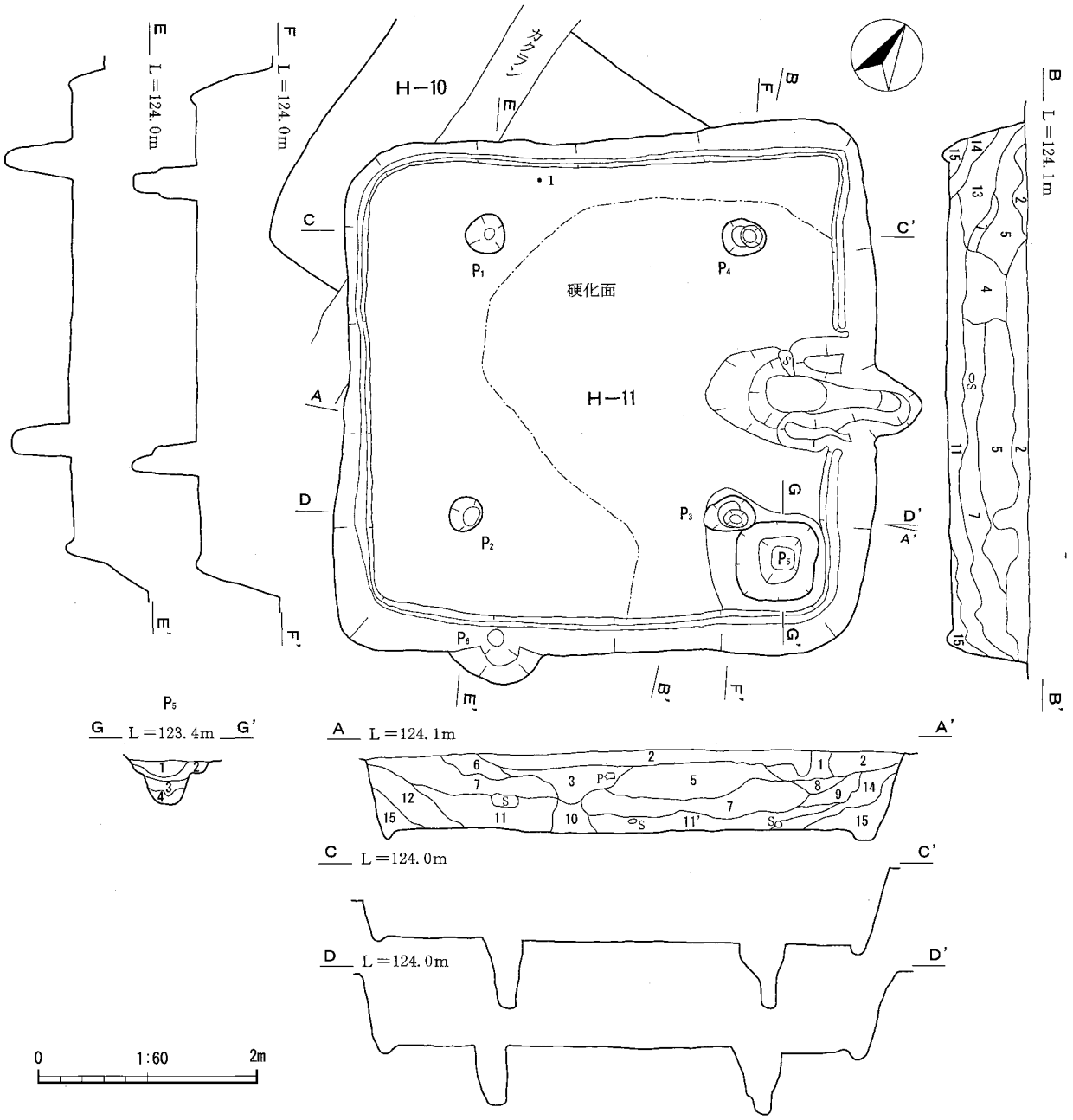
H－10号住居跡 (A-A')(B-B')
1 黒褐色土 締まり× 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を5%含む。砂質土。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を3%含む。
3 黒褐色土 締まり× 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、ﾛｰﾑ粒を少量含む。

H－10号住居跡 P５ (G-G')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、粘土粒φ1～5㎜を1%含む。
2 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、焼土粒を微量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%含む。



H－10号住居跡 カマド (H-H')(I-I')
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～2㎜を2%、炭化物粒を微量含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、焼土粒を微量含む。
3 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、焼土粒を少量含む。灰層。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、焼土粒を少量含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、焼土粒を微量含む。

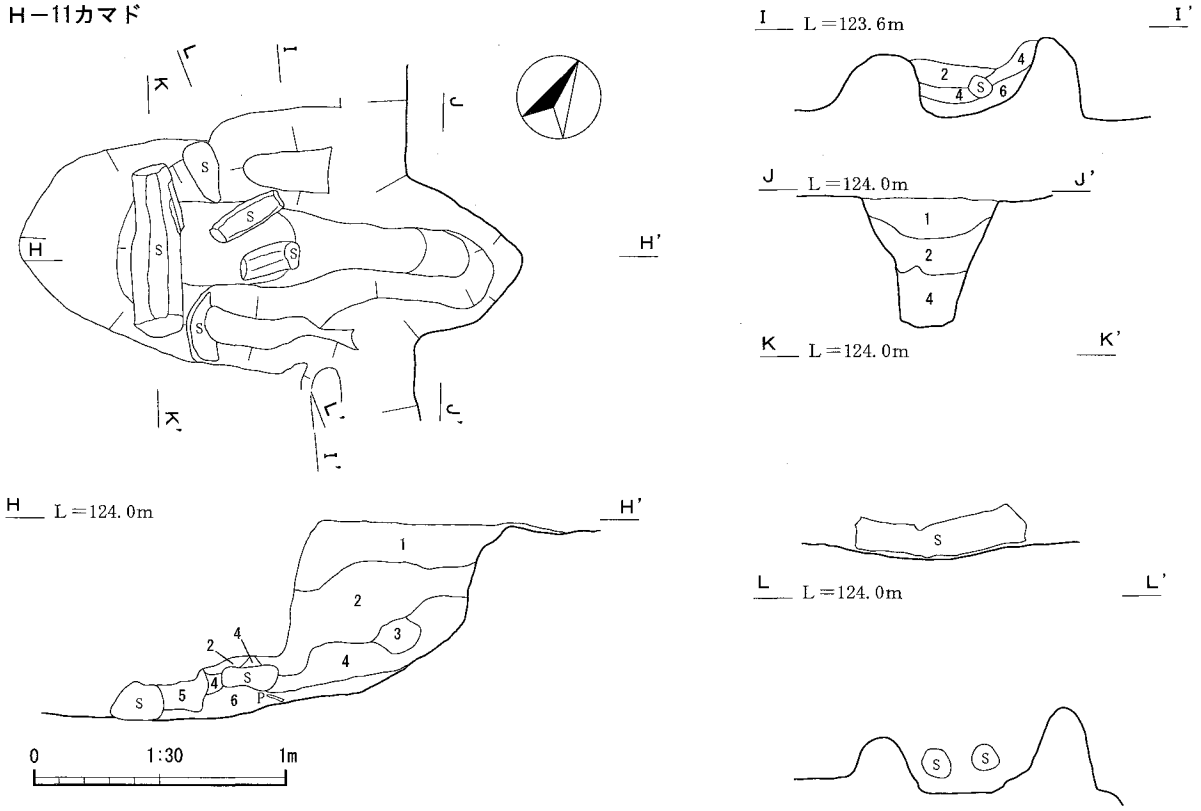
第21図 H－10号住居跡



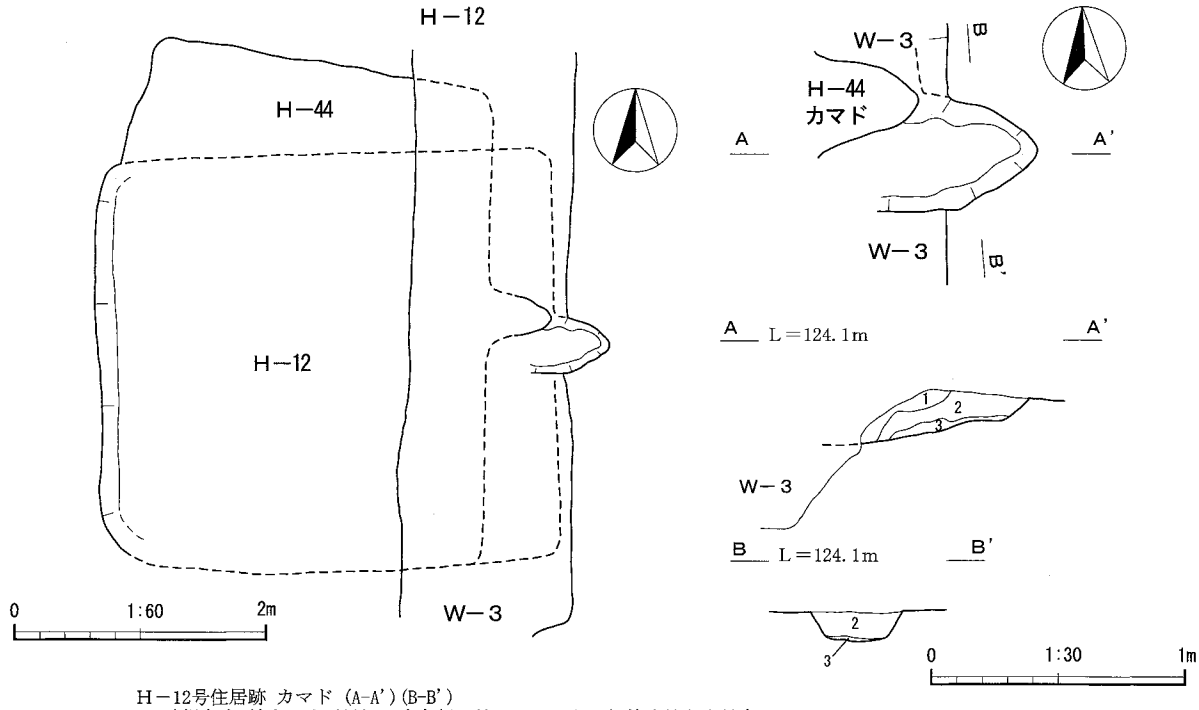
H－11号住居跡 (A-A')(B-B')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を10%、黒色土を3%含む。
2 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、炭化物粒を微量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を7%含む。
4 灰黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ5～10㎜を3%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～10㎜を7%、ﾛｰﾑ粒を3%含む。
6 2に砂岩質ﾌﾞﾛｯｸを1%含む。
7 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ5～20㎜を10%、黒色土を2%含む。
8 1に黒色土を20%含む。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～20㎜を1%含む。砂質土。
10 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%含む。
11 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
11' 11に焼土粒を2%、砂をやや多く含む。
12 灰黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%含む。
13 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～20㎜を3%含む。
14 9に黒色土を2%含む。
15 灰黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、ﾛｰﾑ粒を少量含む。

H－11号住居跡 P5 (G-G')
1 にぶい黄褐色土 締まり× 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%、焼土粒を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり× 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり× 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～10㎜を2%含む。
4 にぶい黄褐色土 締まり× 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。

第22図　H－11号住居跡

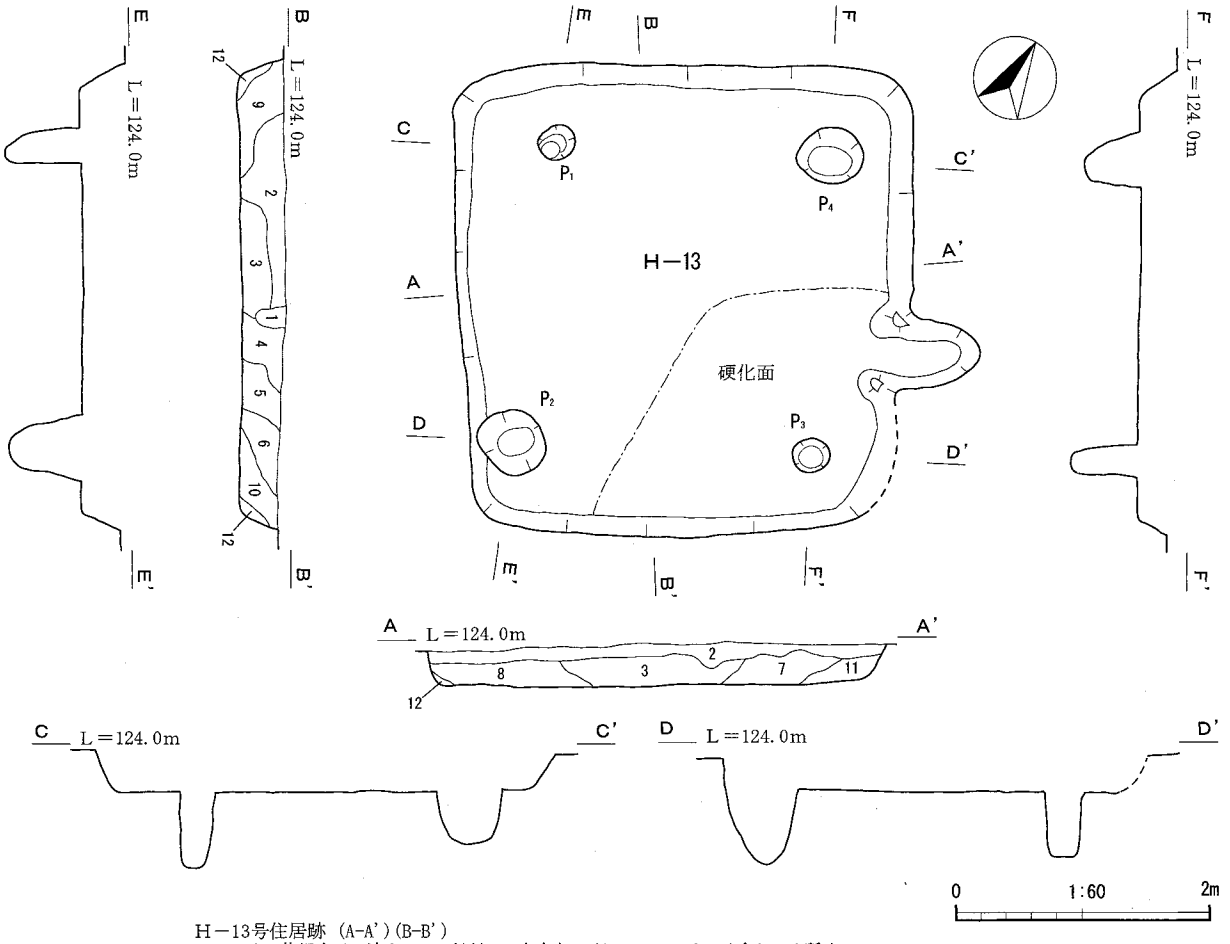


H－11号住居跡 カマド (H-H')(I-I')(J-J')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%、焼土粒を少量含む。
2 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%、焼土粒を3%含む。
3 褐色 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ2～10㎜を1%、焼土粒を10%含む。
4 褐灰色土 締まり○ 粘性× 焼土粒・ﾌﾞﾛｯｸを25%含む。
5 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 焼土粒を10%、炭化物を少量、黒色灰を30%含む。
6 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%、炭化物を少量含む。

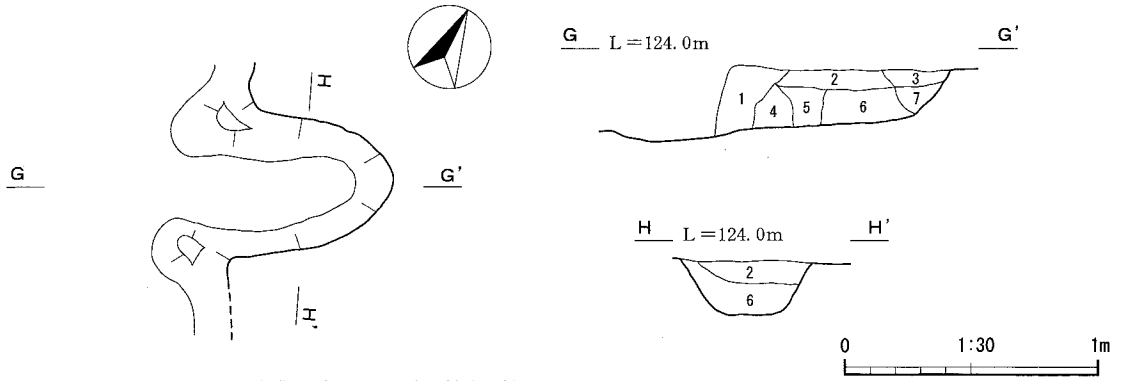


H－12号住居跡 カマド (A-A')(B-B')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、焼土粒を少量含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、焼土粒を多く含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土粒を多く、炭化物を少量含む。

第23図 H－11・12号住居跡

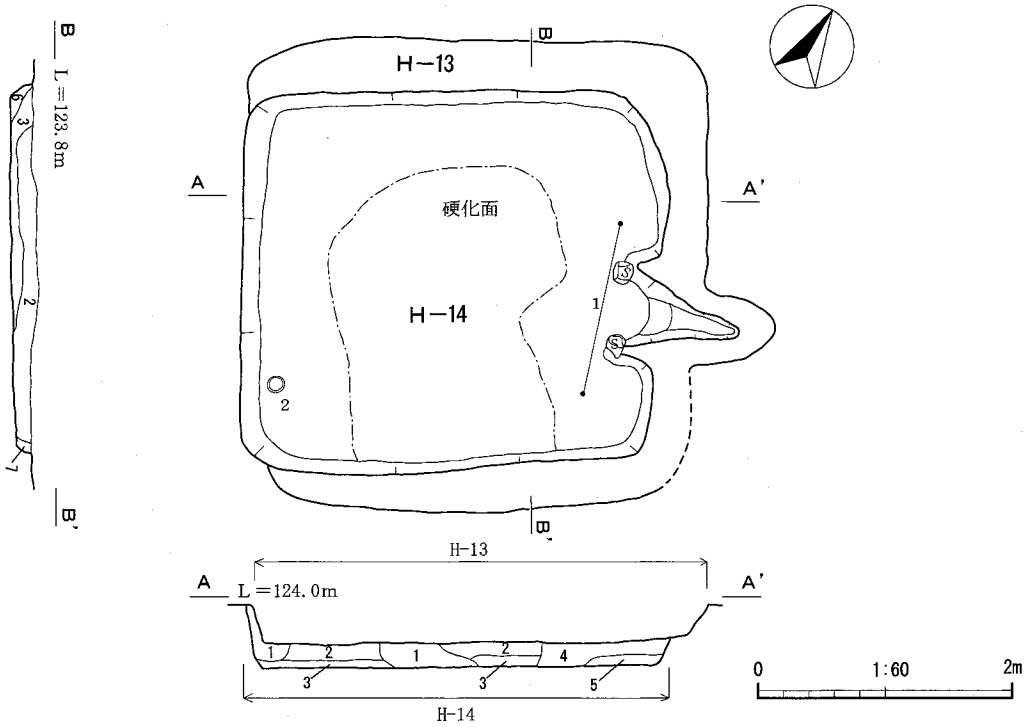


H－13号住居跡 (A-A')(B-B')
1 にぶい黄褐色土 締まり× 粘性× 白色軽石粒φ1～2㎜を3%含む。砂質土。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を10%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、ﾛｰﾑ粒を少量含む。
4 暗褐色土 締まり× 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を5%含む。砂質土。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、ﾛｰﾑ粒を少量含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、ﾛｰﾑ粒を少量含む。
7 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
8 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
9 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ30㎜を少量含む。
10 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
11 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を7%含む。
12 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を7%含む。

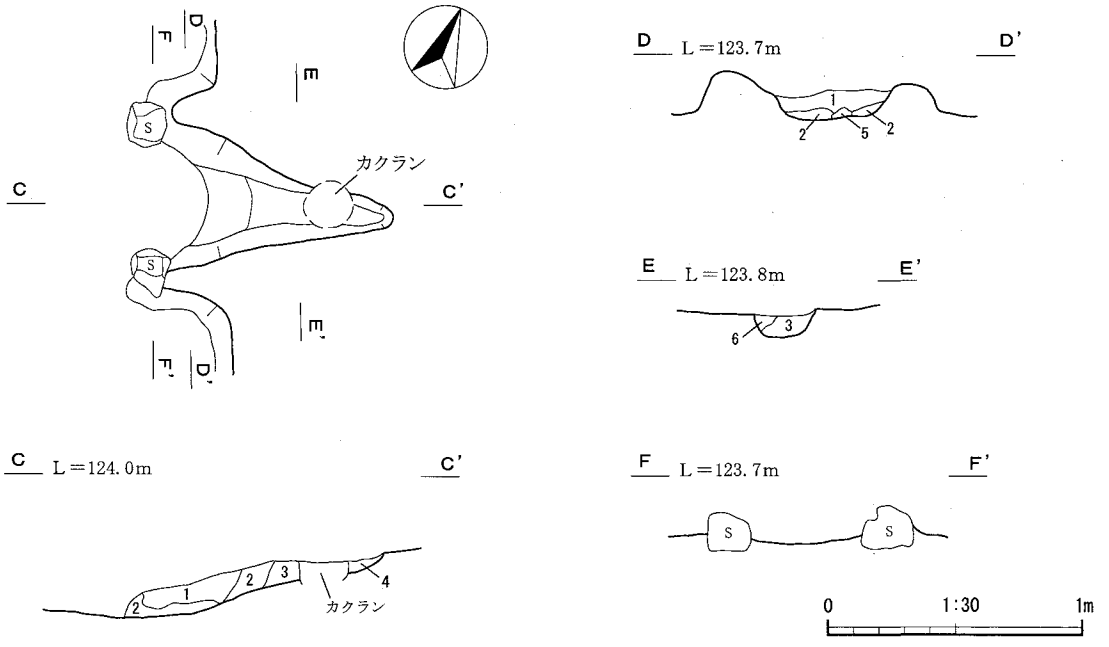


H－13号住居跡 カマド (G-G')(H-H')
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼土粒を多く、粘土を少量含む。
5 6に黒褐色土を5%含む。締まり△ 粘性△
6 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、焼土粒を微量含む。
7 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%含む。

第24図 H－13号住居跡

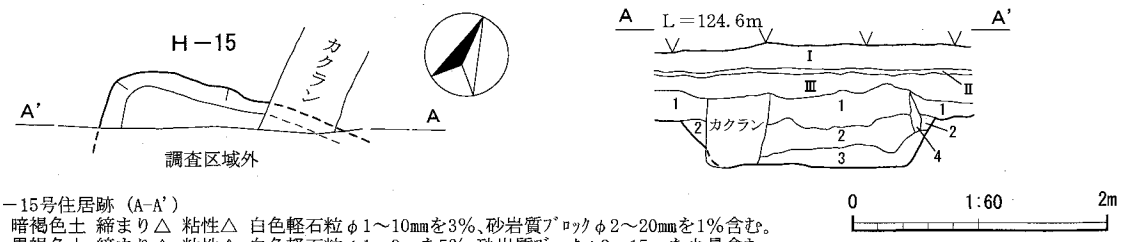


H－14号住居跡 (A-A')(B-B')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%、黒色土を2%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を3%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、炭化物・粘土を少量含む。
5 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を1%、粘土を少量含む。
6 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
7 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%含む。

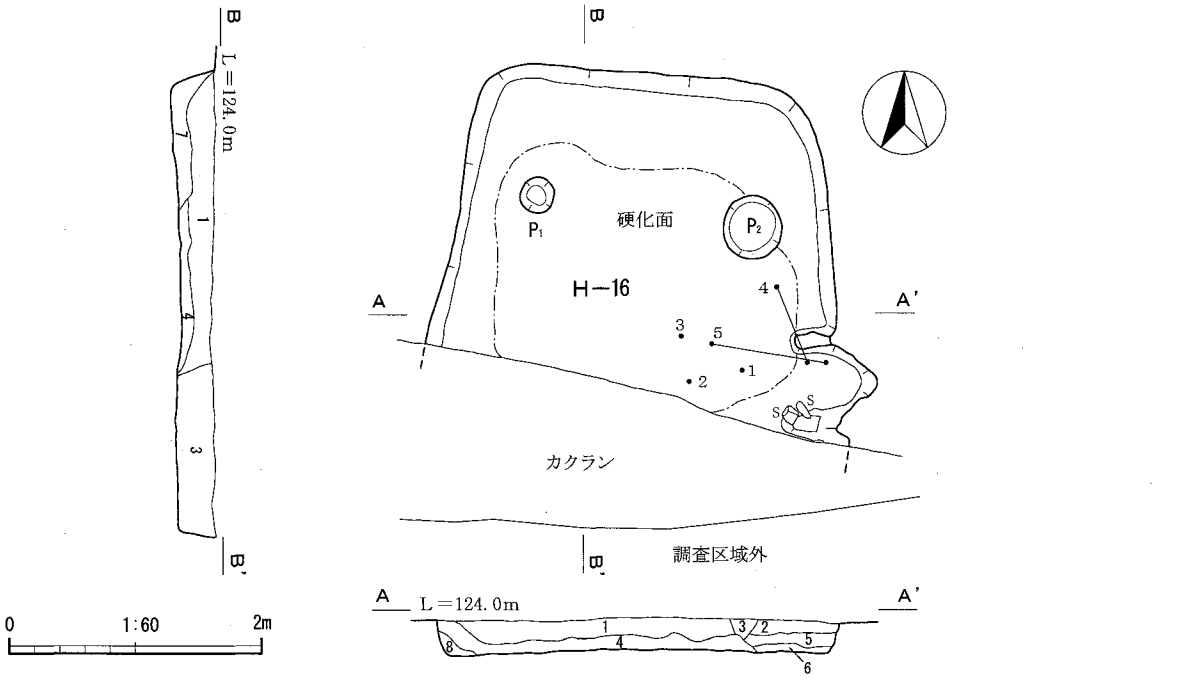


H－14号住居跡 カマド (C-C')(D-D')(E-E')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、焼土粒を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 焼土粒・焼土塊・粘土を多く含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、焼土粒を微量、粘土を少量含む。
4 暗褐色土 締まり× 粘性× 白色軽石粒φ1㎜を微量含む。
5 明赤褐色土 焼土塊。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土粒を少量含む。

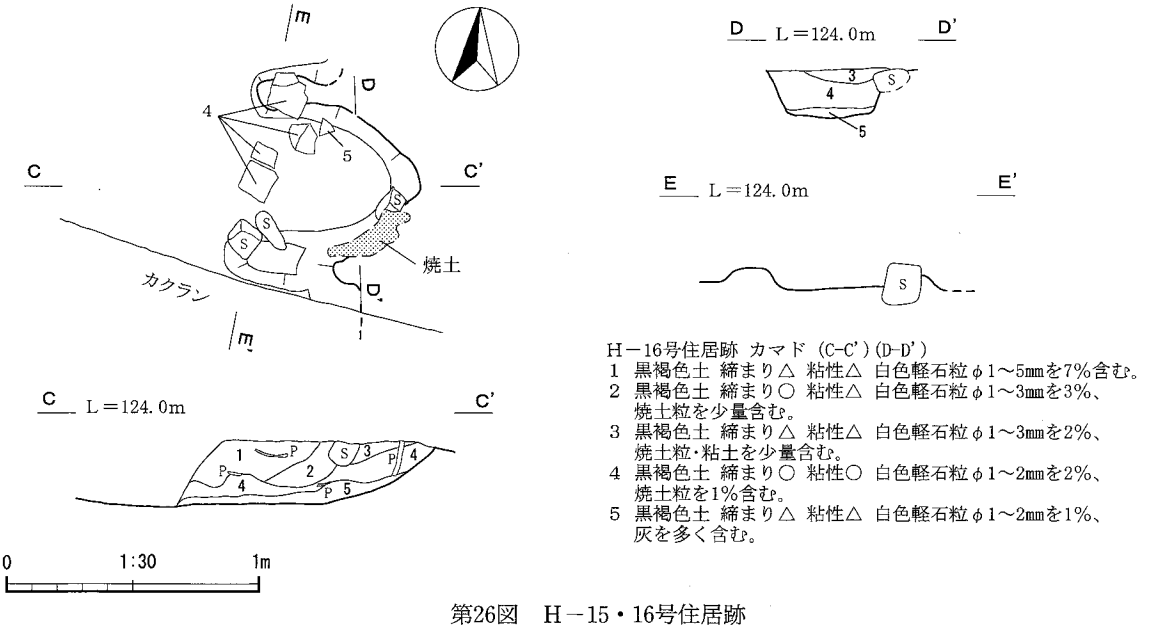
第25図　H－14号住居跡



H－15号住居跡（A-A'）
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～10㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%含む。
2 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を少量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～10㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
4 根の進入痕

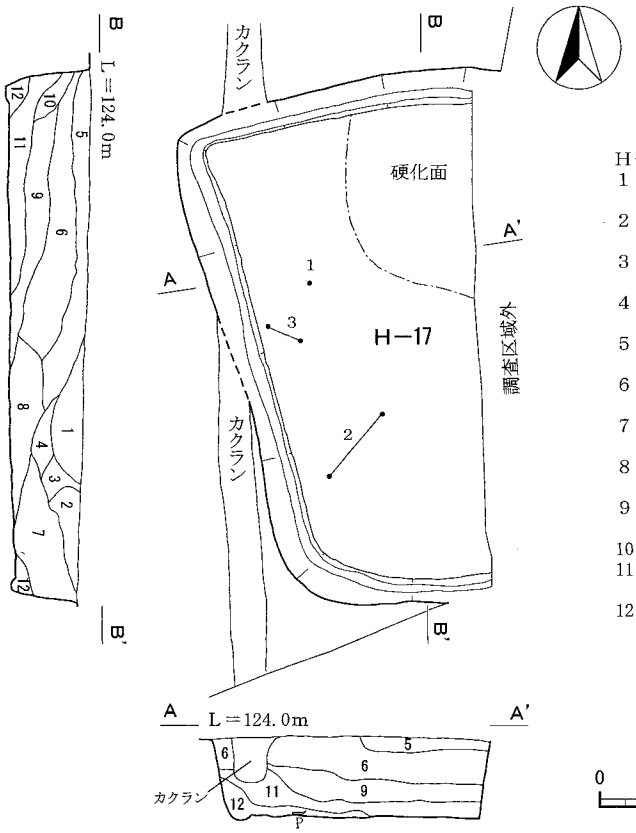


H－16号住居跡（A-A'）(B-B')
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を少量含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土粒を微量含む。
3 ｶｸﾗﾝ。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
5 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒・炭化物粒を少量、粘土を微量含む。
6 黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土粒・炭化物粒を3%含む。
7 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%含む。
8 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%含む。

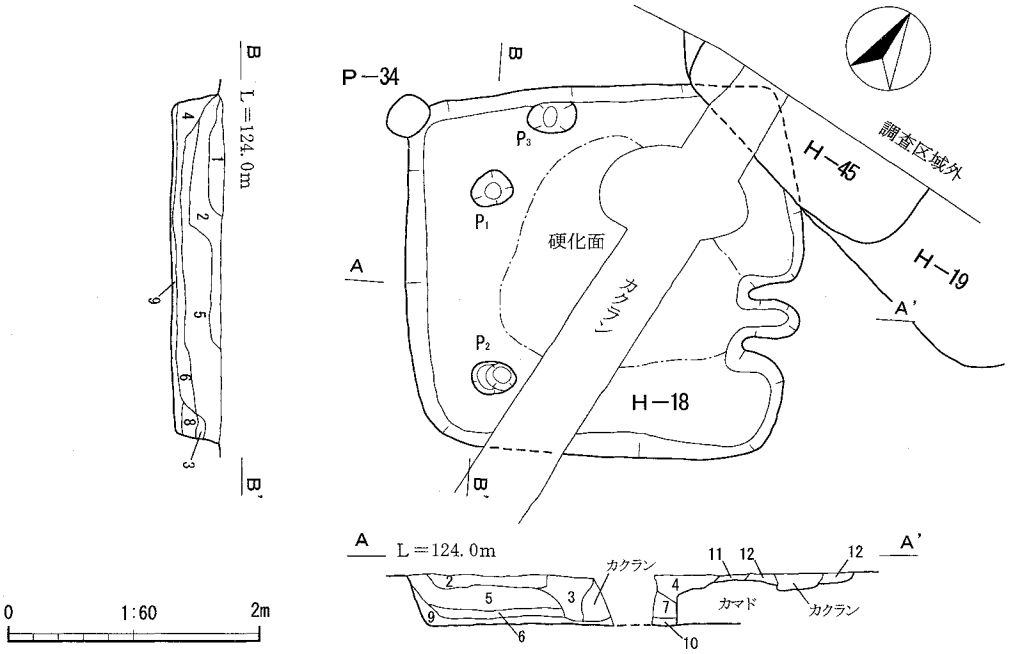


H－16号住居跡 カマド（C-C'）(D-D')
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%含む。
2 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼土粒を少量含む。
3 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒・粘土を少量含む。
4 黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、焼土粒を1%含む。
5 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、灰を多く含む。

第26図　H－15・16号住居跡

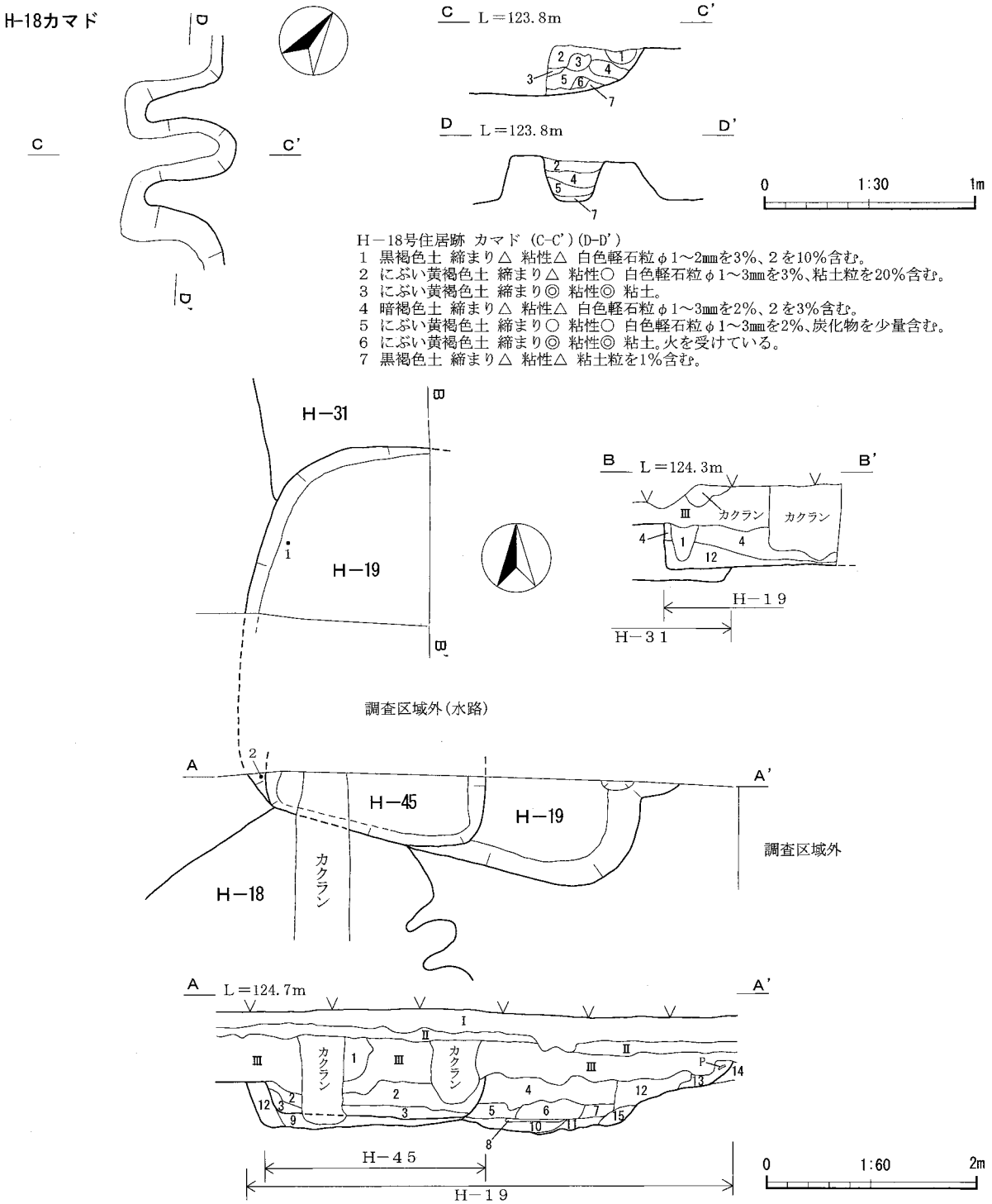


H－17号住居跡（A-A'）(B-B')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～10㎜を1%含む。
2 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、焼土粒・灰・粘土を少量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、粘土を微量含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を7%、粘土を多く、ﾛｰﾑ粒を3%含む。
5 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～5㎜を2%含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～20㎜を3%含む。
7 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
8 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～30㎜を7%含む。
10 6に黒色土を20%含む。
11 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、ﾛｰﾑ粒・黒色土を2%含む。
12 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、ﾛｰﾑ粒を多く含む。



H－18号住居跡（A-A'）(B-B')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～7㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～25㎜を2%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～25㎜を5%含む。
3 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%含む。
5 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～25㎜を3%含む。
6 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を10%含む。
7 4に砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を10%含む。
8 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～10㎜を3%含む。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、ﾛｰﾑを多く含む。
10 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～5㎜を2%含む。
11 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、粘土粒を少量含む。
12 11に粘土塊を多く含む。

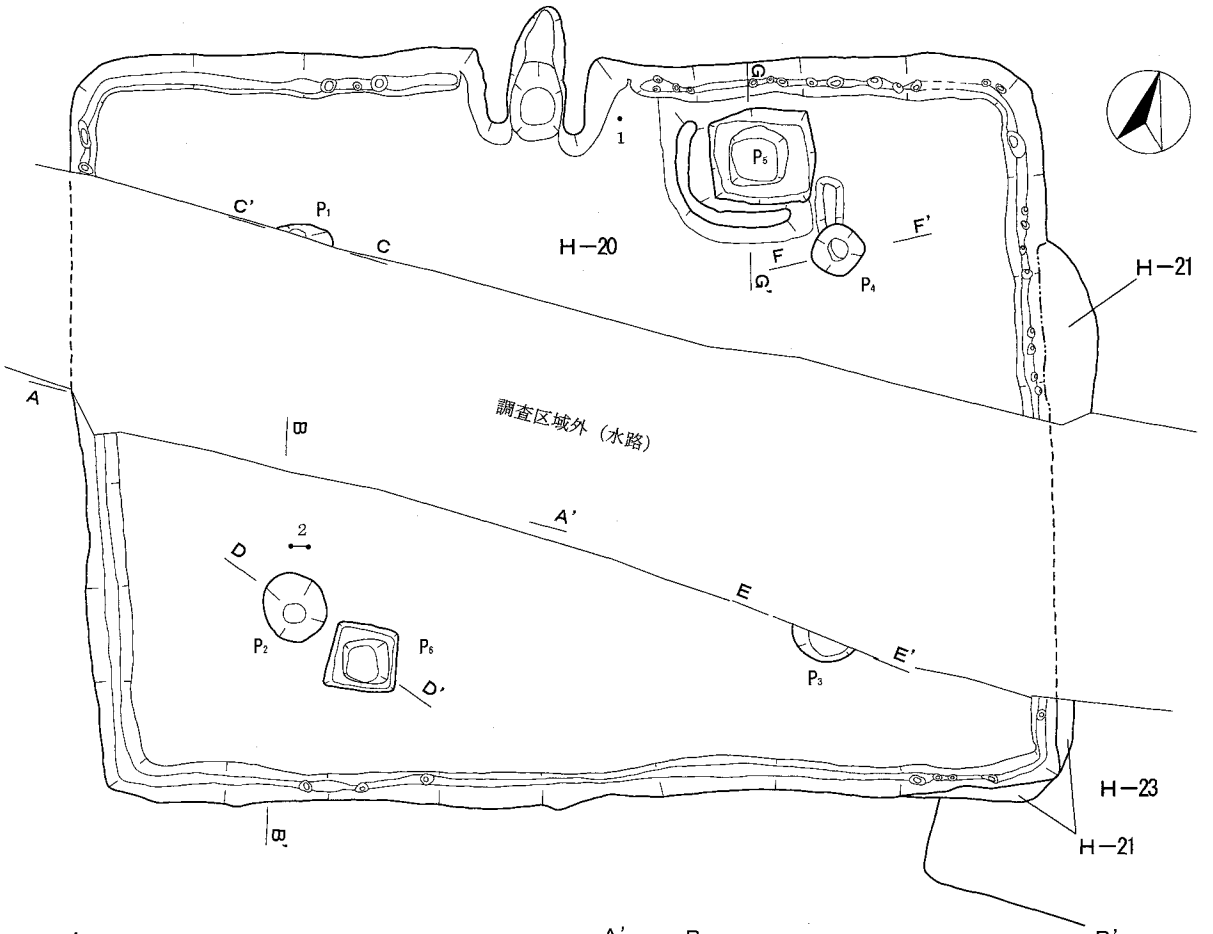
第27図　H－17・18号住居跡



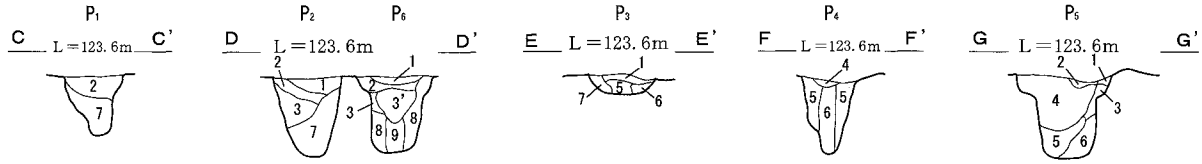
H－18号住居跡 カマド (C-C')(D-D')
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、2を10%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、粘土粒を20%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり◎ 粘性◎ 粘土。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、2を3%含む。
5 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、炭化物を少量含む。
6 にぶい黄褐色土 締まり◎ 粘性◎ 粘土。火を受けている。
7 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 粘土粒を1%含む。

H－19(北壁)・45号住居跡 (A-A')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%、焼土粒を微量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を2%含む。
4 12に砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を3%含む。
5 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、褐灰色粘土を非常に多く含む。
6 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、焼土粒・塊を多く含む。
7 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%、焼土粒・炭化物を少量含む。
8 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、粘土を少量、灰を多くﾗﾐﾅ状に含む。
9 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、粘土を非常に多く含む。
10 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、ﾛｰﾑを多く含む。
11 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性○ 褐灰色の灰を非常に多く含む。灰層。
12 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%含む。
13 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼土粒・塊を多く含む。
14 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%含む。
15 にぶい黄褐色土 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、焼土粒・粘土を少量含む。

第28図　H－18・19・45号住居跡

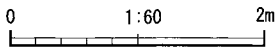


H－20号住居跡（A-A'）(B-B')
1 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を3%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～40㎜を2%含む。
4 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
7 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%含む。

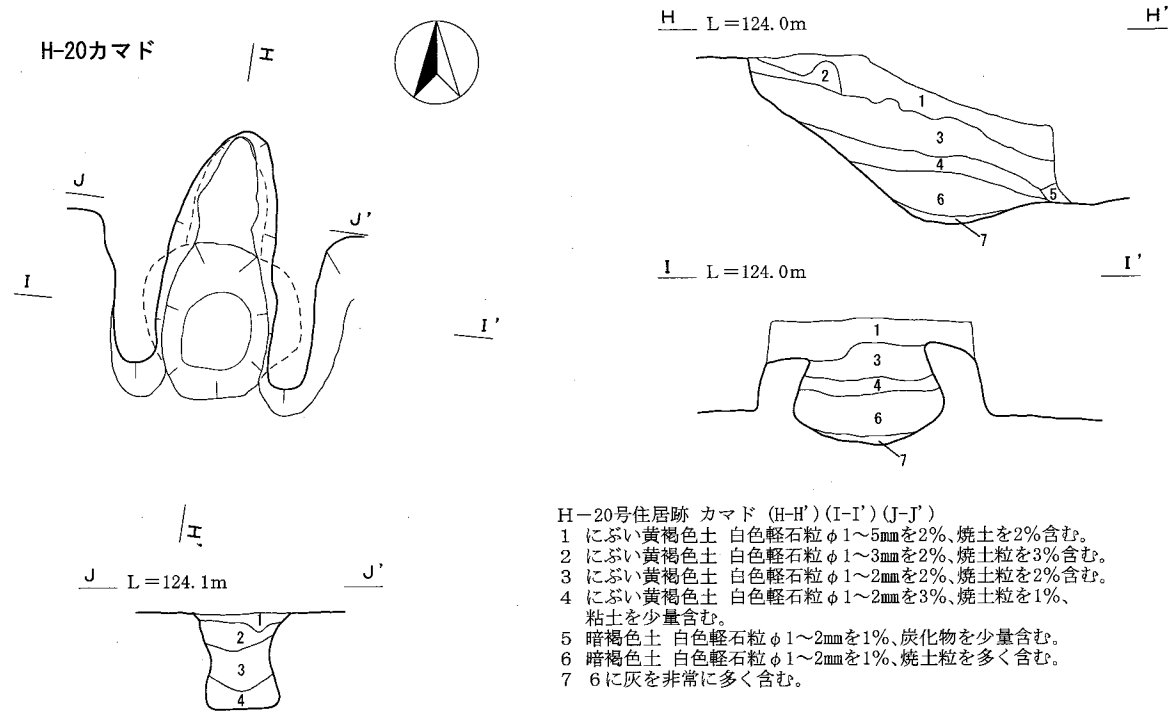


H－20号住居跡 P１～P４，P６ (C-C')(D-D')(E-E')(F-F')
1 暗褐色土 締まり× 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、ﾛｰﾑ粒を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり× 粘性× 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を非常に多く含む。
3'3に焼土粒を少量含む。
4 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%含む。
5 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を10%含む。
6 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%含む。
7 褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を5%含む。
8 暗褐色土 締まり× 粘性× 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%含む。
9 にぶい黄褐色土 締まり× 粘性× 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を5%含む。

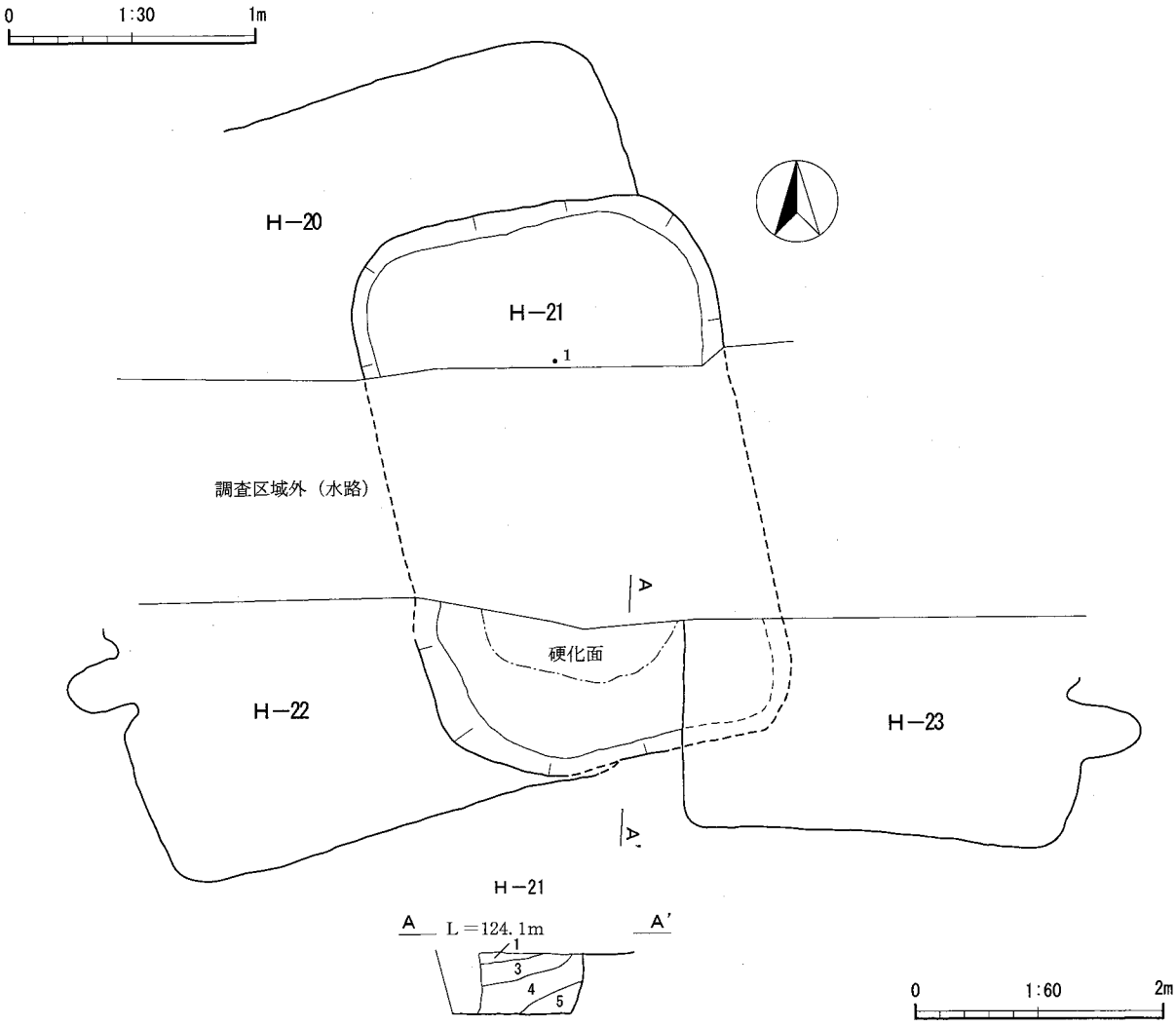
H－20号住居跡 P５ (G-G')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2% 含む。
3 褐色土 締まり× 粘性× 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。
4 暗褐色土 締まり× 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を少量含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～2㎜を微量含む。



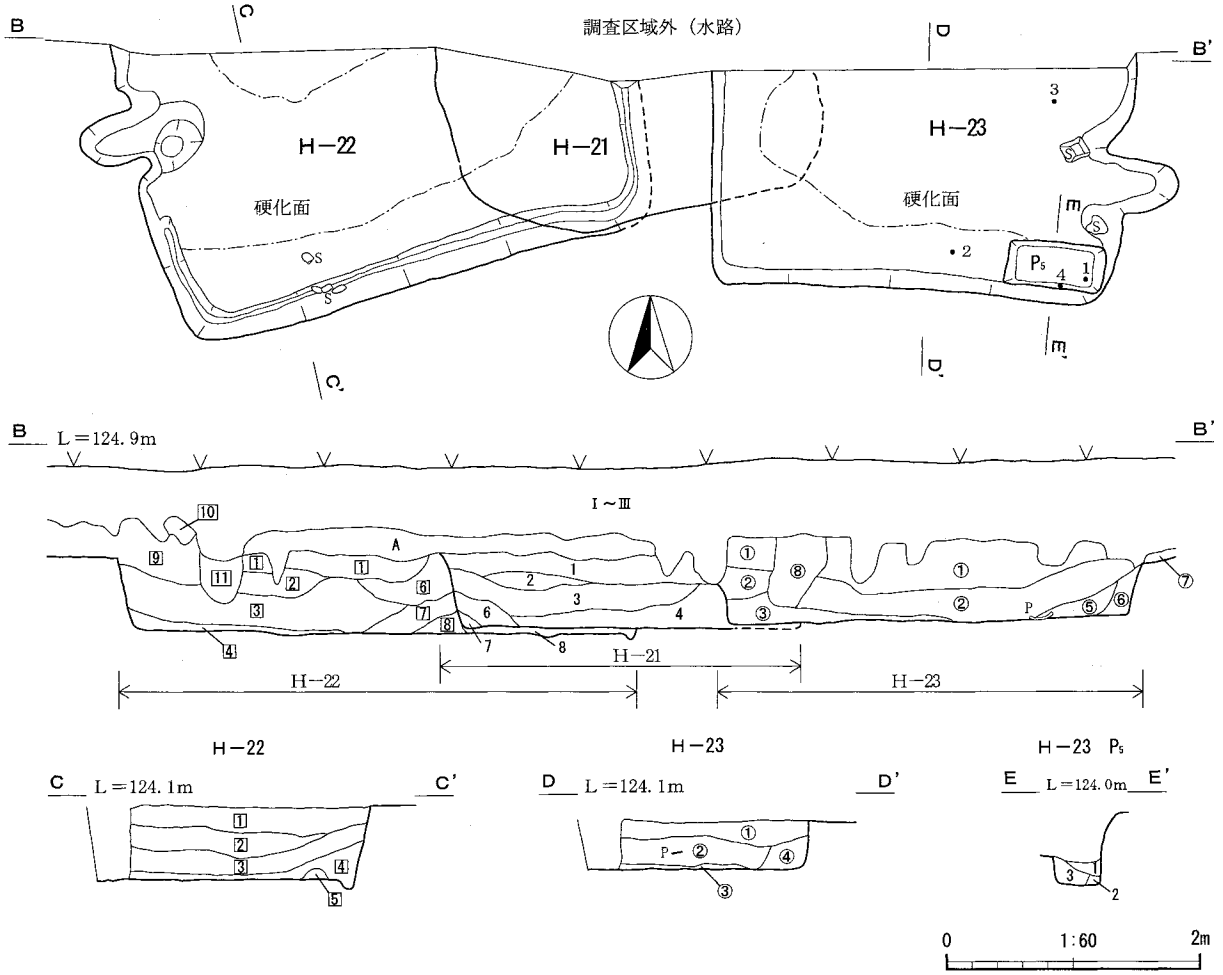
第29図 H－20号住居跡



H－20号住居跡 カマド (H-H')(I-I')(J-J')
1 にぶい黄褐色土 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、焼土を2%含む。
2 にぶい黄褐色土 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒を3%含む。
3 にぶい黄褐色土 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、焼土粒を2%含む。
4 にぶい黄褐色土 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、焼土粒を1%、
粘土を少量含む。
5 暗褐色土 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、炭化物を少量含む。
6 暗褐色土 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土粒を多く含む。
7 6に灰を非常に多く含む。



第30図　H－20・21号住居跡



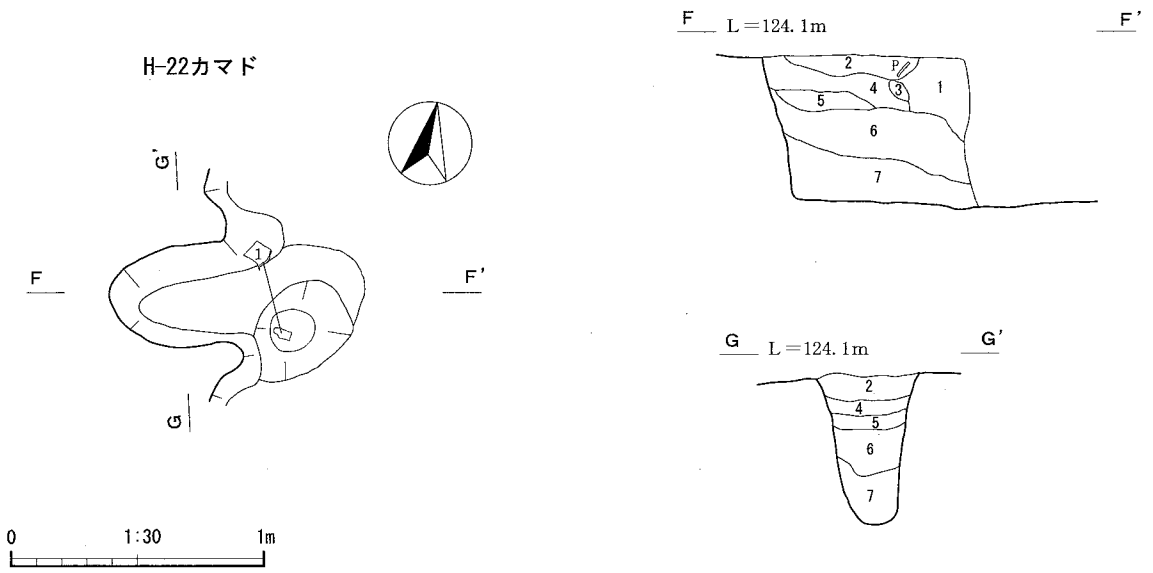
H－21号住居跡（A-A'）(B-B')
A 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を5%、砂を多く含む。
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、焼土粒を微量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%、黒色土を1%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
6 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を5%、炭化物を微量含む。
7 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を3%、黒褐色土を少量含む。
8 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%、焼土粒を少量含む。

H－22号住居跡（B-B'）(C-C')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～10㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%、炭化物を微量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～7㎜を1%、粘土塊を少量含む。
4 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
5 黒褐色土 締まり○ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を10%含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%、焼土粒を少量含む。
7 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を5%含む。
8 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%含む。
9 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を3%含む。
10 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ40㎜を含む。
11 にぶい黄褐色土 締まり× 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を5%含む。

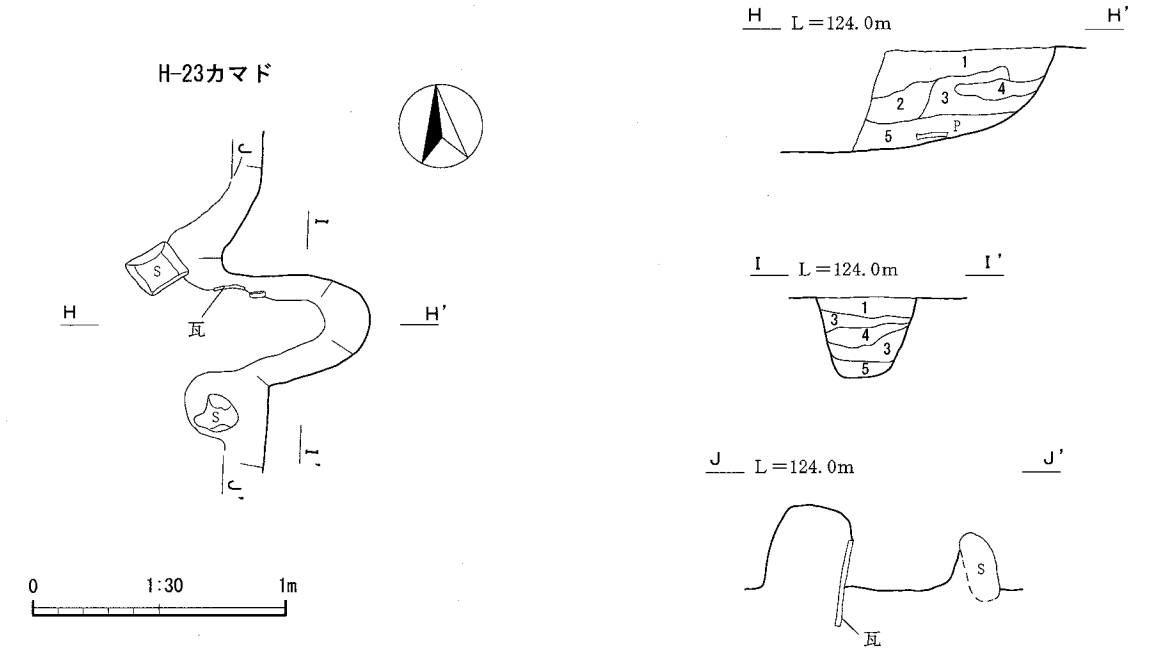
H－23号住居跡（B-B'）(D-D')
① 黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～2㎜を2%含む。
② 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～2㎜を1%含む。
③ 黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～2㎜を微量含む。
④ 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%含む。
⑤ 暗褐色土と黒褐色土の混土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%含む。
⑥ 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～3㎜を2%含む。
⑦ 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～5㎜を1%含む。
⑧ 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%含む。

H－23号住居跡 P５（E-E'）
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を微量、焼土粒を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を微量含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%含む。

第31図 H－21～23号住居跡

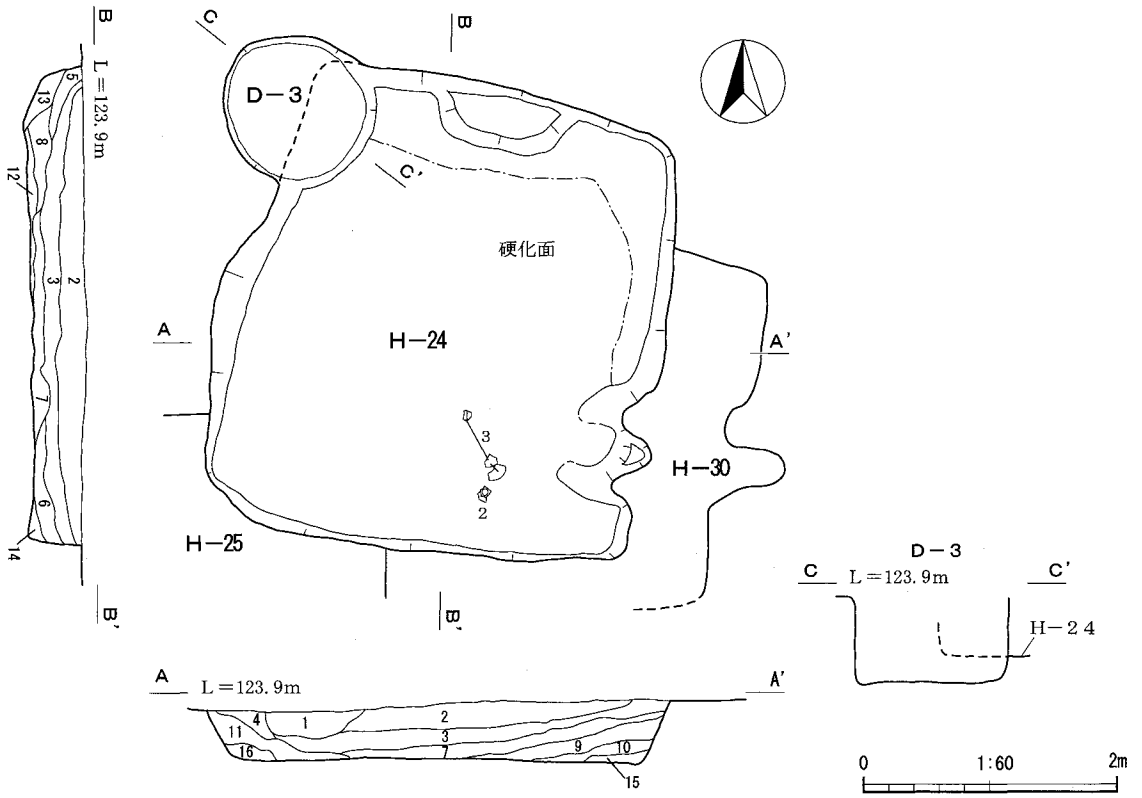


H－22号住居跡 カマド (F-F')(G-G')
1 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～10㎜を2%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～7㎜を1%含む。
3 焼土塊。
4 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、焼土粒を3%含む。
5 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、粘土・灰を少量含む。
6 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～20㎜を2%含む。
7 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼土粒を2%含む。

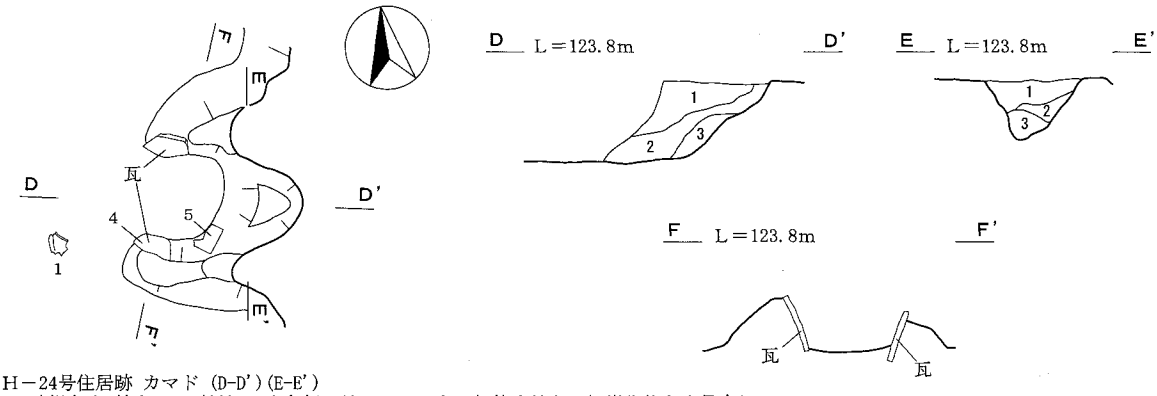


H－23号住居跡 カマド (H-H')(I-I')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%含む。
3 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%含む。
4 黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土を多く含む。
5 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土・炭化物・灰を多く含む。

第32図　H－22・23号住居カマド跡

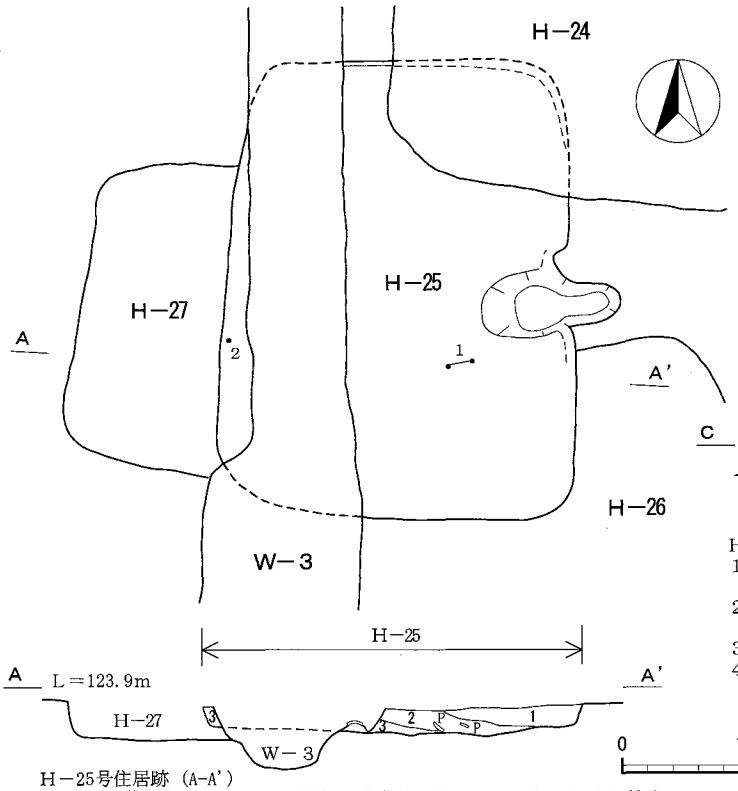


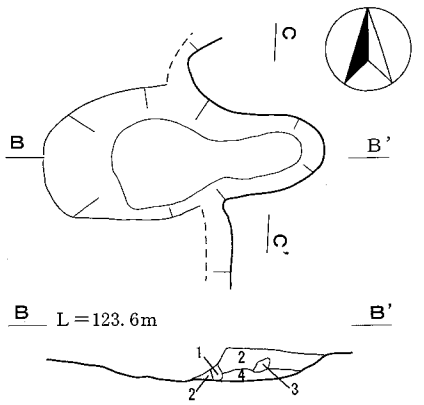
H－24号住居跡（A-A'）(B-B')
1 灰黄褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～5㎜を1%含む。
2 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～20㎜を3%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
4 にぶい黄褐色土 締まり× 粘性× 白色軽石粒φ1～2㎜を2%含む。
5 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～20㎜を7%含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
7 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%含む。
8 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ3～50㎜を5%含む。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%、炭化物粒を少量含む。
10 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、炭化物を少量含む。
11 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、ﾛｰﾑ粒を微量含む。
12 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%含む。
13 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を7%含む。
14 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
15 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、ﾛｰﾑ粒を微量含む。
16 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、ﾛｰﾑ粒を10%含む。



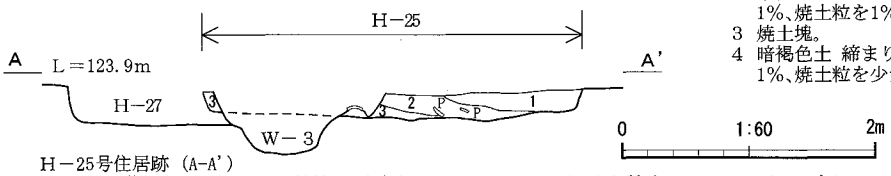
H－24号住居跡 カマド（D-D'）(E-E')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、焼土粒を2%、炭化物を少量含む。
2 1に焼土粒を非常に多く含む。
3 焼土塊。赤褐色。

第33図 H－24号住居跡

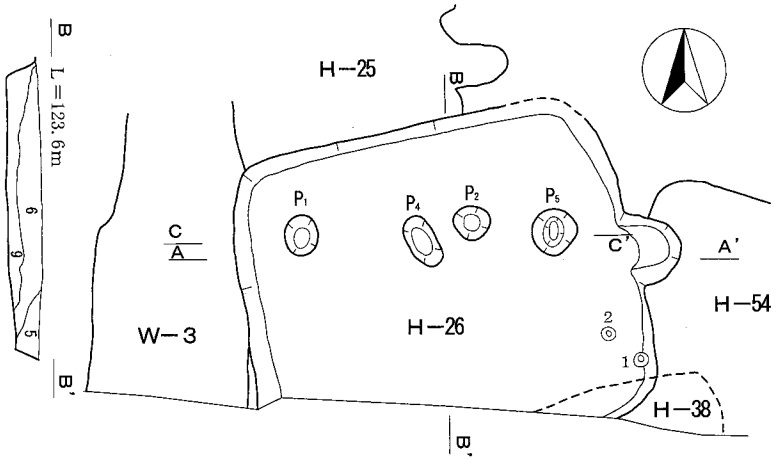


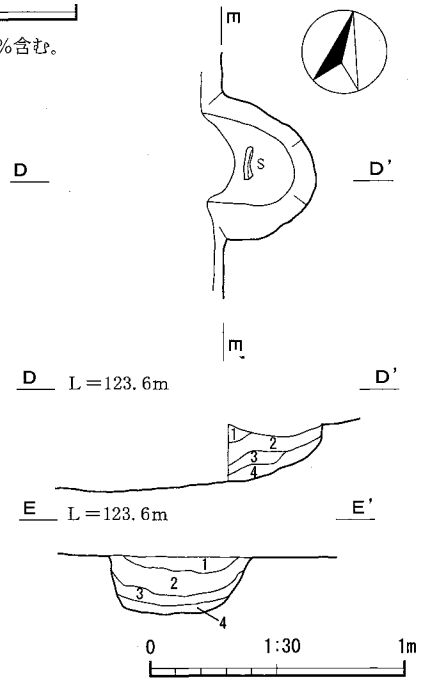


H－25号住居跡 カマド (B-B')(C-C')
1 暗赤褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土粒を1%含む。
3 焼土塊。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土粒を少量含む。



H－25号住居跡 (A-A')
1 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒を微量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼土粒を微量含む。

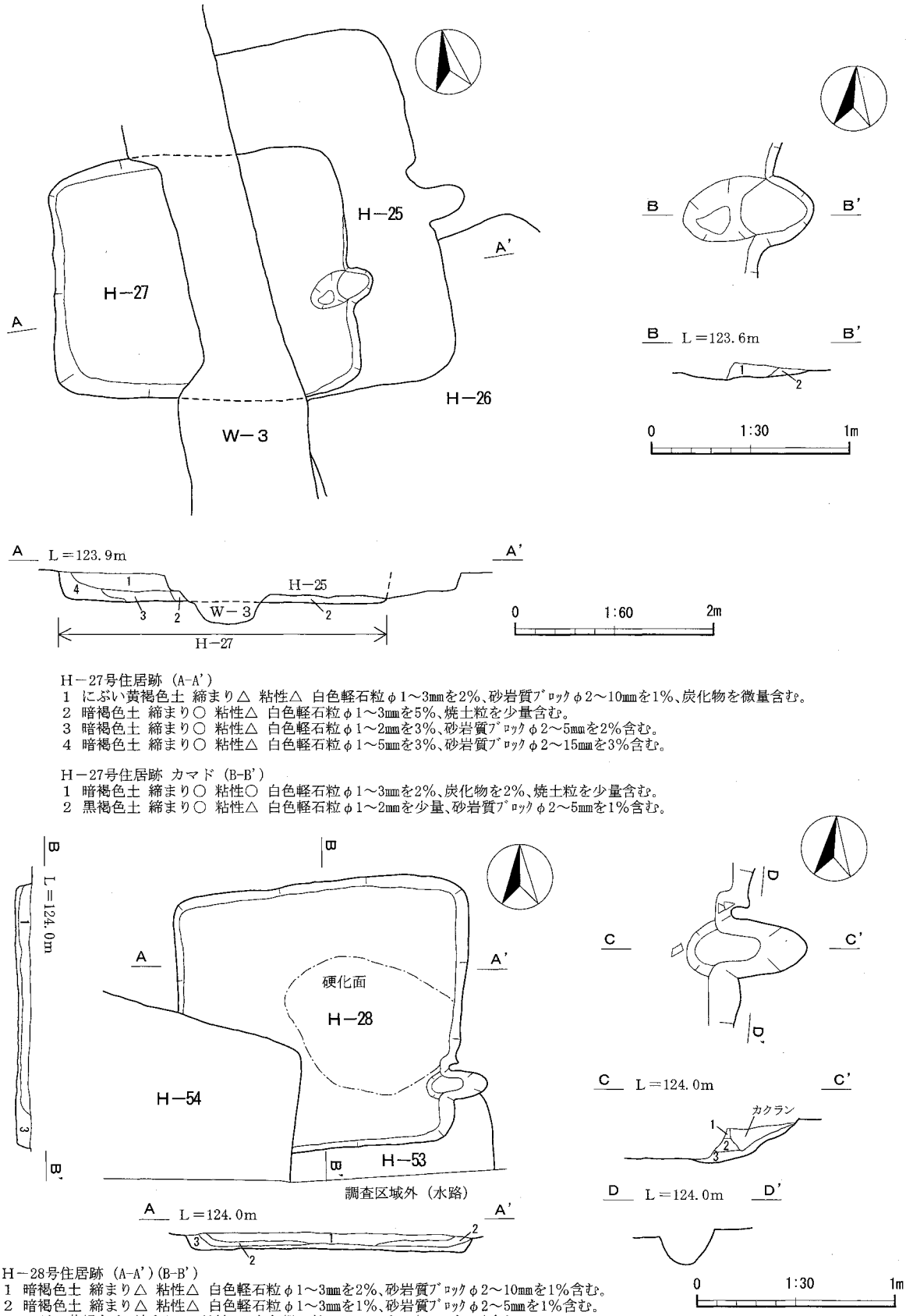




H－26号住居跡 カマド (D-D')(E-E')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%、焼土粒を少量含む。
3 2に焼土ﾌﾞﾛｯｸを多く、粘土を少量含む。
4 2に灰を多く含む。

H－26号住居跡 (A-A')(B-B')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を3%、焼土粒を3%含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒を1%含む。
4 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、焼土粒・炭化物を少量含む。
5 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～10㎜を5%含む。
7 1に砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～30㎜を7%含む。
8 6にﾛｰﾑを多く含む。
9 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%、焼土粒を少量含む。
10 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、焼土粒を少量、灰を多く含む。

第34図　H－25・26号住居跡



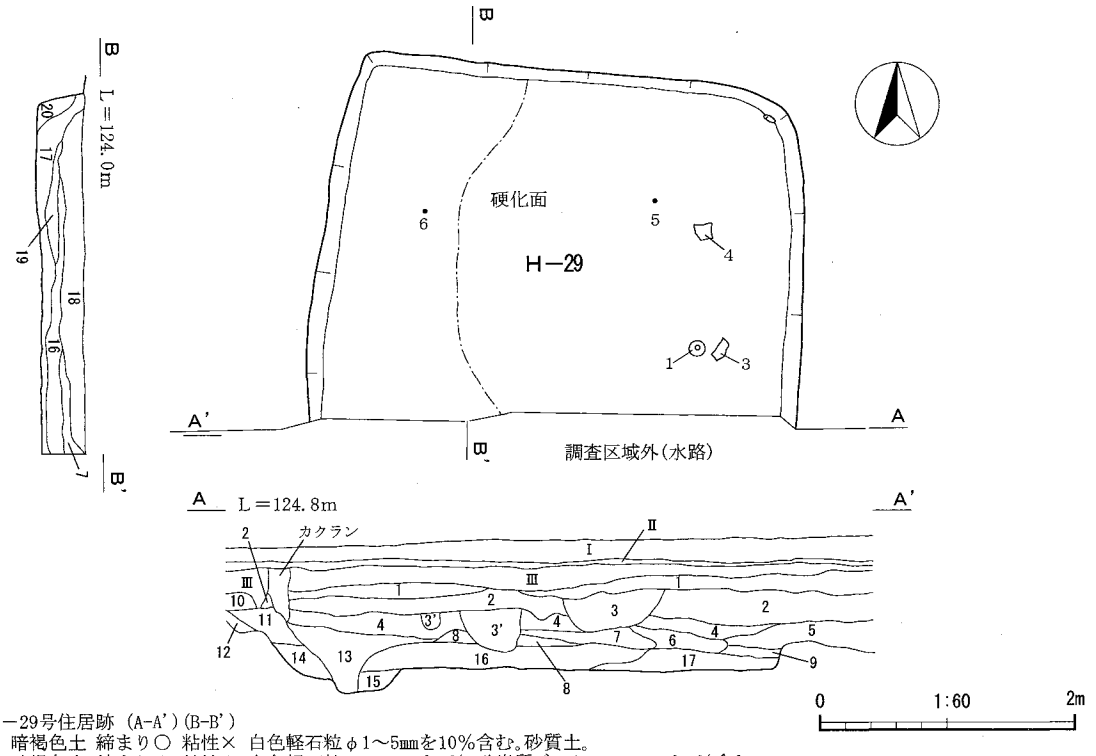
H－27号住居跡（A-A'）
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%、炭化物を微量含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、焼土粒を少量含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を3%含む。

H－27号住居跡 カマド（B-B'）
1 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、炭化物を2%、焼土粒を少量含む。
2 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を少量、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。

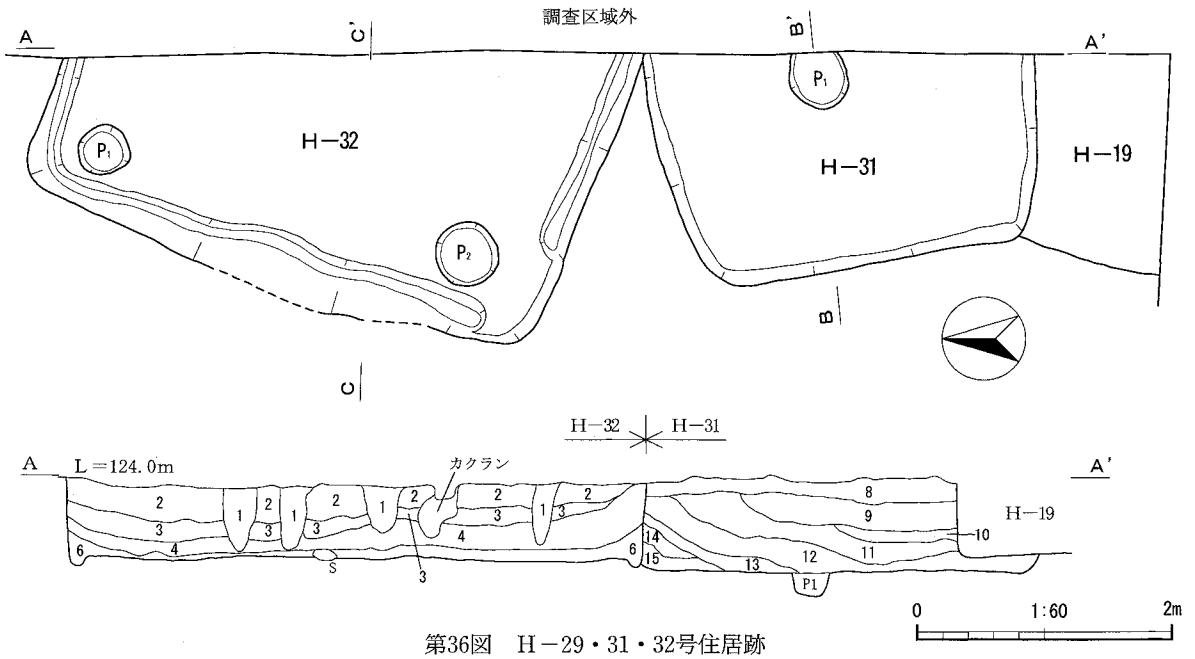
H－28号住居跡（A-A'）(B-B'）
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、ﾛｰﾑを3%含む。

H－28号住居跡 カマド（C-C'）
1 にぶい黄褐色土 締まり◎ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼けた粘土を多く含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土粒を2%含む。
3 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 灰を多く、焼土粒を少量含む。

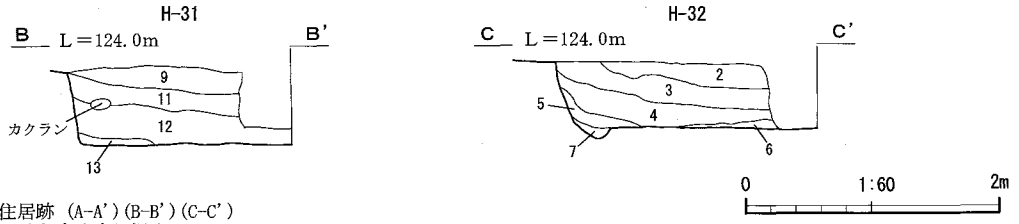
第35図 H－27・28号住居跡



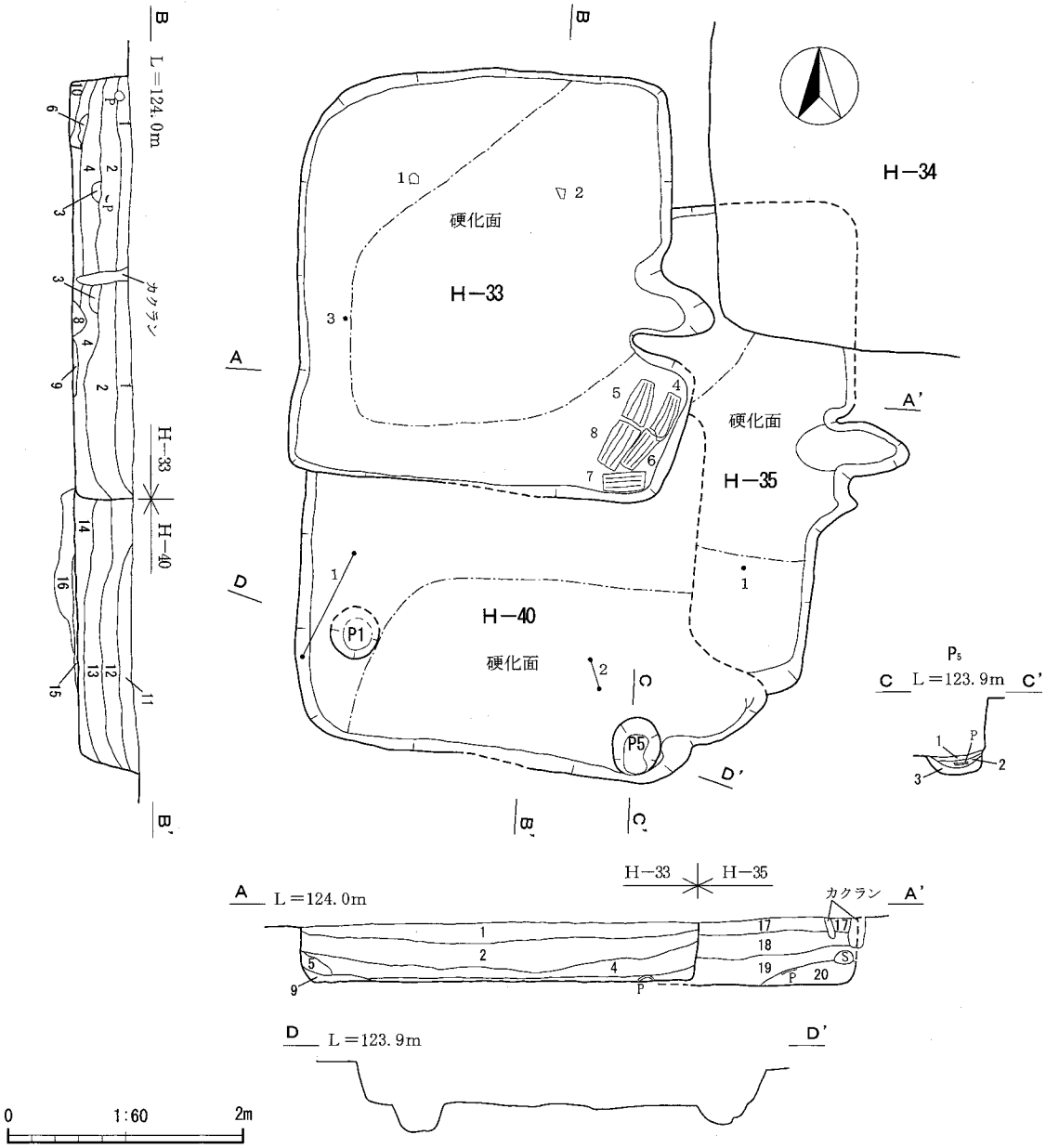
H－29号住居跡 (A-A')(B-B')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を10%含む。砂質土。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
3'暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を5%、焼土粒を2%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
5 暗褐色土 締まり× 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、砂を多く含む。
6 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、砂を多く含む。
7 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を10%、砂を少量含む。
8 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%、焼土粒を2%含む。
9 暗褐色土 締まり× 粘性× 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
10 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%、焼土粒・炭化物を2%含む。
11 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%、焼土粒を3%含む。
12 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、ﾛｰﾑを多く含む。
13 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%、焼土粒を少量含む。
14 黒褐色土 締まり△ 粘性○ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%、焼土粒10%、灰・粘土少量。
15 14に炭化物を3%含む。
16 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、焼土粒・炭化物を1%含む。
17 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%、炭化物を微量含む。
18 黒褐色土 締まり○ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、炭化物粒を微量含む。砂質土。
19 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、焼土粒・炭化物粒を多く含む。
20 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%、炭化物粒を少量含む。



第36図　H－29・31・32号住居跡



H－31･32号住居跡 (A-A')(B-B')(C-C')
1 2・3・4に砂を多く含む混土。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
6 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%含む。
7 褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を微量含む。
8 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。砂質土。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%含む。
10 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
11 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を5%含む。
12 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%含む。
13 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%含む。
14 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
15 14に黒褐色土･ﾛｰﾑを少量含む。

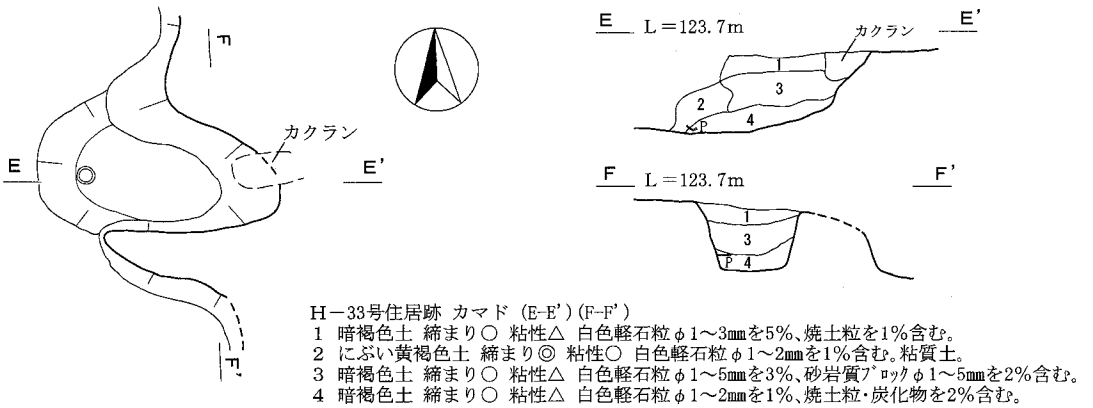


第37図 H－31～33・35・40号住居跡

H－33･35･40号住居跡 (A-A')(B-B')
1 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%含む。
3 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～20㎜を1%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、黒色土を1%含む。
6 にぶい黄褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～15㎜を5%含む。
7 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%含む。
8 4に粘土塊を少量含む。
9 7に焼土粒･炭化物粒を2%含む。
10 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%含む。
11 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
12 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
13 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%含む。
14 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%含む。
15 暗褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、ﾛｰﾑを微量含む。
16 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、炭化物を微量含む。
17 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%含む。
18 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
19 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼土粒を少量含む。
20 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、炭化物を微量含む。

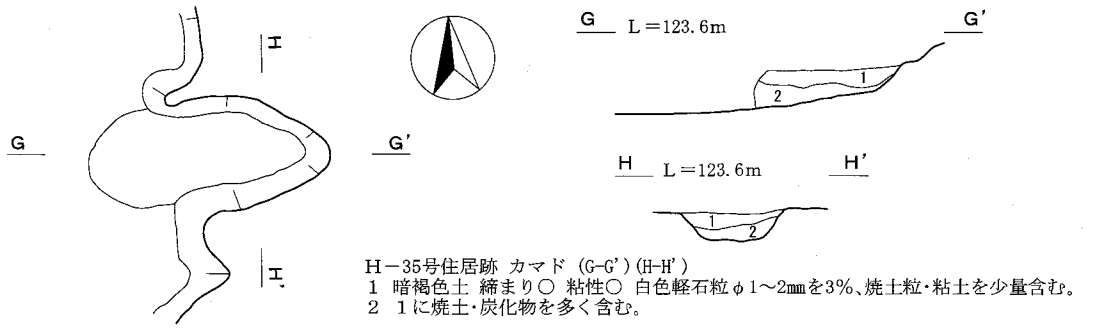
H－40号住居跡 P５ (C-C')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、焼土粒･炭化物を少量含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性○ 炭化物を少量含む。
3 褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を1%含む。

H-33カマド



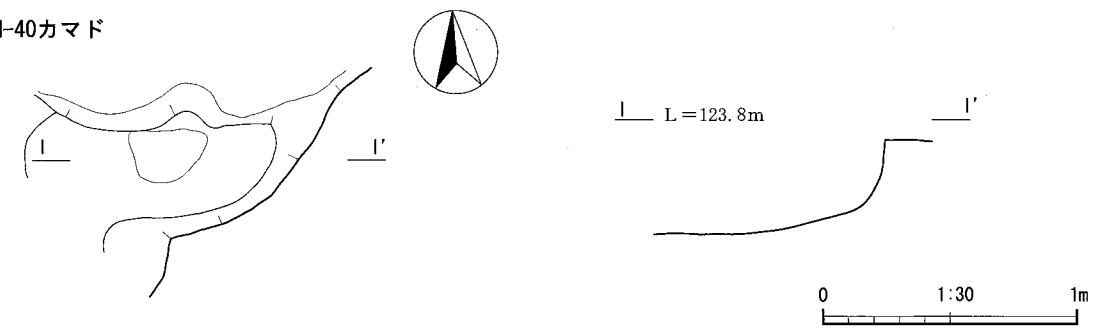
H－33号住居跡 カマド (E-E')(F-F')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、焼土粒を1%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり◎ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%含む。粘質土。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～5㎜を2%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土粒･炭化物を2%含む。

H-35カマド

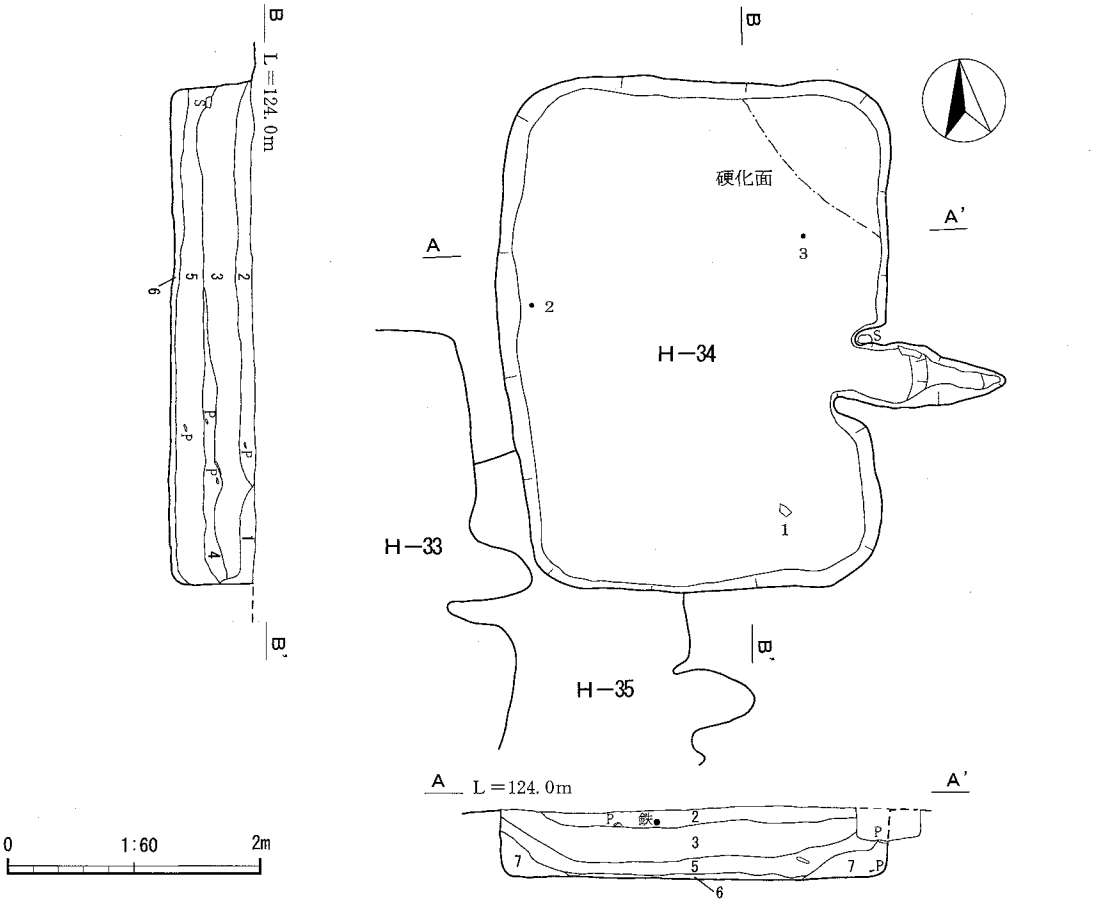


H－35号住居跡 カマド (G-G')(H-H')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、焼土粒･粘土を少量含む。
2 1に焼土･炭化物を多く含む。

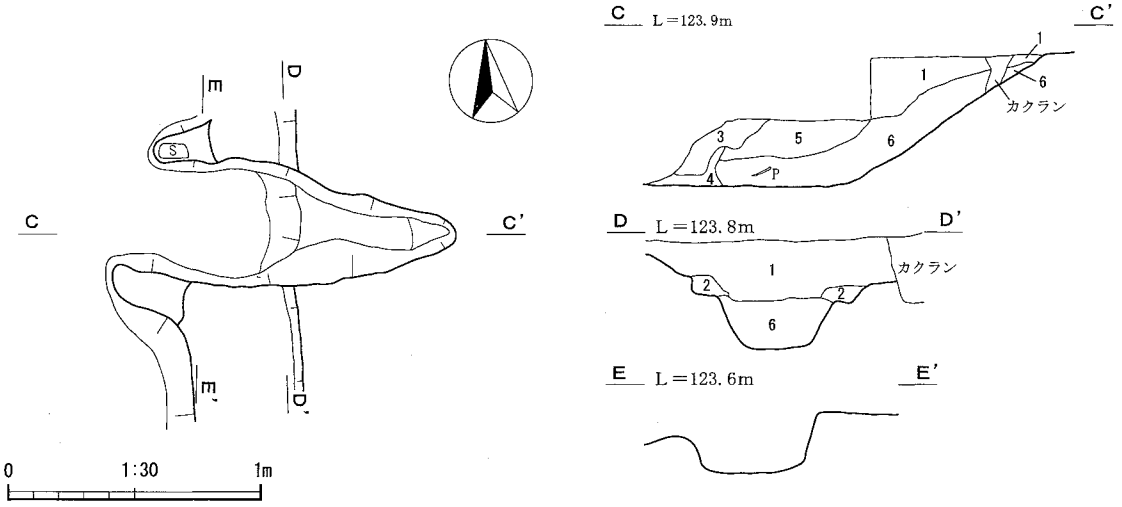
H-40カマド



第38図 H－33・35・40号住居カマド跡

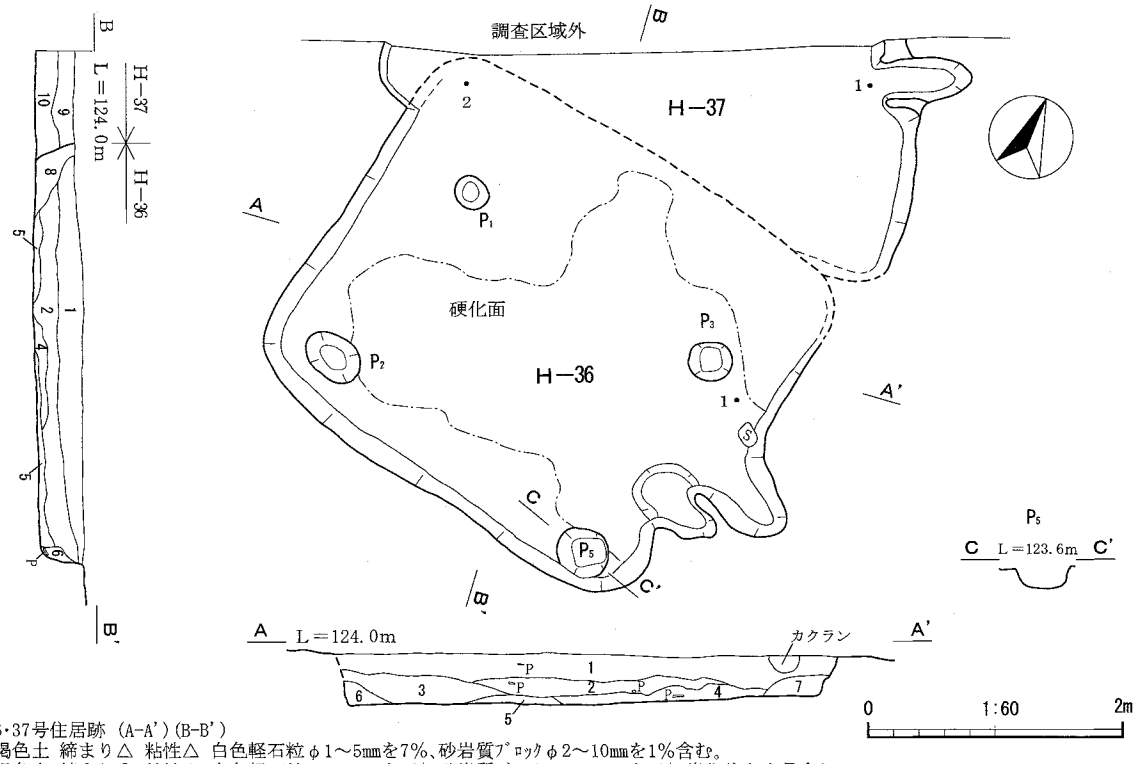


H－34号住居跡 (A-A')(B-B')
1 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、炭化物を微量含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～10を2%含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5を1%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5を3%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15を3%含む。
6 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%含む。
7 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%含む。



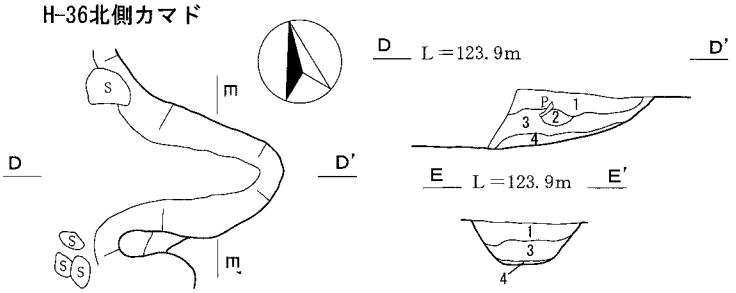
H－34号住居跡 カマド (C-C')(D-D')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を微量、焼土を多く含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を3%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を微量、焼土・炭化物を多く含む。
5 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～20㎜を2%含む。
6 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土粒を多く含む。

第39図　H－34号住居跡

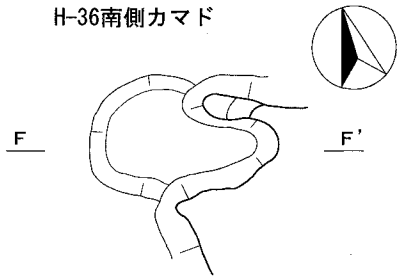


H－36･37号住居跡 (A-A')(B-B')
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を1%、炭化物を少量含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%、黒褐色土を3%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼土粒・粘土を多く含む。
5 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%、焼土粒を少量含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、焼土粒を微量含む。
7 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、炭化物粒を少量含む。
8 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を2%含む。
9 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
10 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。

H-36北側カマド



H-36南側カマド

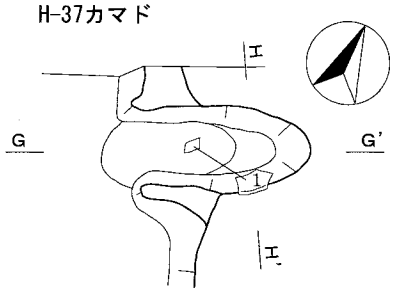


H－36号住居跡 カマド(北側) (D-D')(E-E')
1 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、
砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%、炭化物を少量含む。
2 粘土塊
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、
焼土粒・炭化物を1%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒を多く含む。

0 1:30 1m

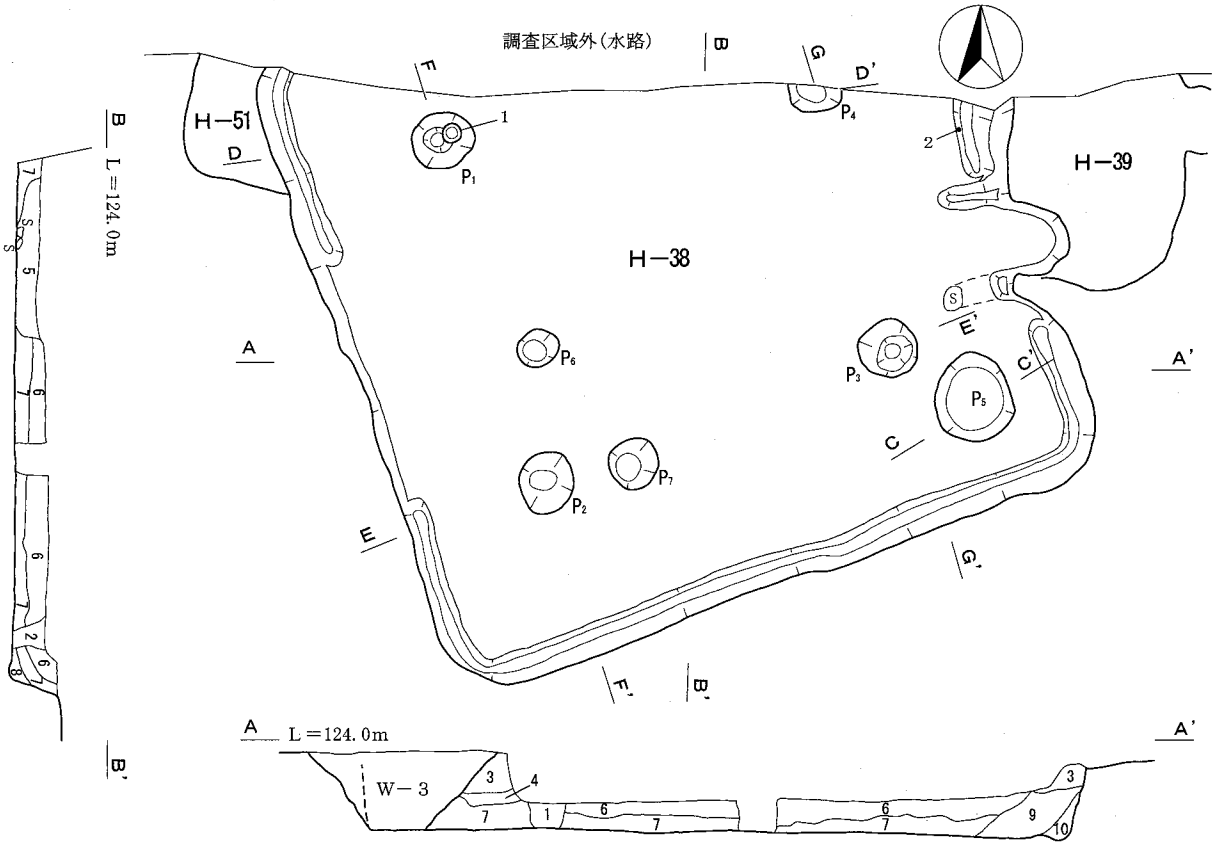
H－36号住居跡 カマド(南側) (F-F')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、粘土を多く含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、焼土粒を少量含む。
3 明赤褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%含む。
4 黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、粘土・灰を多く含む。
5 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、
砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、粘土を多く含む。

H-37カマド



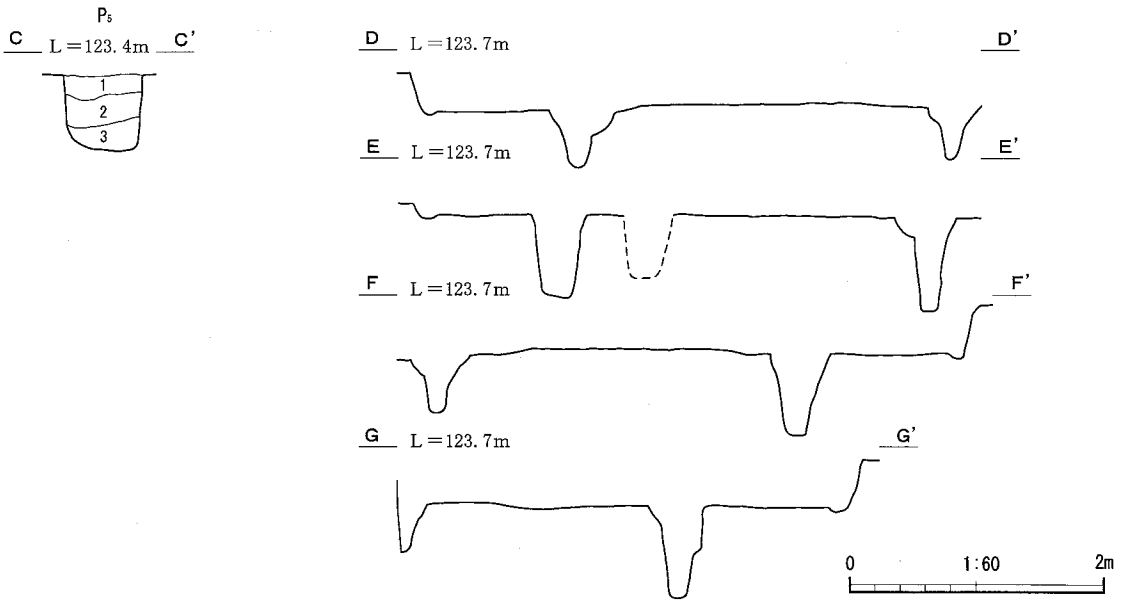
H－37号住居跡 カマド (G-G')(H-H')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、焼土粒を1%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼土粒を2%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、粘土を5%含む。
4 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、粘土を2%含む。

第40図 H－36・37号住居跡

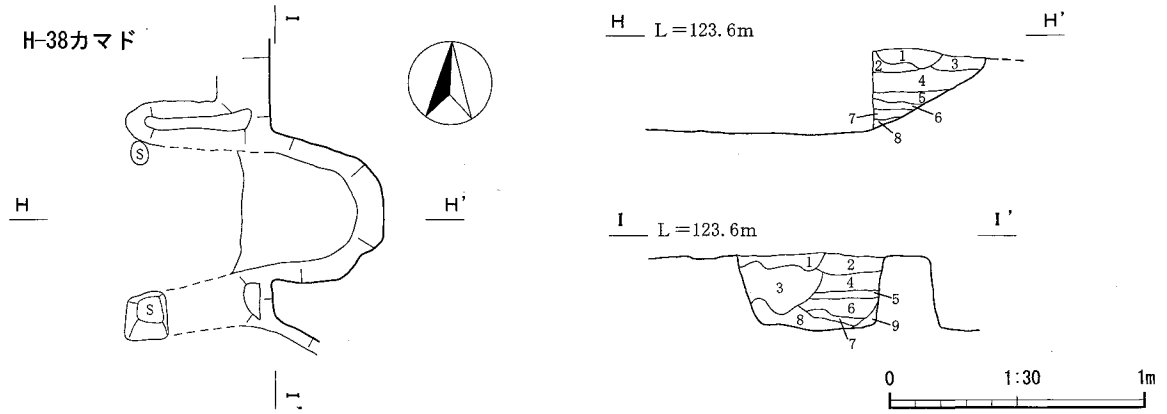


H－38号住居跡 (A-A')(B-B')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
4 3に黒褐色土を3%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、焼土粒を少量含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を3%含む。
7 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を3%、黒褐色土を3%含む。
8 7に粘土を少量含む。
9 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
10 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。

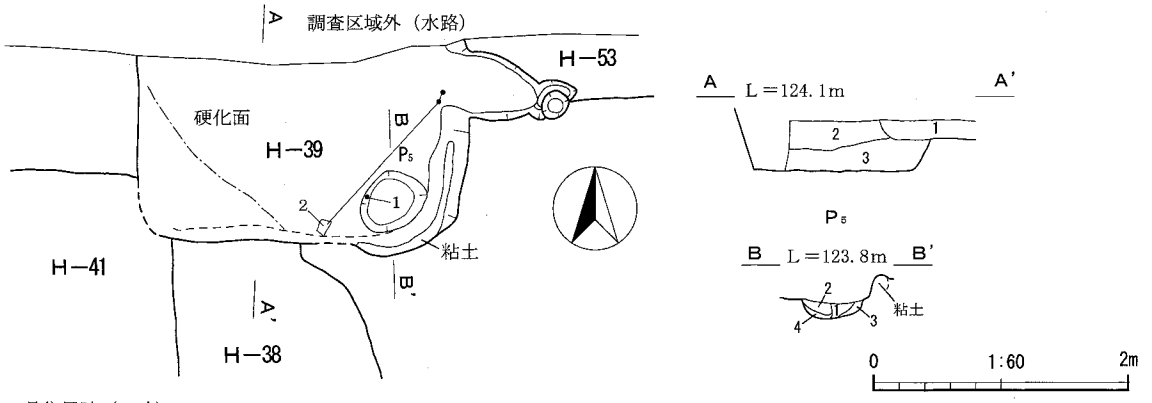
H－38号住居跡 P５ (C-C')
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を5%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり× 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～70㎜を2%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。



第41図　H－38号住居跡

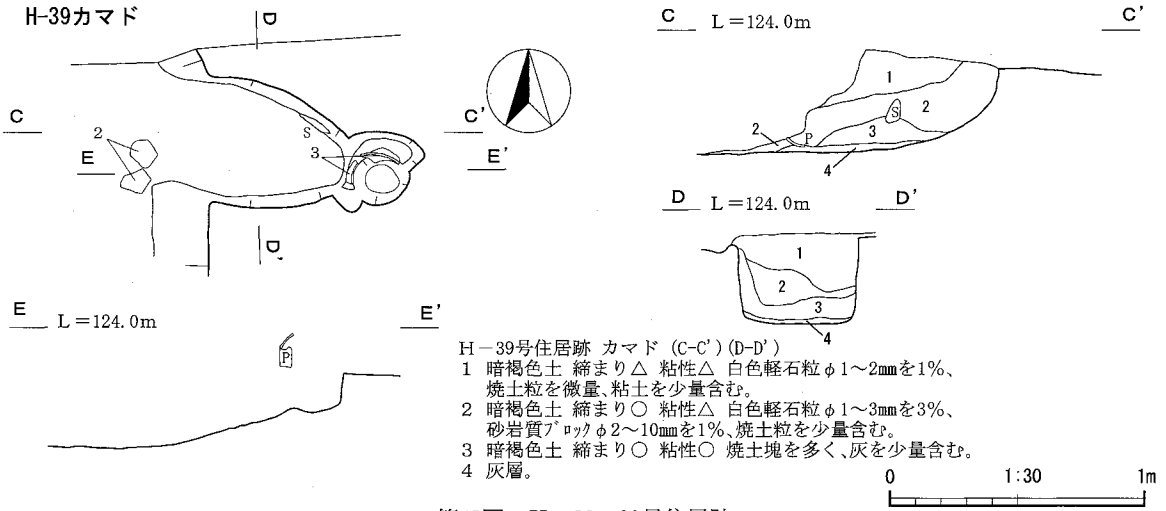


H－38号住居跡 カマド (H-H')(I-I')
1 にぶい黄褐色土 締まり◎ 粘性◎ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～7を2%、粘土を多く、
焼土粒を少量、炭化物を微量含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～7㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～7㎜を2%、焼土粒・粘土を少量含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5を1%、焼土粒・ﾛｰﾑを少量含む。
5 4にﾛｰﾑを多く含む。
6 褐色土 締まり△ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、焼土ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
7 褐灰色土 締まり△ 粘性△ 焼土粒を少量含む。灰層。
8 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 焼土粒・ﾌﾞﾛｯｸを多く、7を少量含む。
9 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～２㎜・焼土粒を微量含む。



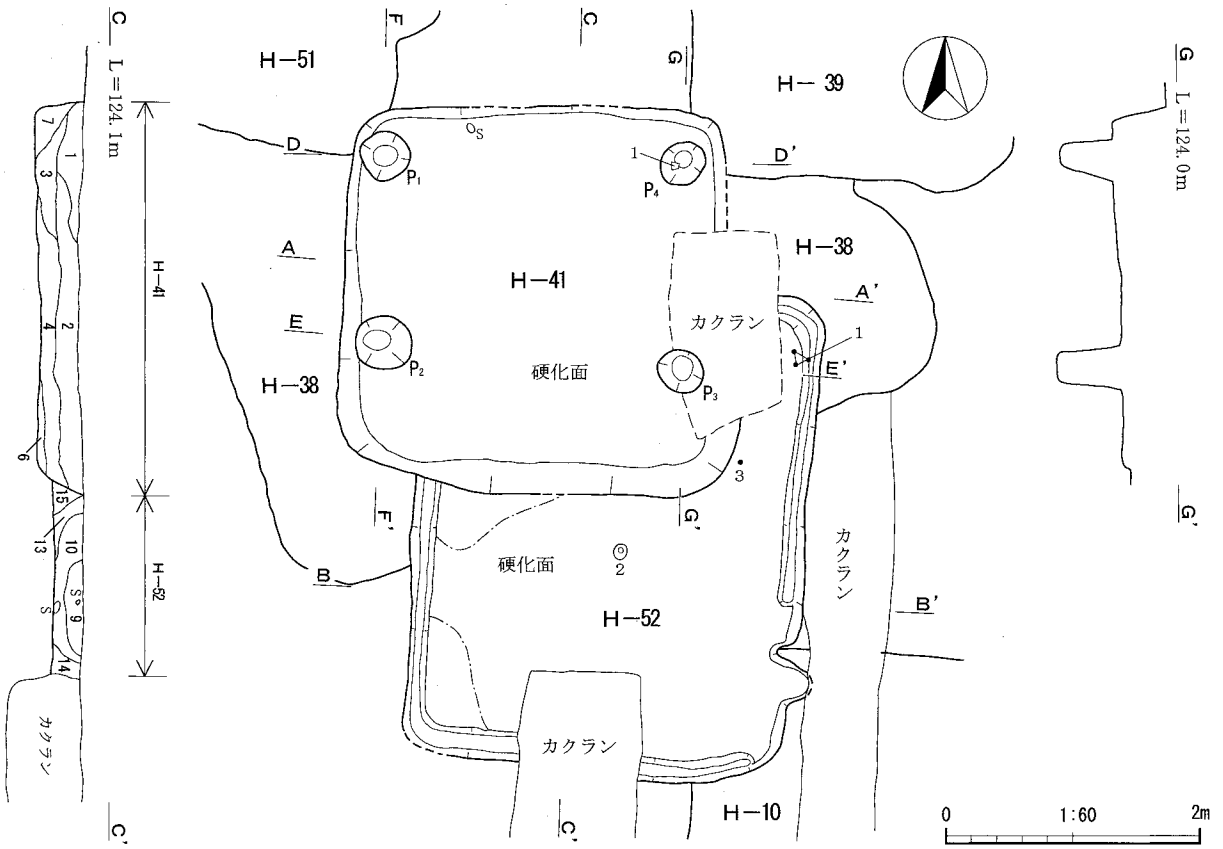
H－39号住居跡 (A-A')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%、焼土粒を2%含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、焼土粒を2%、粘土粒・塊を3%含む。

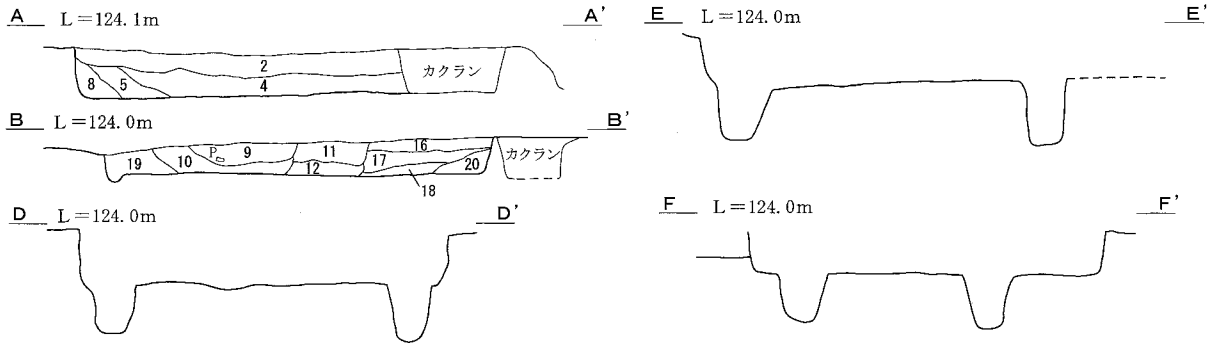
H－39号住居跡 Ｐ５ (B-B')
1 黒褐色土 締まり△ 粘性○ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり◎ 粘性◎ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、粘土を多く含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を2%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性◎ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、粘土を多く、炭化物を少量含む。

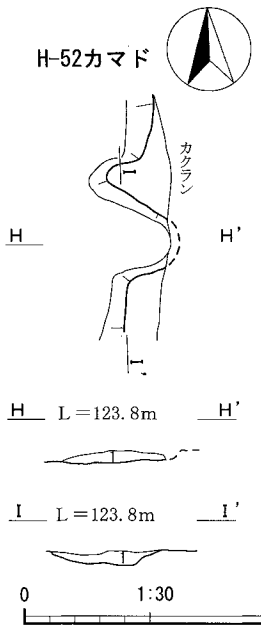


H－39号住居跡 カマド (C-C')(D-D')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、
焼土粒を微量、粘土を少量含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、
砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%、焼土粒を少量含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 焼土塊を多く、灰を少量含む。
4 灰層。

第42図 Ｈ－38・39号住居跡



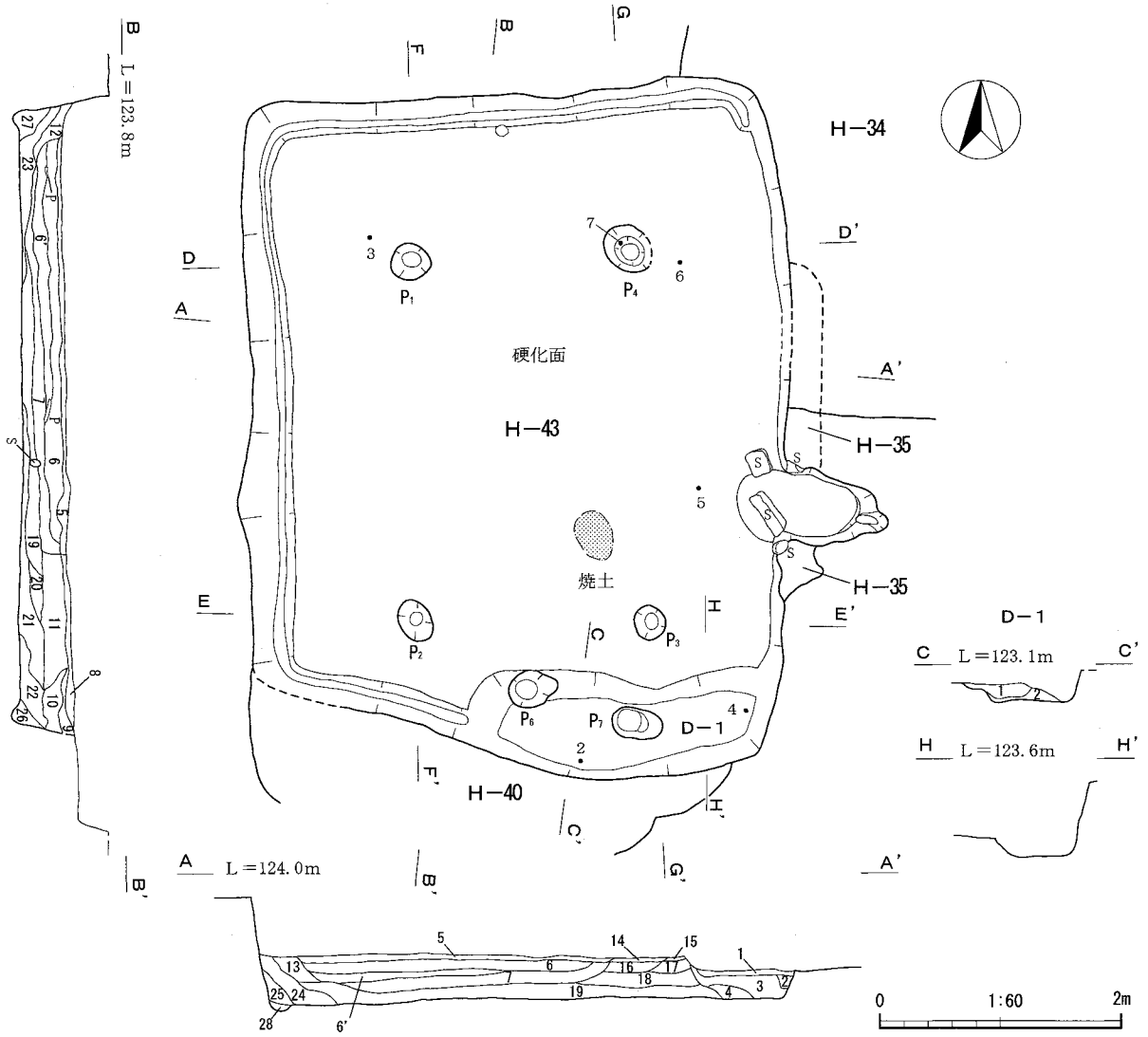




H−41・52号住居跡 (A-A')(B-B')(C-C')
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を3%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。砂質土。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を3%、炭化物粒を少量含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を5%含む。
6 暗褐色土 締まり△ 締まり△ 白色軽石粒φ1～5㎜を1%、ﾛｰﾑ粒を少量含む。
7 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を3%含む。
8 暗褐色土 締まり× 粘性× 白色軽石粒φ1～10㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
9 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～7㎜を2%含む。
10 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
11 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
12 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を少量含む。
13 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
14 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
15 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%含む。
16 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
17 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%、炭化物を少量含む。
18 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
19 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒を微量含む。
20 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を1%含む。

H−52号住居跡 カマド (H-H')(I-I')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、
焼土塊・炭化物を多く、ﾛｰﾑを少量含む。

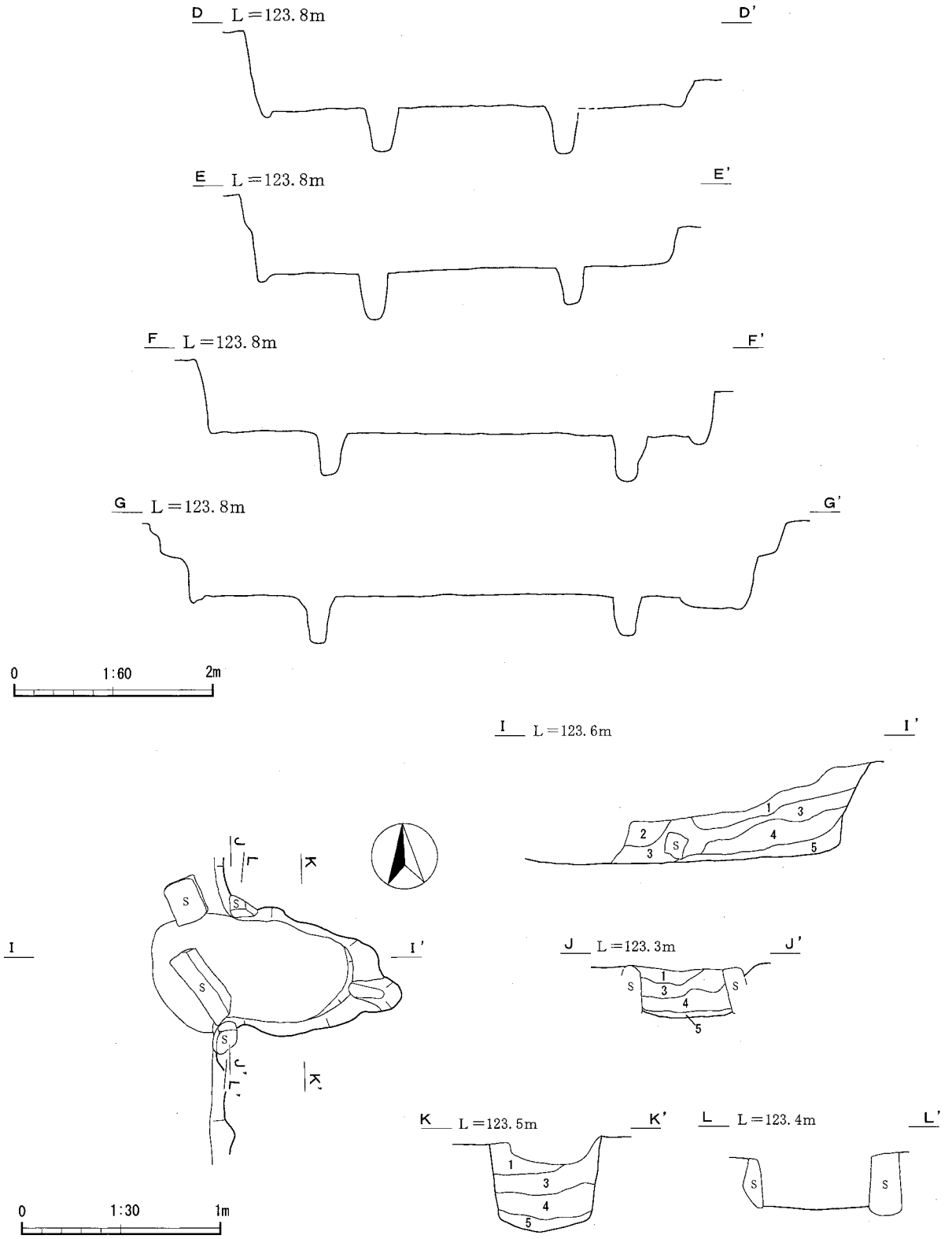
第43図 H−41・52号住居跡



H－43号住居跡 (A-A')(B-B')
1 暗褐色土 締まり◎ 粘性○ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を1%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を非常に多く含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
5 黒褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%含む。
6 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～7㎜を1%、焼土・炭化物を少量含む。
6'暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～7㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～7を1%、焼土・炭化物を微量含む。
7 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～10㎜を1%含む。
8 暗褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、焼土粒・炭化物を多く含む。
9 にぶい黄褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸを多く、焼土・炭化物を少量含む。
10 暗褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
11 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
12 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～20㎜を少量含む。
13 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸを非常に多く含む。
14 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、焼土粒・塊を非常に多く含む。
15 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%含む。
16 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒・塊を多く含む。
17 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
18 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
19 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、ﾛｰﾑ粒・塊をやや多く含む。
20 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
21 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
22 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
23 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%含む。
24 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
25 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性○ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
26 褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を3%含む。
27 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸを非常に多く含む。
28 明黄褐色土 締まり× 粘性× 砂質土。

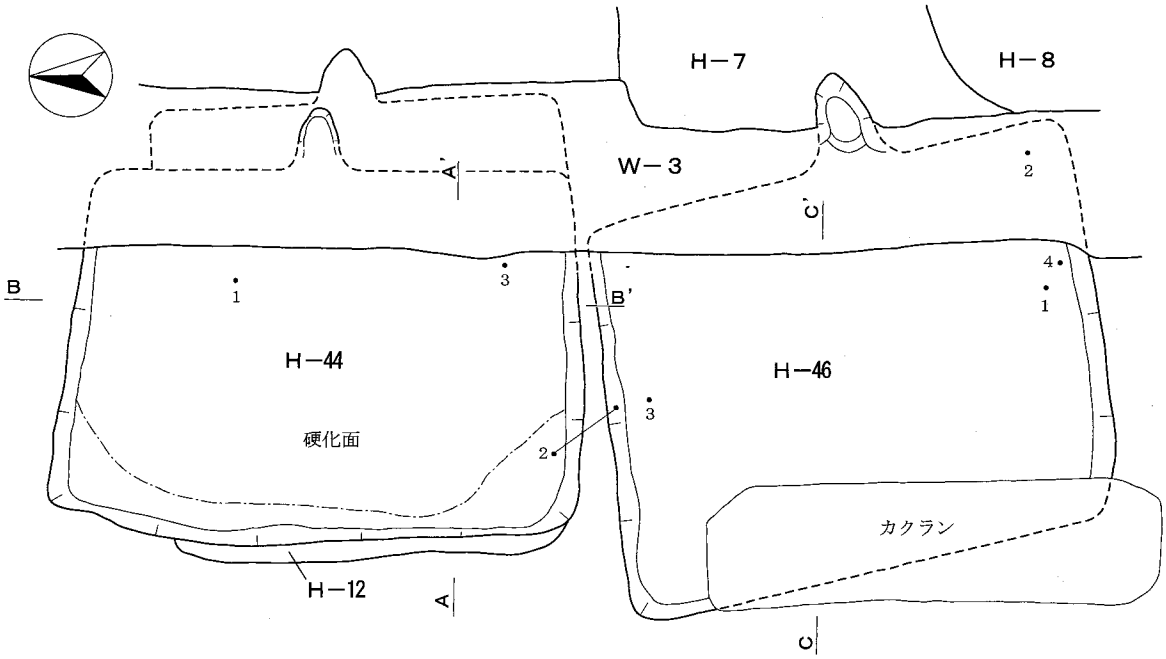
H－43号住居跡 D－1 (C-C')
1 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を3%含む。

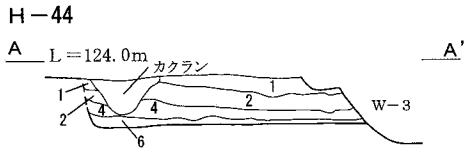
第44図 H－43号住居跡

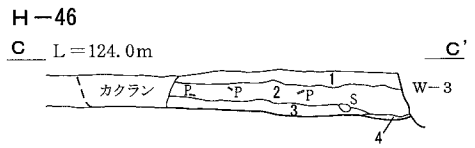


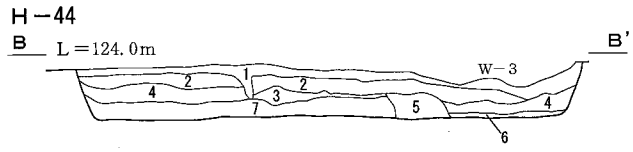
H－43号住居跡 カマド（I-I'）（J-J'）（K-K'）
1 灰褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、粘土を多く含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、焼土粒を微量、粘土を少量含む。
3 灰褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を5%、焼土粒を少量、粘土を多く含む。
4 赤褐色土 締まり△ 粘性△ 焼土塊。
5 黒褐色土 締まり× 粘性× 灰層。

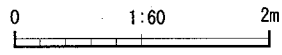
第45図　H－43号住居カマド跡





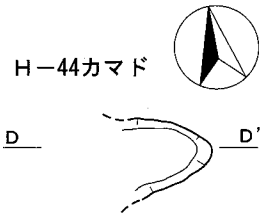


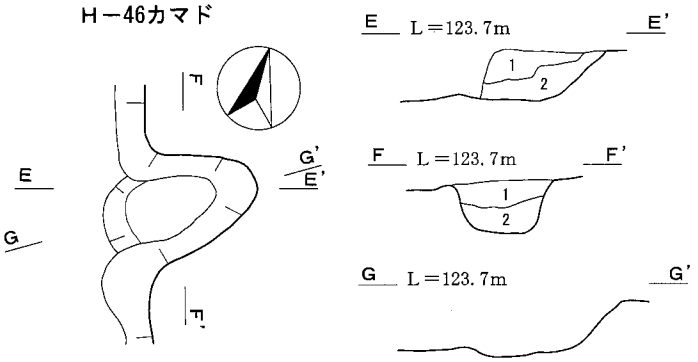


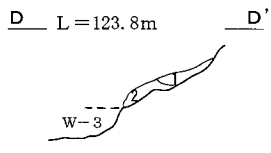


H－44号住居跡（A-A'）（B-B'）
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を7%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～5㎜を2%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、粘土を多く含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～5㎜を1%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～5㎜を少量含む。
6 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～5㎜を少量含む。
7 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を2%含む。

H－46号住居跡（C-C'）
1 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を10%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%含む。
4 褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を少量含む。

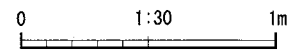




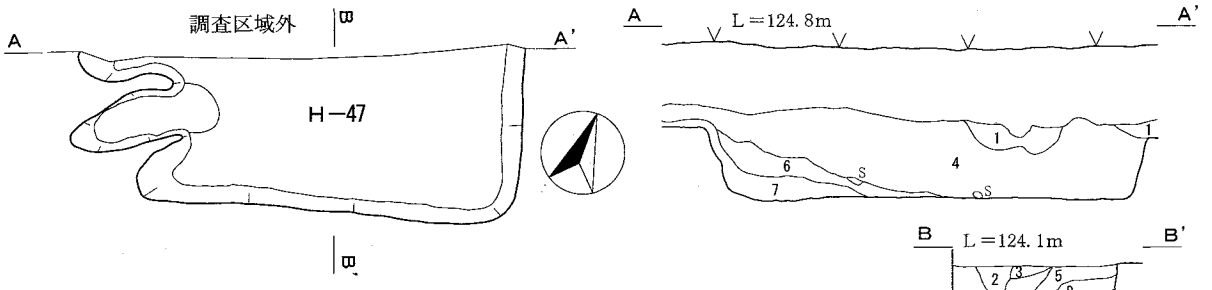


H－44号住居跡 カマド（D-D'）
1 褐色土 締まり○ 粘性△ 焼土粒を多く、暗褐色土を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、焼土粒を少量含む。

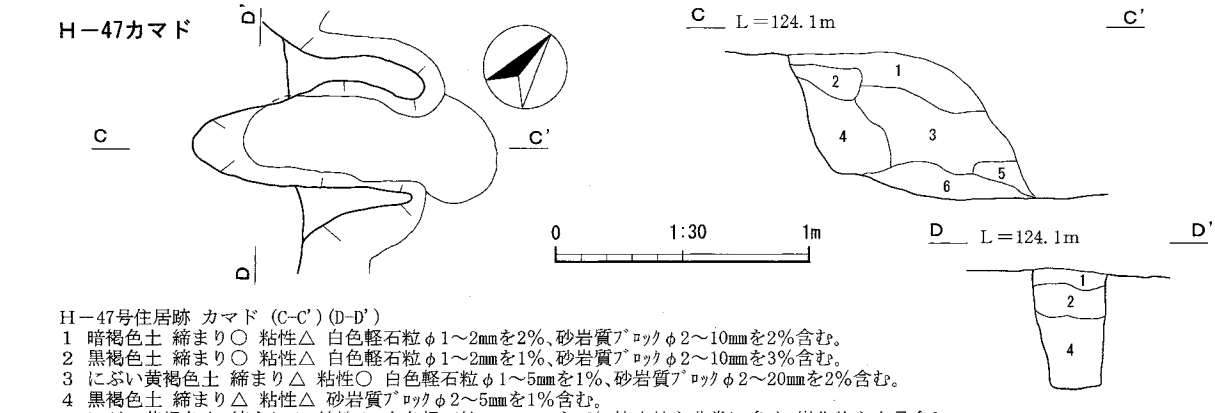
H－46号住居跡 カマド（E-E'）（F-F'）
1 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を5%、焼土粒を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を少量、焼土粒を非常に多く含む。



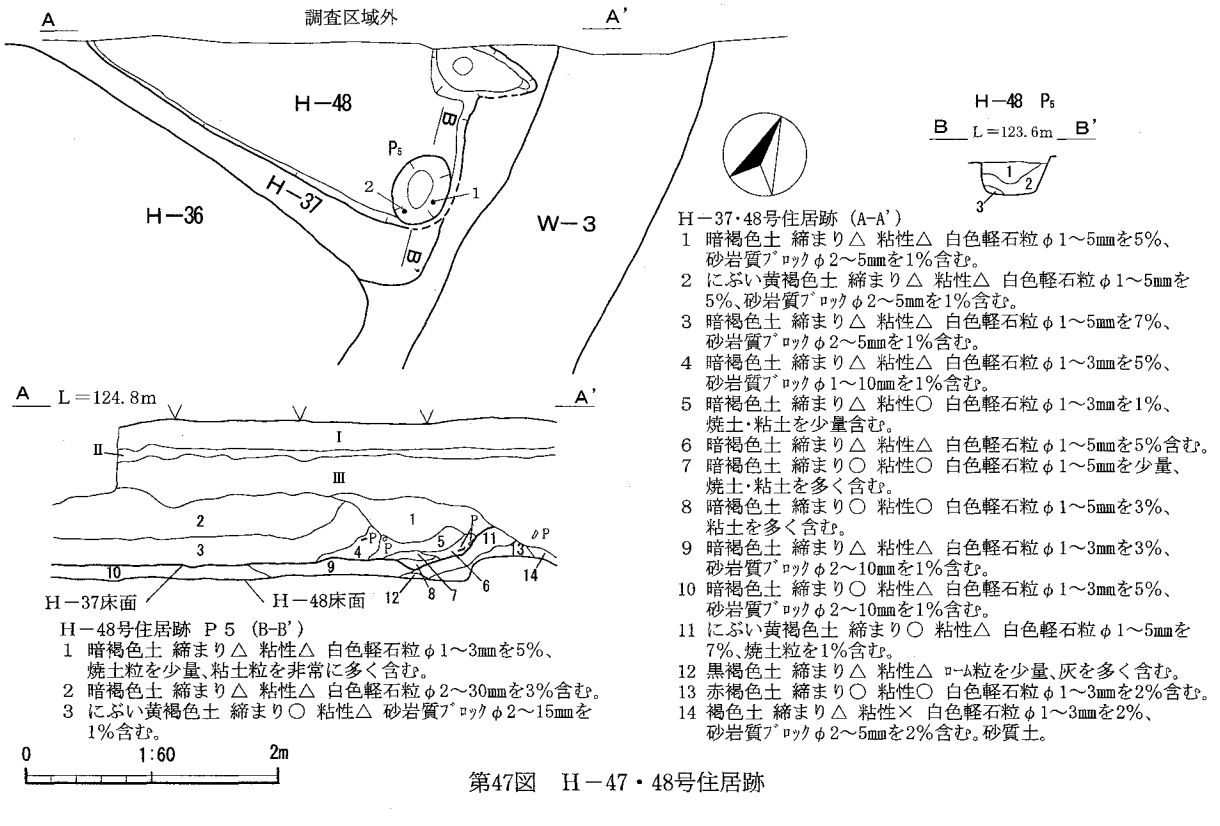
第46図 H－44・46号住居跡



H－47号住居跡 (A-A)(B-B)
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。
2 ｶｸﾗﾝ。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
4 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を10%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を5%含む。
6 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を7%含む。
7 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を5%、炭化物を少量含む。
8 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を10%含む。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を7%、黒色土を少量含む。
10 にぶい黄褐色土 締まり× 粘性× 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を2%含む。



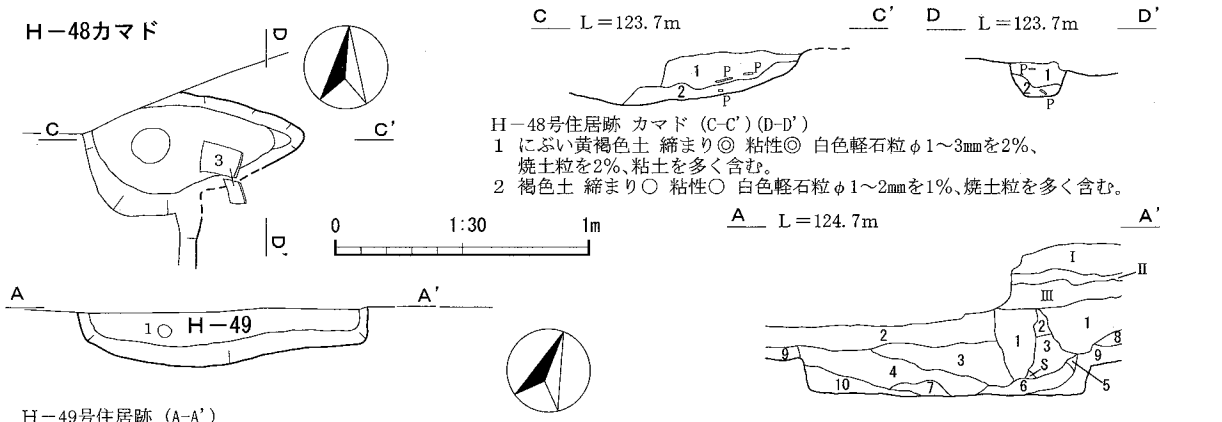
H－47号住居跡 カマド (C-C')(D-D')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
2 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性○ 白色軽石粒φ1～5㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
4 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
5 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼土粒を非常に多く、炭化物を少量含む。
6 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を少量、焼土を少量、灰を多く含む。



H－48号住居跡 P５ (B-B')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、焼土粒を少量、粘土粒を非常に多く含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ2～30㎜を3%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を1%含む。

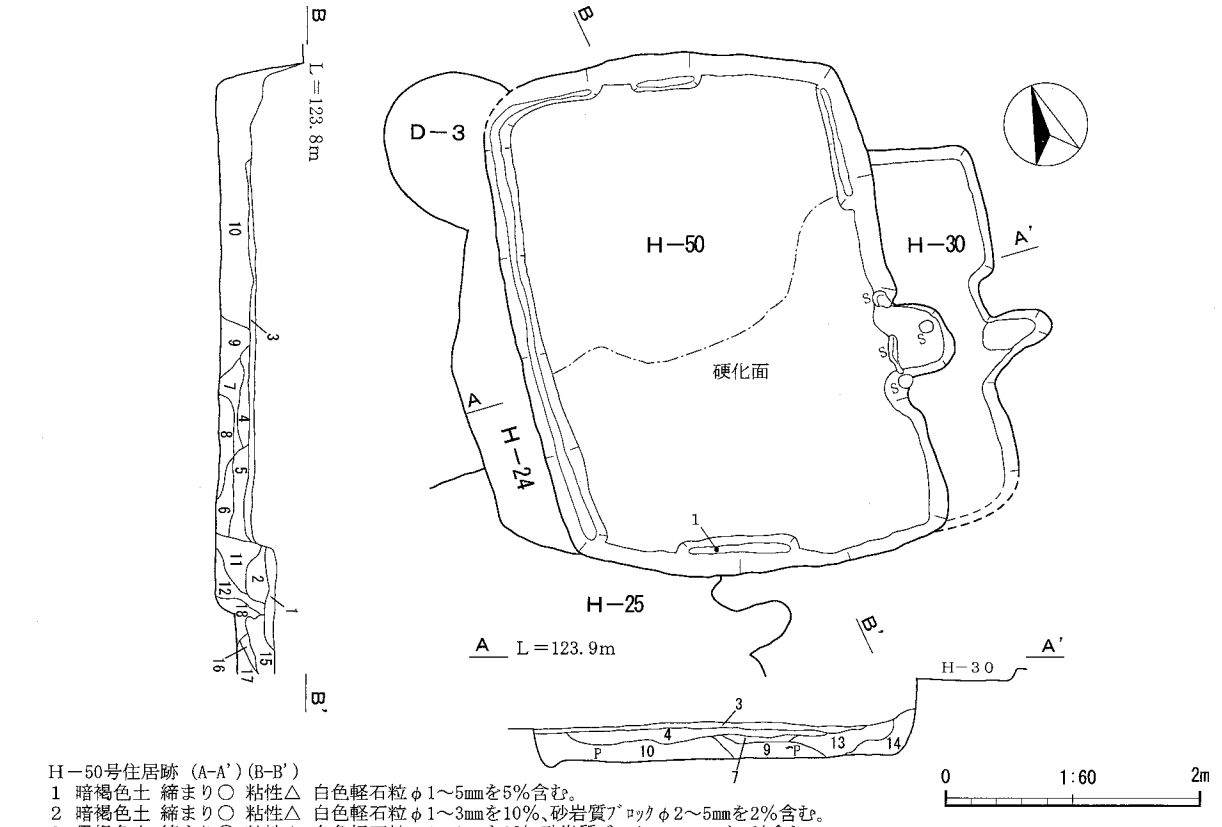
H－37・48号住居跡 (A-A')
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～10㎜を1%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、焼土・粘土を少量含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%含む。
7 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～5㎜を少量、焼土・粘土を多く含む。
8 暗褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、粘土を多く含む。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
10 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
11 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、焼土粒を1%含む。
12 黒褐色土 締まり△ 粘性△ ﾛｰﾑ粒を少量、灰を多く含む。
13 赤褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%含む。
14 褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。砂質土。

第47図 H－47・48号住居跡



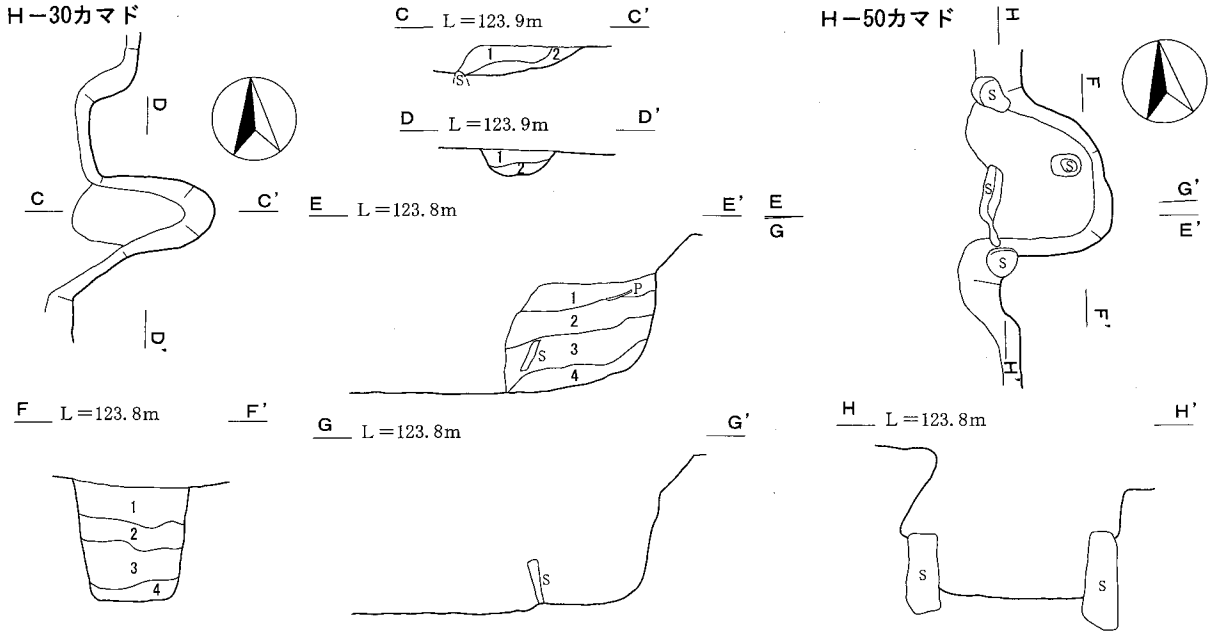
H－48号住居跡 カマド (C-C')(D-D')
1 にぶい黄褐色土 締まり◎ 粘性◎ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、
焼土粒を2%、粘土を多く含む。
2 褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、焼土粒を多く含む。

H－49号住居跡 (A-A')
1 ｶｸﾗﾝ。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
4 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を5%含む。
5 褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜・焼土粒を微量含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%、炭化物・粘土を少量含む。
7 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%、焼土を3%含む。
8 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%、黒色土を3%含む。
9 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
10 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～50㎜を3%含む。



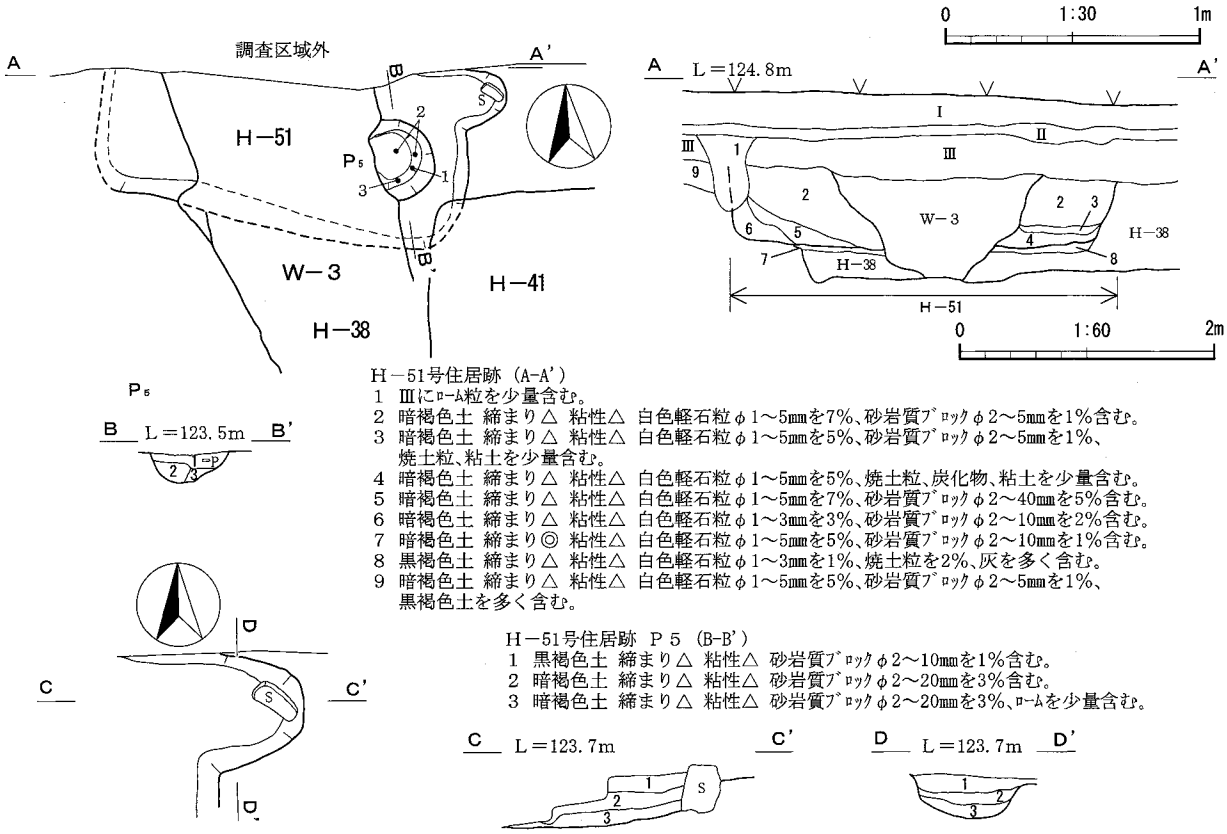
H－50号住居跡 (A-A')(B-B')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
3 黒褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を2%含む。
4 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
5 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～7㎜を2%、焼土粒を少量含む。
6 黒褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～7㎜を2%含む。
7 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%、焼土粒を微量含む。
8 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%、ﾛｰﾑを少量含む。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%、炭化物を微量含む。
10 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～40㎜を非常に多く含む。
11 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
12 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
13 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜・砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜・焼土粒を2%、、粘土塊を少量含む。
14 黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%、焼土粒を少量含む。
15 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
16 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸを非常に多く含む。
17 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～7㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～30㎜を5%含む。
18 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～100㎜を非常に多く、ﾛｰﾑを多く含む。

第48図 H－30・48・49・50号住居跡



H－30号住居跡 カマド (C-C')(D-D')
1 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、粘土粒を3%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土塊・粘土粒を1%含む。

H－50号住居跡 カマド (E-E')(F-F')
1 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒を多く、炭化物を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を2%、焼土粒・粘土を少量含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、炭化物・粘土を1%含む。
4 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 灰を多く、焼土粒を1%、炭化物を少量含む。



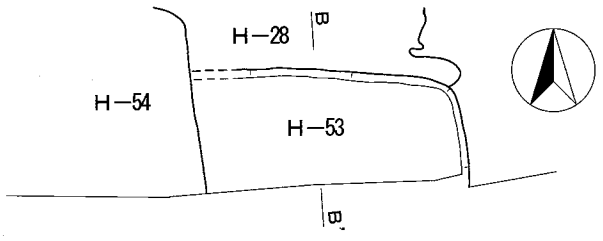
H－51号住居跡 (A-A')
1 Ⅲにﾛｰﾑ粒を少量含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%、焼土粒、粘土を少量含む。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、焼土粒、炭化物、粘土を少量含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～40㎜を5%含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
7 暗褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
8 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、焼土粒を2%、灰を多く含む。
9 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%、黒褐色土を多く含む。

H－51号住居跡 P５ (B-B')
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%、ﾛｰﾑを少量含む。

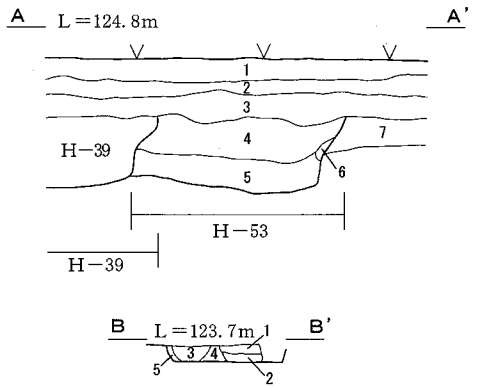
H－51号住居跡 カマド (C-C')(D-D')
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、焼土塊・粘土を多く、炭化物を微量含む。
2 黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、灰を多く含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、灰を10%含む。

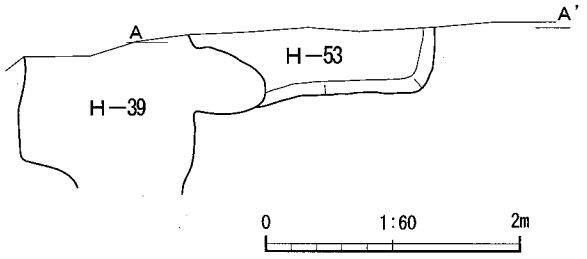
0 1:30 1m

第49図 H－30・50・51号住居跡

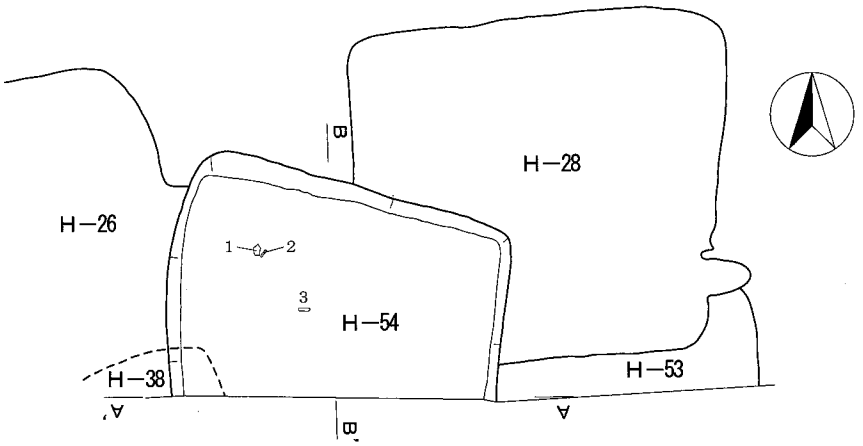


調査区域外（水路）

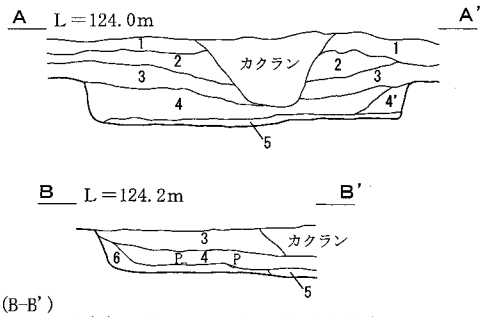


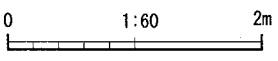


H－53号住居跡（A-A'）(B-B')
1 現耕作土。
2 暗褐色土 締まり◎ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、赤褐色の酸化跡あり。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、小礫砂を少量含む砂質土。
4 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
6 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を1%ﾛｰﾑ粒を多く含む。
7 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～7㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、炭化物を少量含む。



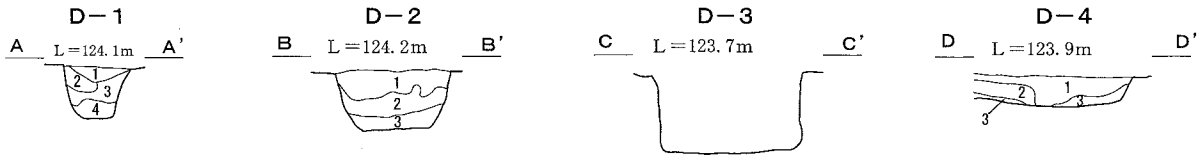
調査区域外（水路）





H－54号住居跡（A-A'）(B-B')
1 暗褐色土 締まり○ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%、砂を多く含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
4'4に砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を5%含む。
5 黒褐色土 締まり○ 粘性○ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
6 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、ﾛｰﾑを2%含む。

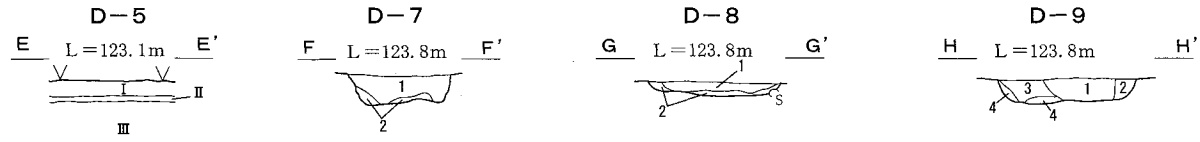
第50図　H－53・54号住居跡



D－１号土坑（A-A'）
1 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～2㎜を微量含む。

D－２号土坑（B-B'）
1 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を1%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を1%含む。

D－４号土坑（D-D'）
1 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を2%含む。
2 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を3%含む。
3 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、ﾛｰﾑを少量含む。

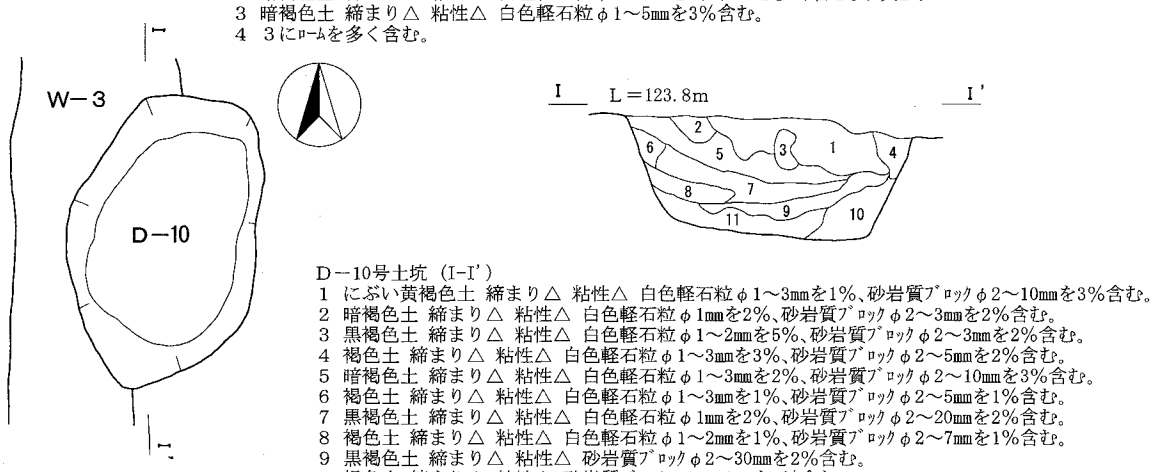


D－５号土坑（E-E'）
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を2%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。

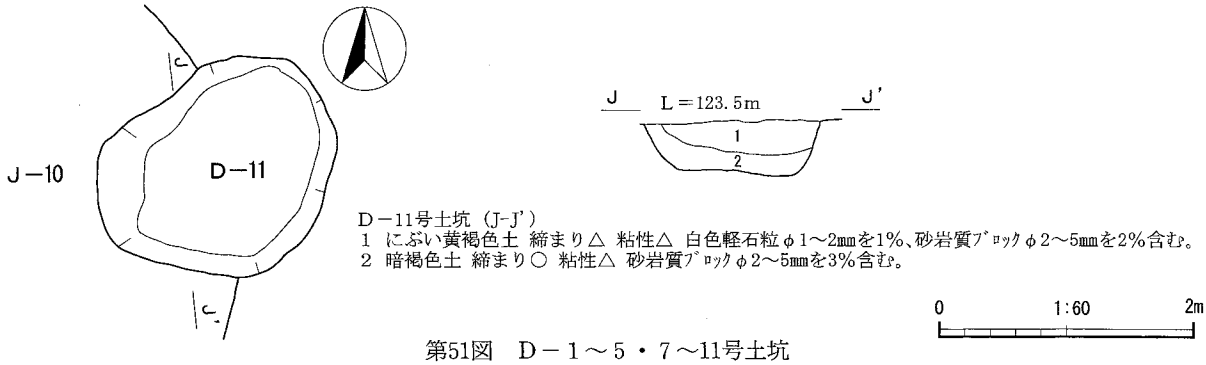
D－７号土坑（F-F'）
1 灰黄褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を少量含む。砂質土。
2 1にﾛｰﾑを多く含む。

D－８号土坑（G-G'）
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%含む。
2 1にﾛｰﾑを多く含む。

D－９号土坑（H-H'）
1 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
2 暗褐色土 締まり× 粘性× 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、ﾛｰﾑを多く含む。砂質土。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%含む。
4 3にﾛｰﾑを多く含む。



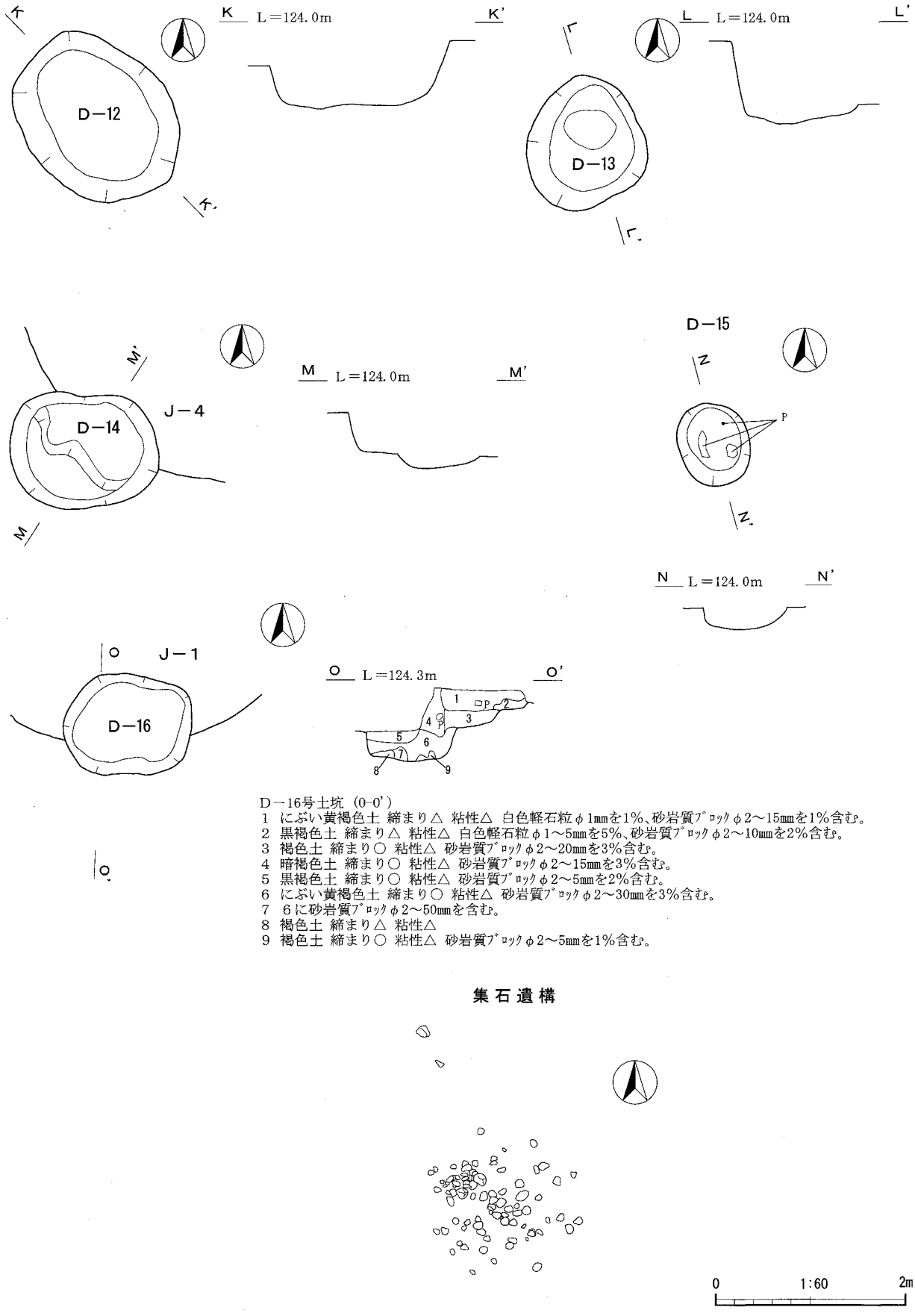
D－10号土坑（I-I'）
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を2%含む。
3 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を2%含む。
4 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を3%含む。
6 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
7 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を2%含む。
8 褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～7㎜を1%含む。
9 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を2%含む。
10 褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
11 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。



D－11号土坑（J-J'）
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
2 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を3%含む。

0 1:60 2m

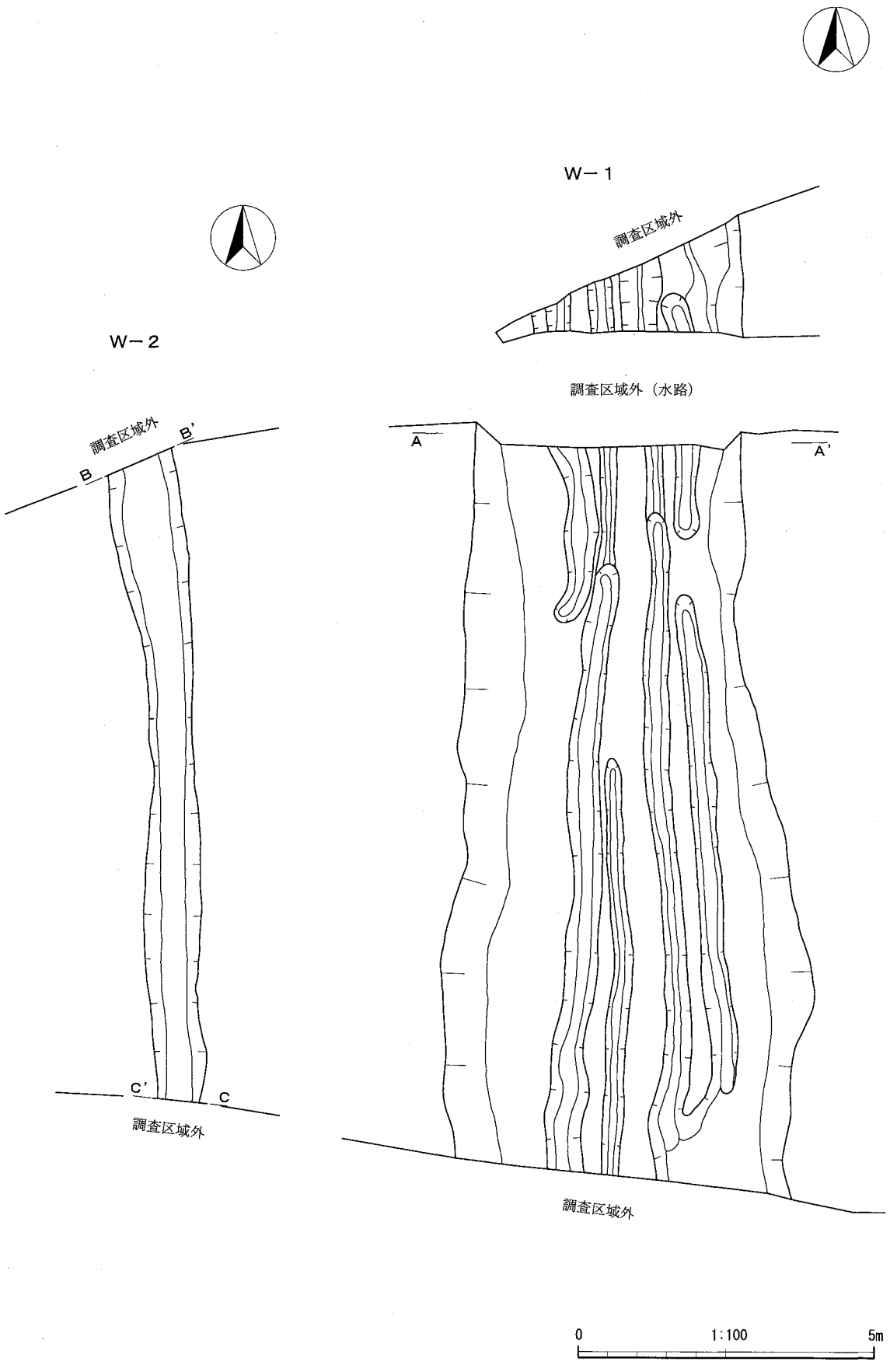
第51図 D－１～５・７～11号土坑



D－16号土坑（0-0'）
1 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を1%含む。
2 黒褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
3 褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を3%含む。
4 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を3%含む。
5 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
6 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～30㎜を3%含む。
7 6に砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～50㎜を含む。
8 褐色土 締まり△ 粘性△
9 褐色土 締まり○ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。

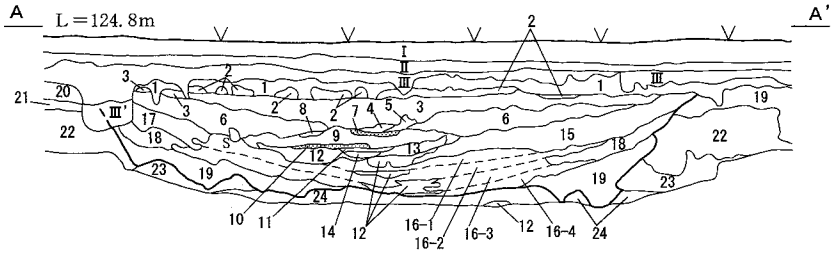
集石遺構

第52図　D－12～16号土坑、集石遺構



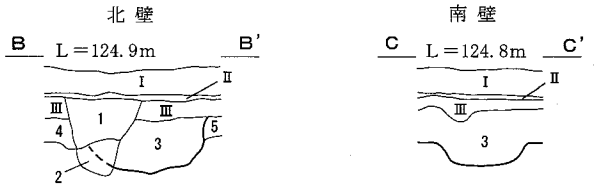
第53図　W－１・２号溝平面図

W－1

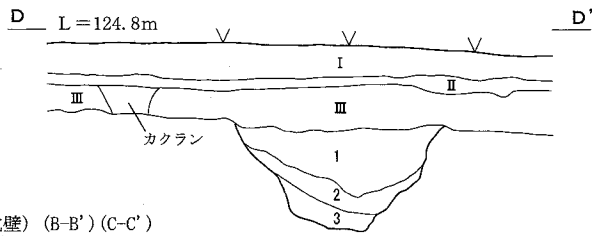


W－１号溝跡（北壁）（A-A'）
Ⅲ'暗褐色土 締まり× 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%、ﾛｰﾑを多く含む。
1 黒褐色土 締まり○ 粘性× As－Bを非常に多く含む。
2 As－B軽石層
3 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%、砂を少量含む。
4 黒褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～3㎜を1%含む。
5 3に砂を多く含む。
6 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
7 暗褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%含む。(硬化面)
8 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ5㎜を1%含む。
9 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
10 暗褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ1～2㎜を1%含む。(硬化面)
11 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂を微量含む。
12 砂礫層 締まり△ 粘性×
13 にぶい黄褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%含む。
14 砂層 締まり◎ 粘性×
15 暗褐色土 締まり○ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～15㎜を3%含む。
16-1 にぶい黄褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、にぶい黄褐色土を多く含む。
16-2 暗褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を1%、にぶい黄褐色土を少量含む。
16-3 暗褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%含む。
16-4 暗褐色土 締まり◎ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
17 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
18 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を2%含む。
19 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～2㎜を2%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～20㎜を5%含む。
20 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を7%含む。
21 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、黒色土を多く含む。
22 褐色土 締まり△ 粘性△ 砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%含む。
23 黄褐色土 締まり○ 粘性× 砂質土。
24 砂がﾗﾐﾅ状に堆積。(総社砂層)

W－2

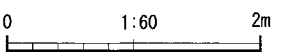


W－3

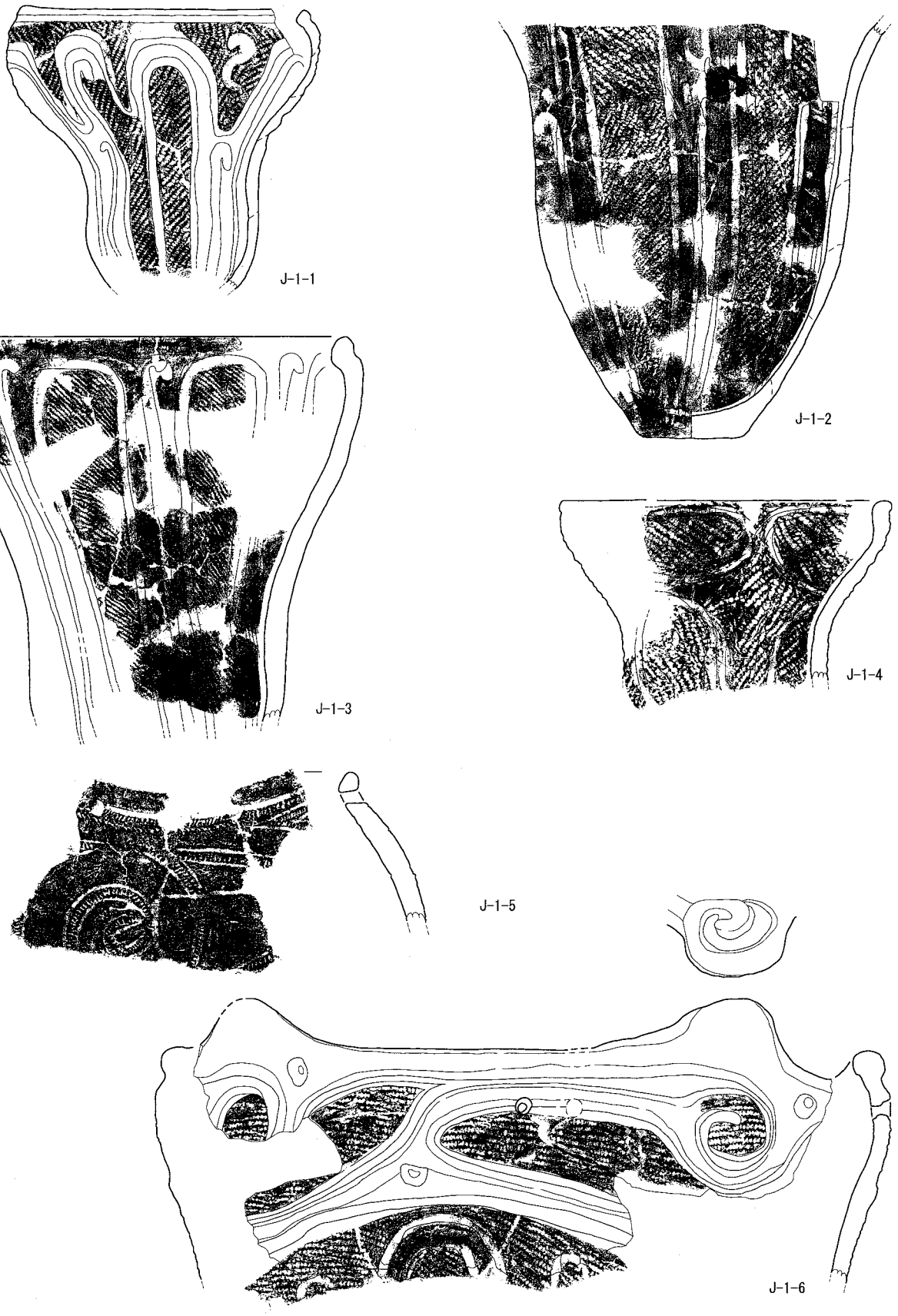


W－２号溝跡（北壁）（B-B'）（C-C'）
1 Ⅲ・3・4の混土。
2 暗褐色土 締まり× 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を10%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%、黒色土塊を少量含む。
4 にぶい黄褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を2%含む。
5 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～5㎜を1%含む。

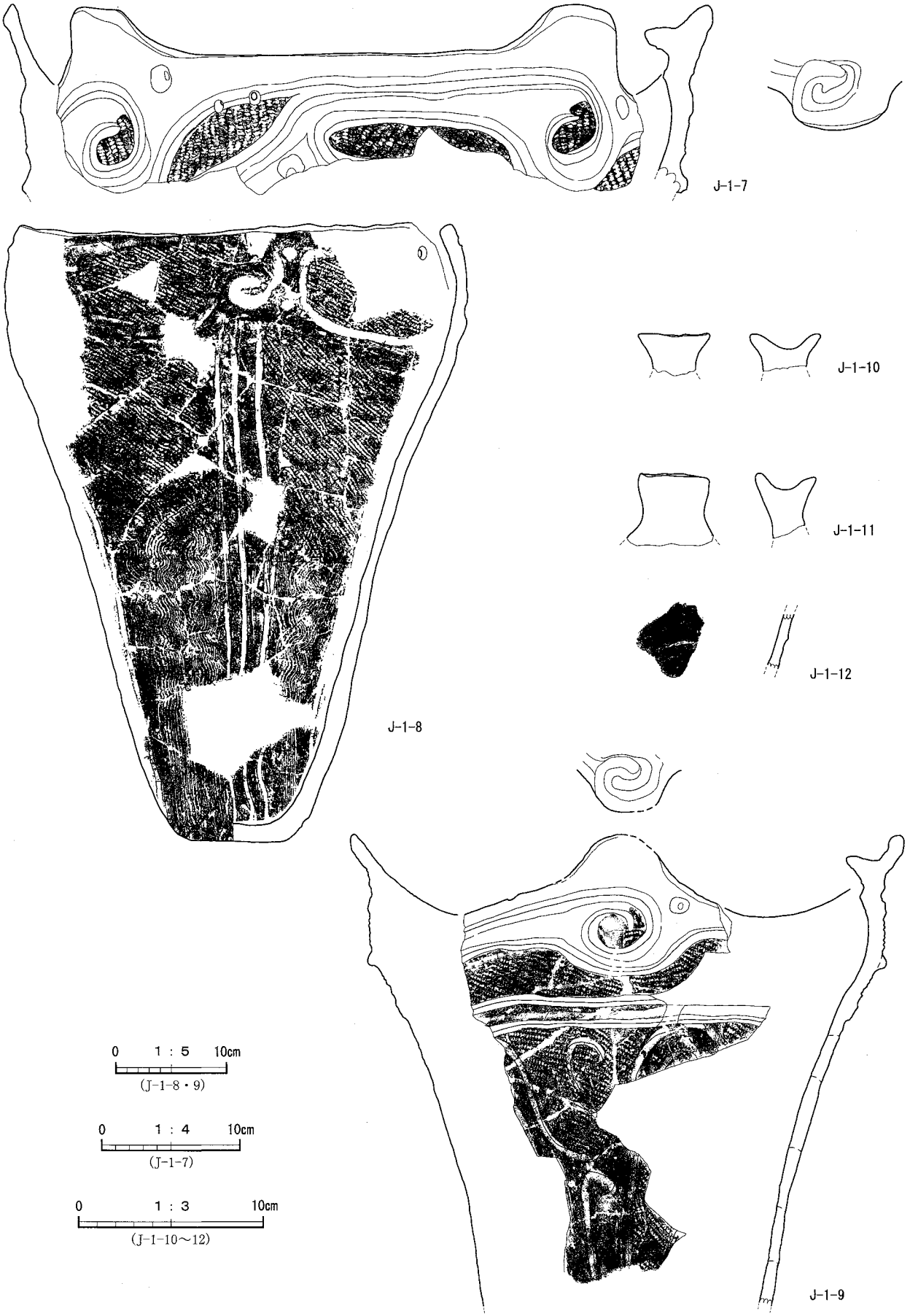
W－３号溝跡（北壁）（D-D'）
1 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜・小礫を1%、砂を非常に多く含む。
2 暗褐色土 締まり△ 粘性× 白色軽石粒φ1～3㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%、砂を多く含む。
3 暗褐色土 締まり△ 粘性△ 白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸφ2～10㎜を1%、砂を少量含む。



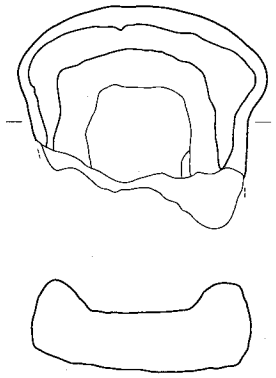
第54図 W－１～３号溝断面図



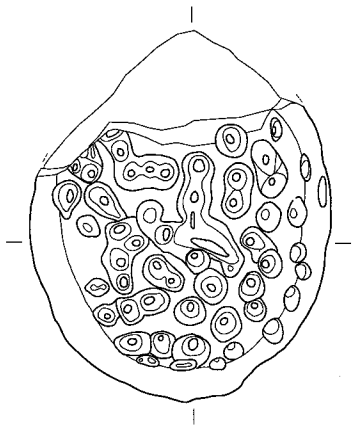
第55図　Ｊ－１号住居跡遺物実測図

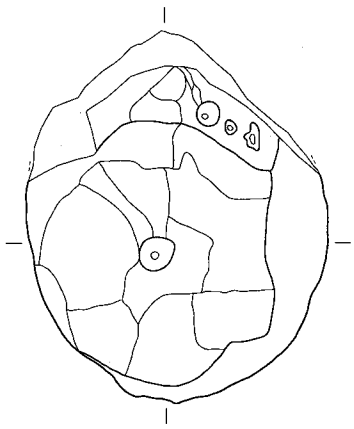


第56図　Ｊ－１号住居跡遺物実測図

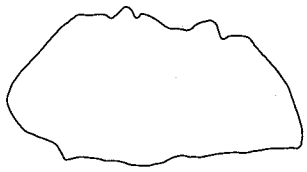


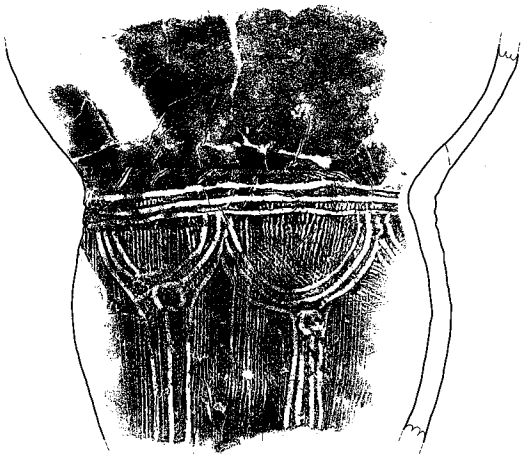
J-1-13



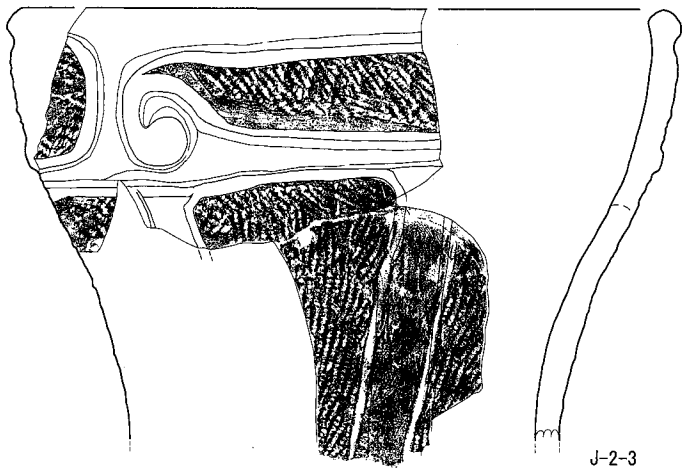


J-1-14

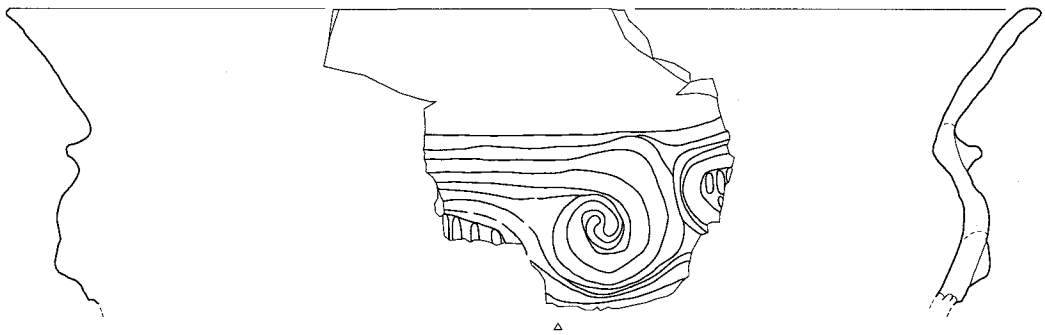




J-2-1



J-2-3



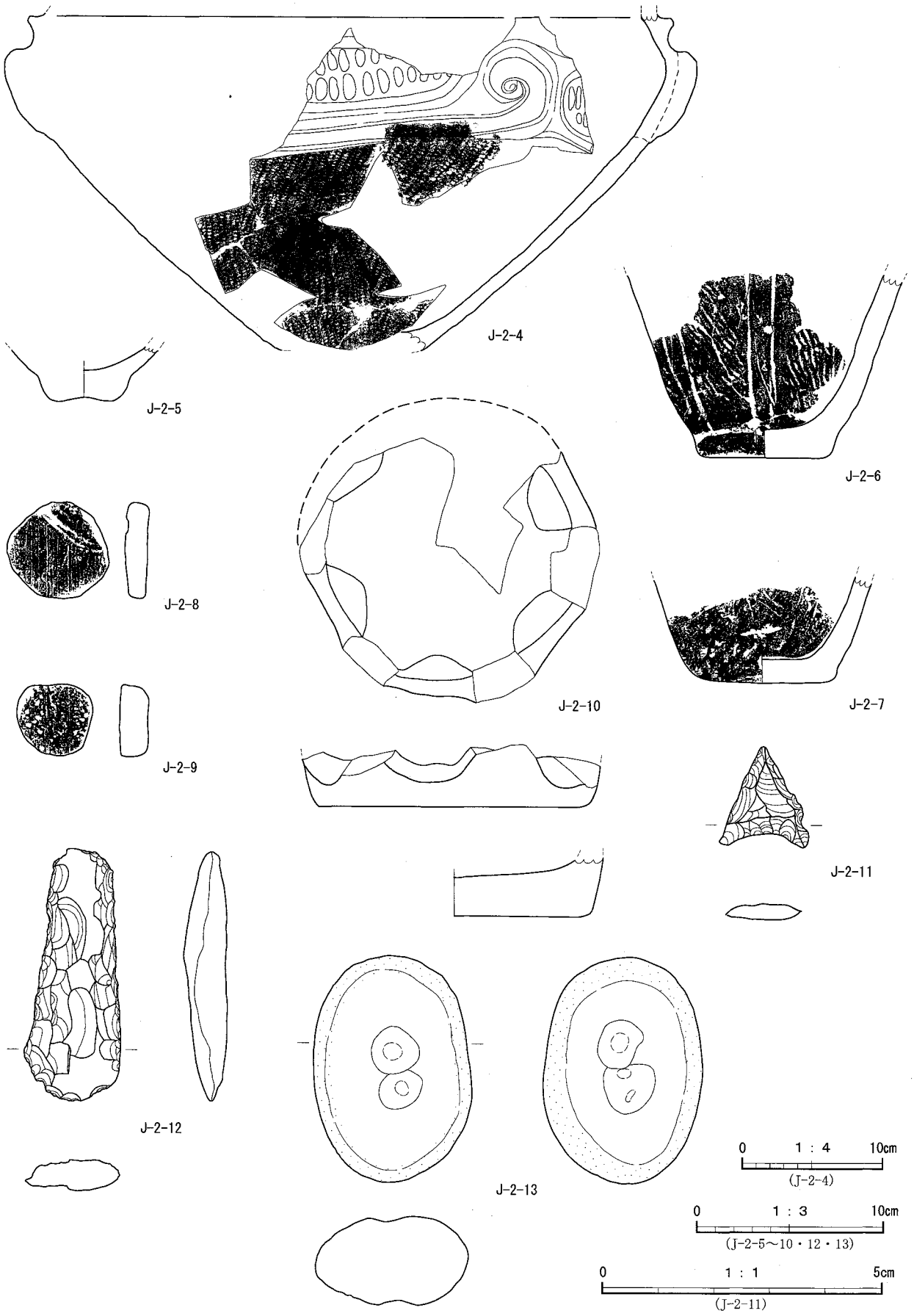
J-2-2

0 1：3 10cm
(J-1-13)

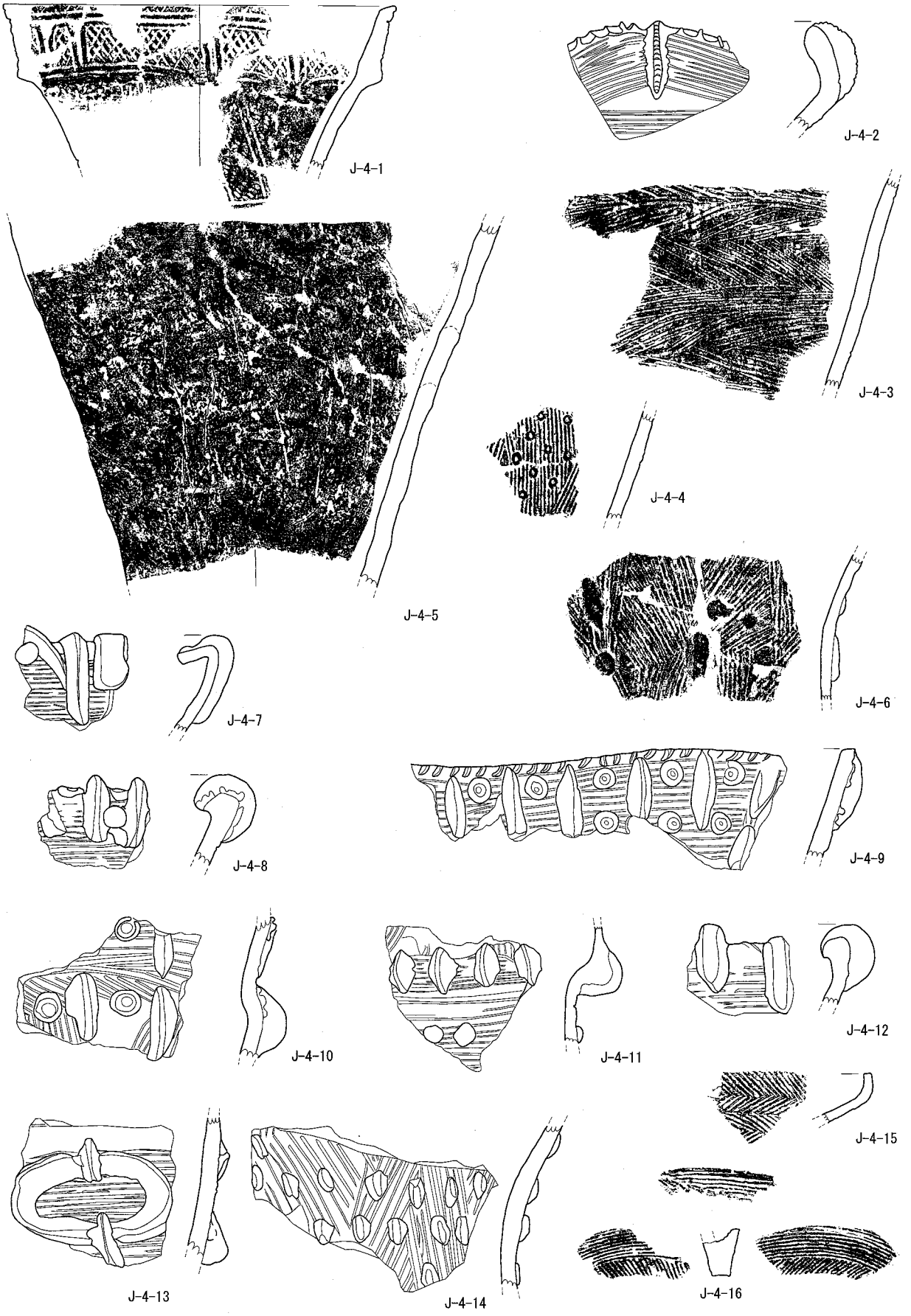
0 1：4 10cm
(J-2-1～3)

0 1：5 10cm
(J-1-14)

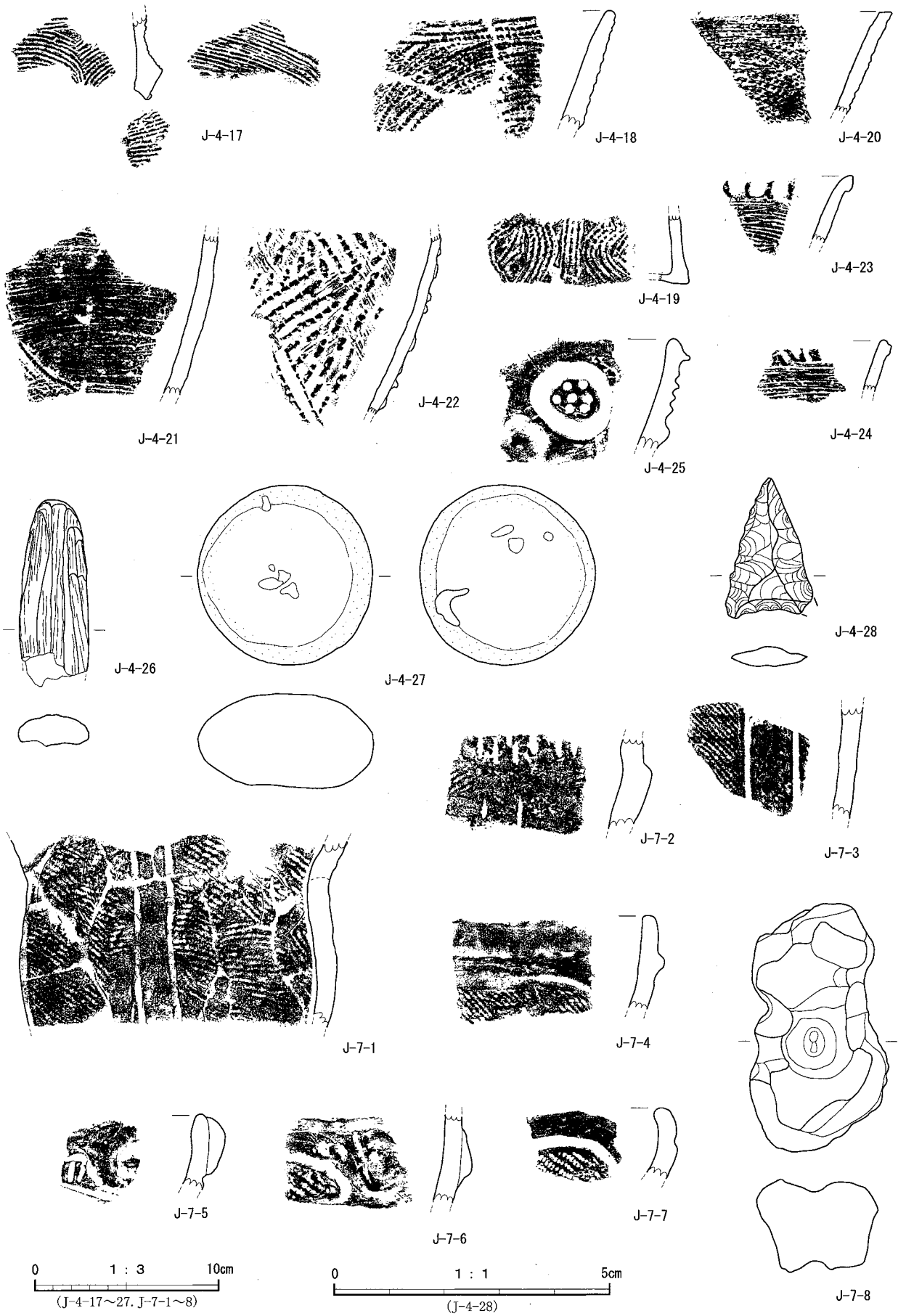
第57図　Ｊ－１・２号住居跡遺物実測図



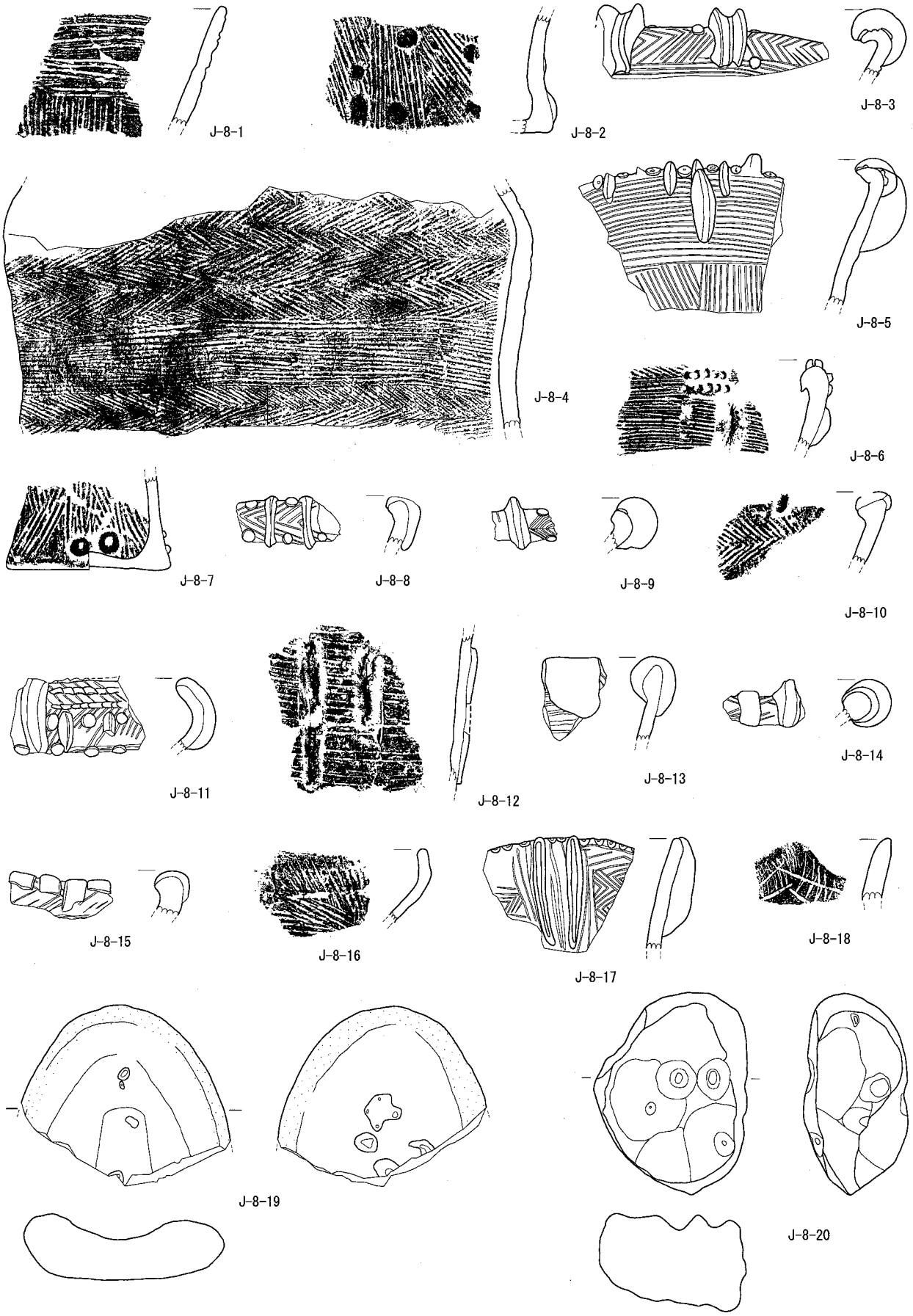
第58図　J－2号住居跡遺物実測図



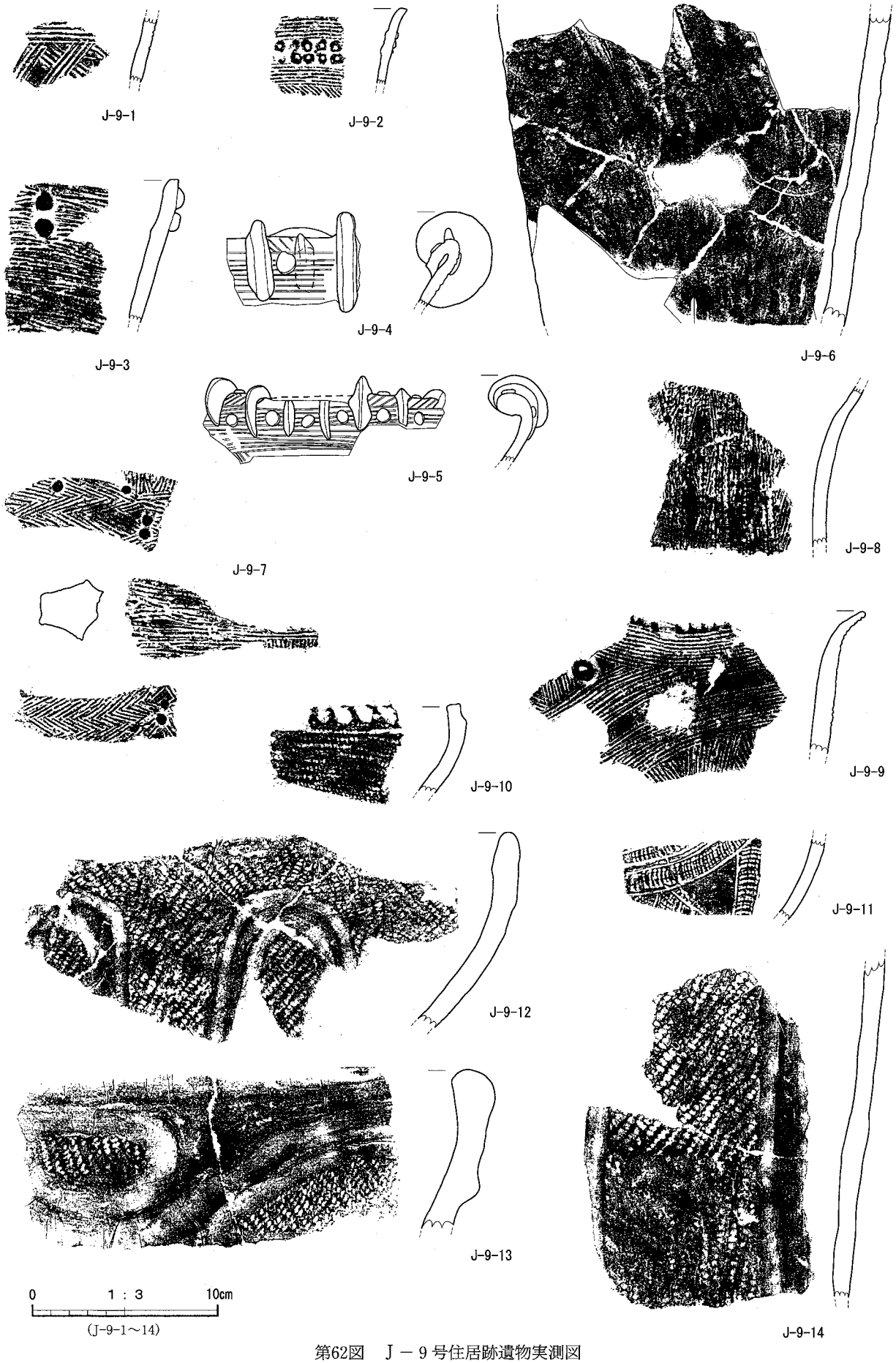
第59図　J－4号住居跡遺物実測図



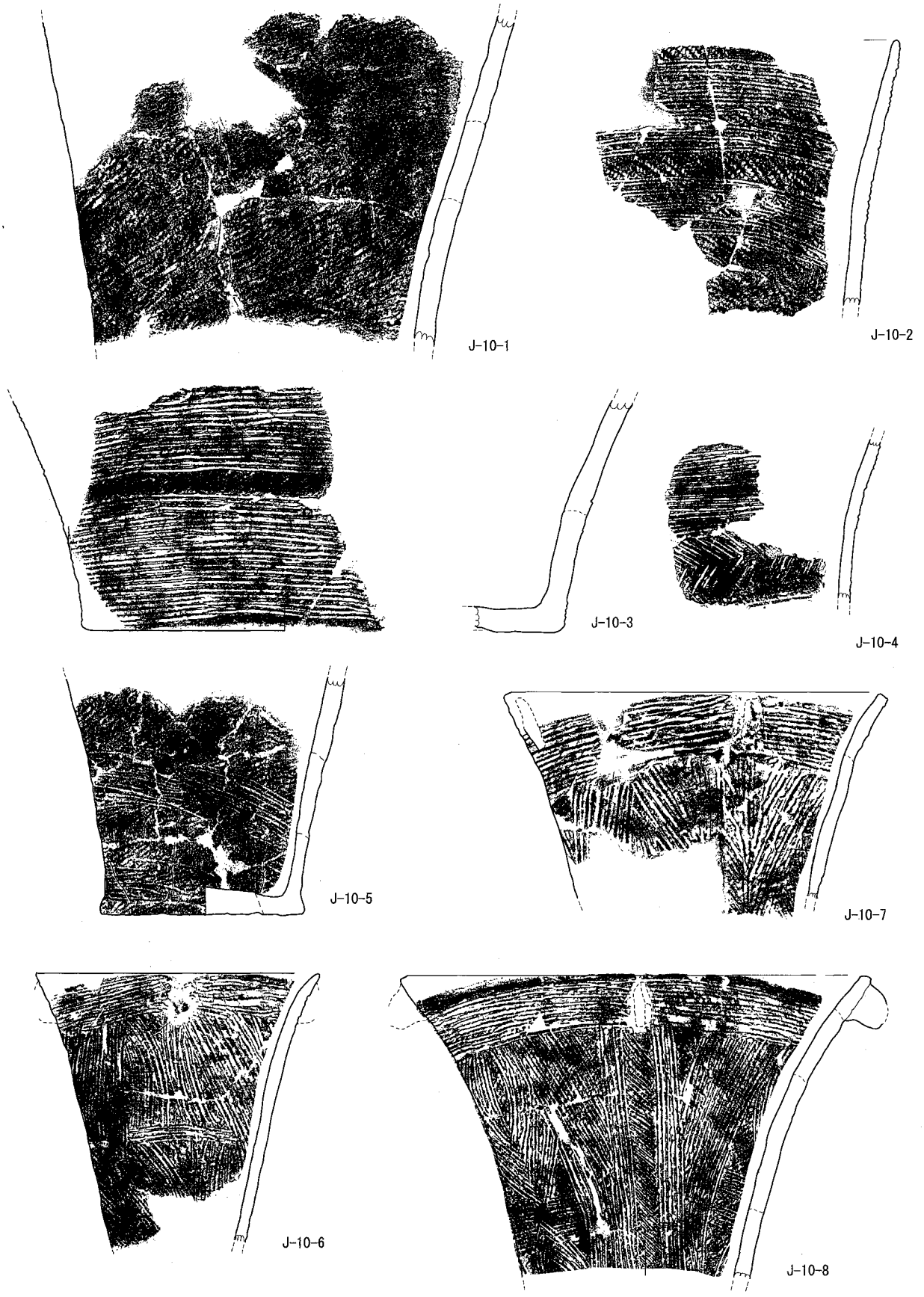
第60図　Ｊ－４・７号住居跡遺物実測図



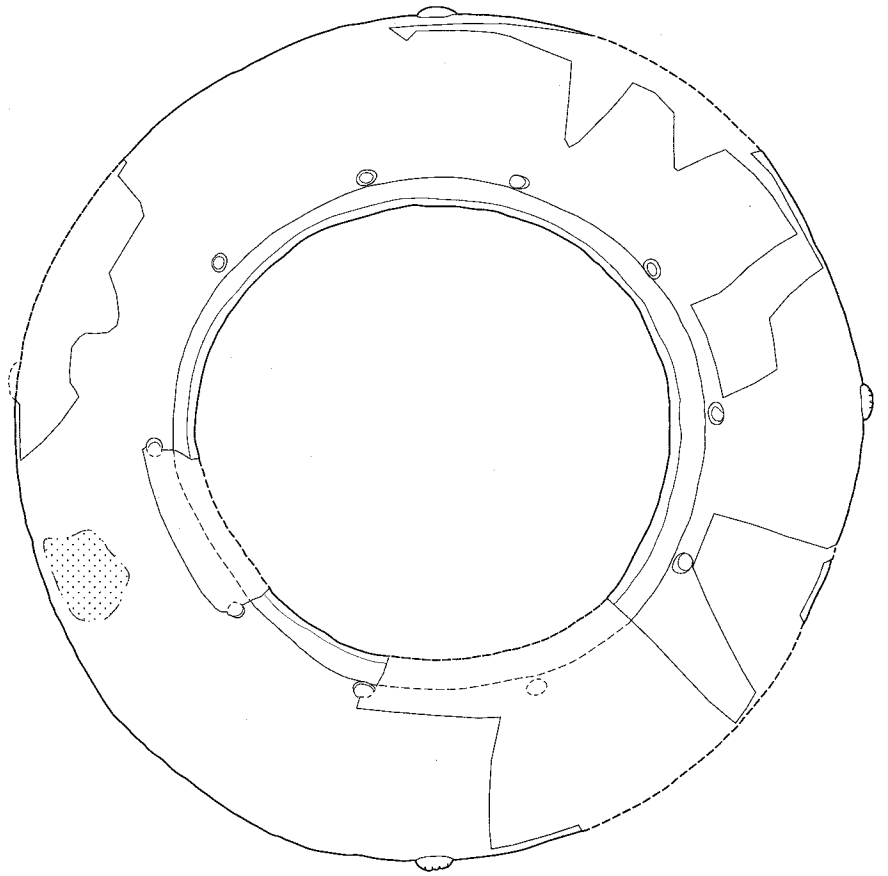
第61図　J－8号住居跡遺物実測図



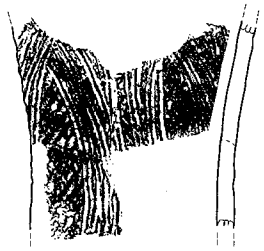
第62図　Ｊ－９号住居跡遺物実測図



第63図　Ｊ－10号住居跡遺物実測図

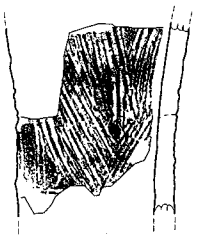


J-10-9



J-10-10

J-10-11

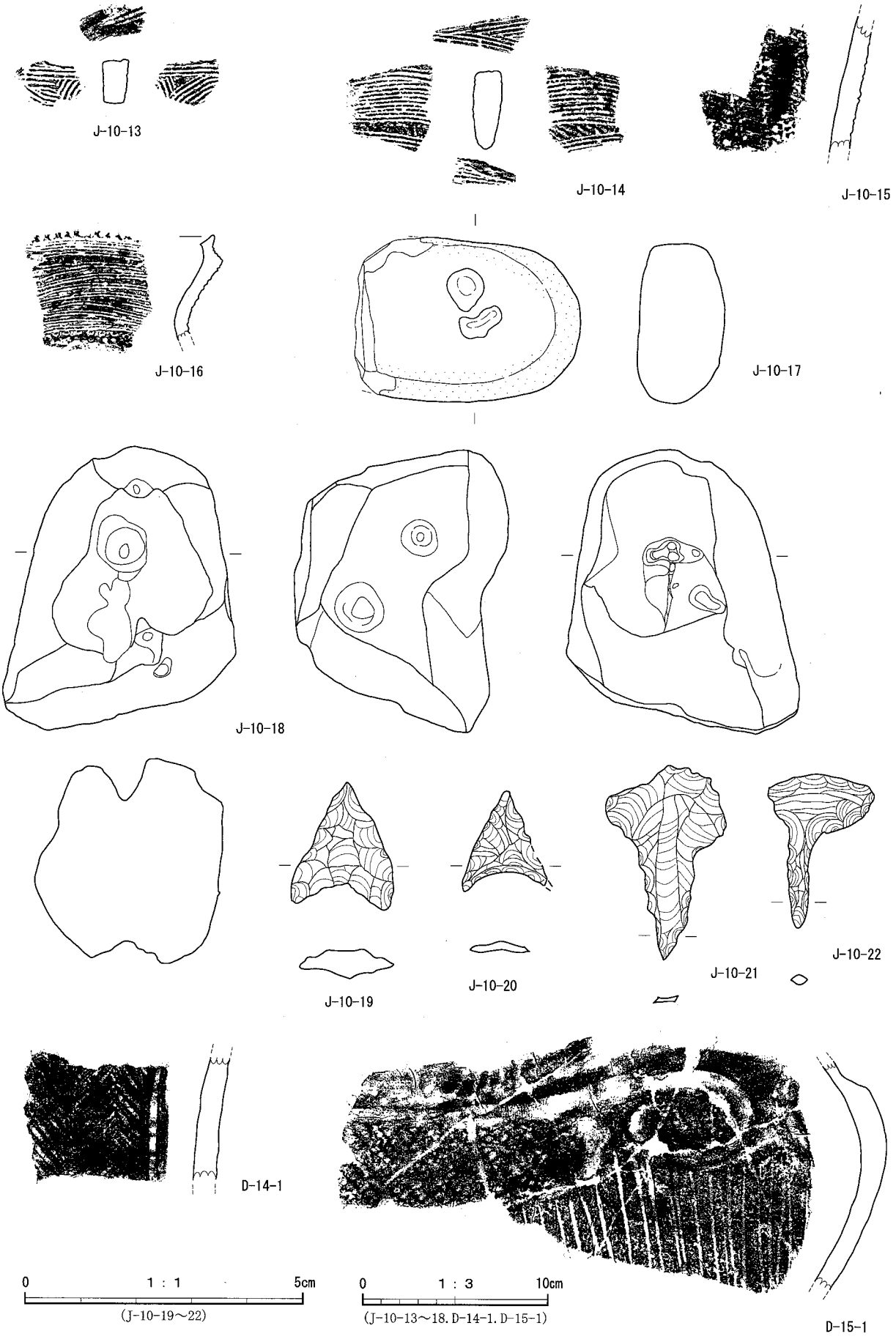


J-10-12

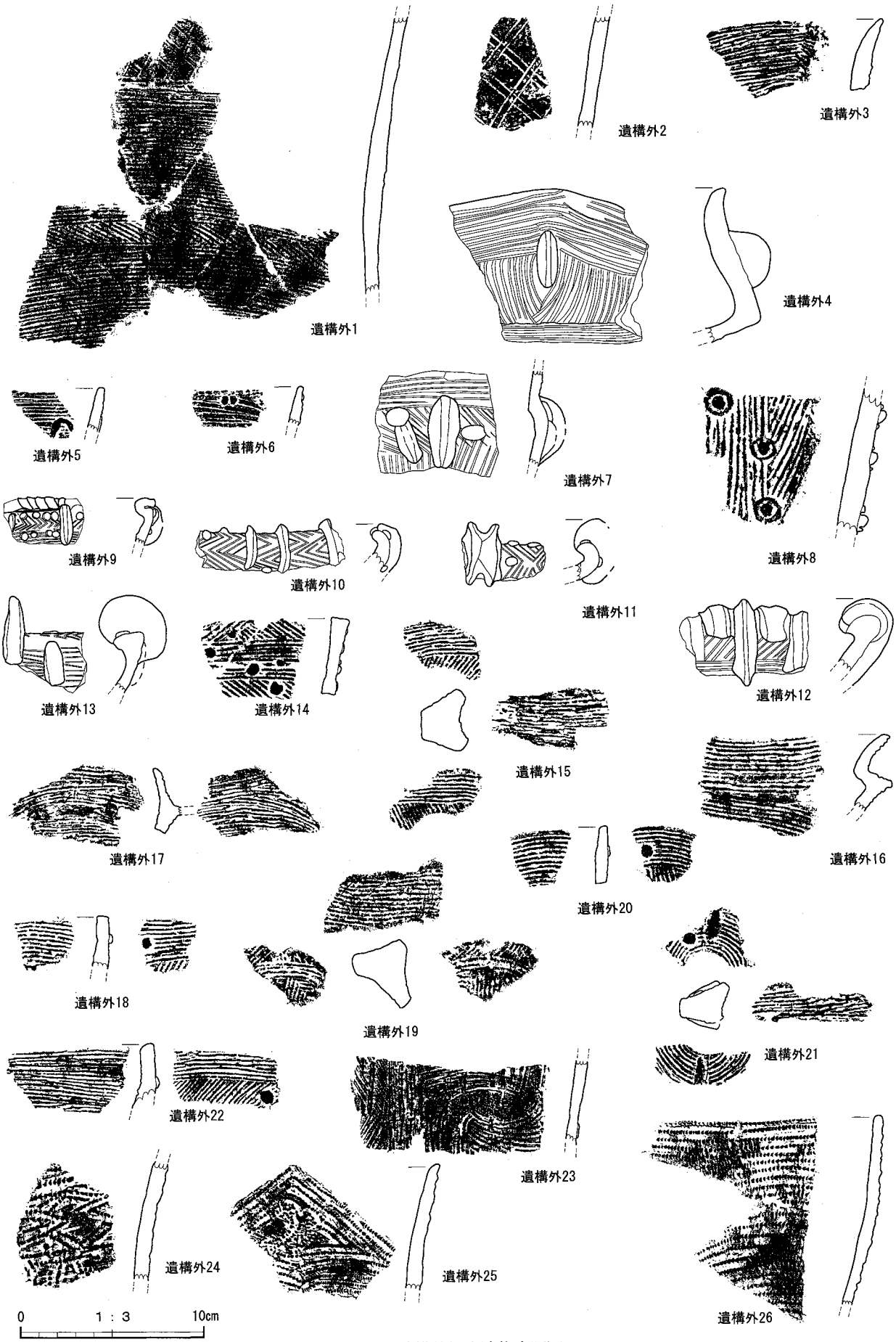
0　1：3　10cm

(J-10-9～12)

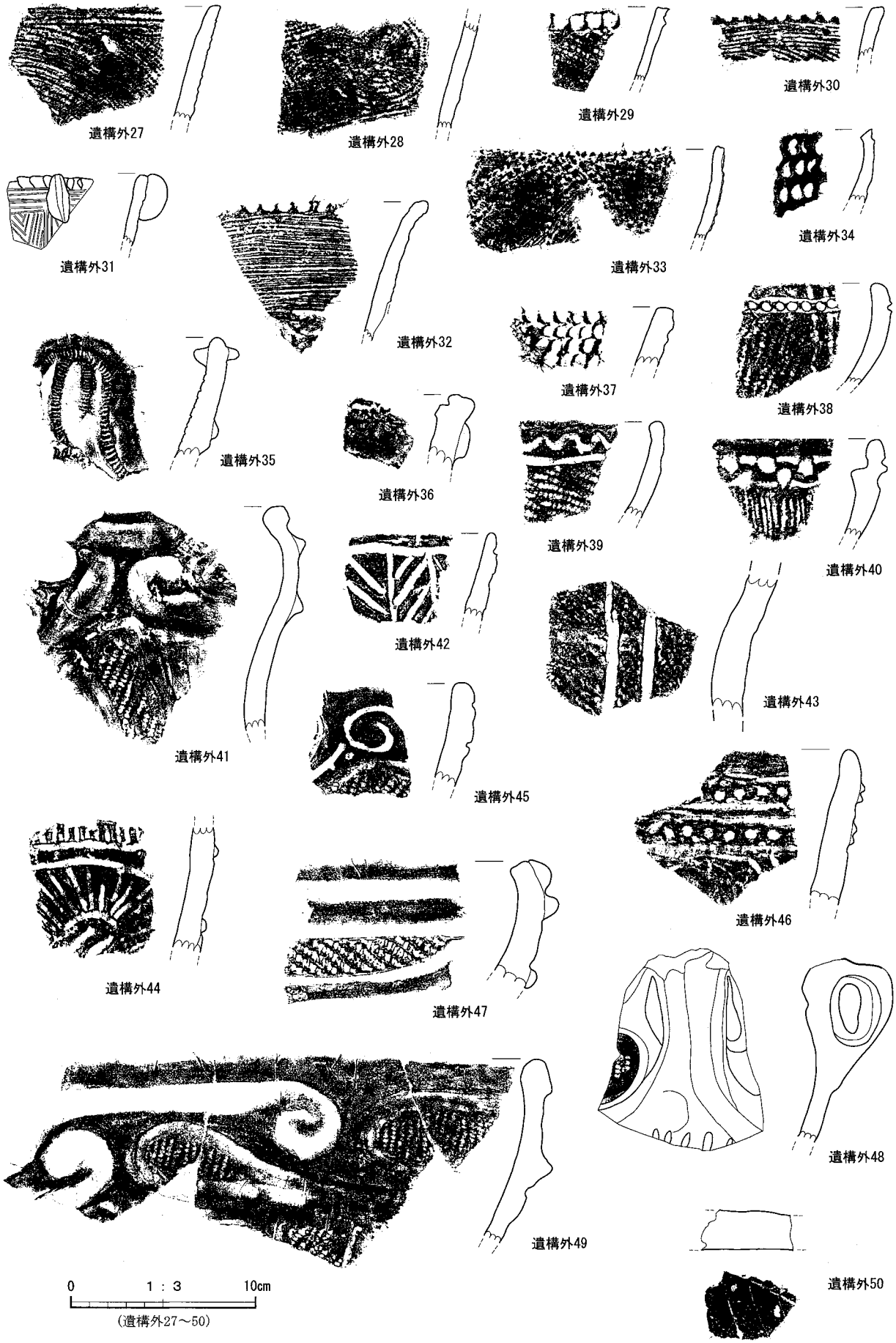
第64図　J－10号住居跡遺物実測図



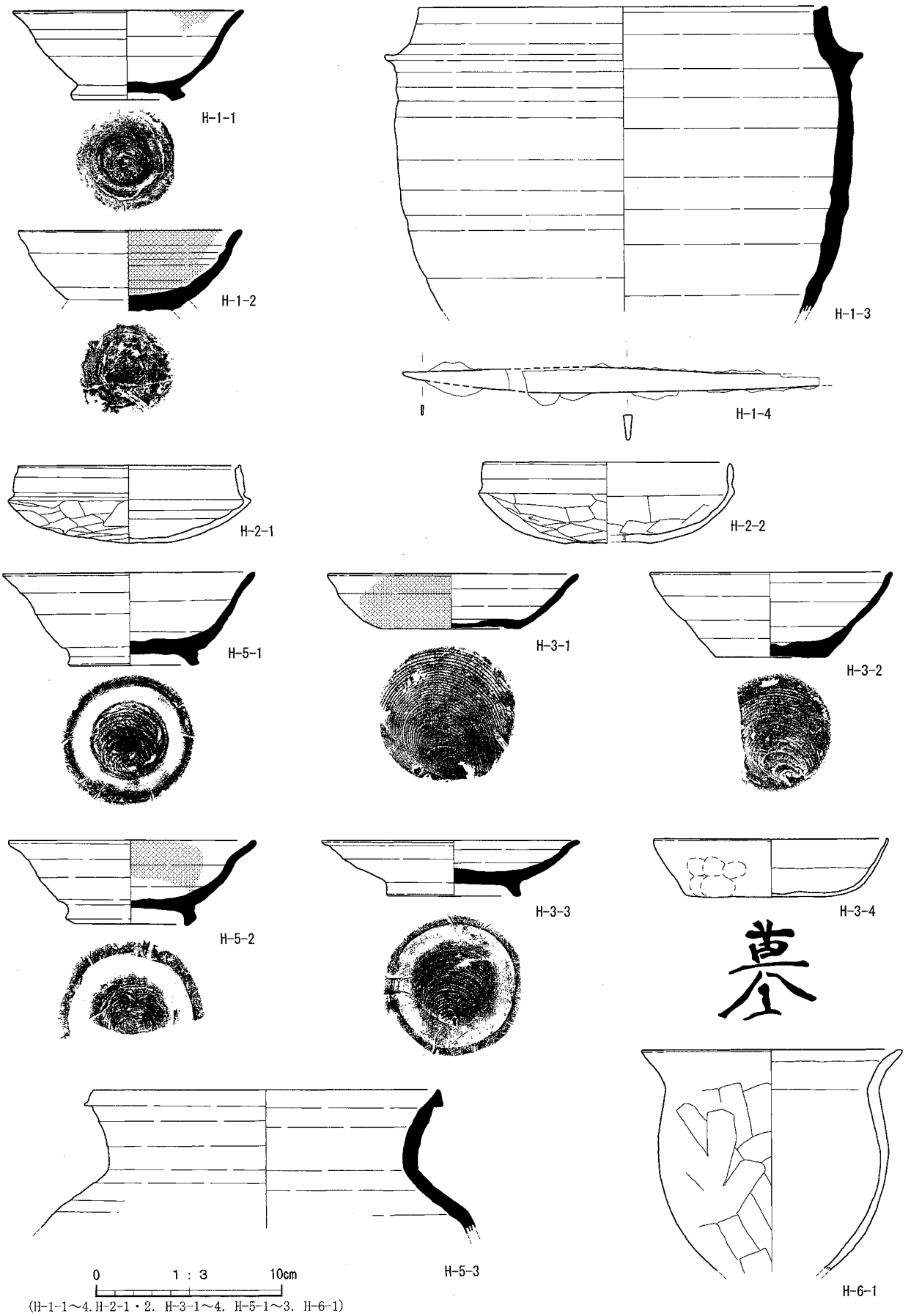
第65図　Ｊ－10号住居跡、Ｄ－14・15号土坑遺物実測図



第66図　遺構外縄文遺物実測図

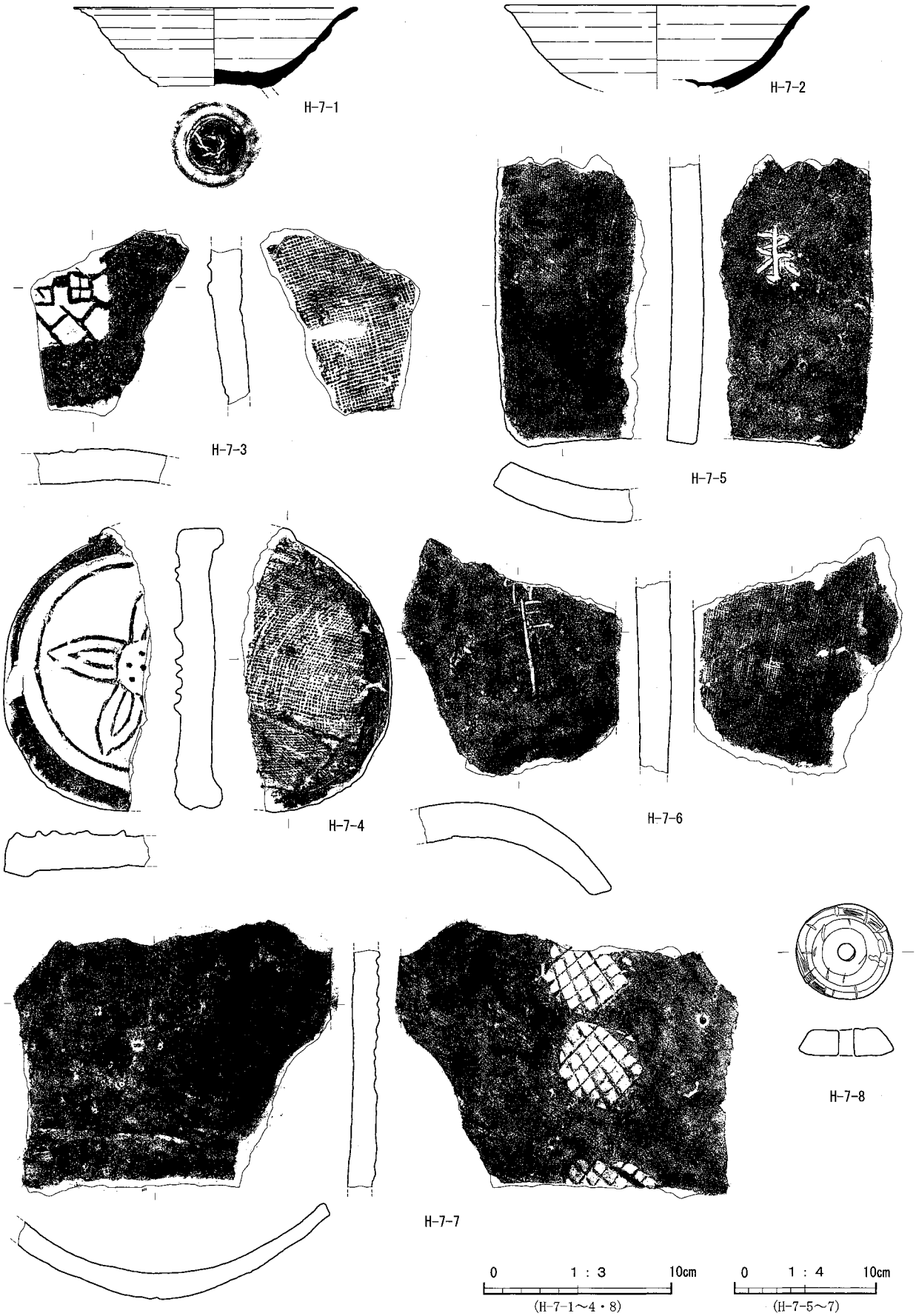


第67図　遺構外縄文遺物実測図

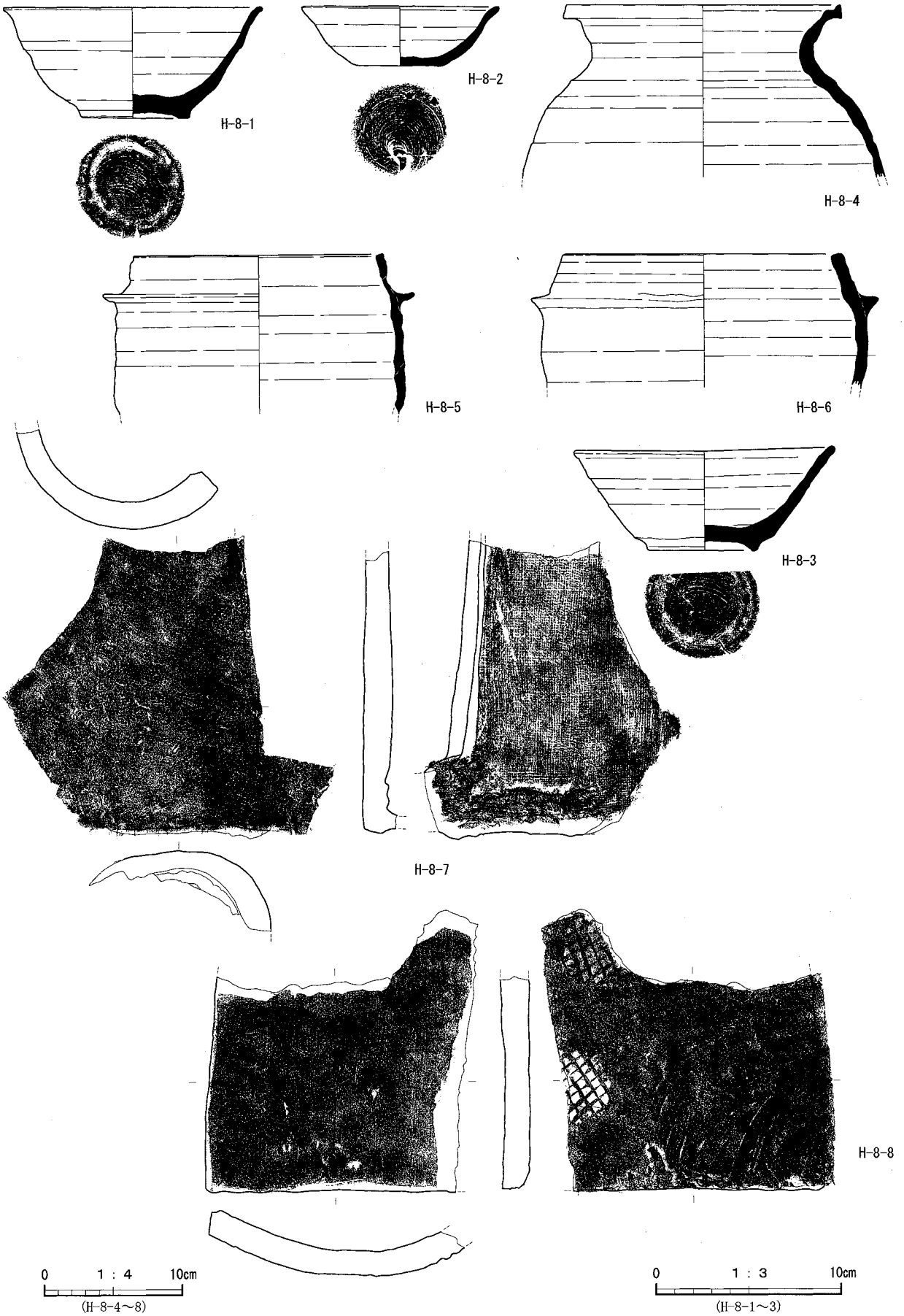


(H-1-1～4.H-2-1・2. H-3-1～4. H-5-1～3. H-6-1)

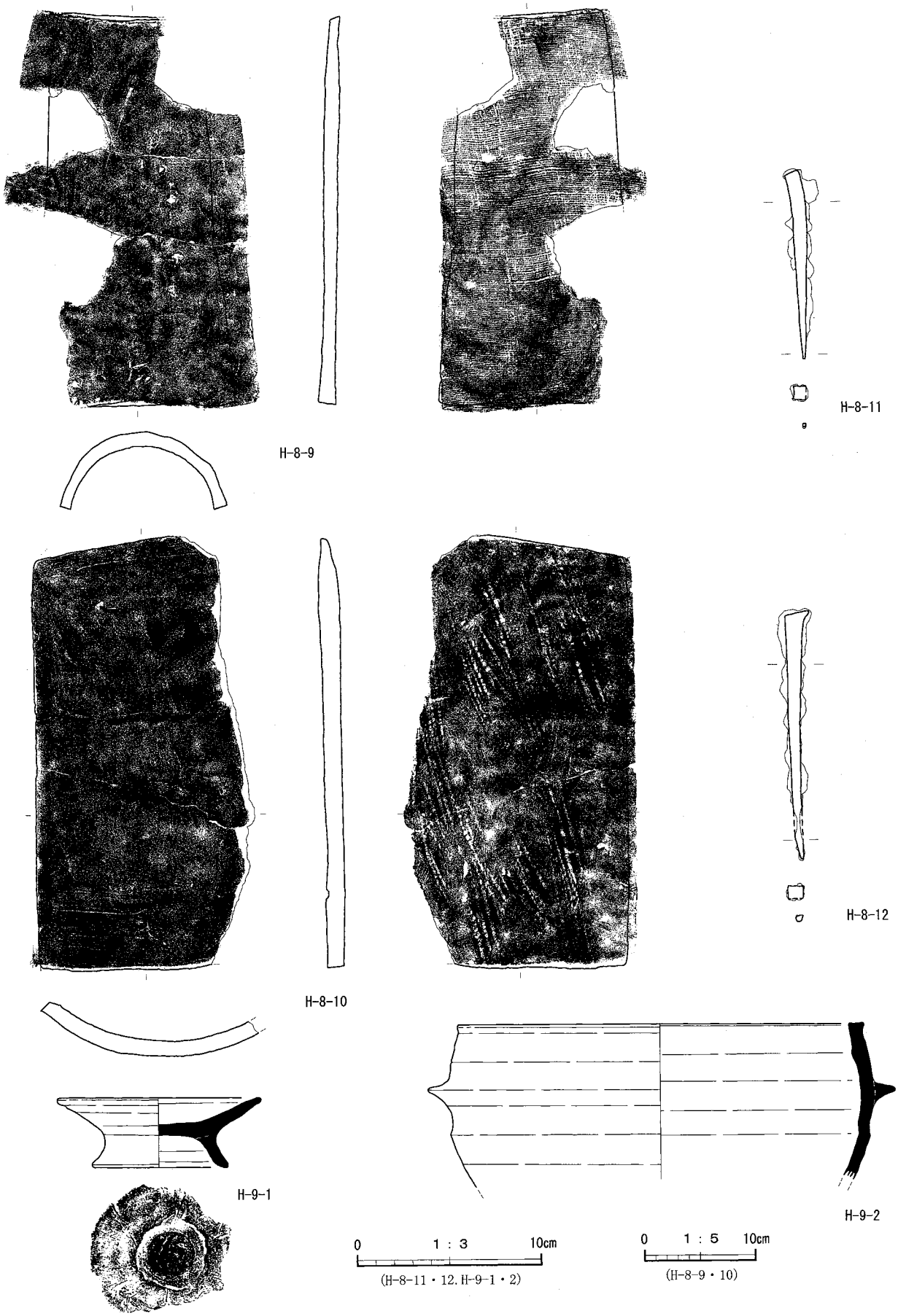
第68図　H－1～3・5・6号住居跡遺物実測図



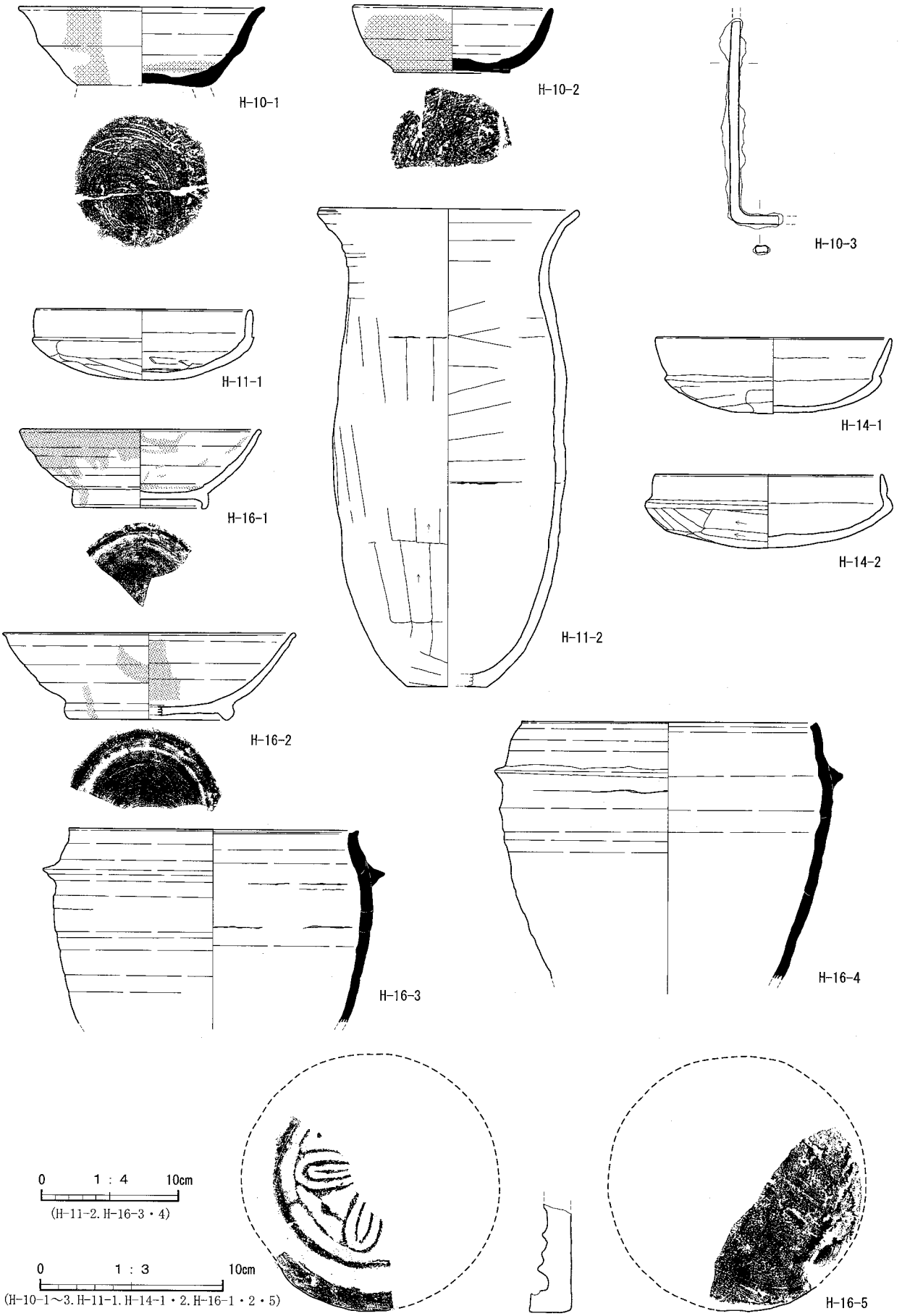
第69図　H－7号住居跡遺物実測図



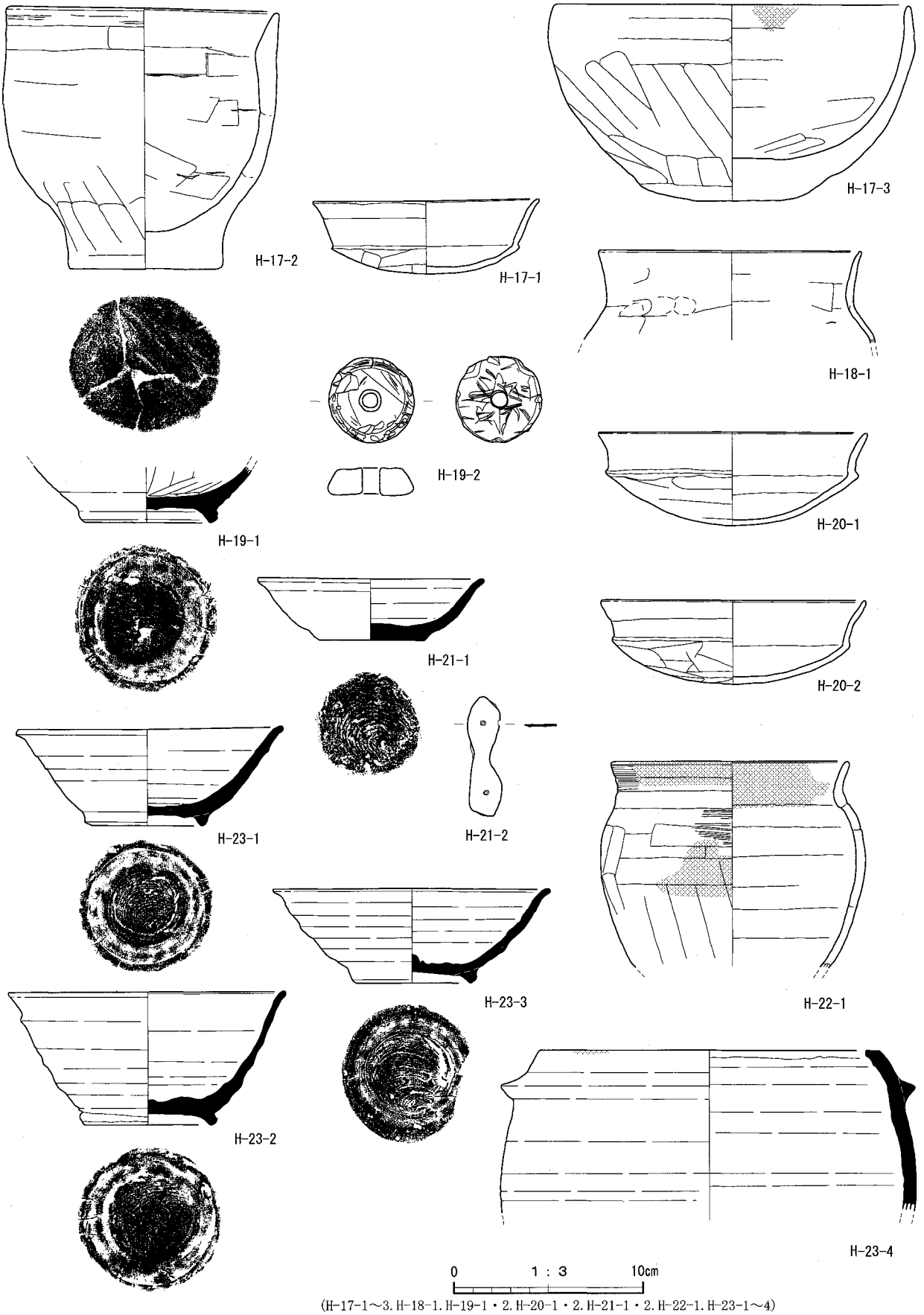
第70図　H－8号住居跡遺物実測図



第71図　H－8・9号住居跡遺物実測図

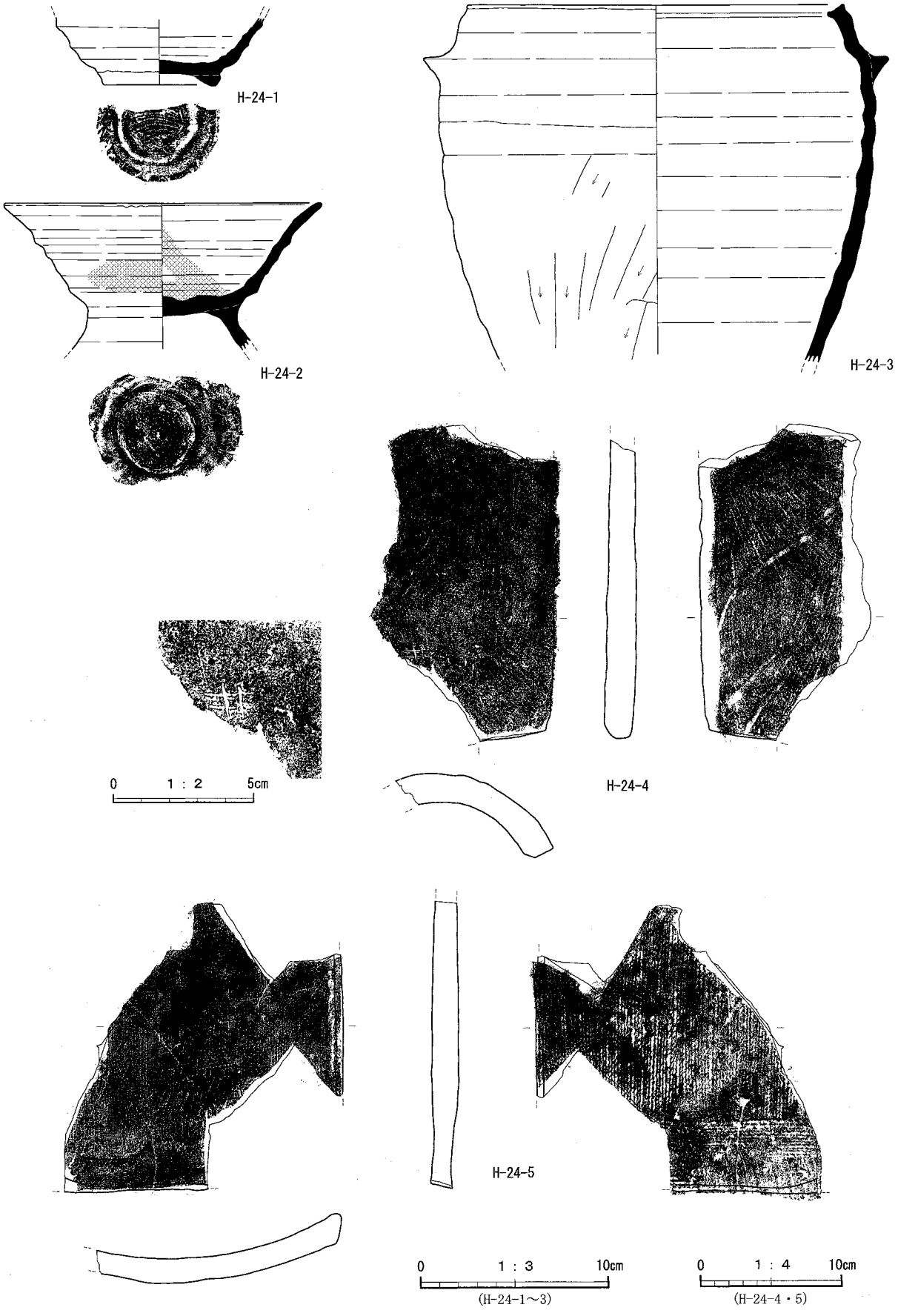


第72図　H－10・11・14・16号住居跡遺物実測図

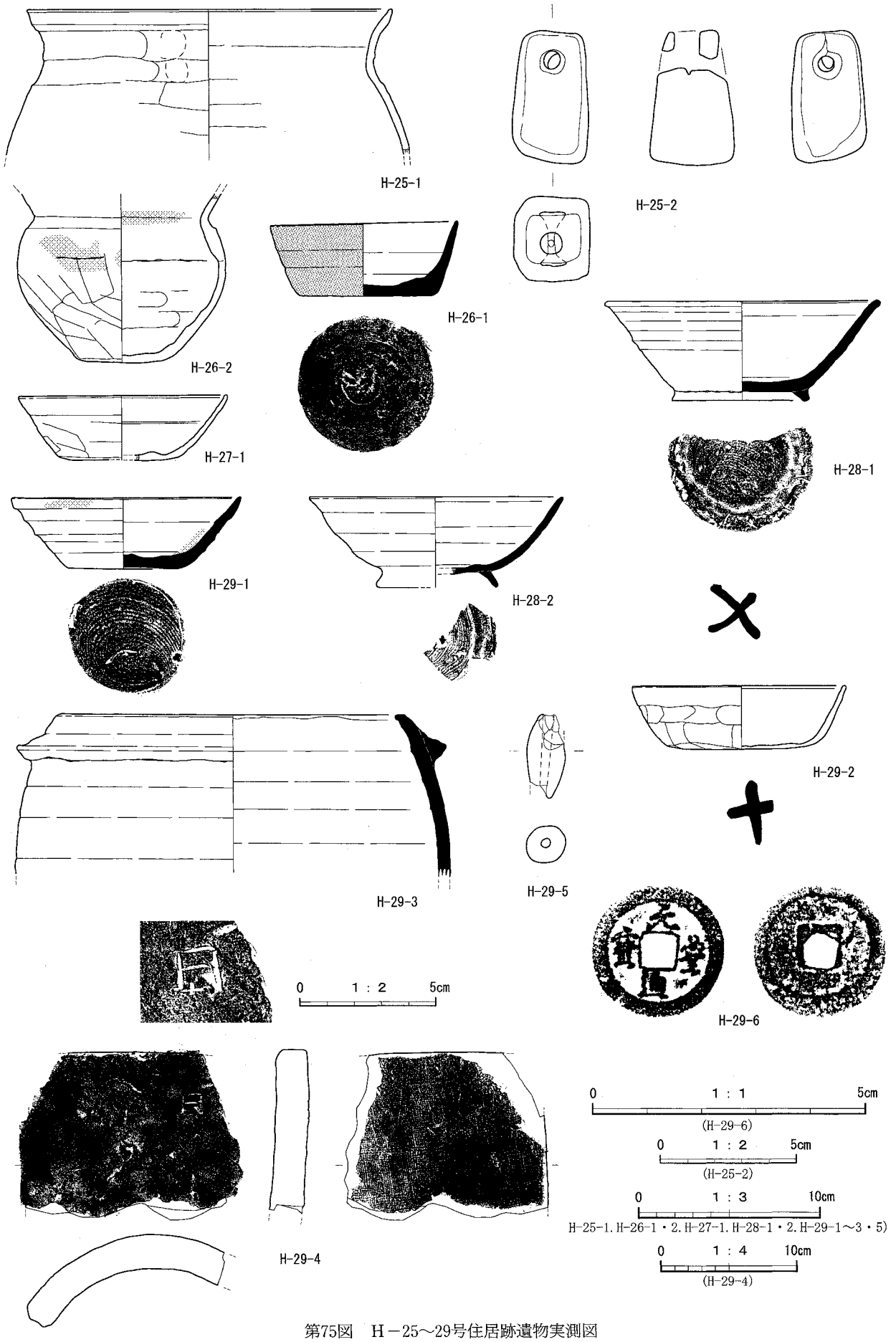


(H-17-1～3. H-18-1. H-19-1・2. H-20-1・2. H-21-1・2. H-22-1. H-23-1～4)

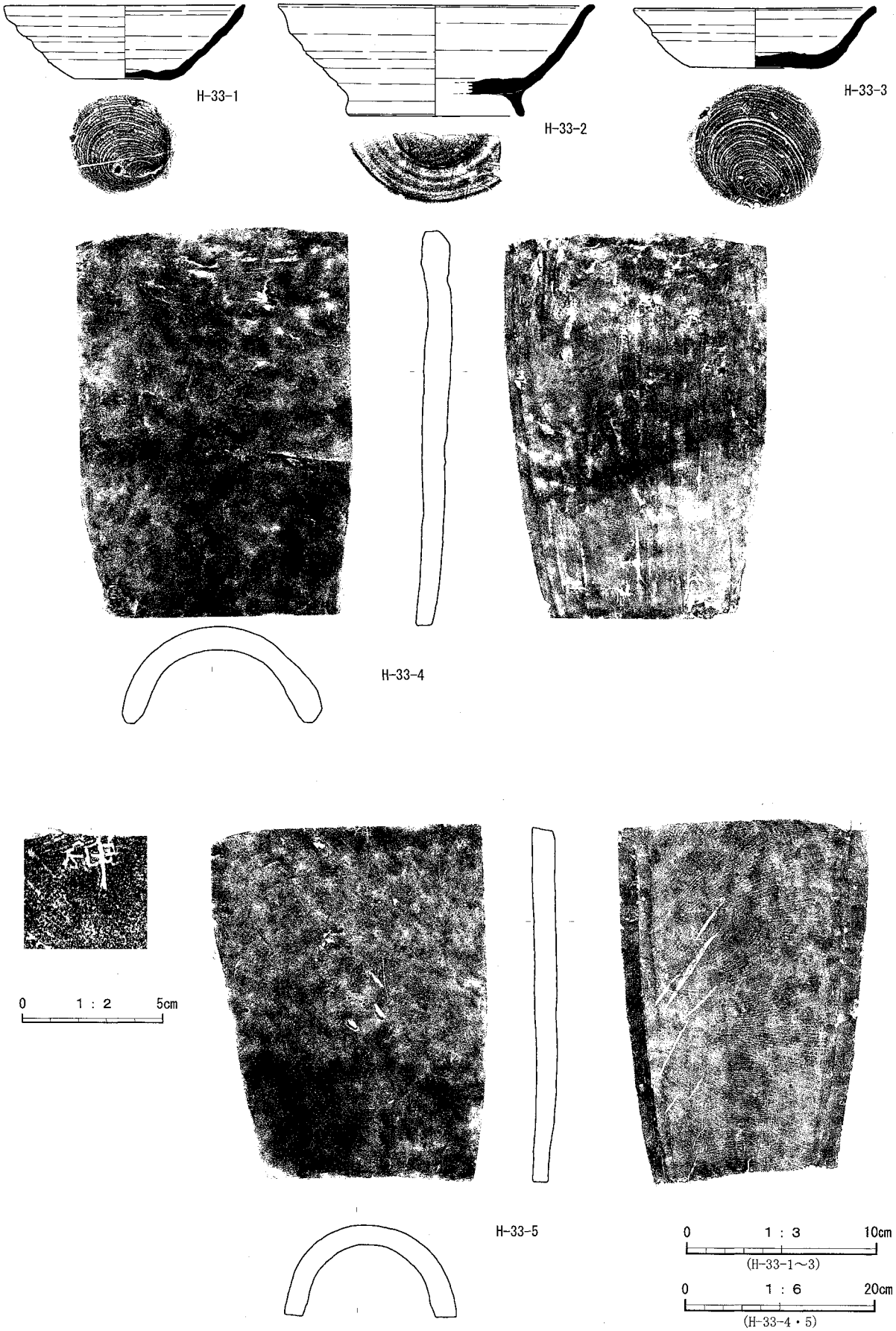
第73図　H－17～23号住居跡遺物実測図



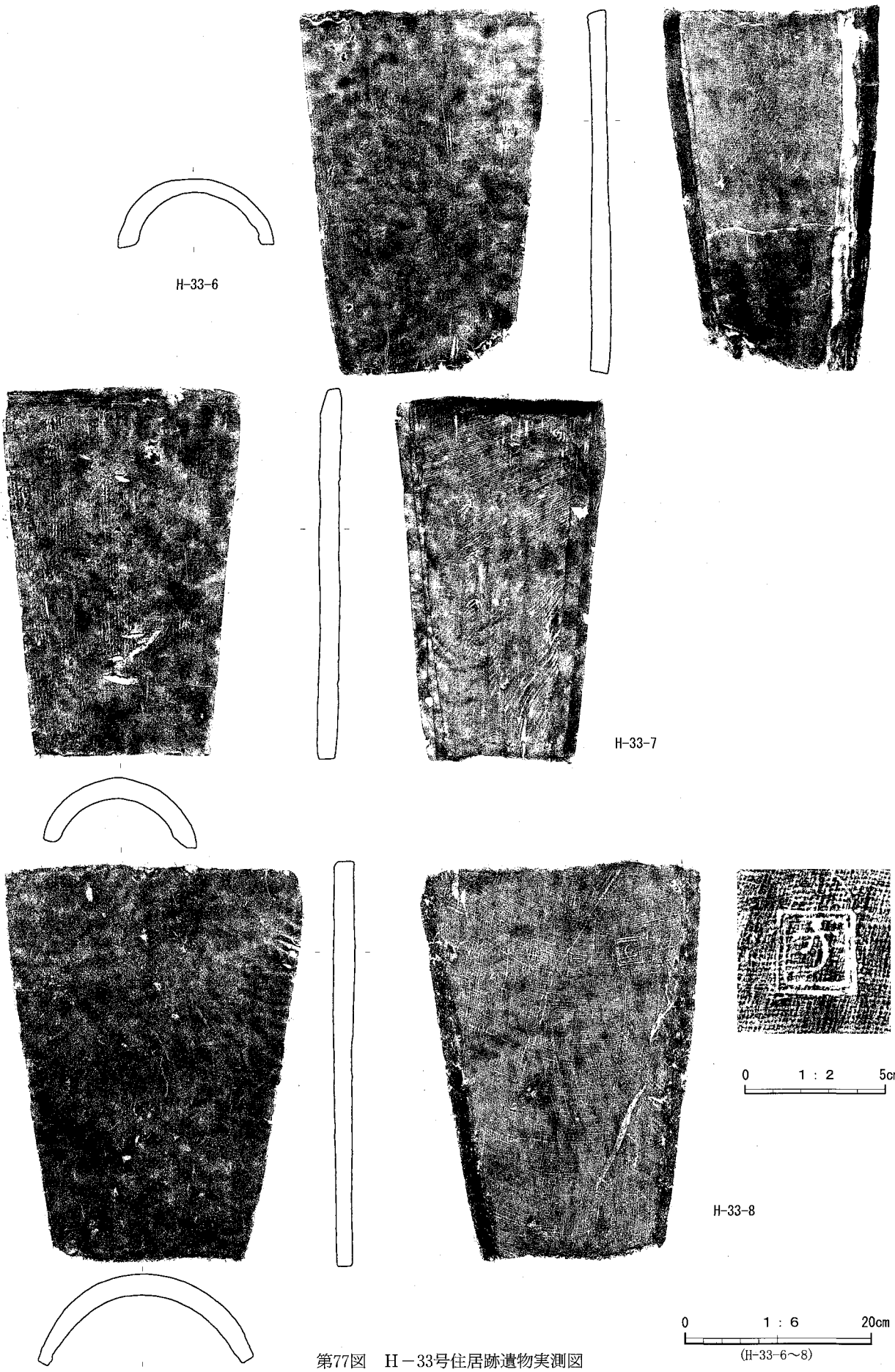
第74図　H－24号住居跡遺物実測図



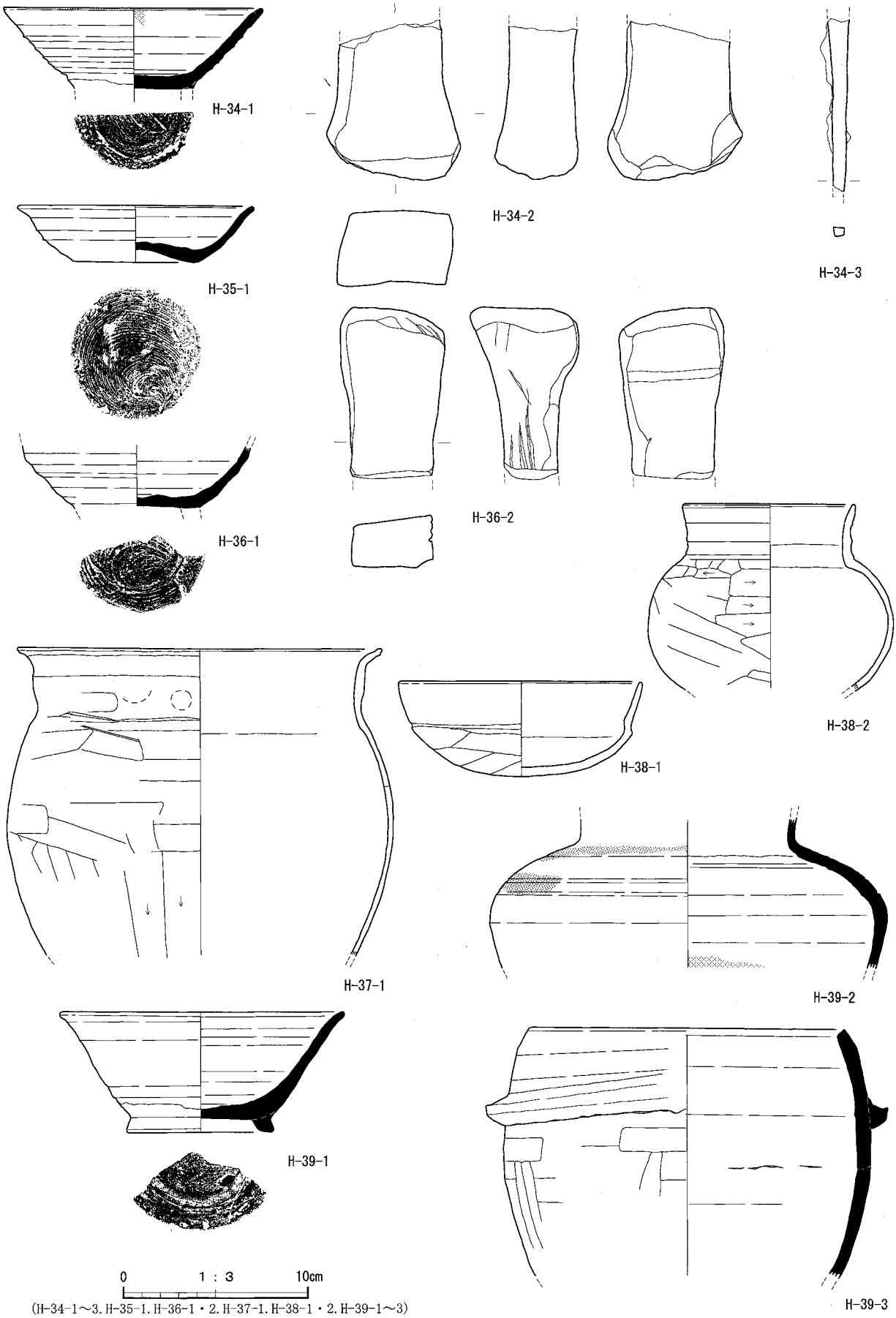
第75図　H－25～29号住居跡遺物実測図



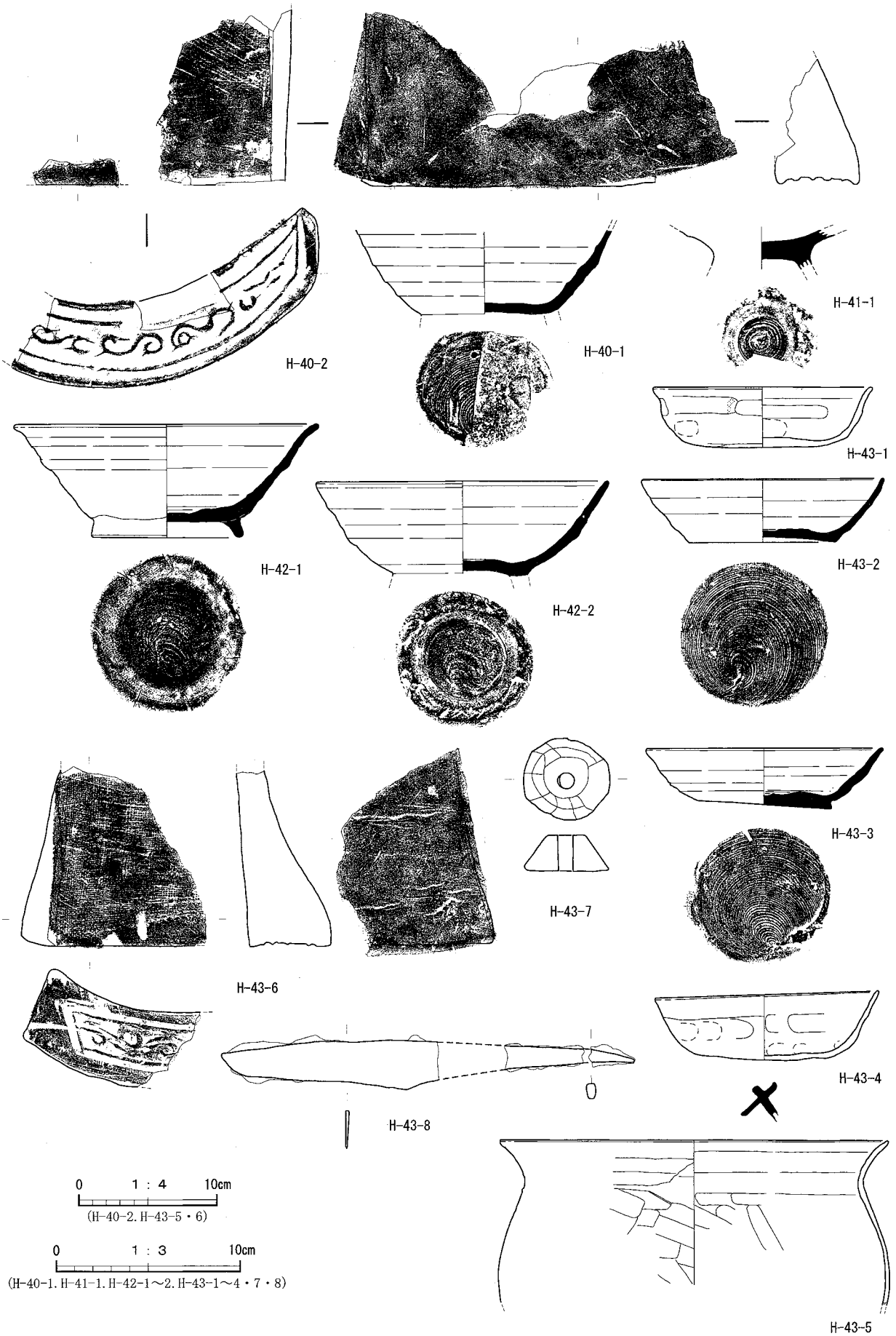
第76図　H－33号住居跡遺物実測図



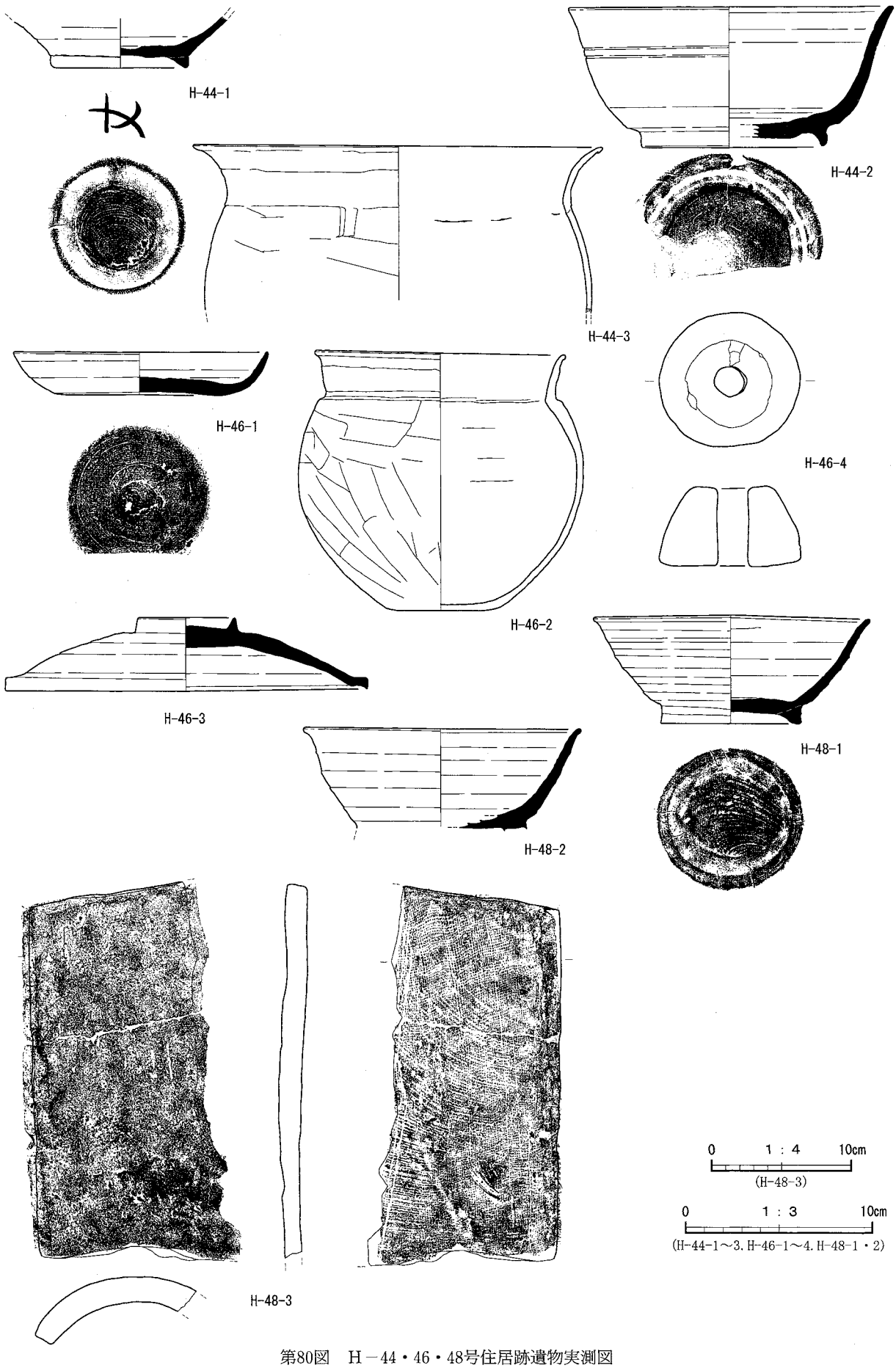
第77図　H－33号住居跡遺物実測図



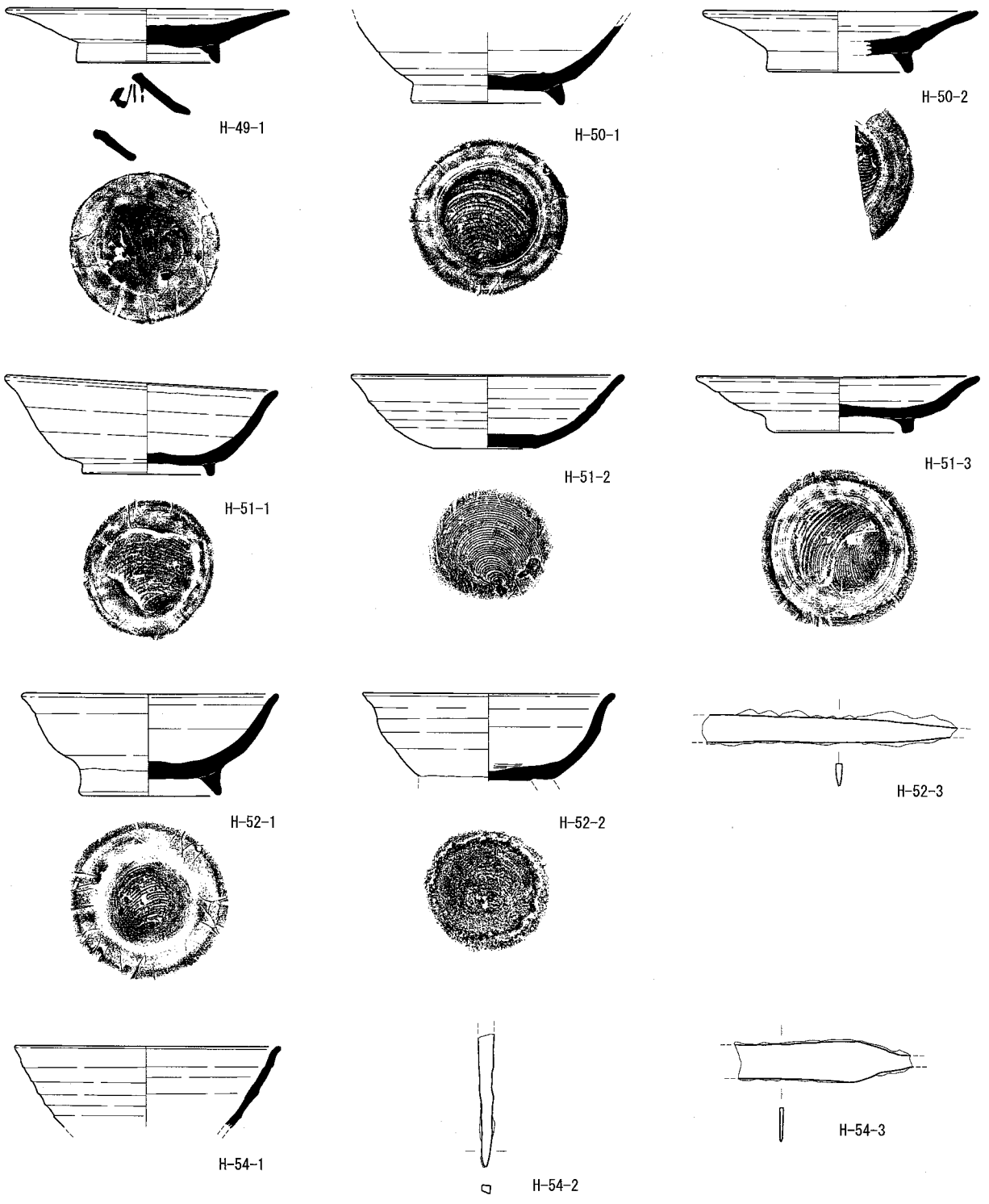
第78図　H－34～39号住居跡遺物実測図



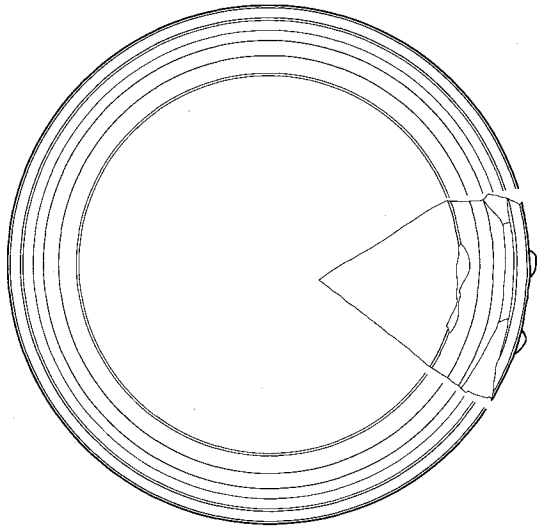
第79図　H－40～43号住居跡遺物実測図

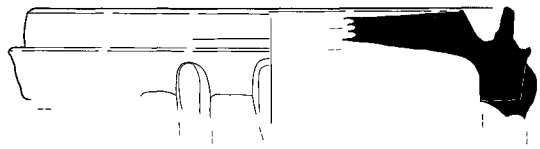


第80図　H－44・46・48号住居跡遺物実測図

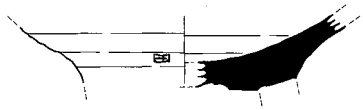


第81図　H－49～52・54号住居跡遺物実測図

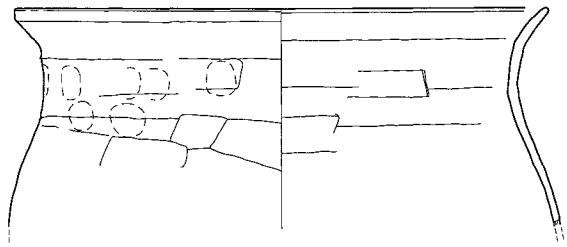




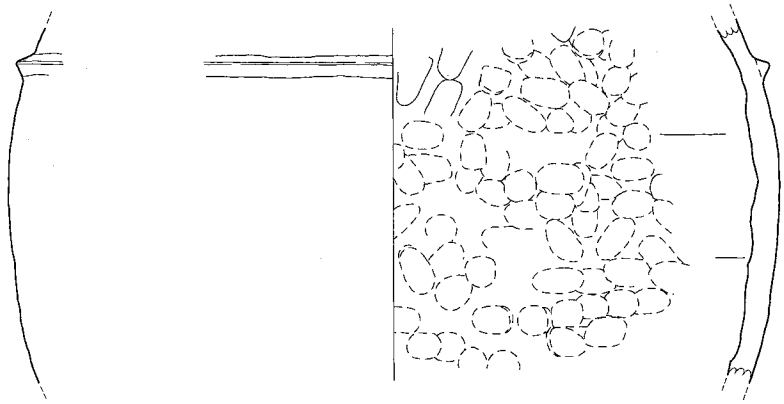
W-1-1



遺構外1



遺構外2



遺構外3

0　1：3　10cm

(W-1-1. 遺構外1～3)

第82図　W－1号溝跡・遺構外遺物実測図

調査区域全景（東から）

調査区域全景（西から）

図版　2

南西側全景（北から）

南側中央全景（北から）

南東側全景（北から）

北西側全景（北から）

北側中央全景（北から）

北東側全景（北から）

Ｊ－１号住居跡全景（西から）

Ｊ－１号住居炉跡

Ｊ－２号住居跡全景（西から）

Ｊ－２号住居炉跡

Ｊ－４号住居跡全景（西から）

Ｊ－４号住居跡地床炉と埋設土器

Ｊ－７号住居跡全景（北から）

Ｊ－７号住居炉跡

Ｊ－８号住居跡全景（東から）

Ｊ－８号住居跡埋設土器

図版　4

Ｊ－９号住居跡全景（西から）

Ｊ－９号住居炉跡

Ｊ－10号住居跡全景（西から）

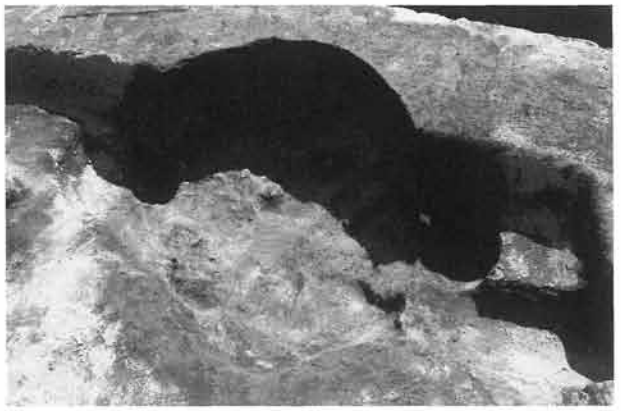
Ｊ－10号住居跡遺物出土状況（南から）

Ｊ－10号住居炉跡

Ｊ－10号住居炉跡断面

Ｄ－10号土坑全景

Ｄ－11号土坑全景



D－12号土坑全景

D－13号土坑全景

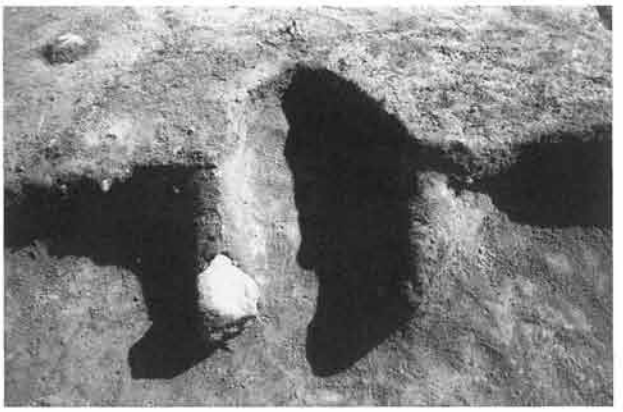
D－14号土坑全景

D－15号土坑全景

H－１号住居跡全景（西から）

H－１号住居カマド跡

H－２号住居跡全景（西から）



H－２号住居カマド跡

図版　6

Ｈ－３号住居跡全景（西から）

Ｈ－３号住居カマド跡

Ｈ－４・５号住居跡全景（西から）

Ｈ－５号住居カマド跡

Ｈ－６号住居跡全景（西から）

Ｈ－６号住居カマド跡

Ｈ－７・８・９号住居跡全景（西から）

Ｈ－７号住居カマド跡

H－８号住居カマド跡

H－９号住居カマド跡

H－10号住居跡全景（西から）

H－10号住居カマド跡

H－11号住居跡全景（西から）

H－11号住居跡掘り方全景（西から）

H－11号住居カマド跡

H－12・44号住居跡全景（西から）

図版　8

H－12号住居カマド跡

H－44号住居カマド跡断面

H－13号住居跡全景（西から）

H－13号住居カマド跡

H－14号住居跡全景（西から）

H－14号住居カマド跡

H－15号住居跡全景（南から）

H－16号住居跡全景（西から）

H－16号住居カマド跡

H－17号住居跡全景（西から）

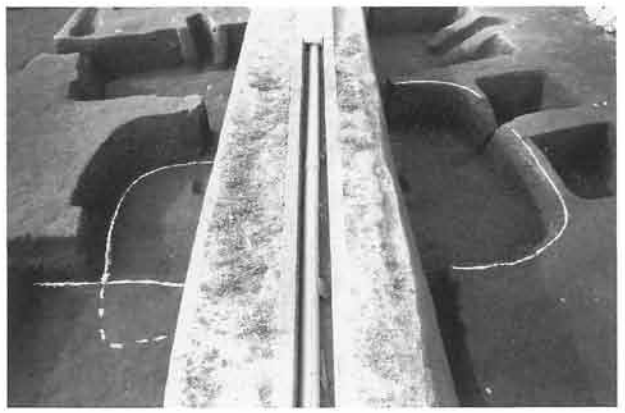
H－18号住居跡全景（西から）

H－18号住居カマド跡

H－19号住居跡全景（西から）

H－20号住居跡全景（北から）

H－20号住居カマド跡



H－21号住居跡全景（東から）

図版　10

H－22号住居跡全景（東から）

H－23号住居跡全景（西から）

H－23号住居カマド跡

H－24号住居跡全景（西から）

H－24号住居カマド跡

H－25号住居跡全景（西から）

H－25号住居カマド跡

H－26号住居跡全景（西から）

H－26号住居カマド跡

H－27号住居跡全景（西から）

H－27号住居カマド跡

H－28号住居跡全景（西から）

H－28号住居カマド跡

H－29号住居跡全景（西から）

H－30号住居跡全景（西から）

H－31号住居跡全景（東から）

図版　12

H－32号住居跡全景（南から）

H－33号住居跡遺物出土状況（西から）

H－33号住居跡瓦出土状況

H－33号住居跡全景（西から）

H－33号住居カマド跡

H－34号住居跡全景（西から）

H－34号住居カマド跡

H－35号住居跡全景（西から）

H－35号住居カマド跡

H－36・37号住居跡全景（西から）

H－36号住居カマド跡

H－37号住居カマド跡

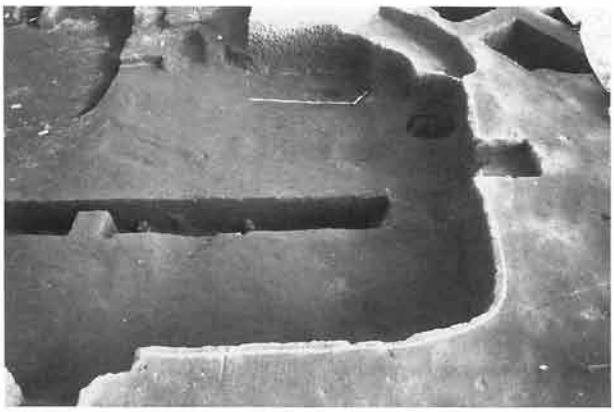
H－38号住居跡全景（西から）

H－38号住居カマド跡

H－39号住居跡全景（西から）

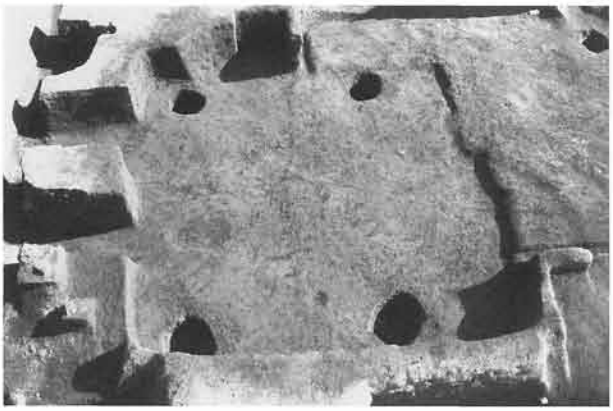
H－39号住居カマド跡

図版　14



H－40号住居跡全景（西から）

H－40号住居カマド跡

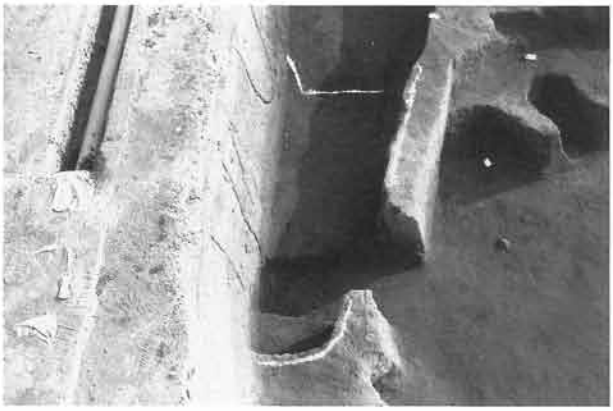


H－41号住居跡全景（西から）

H－42号住居カマド跡

H－43号住居跡全景（西から）

H－43号住居カマド跡



H－45号住居跡全景（西から）

H－46号住居跡全景（西から）

H－47号住居跡全景（東から）

H－47号住居カマド跡

H－48号住居跡全景（北から）

H－48号住居カマド跡

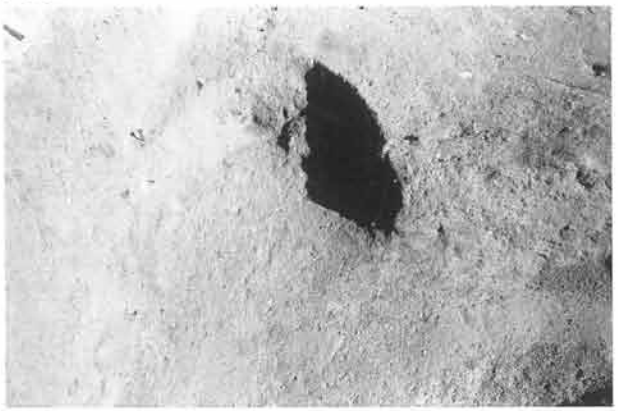
H－49号住居跡全景（南から）

H－50号住居跡全景（西から）

H－50号住居カマド跡

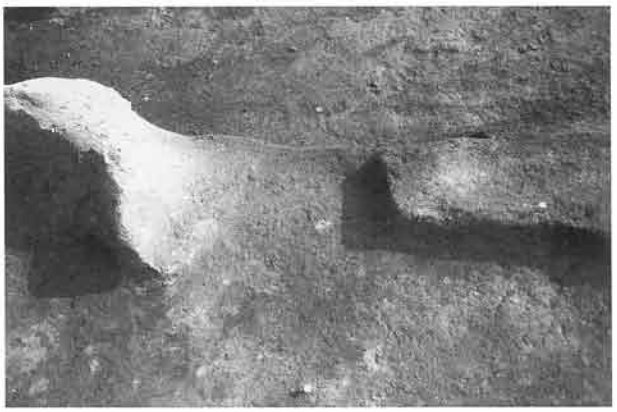
H－51号住居跡全景（西から）

図版　16



H－51号住居カマド跡

H－52号住居跡全景（西から）



H－52号住居カマド跡

H－53号住居跡全景（東から）

H－54号住居跡全景（西から）

W－１号溝全景（南から）

W－１号溝全景（北から）

集石遺構全景（西から）

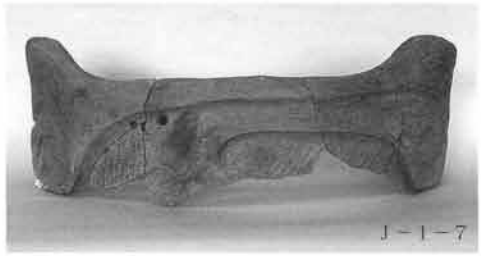
J－1－1

J－1－2

J－1－3

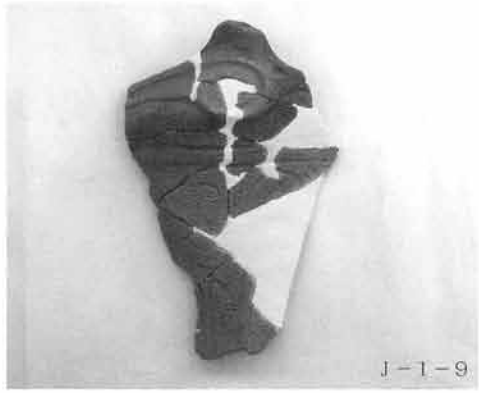
J－1－4

J－1－6


J－1－7

J－1－5

J－1－8

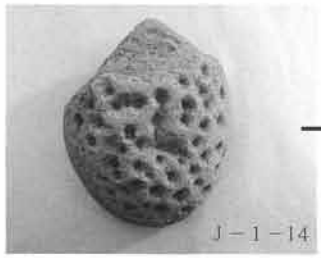

J－1－9

J－1－10

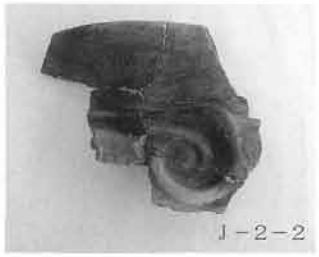
J－1－11

J－1－12

J－1－13


J－1－14

J－2－1


J－2－2

J－2－3

J－2－4

図版　18

J－2－5

J－2－6

J－2－7

J－2－8

J－2－9

J－2－10

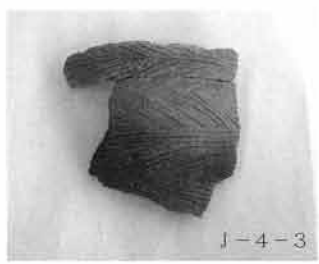
J－2－11

J－2－12

J－2－13

J－4－1

J－4－2

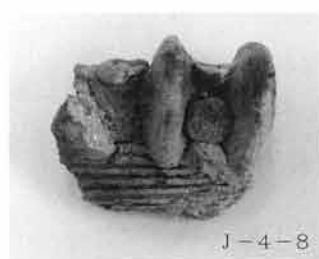

J－4－3

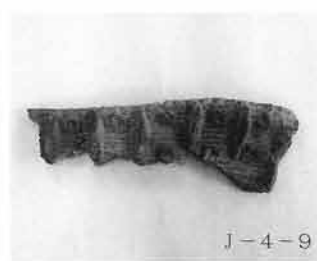
J－4－4

J－4－5

J－4－6

J－4－7


J－4－8


J－4－9

J－4－10

J－4－11

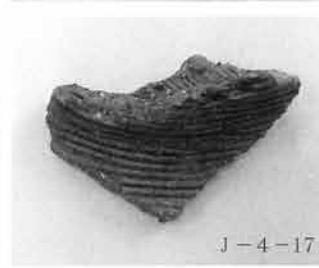
J－4－12

J－4－13

J－4－14

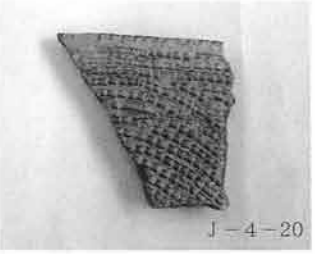
J－4－15

J－4－16


J－4－17

J－4－18

J－4－19


J－4－20

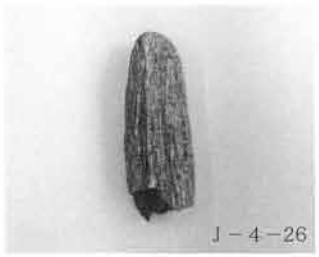
J－4－21

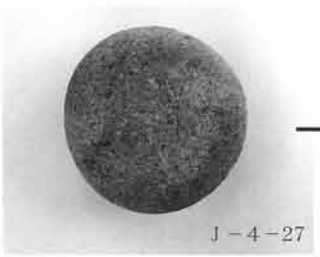
J－4－22

J－4－23

J－4－24

J－4－25


J－4－26


J－4－27

J－4－28

J－7－1

J－7－2

J－7－3

J－7－4

J－7－5

J－7－6

J－7－7

J－7－8

J－8－1

J－8－2

J－8－3

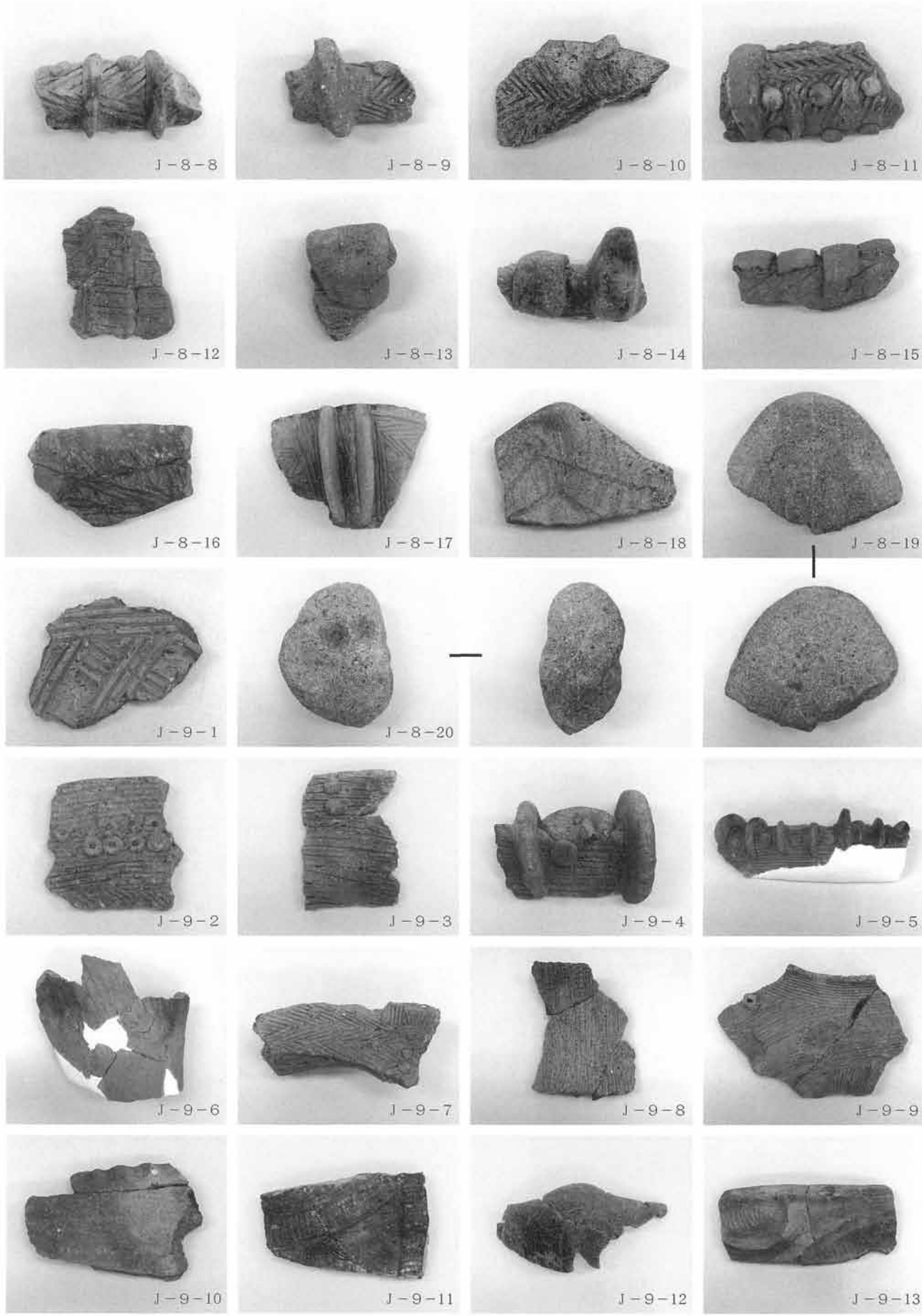
J－8－5

J－8－4

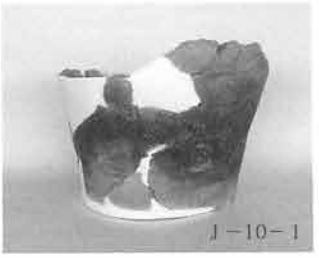
J－8－6

J－8－7

図版　20


J－8－8
J－8－9
J－8－10
J－8－11
J－8－12
J－8－13
J－8－14
J－8－15
J－8－16
J－8－17
J－8－18
J－8－19
J－9－1
J－8－20
J－9－2
J－9－3
J－9－4
J－9－5
J－9－6
J－9－7
J－9－8
J－9－9
J－9－10
J－9－11
J－9－12
J－9－13

J－9－14


J－10－1

J－10－2

J－10－3

J－10－4

J－10－5

J－10－6

J－10－7

J－10－8

J－10－10

J－10－11

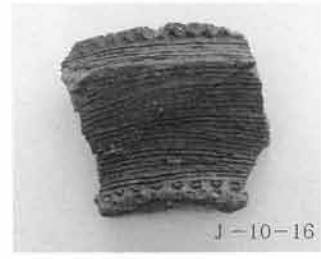
J－10－12

J－10－9

J－10－13

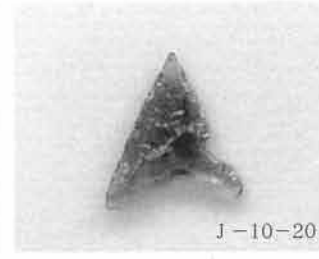
J－10－14

J－10－15


J－10－16

J－10－18

J－10－19


J－10－20

J－10－17

図版　22

J－10－21

J－10－22

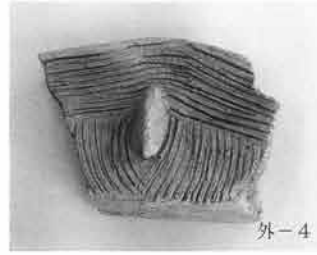
D－14－1

D－15－1

外－1

外－2

外－3


外－4

外－5

外－6

外－7

外－8

外－9

外－10

外－11

外－12

外－13

外－14

外－15

外－16

外－17

外－18

外－19

外－20

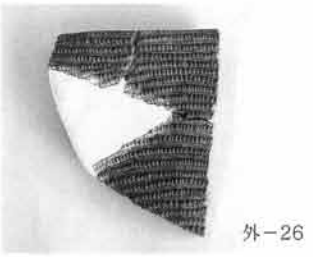
外－21

外－22

外－23

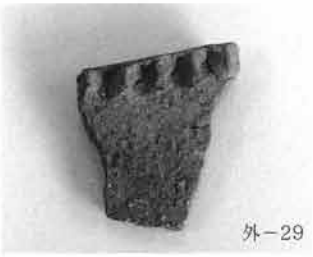
外－24

外－25


外－26

外－27

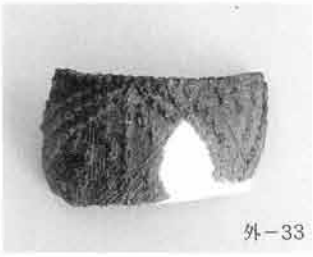
外－28


外－29

外－30

外－31

外－32


外－33

外－34

外－35

外－36

外－37

外－38

外－39

外－40

外－41

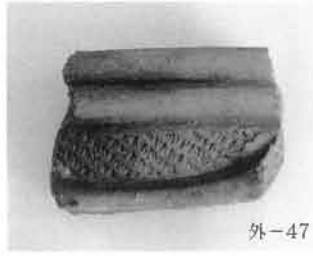
外－42

外－43

外－44

外－45

外－46


外－47

外－48

外－49

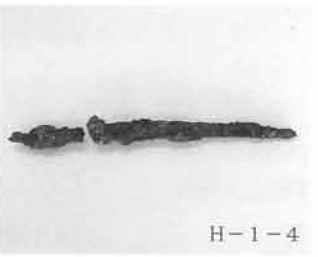
外－50

図版　24

H－1－1

H－1－2

H－1－3


H－1－4

H－2－1

H－2－2

H－3－1

H－3－2

H－3－3

H－3－4

H－5－1

H－5－2

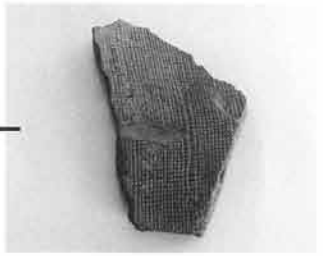
H－5－3

H－6－1

H－7－1

H－7－2

H－7－3



H－7－4

H－7－5

H－7－6

H－7－7

H－7－8

H－8－1

H－8－2

H－8－3

H－8－4

H－8－5

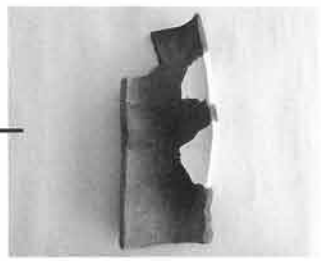
H－8－6

H－8－11

H－8－7

H－8－8

H－8－9



H－8－10

H－9－1

H－9－2

H－10－1

H－8－12

H－10－2

H－10－3

H－11－1

H－11－2

H－14－1

H－14－2

H－16－1

図版　26

H－16－2

H－16－3

H－16－4

H－17－1

H－16－5

H－17－2

H－17－3

H－18－1

H－19－1

H－19－2

H－20－1

H－20－2

H－21－1

H－21－2

H－22－1

H－23－1

H－23－2

H－23－3

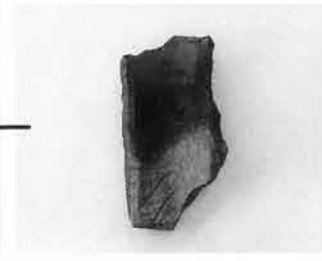
H－23－4

H－24－1

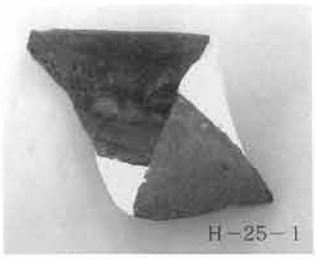
H－24－2

H－24－3

H－24－4



H－24－5


H－25－1

H－25－2

H－26－1

H－26－2

H－27－1

H－28－1

H－28－2

H－29－1

H－29－2

H－29－3

H－29－4

H－29－5

H－33－1

H－29－6

H－33－2

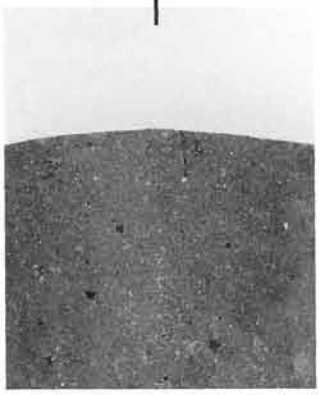
H－33－3

H－33－4

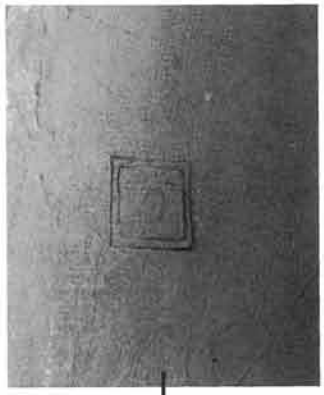
図版　28

H－33－5

H－33－6



H－33－7



H－34－1

H－34－2

H－33－8

H－34－3

H－35－1

H－36－1

H－36－2

H－37－1

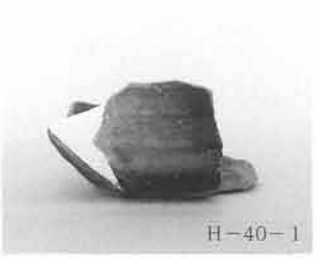
H－38－1

H－38－2

H－39－1

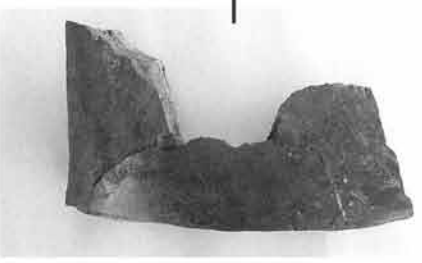
H－39－2

H－39－3


H－40－1

H－40－2

H－41－1



H－42－1

H－42－2

H－43－1

H－43－4

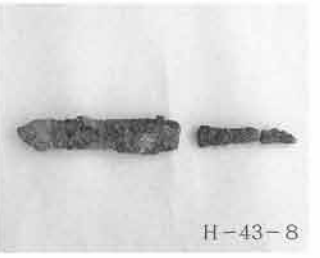
H－43－2

H－43－3

H－43－6

H－43－5

H－43－7


H－43－8

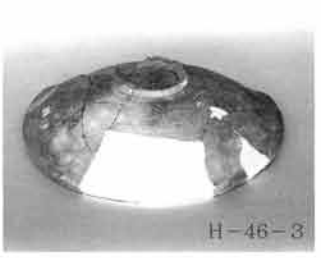
H－44－1

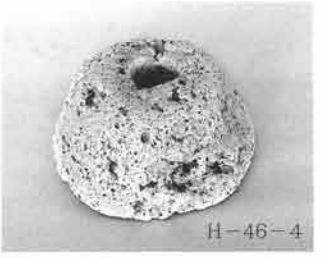
H－44－2

H－44－3

H－46－1

H－46－2

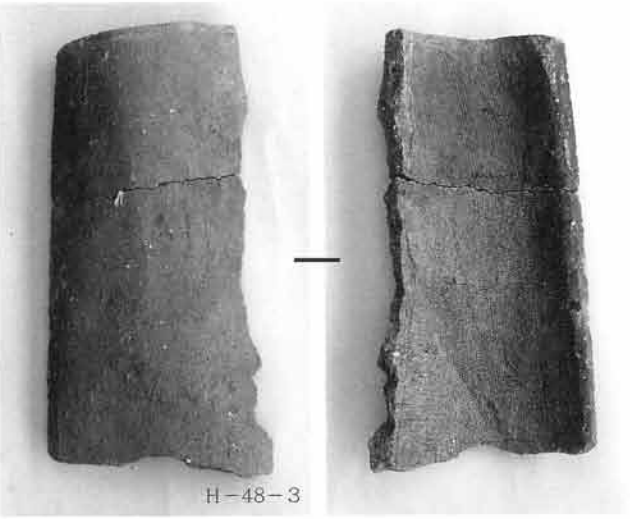

H－46－3


H－46－4

図版　30

H－48－1

H－48－2


H－48－3

H－49－1

H－50－1

H－50－2

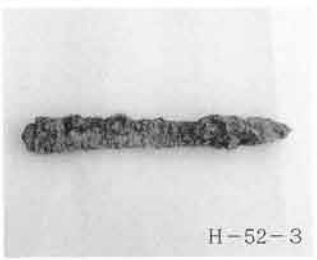
H－51－1

H－51－2

H－52－1

H－52－2

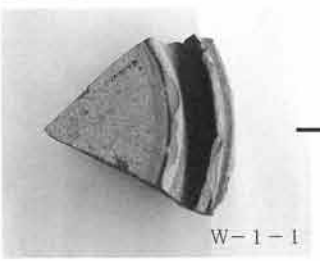
H－51－3


H－52－3

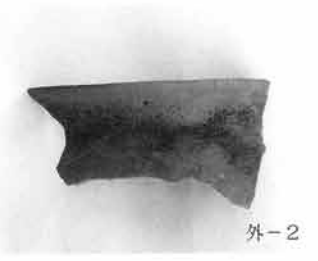
H－54－1

H－54－2

H－54－3


W－1－1

外－1


外－2

外－3

抄　　録

フ リ ガ ナ	モトソウジャオウミイセキグンサン　モトソウジャオミナナイセキ
書　　名	元総社蒼海遺跡群（３）　元総社小見Ⅶ遺跡
副 書 名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	前原　豊・鈴木雅浩（前橋市埋蔵文化財発掘調査団） 金子正人・権田友寿・荻野博巳 板垣　宏・猪熊正晴・山口和宏（スナガ環境測設株式会社）
編 集 機 関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－２
発 行 年 月 日	西暦2005年11月18日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 経			
モトソウジャオウミイセキ 元総社蒼海遺跡 グン　モトソウジャ 群（３）元総社 オミナナイセキ 小見Ⅶ遺跡	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町 1708番地ほか	10201	16A116	36°23′22″	139°01′49″	20041001 ～ 20050225	1,025㎡	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物
元総社蒼海遺跡群（３） 元総社小見Ⅶ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡７軒、土坑７基	縄文土器・石器
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡８軒	土師器・須恵器・紡錘車
	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居跡43軒	土師器・須恵器・瓦・鉄製品・紡錘車
		不　明	竪穴住居跡３軒、土坑９基、ピット42基、集石遺構	土師器・須恵器

元総社蒼海遺跡群（３）

元 総 社 小 見 Ⅶ 遺 跡

2005年11月10日　印　刷
2005年11月18日　発　行

発　行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
　　前橋市三俣町二丁目10－２
編　集　スナガ環境測設株式会社
　　前橋市青柳町211番地の１
印　刷　朝日印刷工業株式会社